

上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 25

—更埴市内その4—

こうしよじょうり やしろ
更埴条里遺跡・屋代遺跡群

おおぞかい くぼがわら
(含む大境遺跡・窪河原遺跡)

—弥生・古墳時代編—



1998.3

日本道路公団東京第二建設局
長野県教育委員会
財)長野県埋蔵文化財センター

上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 25

—更埴市内その4—

こうしよびょうり やしろ
更埴条里遺跡・屋代遺跡群
おおざかい くぼがわら
(含む大境遺跡・窪河原遺跡)

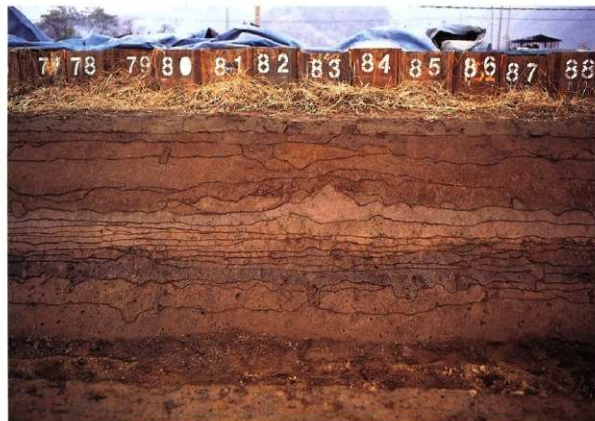
—弥生・古墳時代編—

1998.3

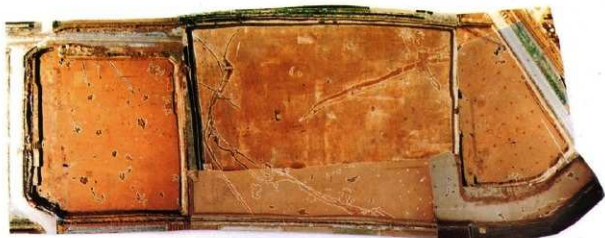
日本道路公団東京第二建設局
長野県教育委員会
（財）長野県埋蔵文化財センター



遺跡遠景 物協同測量社提供



屋代遺跡群②区束壁 基本土層 (図54に对应)



屋代遺跡群②区 VI層下面検出遺構(弥生時代)



屋代遺跡群①f~②区 VI層上面検出水田跡(古墳時代)



屋代遺跡群⑤b区 VI層上面調査風景

序

上信越自動車道は群馬県境から新潟県境へと、東北信地域を縦断する形で建設が進められ、すでに新潟県・中野インターチェンジまでの供用が開始されています。下り線を北へ向かい、坂城町から続くいくつかのトンネルを通過し終えますと、前方には普光寺平南部の広々とした平地が目飛び込んできます。本書に掲載される更埴条里遺跡と屋代遺跡群の範囲は、この有明トンネル北側出口直下の低地から更埴ジャンクションに至る全長約2.3kmの範囲にあたります。

この地区の発掘調査は平成3年度から6年度にかけて行われ、縄文時代から江戸時代にわたる遺構・遺物が発見されました。整理作業は平成7年度より開始しました。遺物収納箱で1万箱に達しようかという膨大な資料を公表するにあたり、報告書は時代別の4冊と、昨年度刊行しました『長野県屋代遺跡群出土木簡』、平成11年度刊行予定の『総論編』を加えた全6冊を予定しております。本書は第3分冊の『弥生・古墳時代編』にあたります。各時代別報告書では、2km以上にわたる範囲を全て発掘したことを踏まえ、それぞれの時代における屋代・両宮地区全域の景観が復元できるよう努めました。特に、考古資料から導き出せる人々の生活の跡とともに、それらと密接な関わりを持つ環境復元にも力点を置きました。

今回の調査では、自然堤防上（主に屋代遺跡群）の集落と自然堤防背面から後背湿地（更埴条里遺跡）に広がる水田、といった現代にも通じる景観が弥生時代（約2,000年前）には成立していたことが解りました。特に、この地の水田開発は早く、弥生時代前期並行期（紀元前5世紀頃）には稲が持ち込まれていたと思われます。また、弥生時代中期に本格的に掘削された水路は、古墳時代にかけて改修や新設が繰り返され、水田開発技術が日増しに進歩して行く様子がうかがえます。古墳時代中期（5世紀）の水田跡が、この地域でははじめて見つかり、しかも広範囲に存在していた点も大きな成果の一つです。

このように、水田の開発が富を生み、有力豪族を育て上げて、県内最大最古の森将軍塚古墳（4世紀）をはじめとする前方後円墳の築造につながったと考えられます。古墳時代における有力者の存在は、屋代遺跡群の古墳時代集落の北側で発見された祭祀遺構（5世紀）からもうかがうことができます。大規模な導水施設を伴う祭祀場の発見は全国的にも注目され、日本考古学協会編『水辺の祭祀』（1966）に取り上げられました。また、昨年度報告されました木簡の記載内容からは、7世紀から8世紀にかけて、この地が「信濃国」の中心地の一つであったことが示唆されました。本編では、古墳時代に、すでにその基盤が形成されていたことを明らかにすることができました。

最後になりましたが、発掘調査開始から本報告書の刊行に至るまで、深い御理解と御協力をいただいた日本道路公団関東第二建設局、同上田工事事務所、長野県土木部高速道路局、更埴市、同教育委員会、ちくま農業協同組合、地区対策委員会、地権者会等の関係機関、また、地元協力者の方々、発掘・整理作業に従事された多くの方々、直接御指導・御助言をいただいた長野県教育委員会文化財保護課、本書の刊行までにこぎつけた理埋文センター職員の努力に対し、心から敬意と感謝を表す次第であります。

平成9年3月10日

財団法人 長野県埋蔵文化財センター

理事長 戸田 正明

例 言

1. 本編は、上信越自動車道建設工事にかかわる更埴条里遺跡、屋代遺跡群および屋代遺跡群に属する大境遺跡、窪河原遺跡の発掘調査報告書の第3分冊（更埴市内その4）である。

1. 本編は、上記の遺跡における弥生時代から古墳時代にかけての遺構・遺物を中心としている。各遺跡の概要については、当センター発行の『長野県埋蔵文化財センター年報』8・9・10・11・12・13、日本考古学協会発行の『考古学年報47』、同『水辺の祭祀 資料集』などで紹介しているが、事実報告に関しては本書の記述をもって最終報告とする。ただし、全時期にまたがる分析などは現在も継続中であり、平成11年度刊行予定の『総論編』に掲載する予定である。

1. 本編で使用した地図は、日本道路公団作成の上信越自動車道倉科・両宮地区平面図および更埴JCT～長野地区平面図（1:1,000）をもとに作成したほか、建設省国土地理院発行の地形図（1:50,000、1:25,000）、更埴市発行の地形図（1:10,000）を使用した。

1. 航空写真は、更埴地区の全景写真については（株）共同測量社から提供を受けた。また、各調査区の写真は（株）新日本航業、（株）共同測量社に撮影を委託したものである。また、モザイク写真は（株）新日本航業に作成を委託した。

1. 本報告書には次の方々から玉稿を賜った。記して謝意を表する。

5章6節2

国立歴史民俗博物館助教授

辻誠一郎

4章3節1

流通科学大学助教授

南木睦彦

滋賀県多賀町教育委員会

福田美和

1章3節4(2)、4章2節2・4、3節2・3、5節、5章6節1

(株)バリノサーヴェイ

高橋 敦・田中義文・辻本崇夫

4章2節1・3

(株)古環境研究所

金原正子・松田隆二・轟元三郎

※1. 4章（上記分）については、環境復元検討会（辻・南木・辻本・松田・田中・白田・市川・河西・寺内）で討議を行っている。

4章4節

京都大学霊長類研究所教授

茂原信生

1. 執筆分担は次の通りである。

1章3節1・2

市川桂子

3章2節2(1)、5章2節

河西克造

3章5節1、5章3節

鳥羽英雄

3章5節5

平出潤一郎

2章3節2、3章5節2

町田勝則

3章4節1、2(1)~(4)、5章4節

水沢教子

3章4節2(5)、3章5節3・4・6、5章5節

宮島義和

2章3節1

百瀬長秀

1章1・2節、3節3・4(1)、4節、2章1節、2節、3章1節、2節2(2)・(3)、3節、4章1節、5章1節、6章、その他 ※ただし2章1節と2節の内、更埴条里遺跡に関する部分は、河西の原稿を寺内が編集・改変した。

寺内隆夫

1. 遺物写真の撮影・焼き付けは田村 彬が、脆弱遺物の保存処理は県立歴史館 白沢勝彦・寺内貴美子、埋蔵文化財センター長野事務所 白田広之、上田事務所 相沢秀樹（平成7、8年度）が担当した。

1. 本編の編集・校正は担当者の合議の上、最終的には寺内が行い、小林秀夫・白田武正が校閲した。
1. 遺構記号・遺構番号は、すでに『尾代遺跡群出土木簡』などで公表されているものがある。それらを活かし混乱をさけるため、原則として発掘調査時の記号や番号を変更していない。そのため、欠番などが存在する。
1. 註・参考文献は各章あるいは節の末にまとめた。
1. 発掘調査・報告書作成にあたり下記の諸氏・諸機関にご指導・ご援助をいただいた。記して謝意を表する次第である。(敬称略、五十音順)

青柳泰介、赤羽貞幸、飯島哲也、石川日出志、小野紀男、尾見智志、風間栄一、金田章裕、栗野克己、更埴市教育委員会、国立奈良文化財研究所、国立歴史民俗博物館、小平光一、小林高雄、小山悟夫、酒井潤一、笹沢 浩、佐藤信之、沢田 敦、茂原信生、下平博行、助川朋広、高橋 学、辰巳和弘、田中広明、辻誠一郎、辻本崇夫、寺島孝典、中沢道彦、長野県立歴史館、長野市教育委員会、長野市埋蔵文化財センター、長野市立博物館、福田美和、越積裕昌、前島 卓、松井一明、松田隆二、南木睦彦、森島 稔、矢島宏雄、矢田 勝、山口 明、和田 萃

1. また、センター内の調査研究員、あるいは現地調査に携わった方々から多くの助言を得ている。

校閲・執筆者以外で、弥生・古墳時代の調査に関わった調査研究員は以下の通りである。

青木一男、井口慶久、市川隆之、出河裕典、伊藤克己、伊藤友久、稲場 隆、上田典男、上田 真、白居直之、大久保邦彦、岡沢康夫、奥原 聡、大和龍一、川崎 保、小林清人、桜井秀雄、澤谷昌英、島田正夫、清水 弘、下島浩伸、下平博行、武居公明、谷 和隆、田中正治郎、月原隆爾、常長虎徹、寺内貴美子、徳永哲秀、中沢道彦、中村 寛、夏目大助、簗田 明、西嶋 力、西山克己、馬場信義、広瀬昭弘、深沢重夫、藤沢袈裟一、藤原直人、洞井英知、福島正樹、本田 真、増村香子、町田勝則、松岡昭彦、松岡忠一郎、宮入英治、宮下祐治、宮脇正実、構沢 亮、山極 充、吉江英夫、吉沢信幸、依田 茂、若林 卓

1. 本調査には、ベトナム文化・情報・スポーツ省のグエン・テ・ファン氏が研修で参加している。
1. 本編で報告した記録および出土遺物は(財)長野県文化振興事業団が保管している。

凡 例

1. 本書に掲載した実測図の縮尺は原則として下記のとおりで、該当箇所のスケールの上に記してある。

1) 主な遺構実測図

遺構平面図 1:500 建物跡個別平面図 1:80 溝・流路個別平面図 1:40~1:200

断面図 1:60 土坑個別平面図・断面図 1:60

2) 主な遺物実測図

土器拓本 1:3 実測図 1:3~1:4 土製品・石製品 1:1~1:2 石器 1:3 小型石器2:3

木製品 1:3~1:9 鉄製品・鉄滓・骨角製品 1:3

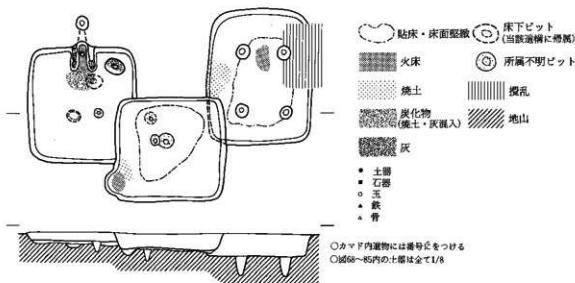
1. 本書に掲載した主な遺物写真の縮尺は、下記の通りである。

土器甕・壺類 1:4 杯・小型壺など 1:3 その他の製品は原則として実測図の縮尺に準じた。

1. 遺物の出土地点表記は、図版の表題に示すか、図版中の遺物の左上あるいは下に出土遺構名またはグリッド名を表記した。図中にないものは、観察表に示した。

1. 実測図中のスクリーンなどは下記のように用いた。これ以外の場合は、当該項目の中で説明するか、図中に凡例を示した。

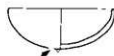
1) 遺構実測図



2) 遺物実測図の表現

土器 実測線の不連続の部分は、破片資料を回転実測した際の欠落部分を示す。

須恵器のみ断面を黒塗りした。土器の表面処理については以下のスクリーンで示した。



黒色処理を施した土器



赤色塗彩を施した土器



石器・木製品などについては、その都度図版に凡例を示した。

本文目次

巻頭四版

序

例言

凡例

目次

第1章 遺跡の概観と調査の概要

第1節 本編の範囲	1
1 報告書作成の方針	1
2 本編の範囲	2
第2節 歴史的環境と周辺遺跡	2
1 遺跡の位置	2
2 弥生・古墳時代の屋代地区	3
(1) 弥生時代 (2) 古墳時代	
第3節 地形・地質環境と基本層序	7
1 善光寺平南部の地形・地質環境	7
(1) 長野盆地南部の地形 (2) 遺跡周辺の地形 (3) 遺跡周辺の新第三系の地質	
2 更埴条里遺跡・屋代遺跡群の層序	10
(1) 七ツ石層 (2) 反町層 (3) 屋代層	
3 調査対象となった層序	12
(1) 層名 (2) 弥生・古墳時代対応層の特徴	
4 更埴条里遺跡・屋代遺跡群の環境変遷	13
(1) 検討会の設置 (2) 古環境変遷の概要 (予報)	
第4節 調査・整理の経過	16
1 調査の概要	16
(1) 調査の実施にあたって (2) 調査の手順 (3) 整理作業の経過	
第2章 弥生時代前期並行から中期 (VI層中～下面検出) の遺構と遺物	
第1節 概観	19
第2節 遺構と遺物出土状況	19
1 遺構各説	19
(1) 溝・自然流路跡(SD) (2) 焼土跡(SF) (3) 土坑(SK) (4) 遺物集中地点(SQ)	
第3節 遺物	44
1 土器・土製品	44
(1) 遺構出土土器 (2) 屋代③a区遺物集中地点出土土器 (3) 遺構外出土土器	
2 石器	60
(1) 概要 (2) 各器種の属性	
第3章 弥生時代後期～古墳時代 (VI層上面検出) の遺構と遺物	
第1節 概観	71

第2節 水田域の遺構と遺物出土状況	71
1 概要	71
2 遺構各説	72
(1) 水田跡 (2) 溝・自然流路(SD) (3) 土坑(SK)	
第3節 更埴条里遺跡微高地域(K地区)の遺構と遺物出土状況	76
1 概要	76
2 遺構各説	76
(1) 掘立柱建物跡 ST926 (2) 井戸跡 SK9512	
第4節 集落域および旧河道域の遺構と遺物出土状況	76
1 概要	76
2 遺構各説	77
(1) 竪穴住居跡(SB) (2) 掘立柱建物跡(ST) (3) 土坑(SK) (4) 溝(SD)	
(5) 祭祀関連施設(SH・SK・SD・SX)	
第5節 遺物	144
1 土器・土製品	144
(1) 概要	
2 石器・石製品	187
(1) 概要 (2) 各器種の属性	
3 玉類・石製模造品	197
(1) 概要 (2) 種類と変遷 (3) 玉造りの可能性	
4 木製品	204
(1) 概要 (2) 各説	
5 鉄製品・鉄生産関連遺物	208
(1) 概要 (2) 鉄製品 (3) 鉄生産関連遺物 (4) 小結	
6 骨角製品・獣骨	209
第4章 微化石分析と動・植物遺体	
第1節 弥生・古墳時代の自然科学分析	211
第2節 弥生時代における稲作の問題	211
はじめに	211
1 更埴条里遺跡VI・VII層におけるプラント・オパール分析	211
2 縄文時代晩期から弥生時代前期の古植生	214
3 更埴条里遺跡 SD881・SD882におけるプラント・オパール、花粉、珪藻分析	217
4 屋代遺跡群①・②区VI層下面で検出されたII群土坑中の炭化材の樹種と年代	220
第3節 古墳時代における古環境の復元と植物利用	222
はじめに	222
1 屋代遺跡群⑥区SD7068出土の植物種実	222
2 古墳時代中期祭祀関連施設SD7068周辺の古環境について	224
3 古墳時代中期の木製品および住居構築材の用材	225
第4節 上信越自動車道屋代遺跡群から出土した獣骨と人骨	229
1 出土獣骨の種類	229

2	出土獣骨の特徴	229
3	出土人骨	230
4	まとめ	230
第5節	古墳時代の赤色顔料の由来	233
第5章 成果と課題		
第1節	弥生時代の土地利用	235
1	弥生1期(永式土器段階)の土地利用	235
2	弥生・古墳時代の水路整備	236
3	弥生時代中期(3・4期)における自然堤防側の水田開発	237
	(1) 屋代遺跡群②区における低地林の開墾 (2) 屋代遺跡群②区の水田復元	
	(3) 弥生時代中期における大規模水田開発	
第2節	屋代遺跡群・更埴条里遺跡における古墳水田の様相	241
1	調査地点における古墳時代の水田	241
2	VI層水田と条里水田の水利形態	242
第3節	古墳時代の土器編年	246
1	器種分類	246
	(1) 土師器 (2) 須恵器	
2	各期の特徴	250
	(1) 屋代・古墳1期 (2) 屋代・古墳2期 (3) 屋代・古墳3期 (4) 屋代・古墳4期	
	(5) 屋代・古墳5期 (6) 屋代・古墳6期 (7) 屋代・古墳7期 (8) 屋代・古墳8期	
第4節	弥生・古墳時代の集落	256
1	遺構の特徴	256
	(1) 住居跡と施設 (2) 床面に焼土・炭化材などが残存する住居跡について	
	(3) 遺物廃棄パターンと廃絶遺構の用途	
2	集落の構造	261
	(1) 集落の出現 (2) 集落の発展 (3) 占地構造の変化	
第5節	古墳時代の祭祀	263
1	祭祀関連遺構	263
	(1) 祭祀に関するてがかり (2) 生活関連遺構と祭祀遺物 (3) 生産関連遺構と祭祀遺物	
	(4) 特殊な遺構	
2	湧水点祭祀と導水型祭祀	265
	(1) 類例から見たSD7068・SX7038 (2) 祭祀の性格	
3	まとめ	267
第6節	弥生・古墳時代の環境	268
1	水田開発と古環境	268
2	更埴条里遺跡・屋代遺跡群の環境史(1)	269
第6章	結語	271

写真図版

報告書抄録

第1章 遺跡の概観と調査の概要

第1節 本編の範囲

1 報告書作成の方針

地域一括・時代別報告 平成7年度、上信越自動車道関係の整理がはじまるにあたり、更埴条里遺跡と屋代遺跡群（含む大埴遺跡、窪河原遺跡）については、遺跡別とはせず一括して報告する方針を立てた。

間断しない遺跡 その主な理由は、更埴条里遺跡A地区から屋代遺跡群・窪河原遺跡までの全長約2.3kmをほぼ全面発掘し、その間、遺跡が途切れなかったことによる。このことは、従来の遺跡別（地区別）報告では、同一時期の水田面や水路をみすみす分断してしまうこと。また、同時期の集落と水田との位置関係などといった、調査対象地域全体の様相がつかみにくくなってしまふこと。などを意味していた。

景観復元 さらに、例えばⅢ-2層とした洪水砂は、更埴条里遺跡A地区から屋代遺跡群⑥区の約2kmにわたって、9世紀末の水田や住居をバックしていた。この洪水砂を削ぐことによって遺物・遺構の有無とは関係なく、一時期の「地表」を検出することが可能となった。これにより人間活動の痕跡を点（一定の範囲）でおさえる狭義の「遺跡」や、その集合・ネットワークとしての「遺跡群」をとらえる作業だけでなく、一時期の「景観」を復元しうる可能性が強まった。「景観」復元を目指すという課題を掲げるためにも、全地域を統合した報告書作成を選択した。

キー層による時代別分冊 時代別分冊方式をとった理由は、現地表面直下から地表下8mにわたって、江戸時代から縄文時代に至る遺構・遺物が層別別に検出できたことにある。膨大な資料をまとめるにあたり、大きな環境の変化をもたらしたと思われる層を「キー層」として、時代別の分冊方式を採用した。

自然環境分析 各時代別分冊では、「景観」を復元するにあたって狭義の考古資料以外の微化石や動・植物遺体の分析を重視し、多くの研究者に参加を願った。【総論編】では、それらを元に自然環境と人間の営みの相関関係とその変遷を主眼として、まとめてゆく方針を立てた。

長野自動車道関連 また、窪河原遺跡については、上記の方針から、平成2年度に調査を実施した長野自動車道分についても含めた。ただし、本編に該当する資料は上信越自動車道関連のみである。

分冊の区分 各分冊の表題と刊行予定年度は以下の通りである。

- 第1分冊 「長野県原代遺跡群出土土簡」平成7年度刊行
- 第2分冊 「更埴条里遺跡・屋代遺跡群-含む大埴遺跡- 縄文時代（Ⅷ層～ⅩⅨ層）編」平成11年度刊行予定
- 第3分冊 「更埴条里遺跡・屋代遺跡群-含む大埴遺跡・窪河原遺跡- 弥生・古墳時代（Ⅵ層）編」平成9年度
- 第4分冊 「更埴条里遺跡・屋代遺跡群-含む大埴遺跡・窪河原遺跡- 古代1（Ⅳ・Ⅴ層）編」平成10年度刊行予定
- 第5分冊 「更埴条里遺跡・屋代遺跡群-含む大埴遺跡・窪河原遺跡- 古代2・中世・近世（Ⅱ・Ⅲ層）編」平成11年度刊行予定
- 第6分冊 「更埴条里遺跡・屋代遺跡群-含む大埴遺跡・窪河原遺跡- 総論編」平成11年度刊行予定

2 本編の範囲

本編は第3分冊にあたり、VI層上面からVI層下面で検出された弥生時代と古墳時代の資料を報告の対象としている(表1)。

水式土器段階から 縄文時代晩期と弥生時代の境界は、西日本地域の弥生時代前期に並行する水式土器の段階からを弥生時代に含めた。

これは、遺物包含層がシルト質のVI層であり、砂層を主体とした縄文時代晩期後葉のVII層との層相が大きく異なっていることを基準とした。

7世紀初頭まで 古墳時代と古代との境は、屋代遺跡群⑥区の旧千曲川と見られる流路を埋積した砂層を基準にした。

古墳時代の溝と同一面で検出されたS D7071最下層からは7世紀初頭の遺物が出土しており、その後、この流路は7世紀後半までの間に急速に埋積した状況を示している。一方、この時期は、土器などの遺物においても様相が大きく変化しており、この時期を「古代編」との境とした。

掲載の基準 検出面がVI層上面であっても、埋土が明らかに古代以後のものであると認められる遺構については「古代編」などに掲載した。また、遺物については、弥生・古墳時代のもので確実に確認できたものについては、VI層より上層で出土していても本編に掲載している。ただし、時期の決定が困難な鉄器片・石器片・獣骨などは、出土層を重視して掲載した。

時期区分 主に遺構のあり方の変化から、弥生時代・古墳時代を各々Ⅰ～Ⅲ期に大区分し、また、土器の特徴から弥生時代を1～5期に、古墳時代を1～8期に区分している。

層位	時代	大時期区分	中時期区分	小時期区分	遺構	備考
I	近・現代				水路	
II	中世後半～近世				溝溝・水田	
III-1	古代～中世前半				溝溝・水田・溝	
III-2	9世紀後半		古代8期			→全城を覆う洪水砂
IV・V	古代		古代0期		溝溝・水田・倉	→最古代⑥区河湾の埋積層による
VI	古墳後期	III	古墳8期	新橋・古橋	溝溝・水田?	→層位①・②・③区水田周辺に洪水砂 →小時期区分は土器種類と遺物の変化で区分 →大時期区分は水田などの要素を中心に区分
			古墳7期	新橋・古橋		
	古墳中期	II	古墳5期	新橋・古橋	溝溝・水田	
			古墳4期	新橋・古橋		
	古墳前期	I	古墳2期	—	溝溝・水路など	
			古墳1期	—		
弥生後期	III	弥生3期	—	水田など		
		弥生2期	—			
弥生中期	II	弥生4期	—	水田など		
		弥生3期	—			
弥生前期	I	弥生1期	—	遺物集中など		
		弥生0期	—			
Ⅶ	縄文晩期後葉				土まじりなど	→全城で砂の埋積
Ⅷ	縄文晩期中葉				屈立柱礎物、土まじりなど	
Ⅷ	縄文後期～晩期					
X						
X I	縄文後期前葉				土まじりなど	
X II-1						
X II-2	縄文中期後葉～後期初葉					
X III	縄文中期中葉				溝溝など	
X IV	縄文中期前葉					
X V	縄文中期前葉				土まじりなど	
X VI	縄文前期後葉					
X VII～X IX	不明					大形礎物出土
不明	縄文前期中葉					河湾への遺物混入

表1 更埴条里遺跡・屋代遺跡群の時期区分(太枠内は本編掲載)

第2節 歴史的環境と周辺遺跡

1 遺跡の位置(図1・6)

更埴市・千曲川右岸 更埴市屋代から両宮地籍にかけて、千曲川右岸の自然堤防上には多くの遺跡が立地している。それらを総称した名称が屋代遺跡群(・両宮遺跡群)である。その内、古代以降に形成された新しい自然堤防上(Ⅱ群)に立地するのが窪河原遺跡である。屋代遺跡群は古い自然堤防上(Ⅰ群)を主体としており、一部が大境遺跡と命名されている。更埴条里遺跡との境は便宜的に五十里川に置いている。更

埴条里遺跡は、自然堤防の南側に広がる後背湿地を中心とした地区である。

調査対象地区の位置 上信越自動車道はこの地域を南北に縦断する形で計画され、発掘対象地区は更埴条里遺跡A地区（更埴市屋代字七ツ石）から窪河原遺跡（更埴市雨宮字窪河原）の全長約2.3kmにわたる。各調査地区の地籍名は、図7に示したとおりである。国土座標では、更埴条里遺跡A地区南端が第七系X=58.8、北端の窪河原遺跡がX=62.0、東西は窪河原遺跡で広くY=-31.9から-32.10である。また、北緯36°31'50"～36°33'、東経138°8'付近にあたる。

2 弥生・古墳時代の屋代地区

ここでは、弥生・古墳時代の屋代地区に視点をしぼって、歴史的環境を見ておきたい（図1・表2）。

(1) 弥生時代

<屋代・弥生1期＝前期並行期>

水田稲作の導入 東海系弥生土器の流入や篠ノ井遺跡群の壺棺再葬墓⁷の存在などにより、間接的に稲作波及を示す資料が増えつつある（中沢1990）。石川条里遺跡の低湿地では溝跡が見つかり、プラントオパール分析の結果を加味すれば、水田が存在していた可能性が指摘されている（白居1997）。ただし、石器の研究（町田1992ほか）などから、本格的な水田経営には至らなかったと考えられている。

遺跡立地 水田稲作の導入に関連して、遺跡の立地が丘陵地帯から沖積地へ移ると考えられたことがあった。しかし、本地域では縄文時代の遺跡が沖積地で認められており、沖積地＝弥生時代の図式は当てはまっていない。水式土器を出した遺跡の立地を見る（図1）と、①山麓＝小坂西遺跡や鶴前遺跡（5-1）、②沖積地（山地裾部）＝屋代清水遺跡（97）、③沖積地（自然堤防上）＝城の内遺跡（92-2）、生仁遺跡（91-2）、篠ノ井遺跡群（2-7）に存在し、立地の多様性を見せている。

<屋代・弥生2～4期＝中期>

居住施設の確認 中期前半（屋代・弥生2期）には、屋代遺跡群内の荒井遺跡（92-6）において竪穴住居跡が確認されており、前時期には不明確であった集落形成が自然堤防上で認められる。また、千曲川の対岸にあたる松筋遺跡（3-3）と伊勢宮遺跡（3-5）では、近接して居住域と墓域が確認されている。特に、伊勢宮遺跡から発見された人骨の形質には渡来系弥生人の特徴が見られ、3期に下る篠ノ井遺跡群出土人骨（1997茂原・松村）とともに、外来系の集団が善光寺平の開発に関わっていることを示している。

集落の拡大 2期から遺構・遺物が増加傾向にあった善光寺平南部では、4期の栗林式土器の段階から遺跡数が激増する。松原遺跡（74）のような大規模な集落が自然堤防上に成立する段階である。屋代地区の自然堤防上にも屋代遺跡群や生仁遺跡で集落が見つまっている。また、崖錐地形に立地する大穴遺跡（99）や山地裾部の屋代清水遺跡など、水田可耕地を取り囲むように大小の集落が営まれるようになる。

水田遺構など 水田遺構は、対岸の石川条里遺跡（1-4）で確認されている。また、屋代遺跡群・荒井遺跡から炭化した麦などが、対岸の湯ノ入下遺跡（22）ではアズキの炭化種子が出土している。

<屋代・弥生5期＝後期>

箱清水式土器の段階には、大穴遺跡や屋代清水遺跡など、崖錐地形や山地裾部に存在していた小規模集落が姿を消し、自然堤防上の屋代遺跡群や生仁遺跡に取れんされる傾向が見られる。

(2) 古墳時代

<屋代・古墳1～3期＝前期>

前期古墳と集落・水田の位置 4世紀に築造された森将軍塚古墳は、更埴条里遺跡・屋代遺跡群の扇の要



图1 周辺遺跡(弥生・古墳時代)

の位置に立地している。ここからの眺望がきく自然堤防上には、歴代遺跡群・城の内遺跡をはじめとする集落が展開している。そして、眼下には水田が広がっていたと予想される。

小地域ごとの発展 こうした関係は、対岸の川柳將軍塚古墳と塩崎・篠ノ井遺跡群(集落)、石川糸里遺跡(水田)のように、善光寺平の各地で見ることができる。しかし、相違点も見られる。対岸では、篠ノ井遺跡群に見られるように自然堤防上に古墳時代初期の周溝墓群が見つかったのに対し、歴代遺跡群では森將軍塚古墳に先行するか、あるいは並行する時期の周溝墓群は確認されていない(小林1992)。また、石川糸里遺跡で発見された大規模な祭祀場も見つかっていない。こうした点は、各々の小地域が独自に発展していった姿を示している可能性がある。

地域圏 一方、善光寺平南部と言った、より広い地域がまとまりを持った“クニ”を形成していた可能性も指摘されている。善光寺平全域における前方後円墳の分布と変遷からは、小地域の相違を越えた政治的連合が想定されている。古墳の変遷からは、首長権が小地域を越えて移動すると見る立場(岩崎1989)と、各小地域内における首長系列の変遷を重視する立場(小林1997)が存在する。

千曲川を挟んだ兩岸の関係は、奈良時代前半に埴科郡家(歴代・兩宮遺跡群内か?)へ荷を運んだ地域が兩岸にわたっているなど(平川ほか1997)、後々の時代の地域圏の問題にも関連してくる。

<歴代・古墳4～6期=中期>

森古墳群の継続性 中期以降も、森將軍塚古墳周辺には古墳や小型の埋葬施設が造り続けられており(森古墳群)、この地域のシンボリックな存在としての森將軍塚古墳は生き続けている。

集落 自然堤防上を中心とする立地に大きな変化は認められない。ただ、同一自然堤防上内で集落が移動しているようである。また、森將軍塚古墳直下には歴代清水遺跡が立地している。

須恵器 この時期、須恵期の搬入などに畿内勢力との新たな関係構築がうかがえる。歴代遺跡群・城の内遺跡からは陶質土器が見つかっており、周辺の集落からは初期須恵器が比較的多く出土している。対岸では県内最古の須恵器窯である松ノ山窯跡(6期-)が発見されている。

<歴代7・8期=後期>

後期の集落も近年調査例が増えつつある。基本的な立地は継承されていたと考えられる。また、周辺の山地の斜面部や谷部には群集墳が築造される。

参考文献

- 岩崎卓也 1989「第二章第二節 古代社会の基礎」『長野県史』通史編 第一巻 原給・古代
 臼居直之 1997「第4章第3節5(1)弥生・古墳水田の変遷」『石川糸里遺跡』第1分冊(財)長野県埋蔵文化財センター
 史地学史編纂委員会 1994年『更埴市史』第一巻 古代・中世編
 小林秀夫 1992「第2章第1節3 歴史的環境」『史跡 森將軍塚古墳』
 更埴地科地方誌刊行会 1978『更埴地科地方誌』第二巻 原始古代中世編
 茂原信生・松村博文 1997「第4章第8節1 篠ノ井遺跡群(長野県)出土の土器(弥生時代～平安時代)」『篠ノ井遺跡群』成果と課題編(財)長野県埋蔵文化財センター
 中沢道彦 1990「III 3(2) 遺物(土器)」『篠ノ井遺跡III』長野市教育委員会
 平川南ほか 1997「第5章 考察」『長野県歴代遺跡群出土木簡』
 町田勝則 1992「信濃に於ける米作りと狩り」『人間・遺跡・遺物』発掘者談話会
 町田勝則 1993「信濃に於ける米作りと採集」『長野県考古学会誌』68号
 町田勝則 1994「信濃に於ける米作りと栽培」『長野県考古学会誌』73号

第3節 地形・地質環境と基本層序

1 善光寺平南部の地形・地質環境

(1) 長野盆地南部の地形 (図2)

長野盆地は南北長さ40km、東西幅8～10km、標高330～400mの紡錘形をした盆地である。西側は西部山地、東側は河東山地に明瞭に区分される。盆地の周辺は流入する中小河川の扇状地で埋められる。長野市街地の中心部は裾花川扇状地上に発達し、盆地南部は厚川扇状地からなる。盆地の中央部を南北に流れる千曲川は、それらの扇状地の発達に影響され自由蛇行している。

千曲川氾濫原上には、自然堤防や旧河道の砂堆・中州などの微高地と旧河道・後背湿地などの微低地があり、微地形を形成している。千曲川は更埴市稲荷山・八幡付近で河床勾配を1/1,000mと緩め、北西から北東方向へ流れの向きを変え、蛇行を始める。千曲川の左岸側には八幡、稲荷山、塩崎、平久保、旧藤ノ井(東藤ノ井・横田)、東福寺にかけて大規模な自然堤防が発達し、その西側には後背湿地が発達する。右岸側も両宮・清野・松代・牧島の自然堤防とその東側には後背湿地となる湾入低地が形成されている。

(2) 遺跡周辺の地形 (図3)

長野盆地東側の河東山地は壮年期の浸食地形を呈する。北西-南東方向に主な山稜部が並び、枝状に尾根が広がる。山麓線は入り組んでおり、千曲川氾濫原を海水面とするならばアス式海岸線のようにたとえられる。更埴条里遺跡はその枝状に広がる一重山と唐崎山の尾根に囲まれた大規模な後背湿地に位置し、屋代遺跡群は更埴条里遺跡の北側に形成されている両宮の自然堤防上に位置する。

地形区分 自然堤防の頂部は、両宮集落では長野電鉄河東線両宮駅の南部にある両宮坐日吉神社の辺りで標高355.9m、屋代工業団地周辺では長野電子工業辺りで標高356.7m、屋代高校北部で357.5mである。両宮の自然堤防の北・西側には比高差約1～1.5mの明瞭な小崖が発達し、崖に沿って幅約50m～180m、長さ約5kmにわたって数本の明瞭な旧河道が確認できる。この小崖をもって氾濫原をI群・II群に区分した。更埴条里遺跡は後背湿地I群に、屋代遺跡群は自然堤防I群に、窪河原遺跡は旧河道に囲まれた自然堤防II群に位置する。

自然堤防上にも細流などの働きによってできた浅い帯状の凹地がみられる。後背湿地は全体的に北西部から南東部へ傾斜しており、標高は最も高いところで一重山の東側の358m、最も低いところで森、中河原の西側で356.6mである。また後背湿地の中にも埋没した帯状の凹地が認められる部分もある(本報告書では埋没微地形に関して検討出来なかつたので詳しく区分していない)。

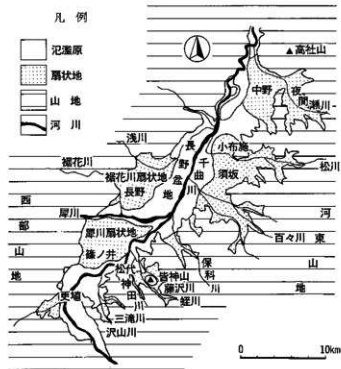


図2 長野盆地の地形〔中部地方1〕赤羽・花岡1988に加筆

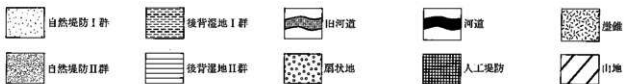
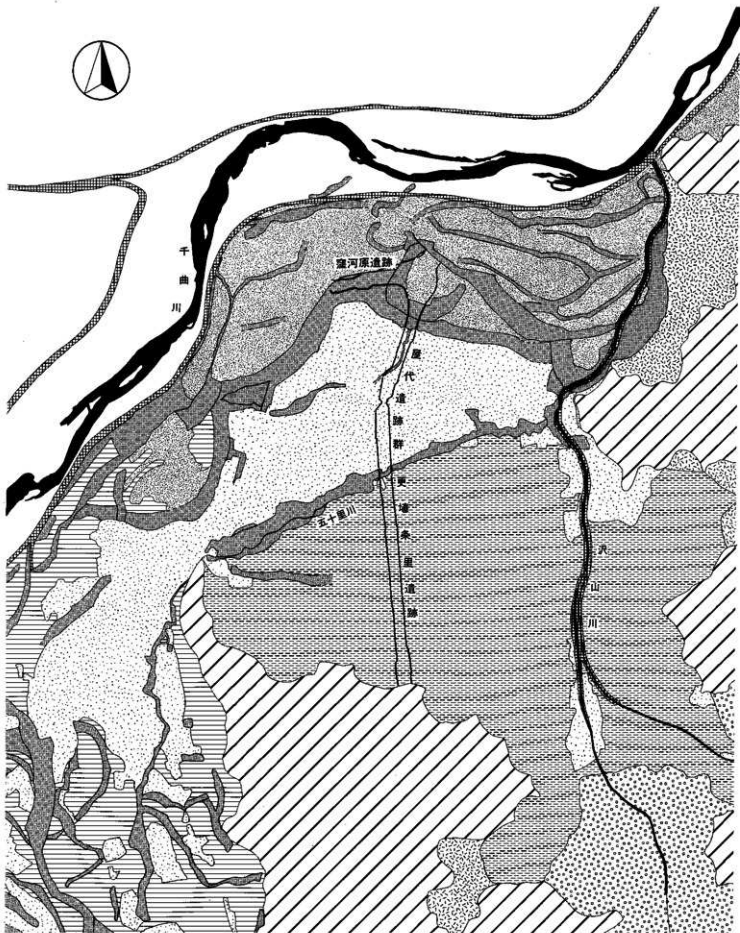
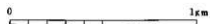


図3 地形分類図 (遠藤昭雄)



五十里川は戸倉町徳間地籍で屋代堰として千曲川から取水され、戸倉町内川の東方で戸倉用水と合わせて五十里川となる。中州状の微高地の間をぬうように口河道の微低地の中を流れ、尾代の市街地を通り一重山で東西方向に流れを変えて雨宮の自然堤防と後背湿地とのほぼ境を流れる。唐崎山西方で沢山川と合流する。現在は河川改修が進み直線的であるが、かつては自然の姿で流れ小さな解析谷を形成していた。

森・倉科にはそれぞれ鏡台山・三滝山から流れ出る沢山川・三滝川による表面勾配36/1,000の急傾斜の崖錐扇状地が形成されており、集落はその斜面上に立地する。生萱・土口は崖錐性の堆積物が押し出し地形を作る。沢山川は三滝川と途中更埴東小学校辺り（かつては少し下流の生萱）で合流し、笹崎（栗師山の先）で千曲川と合流する。沢山川は天井川となり、周囲に微高地を形成している部分もある。

(3) 遺跡周辺の新第三系の地質 (図4)

河東山地には中新世の堆積岩と中新世貫入岩類が分布し石材として利用されている。下位より順に説明する。

中新世前期～中期の内村層上部に相当する横尾部層、森・豊栄部層は、緑色凝灰岩・凝灰角礫岩と黒色頁岩・砂岩からなる。

森部層 森部層の模式地は更埴市森の沢山川上流である。倉科周辺一大峰山周辺一沢山川周辺に分布する。黒色頁岩層を主とし新鮮な部分はかなり硬質である。部分的に熱水変質を受けて珪化し黄鉄鉱を晶出している。頁岩砂岩互層や、凝灰岩質砂岩・シルト岩層を挟む。部分的に緑色凝灰岩が優勢となる。デイサイト凝灰岩やアイサイト凝灰岩と頁岩の互層を挟む。

別所層 中新世中期の別所層は更埴市森將軍塚古墳付近採石場を模式地とし、主に河東山地から長野盆地へ錐曲状に突出した尾根に分布する。黒色頁岩を主体とするが、最下部・中・上部は緑色凝灰岩が主である。森部層の黒色頁岩と肉眼では区別がつかないが、森部層の方が硬質であると感じられる。

一重山部層 中新世中期の青木層に相当する一重山部層は分布が局所的である。模式地は更埴市屋代一重山で、分布は他に長野市松代町栗師山、妻女山付近である。中～粗粒の砂岩、黒色泥岩を主とし、安山岩の岩床を数枚挟む。

貫入岩類 中新世貫入岩類は長野盆地底には分布しない。中～後期中新世に何回かにわけて貫入した石英閃緑岩は更埴条里遺跡・尾代遺跡群の東方、更埴市生萱、土口、倉科に分布する。生萱には大正時代に設置された採石場があり、石英閃緑岩は生萱石と呼ばれ主



図4 遺跡周辺の地質 (加藤・赤川1986に加筆)

に間知石や割栗石として利用されていた。石英斑岩、ひん岩類(角閃ひん岩-閃緑ひん岩)は横尾部層-別所層中に小規模な岩床や、岩脈状に貫入している。調査地南の有明山南東方には石英斑岩が分布し、白色-灰白色で少量の大型石英の斑晶がみられる。

2 更埴条里遺跡・屋代遺跡群の層序

更埴条里遺跡・屋代遺跡群に分布する堆積層を発掘調査・道路公園ボーリングの資料を基にセツ石層、反町層、屋代層の3つに大区分し、さらに屋代層を細分した(図5)。屋代層は地層命名規約(日本地質学会 1952 地質雑誌58巻P112-113)に基づいているが、セツ石層・反町層はボーリング調査位置の小字名であるため今後変更の必要があるかもしれない。ボーリング資料は既にサンプリングから時間が経過しており、保存状態も悪く肉眼観察に耐えられないため、全て道路公園のボーリング調査報告書の結果を使用している。下位より順に説明する。

(1) セツ石層

模式地 更埴条里遺跡A・B地区 ボーリング資料

分布 更埴条里遺跡A・B・C・D・E地区

有機質の粘性土を主体とし砂質土、砂礫土との互層である。地表面下22.2~25.2m以深から50.5m(標高332~304m付近)までは確認されている。層厚約27mである。下限は不明である。上位の反町層との間には不整合があると考えられる。

粘性土はDc1、Dc2、Dc3、Dc4に区別されている。Dc1は茶褐色の有機質粘土~腐植土で若干炭化した木片が点在する。Dc2は帯黒褐色~茶褐色の有機質粘土~シルトである。Dc3は茶褐色~灰色の有機質粘土~粘土である。Dc4は帯緑灰色の径1~2cmの角礫を混入する粘土である。Dc1~Dc3は腐植物を多量に混入する。粘土は部分的に含水大でやわらかい層準もあるが、全体的に含水少なく硬い。

砂質土は青灰色~黒灰色の中~粗粒砂、礫混じり中~粗粒砂である。礫は径5mm~2cm大の軽石を主とする。スコリアを多量に含み、まれに凝灰岩礫も含む。上位の反町層と比較すると相対的に高いN値が測定された。

砂礫土は帯灰青色の径5~10mmの亜円~円礫を主とし、マトリックスは粘土である。含水は少ない。

ボーリング調査結果に地質時代は更新世、地層区分は古期氾濫原堆積層と記載があることから、セツ石層の堆積時期は20,000年以前と推定した。年代測定を行っていないので詳しいデータはない。

(2) 反町層

模式地 更埴条里遺跡F・G地区 ボーリング資料

分布 更埴条里遺跡・屋代遺跡群全体に確認される。

層相は変化し更埴条里遺跡A・B地区は砂を主体とし砂礫層を挟み、他の地区は礫を主体とする砂礫層である。地表面下5.8m~11mから22m(標高348~332m付近)に分布し、層厚約9~16m程度である。下位のセツ石層を不整合で覆い、上位の屋代層に不整合で覆われると考えられる。

公団資料では更埴条里遺跡F~G地区付近を主な分布としており、記載は以下の通りである。帯緑灰色、帯黒灰色、茶褐色の礫径2~5cmの亜円~円礫を主とした砂礫層である。径7~10cmの礫を点し、砂をブロック状・縞状に取り込むこともある。マトリックスは中~粗粒砂で粘土分も多く認められる。更埴条里遺跡A・B地区~E地区にかけては層相変化し砂質土に漸移していると考えられる。

屋代遺跡群③・④区となると、帯青黒灰色、帯緑黒灰色、帯茶褐色の径2~5cmの亜角~円礫を主体と

する。径6～10cmの礫を点在する。マトリックスはシルト～粗粒砂である。

年代測定は行われていないが、約10,000年前から20,000年前までと推定される。その理由として上位の下部屋代層の下部の層準であるXVI層が縄文時代前期後葉の諸磯式土器を包含するため約5,000年前の年代が与えられること、ボーリング資料と調査での所見を合わせると反町層の最上部と下部屋代層のXVI層とのレベル差が5m程度であることから、堆積物の砂礫からシルトへの急激な変化を不整合面としてとらえるなら更新世一完新世の境?とするのが適当と思われる。

(3) 屋代層

更埴条里遺跡・屋代遺跡群・窪河原遺跡全域に分布する完新世の堆積物である。発掘調査により上部・中部・下部の3つに分け、さらに色調・粒度、遺物の包含の有無などによってI層からXIX層に細分した。上部屋代層はI層からIII層、中部屋代層はIV層からVI層、下部屋代層はVII層からXIX層である。窪河原遺跡での中部屋代層が砂礫層であることを除けば屋代層はほとんどシルト～粘土質で、細粒の堆積物から構成されていることが大きな特徴である。更埴条里遺跡A地区と屋代遺跡群⑥区とは同一の層準でも層相の変化はあるが、自然堤防の堆積物・後背湿地の堆積物といった明確な区分はできない(更埴条里遺跡A・B地区に分布するV層のみIV層と同時具相の関係にある)。一般的に自然堤防と背後の後背湿地との境は不明瞭なことが多いが、本遺跡では堆積物からの区分もできないのでより不明瞭になっている。

引用・参考文献

- 史料・地誌地方誌刊行会 1986『史料・地誌地方誌 自然編』
建設省北陸地方建設局千曲川工事事務所 1993『信濃の巨流 千曲川』
加藤謙一・赤羽貞幸 1986『長野地域の地質』地域地質研究報告(5万分の1地質図幅) 地質調査所
大矢権彦編 1983『地形分類の手法と展開』古今書院
赤羽貞幸 1995「最終氷期以降における長野盆地の古環境」『第四紀研究』27, 37-44
井関弘太郎 1983『沖積平野』東京大学出版会
日本道路公団関東第二建設局上田工事事務所 1989『上信越自動車道 更埴地区第二次土質調査報告書』日本物理探査株式会社
日本の地質【中部地方I】編集委員会 1988『中部地方I』共立出版
更埴市史編纂委員会 1994『更埴市史 第1巻 古代・中世編』
(財)長野県埋蔵文化財センター 1992『長野県埋蔵文化財センター 年報』8
(財)長野県埋蔵文化財センター 1993『長野県埋蔵文化財センター 年報』9
(財)長野県埋蔵文化財センター 1994『長野県埋蔵文化財センター 年報』10
(財)長野県埋蔵文化財センター 1996『長野県屋代遺跡群出土土器』
長野県教育委員会 1968『地下に発見された更埴条里遺構の研究』

3 調査対象となった層序

(1) 層名

屋代層(I～XIX層) 屋代層のうち、発掘調査の手が届いた層までをI～XIX層に区分した。XVII・XIX層を除く各層からは、遺物や遺構が確認されており、人々の営みの痕跡が刻まれている。

層名の統一 更埴条里遺跡から屋代遺跡群・窪河原遺跡を同一テーブル上で論じるため、層名の統一を行った。全遺跡を通じて統一名称としたのは、ローマ数字で表示したI～XIXである。主に洪水砂層などの層理面を基準とした。例えば、窪河原遺跡の旧千曲川上に堆積したII層と更埴条里遺跡のII層は層相が

大きく異なっているが、ほぼ全城を覆うⅢ層（洪水砂）の上位にあることからⅡ層に統一してある。

各遺跡、各地点特有の層については、それぞれの地区名と層番号を統一層名の後に記した。例えば、Ⅱ層の内を、屋代遺跡群②区（Y2）で分層できた場合、Ⅱ-Y2-1層やⅡ-Y2-2層とした。この細別番号はあくまで当該地区区内での分層であって、他地区の1・2層とは必ずしも同一層を現してはいない。

（2）弥生・古墳時代対応層の特徴（付図1）

Ⅱ層の形成時期 弥生・古墳時代の遺構・遺物の検出・包含された層はⅡ層である。Ⅱ層は更埴条里遺跡D地区～屋代遺跡群⑥区までの広範囲で確認できる（図5）。この層は、縄文時代晩期後半を通じて続いた砂の堆積（Ⅶ層）が止んだ後、その上位に堆積したシルト層であり、一部を除いて黒色化している。弥生時代前・中期の遺構埋土は黒色化しておらず、黒色化が進む時期は弥生時代後期以降と考えられる。

地区の特徴 広範囲にわたって類似した特徴を示すが、土地利用の差によって違いが認められる。一つはⅡ層上面が水田化した地域と集落域の違い。もう一つは上層水田などの影響による変質である。

Ⅱ層の起伏 Ⅱ層は、全体的には更埴条里遺跡南側に向かって低くなる。D地区以南は平安時代の層によって攪乱されるか、あるいは削平されるかしたために存在していない。また、更埴条里遺跡K地区から屋代遺跡群①区にかけて、屋代遺跡群⑤・⑥区に微高地が存在し、この微高地と微高地の間が低くなっている。

弥生時代の遺構 流路は上記の微高地を避け、微低地を西から東に向かって流れている。また、Ⅱ層下面検出の植物根痕の分布を見ると、更埴条里遺跡J区以北（主に自然堤防上）に径が1mを超える根痕が多く存在し、それ以南の後背湿地では径数10cmが大半を占めるようになり、植生の違いがうかがえる。弥生時代中期には、屋代遺跡群②～③区の微低地で自然流路とは方向の異なる水路が掘削される。

古墳時代の遺構 古墳時代には屋代遺跡群⑤・⑥区の自然堤防上に集落が展開し、更埴条里遺跡K地区の微高地にも、井戸跡が認められる。基幹水路が屋代遺跡群①区の高まりに敷設され自然堤防を灌漑し、更埴条里遺跡南部の後背湿地にも水路が新設される。

4 更埴条里遺跡・屋代遺跡群の環境変遷

（1）検討会の設置

環境復元検討会 本報告書では、自然環境を含めた景観の復元を重視することとした。ただし、発掘調査時点では各地区の担当者の視点によって分析項目が設定され、委託先も複数に分散していた。今回、長大な調査地区を一冊にまとめる編集方針を受け、改めて全城を通じた課題の設定と各種分析内容の総合化が必要となった。そのため、環境復元に関する指導をいただいていた国立歴史民俗博物館の辻誠一郎助教授、各分析を担当していただいた南木睦彦（流通科学大学助教授）、松田隆二（古環境研究所）、辻本崇夫・田中義文（パリス・サーヴェイ株式会社）、それに発掘調査担当者（主に市川・白田・河西・寺内）を加え、「環境復元のための検討会」を設置した。

分析の進行状況 各種分析は、①「検討会」発足以前にデータが寄せられたもの、②現在も分析を継続中のもの、③「検討会」によって新たに追加されるもの、が存在する。

現状では、分析途上の項目も多い。そのため、本編では、平成8年度末までに結果が得られたデータに基づいて、更埴条里遺跡・屋代遺跡群の自然環境の変遷を描くこととする。今後のデータの蓄積によって若干の修正が加えられると考えられるが、長期の環境変遷の中に「弥生・古墳時代」を位置づけるため、あえて概観を示すこととする。最終的な結論は、平成11年度刊行予定の「総論編」にゆだねたい。

(2) 古環境変遷の概要（予報）

バリノ・サーヴェイ株式会社
田中義文・辻本崇夫

更地条里遺跡・原代遺跡群の発掘調査では、縄文時代前期以降現代までの地層が確認された。環境復元検討会では、発掘調査所見に基づき基本層序をⅠ層～ⅩⅨ層に整理し、各地点間の層序対比を行った。また、これまで得られた自然科学分析調査の結果をこの基本層序・層序対比に従って再検討し、時空的な古環境変遷を捉えつつある。現状では、分析調査を補足すべき地点や考古学的事実とのすりあわせが必要な地点も残されているが、その概要を予報として示しておくたい。

地形・土地利用状況・古環境の変遷を捉える 本遺跡の地形発露と基本層序については、前節に詳しい(市川1998)。この成果に基づき、地形・土地利用状況と古環境の変遷を整理したのが表3である。特に、出土遺物などから時代観の明確な縄文時代前期(ⅩⅥ層)から近世(Ⅱ層)までの変遷がよく捉えられている。以下に、その概要を述べる。

縄文時代の環境変遷と土地利用 縄文時代は、河川作用の影響を受けながら自然堤防Ⅰ群が徐々に形成され、その休止期に人間生活の跡が遺された時代である。縄文時代前期に屋代遺跡群⑥区は氾濫原上の微高地として徐々に安定し、前期後葉には人間生活の跡がこの微高地上に遺されるようになる。その後、縄文時代中期前葉から中期後葉には旧干曲川の流路が安定し、屋代遺跡群④～⑥区は自然堤防として固定化され、自然堤防Ⅰ群の原形が成立した。この時期、微高地上に規模の大きい集落が営まれるようになる。また中期後葉には後背湿地を含む集落外の各地点から遺物が出土するようになり、地形の安定化に伴い生活領域が広がったことが示唆される。縄文時代後期から晩期にかけて、比較的高所である④・⑤・⑥区にも粗粒な堆積物がみられることから、再び河川作用が活発になりたびたび大規模な洪水が起こったと考えられる。縄文時代晩期中央葉一時的にやや安定するが、晩期後葉には再び洪水にみまわれる。このように洪水を頻繁に受けていたにもかかわらず、自然堤防Ⅰ群には土坑や焼土などの生活の跡が遺されており、洪水の間には後背湿地を含め生活領域として利用したことが示唆される。縄文時代晩期までに堆積した粗粒な堆積物によって、自然堤防Ⅰ群が地形単位としてほぼ確立したと考えられる。

縄文時代の古植生と稲作の出自 縄文時代前期から晩期にかけて古植生の変化は顕著ではなく、周辺にはクミ属・ニレ属・ケヤキ属・シデ類・ナラ類等の河畔林や、ヨシ属を中心にした草本類主体の湿原植生が発達していたと考えられる。なお、更地条里遺跡では、E・H・I地区など局所的にイネ属の高い場所がみられた。その比率は後代の水田層に匹敵するほどであったが、本遺跡の立地する善光寺平では当時の稲作を支持するような遺構・遺物の検出例が見られず、また分析調査例も蓄積段階にあることなどから、今のところ稲作の存否について慎重な評価をしている。

弥生・古墳時代の古環境と土地利用 弥生・古墳時代は、自然堤防Ⅰ群を中心とする地形がほぼ安定・確立し、主に後背湿地で水田開発・経営が行われた時代である。黒色の表土(Ⅵ層)が形成され、河道・流路付近を除けば比較的安定していたと考えられる。弥生時代前期(弥生1・2期)には屋代遺跡群③a区や更地条里遺跡E地区に小規模な居住・滞在の跡がみられるが、水田は確認されていない。この時期更地条里遺跡側を中心に自然流路がみられるが、大きく改修したような痕跡は見られない。弥生時代中期(弥生3・4期)には、水田開発が始まる。屋代遺跡群②区では、ケヤキ・カツラなどの樹木が伐採・焼却され平坦地が確保された痕跡がみとめられ、既存の自然流路の改修が行われるとともに、自然堤防上に水路が開削され、水路体系が整備された。本格的な水田経営は、この時期に始まったといえる。その後古墳時代中期(古墳3・4期)に水路体系の再編はあったが、基本的に自然堤防上は集落、後背湿地は水田とし

層位	時代	土地利用状況			地形・土地利用変遷の概要	古 植 生	
		後背湿地 (更埴系平遠跡)	自然堤防Ⅰ群 (旧千曲遺跡群)	自然堤防Ⅱ群 (窪河原遺跡)		栽培性の 稲作時期	周辺植生
I	現代	水田、富栄養化	水田、島、集落	島(高所)、水田 (旧河道)	現状の村落景観。	ワタ ゴマ	人間の植生 干渉による マツの増加
II	中世後半～近世	水田?、富栄養化	島、高所に集落	島・高城(高所) 水田(旧河道)	自然堤防Ⅰ群上では島高城・高城・島、後背湿地は水田域として判別される。水田の富栄養化が始まる。自然堤防Ⅱ群は安定化し、地形単位として成立。		
III-1	平安後期～中世前半	水田?、富栄養化、 K・J地区に集落	島、高所に集落	島・高所(高所) 水田(旧河道)	洪水(七和?)により、遺跡全体が砂層に覆われる。	不明	
III-2	平安時代(9世紀末)	洪水層	洪水層	洪水層	洪水(七和?)により、遺跡全体が砂層に覆われる。		
IV・V	飛鳥・平安時代	水田(A・B地区は9 地区まで泥炭地)、K 地区に集落	水田・島、高所に集 落	旧河道	自然堤防Ⅰ群上まで堆積水田が拡大する。そのなかでも、高所に集落が形成される。世帯の起る可能性があるが断片では不明瞭。自然堤防Ⅱ群付近は河川作用を強く受けており、地形単位としては成立していない。	マノ類 オオムギ ソバ	イネ科を中心とした草 本主体の植生が 拡大する出現 モミ・ツガ、ツ ガ属などの 分布拡大
VI	弥生～古墳時代	水田、K地区に集落?	水田、島所に集落	不明	自然堤防Ⅰ群が安定化し、地形単位として成立。平安時代中期に森林を侵襲した痕跡があり、野たな水田も開墾される。この時期に水田開墾が本格化し、それ以降耕地が拡大していく。基本的に自然堤防Ⅰ群上は島高、後背湿地は水田として利用された。	モモ イネ	
VII	縄文時代後期後葉	生活痕跡あり	生活痕跡あり	不明	断片に中や安定するが、後半は河川作用が活発になり、大規模な洪水のたびたび起こる。自然堤防Ⅰ群上には洪水の合間に生活の痕跡が遺される。		
VIII	縄文時代中期中葉	集落?、土器跡、建物	生活痕跡あり	不明			
IX	縄文時代後期中葉以降	生活痕跡あり	生活痕跡あり	不明			
X	縄文時代後期前葉	生活痕跡あり	生活痕跡あり	不明			
XI	縄文時代後期前葉	生活痕跡あり	生活痕跡あり	不明			
XII-1	縄文時代後期前葉	生活痕跡あり	生活痕跡あり	不明			
XII-2	縄文時代中期後葉	生活痕跡あり	高所に集落、散地成 にも遺物	不明	渡路が安定し、自然堤防Ⅰ上に集落が形成される。徐々に活動域拡大する。	不明	
XIII	縄文時代中期中葉	不明	高所に集落	不明			
XIV	縄文時代中期前葉	不明	高所に集落	不明			
XV	縄文時代中期前葉	不明	生活痕跡あり	不明			
XVI	縄文時代前期後葉	不明	生活痕跡あり	不明			
XVII	不明	不明	不明	不明	低地帯上の後背地として徐々に安定していく。最初の生活の痕跡が遺される。	不明	
XVIII	不明	不明	不明	不明			
XIX	不明	不明	不明	不明			

表3 更埴系里遺跡・屋代遺跡群・窪河原遺跡の土地利用変遷と古環境

[] 本編の範囲

て利用されていた。弥生・古墳時代を通して、低地や河川周辺で小規模な洪水を受けた可能性はあるが、自然堤防上を覆い尽くすような大規模な洪水は受けなかったと考えられる。なお、古墳時代中・後期頃、屋代遺跡群⑥区には田干曲川の流路があり、⑤区の集落との境は急崖であった。

弥生・古墳時代以降の古植生 遺跡周辺では、近世までイネ科を中心とした草本主体の植生が広がっていたと考えられる。このような状態は、上記したような水田開発・経営の開始が原因と考えられる。一方、後背の森林には、モミ属・ツガ属が分布するようになったと考えられる。なお、栽培種は、イネ・モモが弥生時代以降、マメ類・オオムギ・ソバが飛鳥・平安時代以降出現する。

飛鳥・平安時代以降近世までの古環境と土地利用 飛鳥・平安時代には条里水田が自然堤防上まで拡大され、更埴系里遺跡K地区などの高所には集落が形成された。一方、更埴系里遺跡A・B地区では泥炭(V層)が発達したが、9世紀頃には水田化された。この間、自然堤防Ⅰ群上は小規模な洪水を受けたが、耕作などによってその痕跡は消滅している。また、自然堤防Ⅱ群(窪河原遺跡)付近に旧千曲川の流路があり、地形的には安定していない。9世紀末になると、自然堤防上を含め、遺跡全体を砂層が覆うような非常に規模の大きい洪水が起きた。この洪水は「七和の洪水」に比定される可能性がある。文献によればこの洪水以後も中世～近世に大洪水があったとされるが、自然堤防Ⅰ群上の断面にその形跡は明瞭でない。平安時代後期～近世にかけて基本的には、自然堤防上は集落や島、後背湿地は水田として利用された。水田内の水域の水質は富栄養化しており、水利や施肥の方法が変化し可能性がある。この時期には自然堤防Ⅱ群が安定化し、地形単位として確立する。自然堤防Ⅱ群に立地する窪河原遺跡では旧河道の名残の低地が水田、高所は集落・島として利用された。現代につながる村落景観はこの時期に成立したものとみられる。

第4節 調査・整理の経過

1 調査の概要

(1) 調査の実施にあたって

調査期間と調査範囲 本地区の上行越自動車道の供用開始時期と工事期間との兼ね合いから、発掘調査期間は平成3年度から平成6年度の4年間に限定された(図6 窪河原遺跡H2地区は、平成2年調査の中央自動車道関連分である)。上行越自動車道用地の約2.3km区間はほぼ全域が調査対象となっている上、沖積地であるため遺構が地下深く重層的に存在することが考えられた。そのため、当初より遺跡の内容に見合った調査の遂行には困難が予想された。詳細については『総論編』に掲載する。

調査体制 広範囲の遺跡を短期間で調査し終えるため、調査班を複数作り、大量動員をはかり、数カ所で同時に調査を実施した。詳細は『総論編』に掲載する。

(2) 調査の手順

調査の手引き 調査の手順、地区設定、遺跡・遺構記号などは、(財)長野県埋蔵文化財センター『発掘調査の手引き』に則って進めた。地区設定は図7に、分割調査のために設定した仮地区は図6に示した。

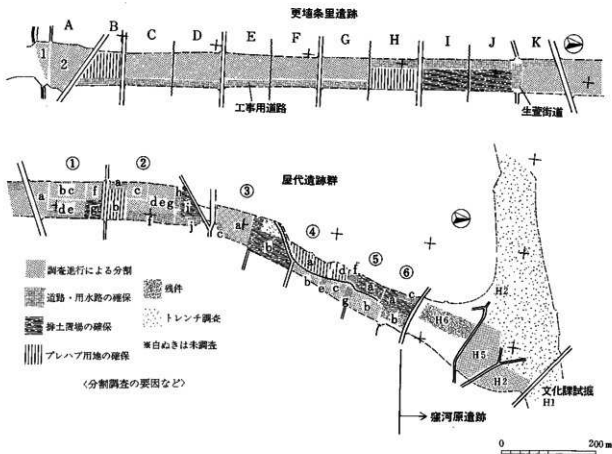
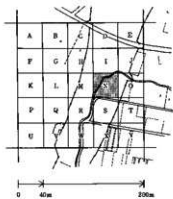


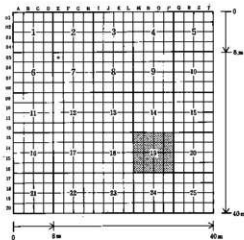
図6 仮地区名と分割調査



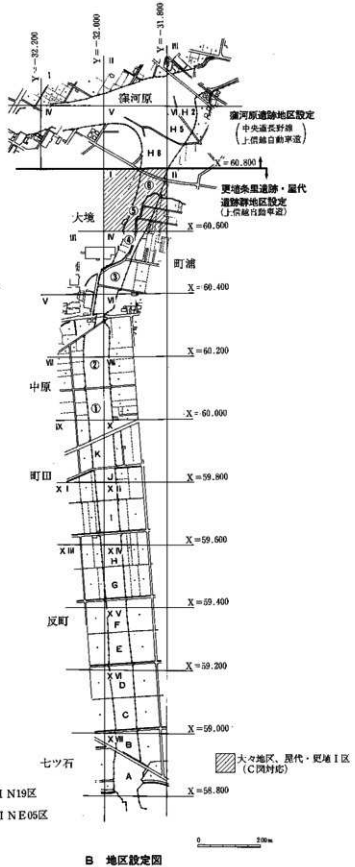
A 発掘調査対象範囲



C 大地区設定図



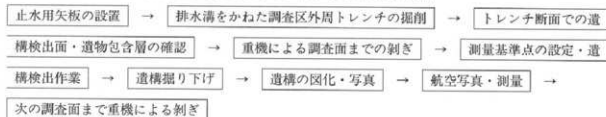
D 中・小地区設定図



B 地区設定図

図7 地区設定図

基本的な調査進行 基本的な調査の進め方は、次の通りである（下段写真）。



また、各地区の特殊な事情によって調査法を多少変えている。

さらに、時間短縮のため、重機等の機械力や航空測量・航空撮影、8mmビデオカメラを多用した。

(3) 整理作業の経過

整理経過 更地条里遺跡・屋代遺跡群の本格的な整理作業は、平成7年度から上田調査事務所において実施している。『弥生・古墳編』に関しては、平成7・8年度は主に遺物の洗浄と保存処理に費やし、8年度後半から9年度にかけて遺構図の確定、遺物の実測・写真撮影を行い、9年度半ばから報告書に向けての執筆・版組などを行った。整理作業に関係した方々や整理体制などについては、平成11年度刊行予定の『総論編』を参照していただきたい。



外周トレンチの掘削（更地条里遺跡J地区）



VI層下面までの剥ぎと検出作業（同左）



遺構の掘り下げ（同上）



遺構の図化（更地条里I地区）

第2章 弥生時代前期並行から中期（VI層中～下面検出）の遺構と遺物

第1節 概観

本章に掲載した遺構や落ち込みは、溝・流路67条、土坑（根柢を含む）158基、焼土（灰）跡6基である。VI層下面検出遺構の時期は、弥生前期並行期（水式土器期）から4世紀代の溝を含んでいる。ただし、自然堤防上の屋代遺跡群⑤区集落域では、弥生時代後期（箱濤水式土器期）と古墳時代の遺構検出面が同じであり、埋土の分離も困難であった。ここでは集落の変遷と水路の関係を優先したため、埋土が黒色化した弥生時代後期～古墳時代の溝は、VI層下面検出であっても全て第3章に掲載した。したがって、本章に掲載した遺構は弥生1期（弥生時代前期並行）から弥生4期（弥生時代中期後半）に属するものである。

上記の時期の遺構は更埴条里遺跡から屋代遺跡群③区までで確認されたが、自然堤防が最も高まる屋代遺跡群④～⑥区では発見することができなかった。

弥生1期 後背湿地側の更埴条里遺跡で自然流路が認められ、流路付近の焼土跡（E地区）がこの時期の可能性を持つ。自然堤防側の屋代遺跡群③区では土坑とともに土器・石器の集中が認められる。

弥生2期 更埴条里遺跡のSD881b（I地区）から石包丁が出土し、水田の存在をうかがわせる。屋代遺跡群①区で土坑1基が確認されているが、本格的な開発の痕跡は見つかっていない。

弥生3～4期 更埴条里遺跡では、自然流路を水路として改修する動きが見られる。一方、屋代遺跡群ではケヤキやカツラの低地林を開墾し、大規模な水路網を新設し、本格的な水田開発が始まる。

第2節 遺構と遺物出土状況

1 遺構各説（図8～22）

(1) 溝・自然流路跡（SD）

① 概要

掲載方法 SDで表示した溝や流路は、人工・自然を問わず掲載している。個々の記述は一覧表に示し、個別図は原則として断面図のみを掲載し、平面図は1/500のみである。

分類基準 溝・自然流路は、流れの形状、平面形、断面形、底面の形状などから4群に分類し、個別の説明を極力省いた。また、それにより、人工的に掘削された溝であるか、自然流路であるかの可能性を示しておいた。各類型の分布、変遷により、弥生時代の開発についての見解を第5章1節に示した。

分類基準は以下の通りである。

I群 直線的で、深さや幅が安定したものを人工的に掘削されたと考えられるもの

1類 直線的な流路をとり、深さや幅が比較的安定したもので、II・III群に比べ微低地の方向（地形に左右されていない。堆積土中（主に海底付近）に砂を多く含む

→水田への給排水のために人工的に掘削された水路と推定できるもの

- a 溝幅は3m以上と広く、1-b類を分岐する
→ 屋代・更埴全域をカバーする基幹水路 弥生時代では確定できず
- b 溝幅が1～2mと比較的広く、分岐する小溝を伴う。
→ 水田への給・排水を行う幹線水路と思われる。 例> 屋代SD2271ほか
- c 1-b類に比べ溝幅が狭く、1-b類溝に接続する。分岐する小溝を伴う。
→ 幹線水路から分かれた支水路と思われる。 例> 屋代SD2288
- d 溝幅が狭く、1-bやc類と平行、あるいは独立して存在する。
→ 水がかりの悪い部分への補助的水路か？
- e 1-a～c類に比べ、幅30cm前後と狭く、長さや深さも小規模。溝底に砂を含まない例があり、水流が穏やかであったと思われる。
→ 水田への直接的な給・排水路（水口）と考えられる。 例> 屋代SD2294

2類 直線的で、深さや幅が安定したもの。堆積土中に砂を全く含まないもの

- a VI層を埋土に持つ場合が多い。水の流れがひじょうに遅いか、水路ではないもの
→ 区画溝など 例> 屋代SD2267・古墳SD4051
- ※ 現場段階で溝とされた2類の内、土質や位置から畦畔状遺構・畦畔下部施設に変更した例がある。ここで2類としたものは、それらを除いてある。
- b VI層を埋土に持つ。数条の溝が企画性を持って並ぶ。
→ 畝路の可能性を持つもの 例> 屋代・古墳SD4054

3類 湧水点から祭祀施設などへ水を導くために掘削された溝

→ 古墳時代以降見られる。 例> 屋代・古墳SD7068

II群 自然流路上、あるいは隣接して存在し、やや蛇行するが、深さや幅が安定したもの

→ 自然流路を改修した可能性を持つもの。 例> 更埴SD882

III群 流路方向・深さ・幅などが一定しないもの→自然流路と考えられる例

1類 大きく蛇行し、溝幅や深さが安定せず、近接して流路変更に伴う小流路や流路の“深み”が残存する。堆積土中に砂を含む。

→ 基本的には、自然流路と考えられる。明確な形では現れていないが、一部人手が加わっている可能性もある。 例> 更埴SD403、屋代SD2275・2263

2類 1類に近接して存在する不整形の落ち込みで、堆積土中に砂を含む場合が多い。

→ 自然流路に伴う“深み”の部分と考えられる。現場段階の記号のままSKで表示してある。

例> 屋代SK1080

IV群 上記以外、もしくは詳細なデータがとれず判断できないもの

概略 人工的な水路と考えられるI群は、比較的乾燥した自然堤防側（屋代遺跡群）に存在し、自然流路と考えられるIII群が少ない地区である。時期は弥生（3）～4期以降に限定される。これに対し、更埴条里遺跡側の比較的湿潤な後背湿地では、自然流路と思われるIII群が西から東へ向かって蛇行しており、それらを改修したと考えられるII群が認められる。時期は、弥生2期以降と考えられる。

表4-(1) VI層下面検出自然流路・水路一覽

発掘調査区番号	調査番号	調査地名・番号	時期	遺構図	地域	平面図	城跡方向	分期	全長 (m)	最大幅 (m)	掘き (m)	色調	上 状	地層状況	遺物	関係遺物	調査時期	備 考
BKS D	305-307	弥生10	弥生10	IV	弥生10	IV	西→東	II	32.6	1.2	0.3	—	—	—	—	—	—	—
BKS E	403	弥生10	弥生10	IV	弥生10	IV	西→東	II	52.6	16 (3.4)	0.16	暗褐色	シルト・砂	下層に砂が多く交る	土器、石器	III23	—	占守時代とされているが、弥生時代の遺物も多く、弥生時代から掘出したことが注目
BKS F	828	2期以降	弥生10	IV	弥生10	IV	西→東	III	3.62	1.1	0.07	—	—	—	—	—	—	—
BKS G	430	2期以降	弥生10	IV	弥生10	IV	西→東	III	4.02	0.62	—	—	—	—	—	—	—	—
BKS I	887B	2期以降	弥生10	IV	弥生10	IV	西→東	III	0.8	0.17	0.17	灰褐色	砂質	砂質	土器、石器	III23-36	—	—
BKS I	887C	2期以降	弥生10	IV	弥生10	IV	西→東	III	0.8	0.17	0.17	灰褐色	砂質	砂質	土器、石器	III23-36	—	—
BKS J	1040	弥生10	弥生10	IV	弥生10	IV	西→東	III	32.6	1.2	0.3	—	—	—	—	—	—	—
BKS J	1041	弥生10	弥生10	IV	弥生10	IV	西→東	III	28	2.5	0.32	暗褐色	シルト・砂	シルト・砂	土器	III23-36	—	—
BKS J	1042	弥生10	弥生10	IV	弥生10	IV	西→東	III	9.7	1.7	0.2	暗褐色	シルト	シルト	土器	III23-36	—	—
BKS J	1043	弥生10	弥生10	IV	弥生10	IV	西→東	III	15.6	1.6	0.14	—	—	—	—	—	—	—
BKS J	1045	弥生10	弥生10	IV	弥生10	IV	西→東	III	25.4	2.2	0.3	暗褐色	シルト	シルト	土器	III23-36	—	—
BKS K	9101	弥生10	弥生10	IV	弥生10	IV	西→東	III	11	2.1	0.12	暗褐色	シルト	シルト	土器	III23-36	—	—
BKS K	9103	弥生10	弥生10	IV	弥生10	IV	西→東	III	9.2	2.4	0.32	暗褐色	シルト	シルト	土器	III23-36	—	—
BKS K	9104	弥生10	弥生10	IV	弥生10	IV	西→東	III	4.8	2.4	0.34	暗褐色	シルト	シルト	土器	III23-36	—	—
BKS K	9105	弥生10	弥生10	IV	弥生10	IV	西→東	III	10.3	1.75	0.18	暗褐色	シルト	シルト	土器	III23-36	—	—
BYS 1	300	弥生10	弥生10	IV	弥生10	IV	西→東	III	42.0	0.62	0.11	暗褐色	シルト	シルト	土器	III23-36	—	—
BYS 1	364	弥生10	弥生10	IV	弥生10	IV	西→東	III	6.68	1.72	0.27	暗褐色	シルト	シルト	土器	III23-36	—	—
BYS 1	365	弥生10	弥生10	IV	弥生10	IV	西→東	III	0.68	0.4	—	暗褐色	シルト	シルト	土器	III23-36	—	—
BYS 2	287	弥生10	弥生10	IV	弥生10	IV	西→東	III	0.4	0.8	—	暗褐色	シルト	シルト	土器	III23-36	—	—
BYS 2	277	弥生10	弥生10	IV	弥生10	IV	西→東	III	69.9	2.34	0.1	暗褐色	シルト	シルト	土器	III23-36	—	—
BYS 2	272	弥生10	弥生10	IV	弥生10	IV	西→東	III	70.7	1.62	0.12	暗褐色	シルト	シルト	土器	III23-36	—	—
BYS 2	275	弥生10	弥生10	IV	弥生10	IV	西→東	III	43.1	5	0.68	暗褐色	シルト	シルト	土器	III23-36	—	—
BYS 2	278	弥生10	弥生10	IV	弥生10	IV	西→東	III	28.6	1.68	0.24	暗褐色	シルト	シルト	土器	III23-36	—	—
BYS 2	279	弥生10	弥生10	IV	弥生10	IV	西→東	III	70.6	0.38	0.11	暗褐色	シルト	シルト	土器	III23-36	—	—
BYS 2	280	弥生10	弥生10	IV	弥生10	IV	西→東	III	2.1	0.46	0.16	暗褐色	シルト	シルト	土器	III23-36	—	—

表4-(3) VI層下面積自然流路・水路一覽

調査区画番号	調査区画	基壇番号	時期	遺構区画	大地区	中地区	平面形状	流路方向	分類	全長 (m)	幅 (m)	深さ (m)	色調	土性	堆積状況	遺物	埋藏遺物	切合関係	備考
BYS 2	2399		弥生	Ⅷ15	P2	P2	蛇行	東西	1-1-c	1.96	0.25		土色	シルト-細砂	石器			SD2398からの分岐構の可能性がある	
BYS 2	2400		弥生	Ⅷ15	V1	P16	蛇行	東西	1-1-c	4.1	0.11		土色	シルト-細砂				SD2401へつながる	
BYS 2	2401		弥生	Ⅷ15	V	T20	蛇行	東→西	1-1-c	2.5	0.22		土色	シルト-細砂				SD2408へつながる	
BYS 2	2409		弥生	Ⅷ14	Ⅷ	F1-2	直線的	東→西	IV	3.3	0.5	0.26	灰黄色	シルト				弥生前期-古墳前期の可能性あり	
BYS 2	2475		弥生	Ⅷ14	Ⅷ	F11-K1	直線的	西側部→東側部	IV	2.6	1.03	0.18	灰黄色	シルト	骨・灰質物・粘り土・炭素塊				弥生前期-古墳前期の可能性あり
BYS 2	2477		弥生	Ⅷ14	Ⅷ	OK-10	直線的	東→西	IV	12.29	0.32	0.14	土色	シルト				弥生前期-古墳前期の可能性あり	
BYS 2	2480		弥生	Ⅷ15	V	S30	直線的	北西→南東	1-1-c	3.3	0.3	0.15	土色	シルト				弥生前期-古墳前期の可能性あり	
BYS 2	2085		弥生	Ⅷ17	Ⅷ17	Y19-A2	一ヶ所で直線的、直線的	北→南	1-1-b	24.8	3.38	0.15	灰黄色	シルト-細砂	骨・灰質物・粘り土・炭素塊				SD2096へつながる分岐構
BYS 2	2088		弥生	Ⅷ17	Ⅷ17	Y20	直線的	北→南	1-1-c	11.5	0.32	0.08	土色	シルト				SD2088より分岐した水路と考えられる	
BYS 3	2098		弥生	Ⅷ17	Ⅷ17	Y19-A2	一ヶ所で直線的、直線的	北→南	1-1-b	52.3	2.66	0.2	褐色	シルト-細砂	土器・灰質物・粘り土・炭素塊				SD2085より分岐した水路と考えられる
BYS 3	2090		弥生	Ⅷ17	Ⅷ17	Y20-B4	直線的	北→南	1-1-c	15.4	1.28	0.1	土色	シルト-細砂					
BYS 3	2092		弥生	Ⅷ17	Ⅷ17	Y24	直線的	北→南	1-1-c	3.5	0.66	0.09	土色	シルト					
BYS 3	2094		弥生	Ⅷ17	Ⅷ17	A8-9	直線的	西側部→東側部	1-1-b	10.6	1.76	0.17	土色	シルト-細砂	土器・灰質物・粘り土・炭素塊				SD2094・2096と繋がると考えられる
BYS 3	2200		弥生	Ⅷ17	V	J1-9	直線的	西側部→東側部	IV	13.3	3.12		褐色	シルト					
BYS 3	2201		弥生	Ⅷ17	V	J1-7	直線的	西側部→東側部	IV	3.3	0.72		土色	シルト					
BYS 3	2294		弥生	Ⅷ18	Ⅷ18	L14-24	直線的	北→南	1-1-b	32.7	1.6	0.08	土色	シルト	土器				SD2097と繋がると考えられる
BYS 3	2295		弥生	Ⅷ18	Ⅷ18	L14-Q2	直線的	北→南	1-1-b	33.7	0.98	0.18	土色	シルト	土器				SD2097と繋がると考えられる
BYS 3	2296		弥生	Ⅷ18	Ⅷ18	F11-Q21	直線的	北西→南東	1-1-b	21.9	0.14	0.14	土色	シルト					
BYS 3	2297		弥生	Ⅷ18	Ⅷ18	Q2-9	直線的	西→東	1-1-b	12.4	0.9	0.2	土色	シルト	土器				SD2294・2296と繋がると考えられる
BYS 3	2298		弥生	Ⅷ18	Ⅷ18	L13-18	直線的	北→南	1-1-b	7.9	1.06	0.34	土色	シルト	土器				弥生前期-古墳前期の可能性あり
BYS 3	2299		弥生	Ⅷ18	V	Y14-9	直線的	北→南	1-1-b	10	1.5	0.14	土色	シルト					
BYS 3	2300		弥生	Ⅷ18	V	Y20	直線的	北→南	IV	3.9	1.27	0.2	土色	シルト					
BYS 3	2301		弥生	Ⅷ17	Ⅷ17	Ⅷ17	直線的	北東→南西	1-1-c	0.9	0.4		土色	不明					

※ BKSは肥後県産源、BYSは現代産源

② 溝・自然流路の変遷（個別例）

個々の溝の特徴については、表4を参照していただき、ここでは、ほぼ同じ地点において検出された溝・自然流路の変遷について、代表的な例を取り上げておく。

更埴条里遺跡 SD828.830.881a.881b.882溝群（図10・19）

初源：縄文晩期後半の砂層堆積（VII層）が一段落した後、低地部（I地区）を、西から東へ流れる自然流路SD881bが初源となる。弥生2期の土器蓋と石包丁が出土しており、水田への水利用が推定される。しかし、人の手が加わった明確な痕跡は見られない。**水路改修**：SD882は、この流路を直線的に整えた溝であり、蛇行するSD881bと比較して、本格的に改修工事がなされたものと推定できる。遺物がなく、細別時期は特定できない。両溝は灰褐色の砂を基本としており、他地区の弥生時代の溝の堆積土と類似している。**上層水路**：これに対し、両溝の上部に存在するSD881aはやや黒色化した砂層となる。これのみでは断定はできないが、屋代遺跡群の古墳時代溝SD3078最下層と類似している。SD881aは古墳時代中期以前に黒色化する基本土層（VI層）に覆われている。現代の堰も隣接しており、古代以降も水路は隣接して存在し続けていたと考えられる。

屋代遺跡群 SD2271.3088.3294ほか溝群（図15～18、20）

新設水路：自然堤防側に入り、比較的乾燥した地区に存在する溝群である。これらの溝は②区、③a区、③b区に離れているが、自然堤防の高所に設置した水路から自然堤防内の水田可耕地へ向かって掘削された一連の溝と考えられる。そのため、微低地を流れる更埴条里の自然流路・溝とは方向が異なる。**改修**：いずれの地区でも最低2条の溝が平行して流れ、切り合っていることから、初期の掘削後、改修されていることがわかる。SD3088から弥生3～4期の土器がまとまって出土しており、弥生時代中期の粟林期直前段階頃に掘削が始まったと考えられる。**供給源**：自然堤防上の本線水路が特定できていない。位置的には、屋代遺跡群④区で検出されたSD4530が有力な候補である。しかし、この溝からは古墳時代前期の土器が出土しており、弥生時代からの継続が否かは断定できない。**上層水路**：継続せず、弥生時代の幹線水路とは全く異なった方向の水路が古墳時代に掘削される。

屋代遺跡群 SD2363.2272他溝群（図14・15、20）

初源：自然流路SD2363・2364に平行する流路が初源であろう。III群2類のSD2280、SK1077などから石包丁や弥生3期の土器が出土している。SD2363には弥生4期の土器が含まれており、粟林期まで自然流路が存在していた可能性が高い。**改修**：SD2272に混入している土器は弥生4期の中でも、SD2363より若干古い。しかし、切り合い関係からはSD2363を改修した水路と考えられる。このことは、屋代遺跡群②区の水田開発の時期を特定する上で、重要な点となる。

(2) 焼土跡（SF）（図21・表5）

概要 VI層下面で検出された焼土跡は、更埴条里遺跡E地区と屋代遺跡群①区の2カ所のみである。両地区の焼土跡ともに遺物の出土はなく、時期を限定できる根拠は存在していない。

更埴条里遺跡E地区 弥生1期の永式土器が散在し、SD403内からも同時期の土器が出土している。想像を逞くすれば、SD403河畔での一時的な逗留に伴う焼土跡とも考えられる。

屋代遺跡群①区 SKの項で取り上げるII群土坑（焼土・炭化材を伴う銅木根）の可能性もある。炉（焚き火）跡とした場合、1. 土器や石器の散在する弥生1・2期の一時的な逗留地に伴う。2. この地区の開墾（水路掘削と低地林伐採）が盛んに行われる弥生3・4期、開墾に伴う一時的な逗留地に伴う。などの可能性が推測されるが、現段階では確定できる資料はない。

(3) 土坑 (SK) (図21・表5)

① 概要

掲載方法 調査時にSKとした例には、人為的に掘り込まれた土坑のほかに、根株跡や流路の“深み”などが存在する。これらは、調査の手順上、主に平面図のすべてを航空測量に委託した地区において、手取り断面図との照合の都合上SKと命名した例。あるいは、当初、根株跡か否かの判断が難しかった例などが大半を占めている。ここでは、沖積地の開発過程を知る上で重要となる根株跡や流路の深みについても、一部SK表示のまま掲載する。

分類基準 土坑は上記の例を含め、5類型に分類し、その代表的な例のみ個別図を掲載した。個々の説明は極力省き、一覧表に掲載した。

各類型の分類基準は以下の通りである。

- I群 人為的な掘り込みと考えられるもの 弥生時代では、性格の明確でない例が2例のみである。
- II群 植物痕などの自然物に人手が加わったもの
不整形で、凹凸の激しいものの内、焼土塊や炭化物片を多く混入するもの
- III群 自然の営力で落ち込みとなり、直接的な人手の介入が認められないもの
1類 不整形で、凹凸の激しいものの内、焼土や炭化物をほとんど含まないもの (根痕か)
2類 自然流路跡に隣接し、凹凸が見られる。埋土中に砂が混入する (流路の“深み”か)
- IV群 上記以外、あるいはデータが少なく判断できないもの

② 各群別資料の代表例

< I群 >

屋代遺跡群に2基存在するのみである。

SK154 屋代遺跡群①区で単独で検出。掘り込みは浅く、壺形土器が1個体 (図25-76) 出土した。

SK3212 屋代遺跡群③区の遺物集中地点のほぼ中央に存在する。垂直に近い掘り込みを有し、覆土中から1cmほどの焼骨 (同定不可) が1点出土している。

< II群 >

屋代遺跡群②区に集中し、隣接する①区北や③区に散在する。これ以外の地区では確認されていない。

SK1055ほか 平面・断面形ともに安定していない。特にSK1159例のように、シミ状に黒色化した部分があり、たこ足状に延び、底面にも凹凸を作る例が典型で「根痕」と考えられる。焼土と炭化物を混入していることがII群の前提となる。焼土は、SK1057例のように、こぶし大～やや小さめの焼土塊がブロック状に集中する箇所があり、炉跡のような平面的に火を焚いた跡とは考えられない。根に絡んだ土塊が焼けたものであろう。炭化物は人頭大の根株状のものほか、棒状のものが多く、板状のものは含まれていない。炭化物はケヤキ・カツラ・広葉樹に限定されており、この地区に低地林が存在していたことを示している。

< III群 1類 >

多くは「根痕」と考えられる。古墳時代以降の遺構が密集しているため検出できなかった屋代遺跡群④～⑥区を除き、ほぼ全域で見ついている。ただし、比較的規模の大きい例は、更埴条里遺跡K地区～屋代遺跡群③区に見られ、更埴条里遺跡J地区以南では、直径が数10cm以下のものが大半を占めるようになる。更埴条里の低湿地側には本来大木がなかったのか、あるいは、砂の堆積が終了した直後から生産域としての土地利用がはじまったため、大木が育たなかったのか、今後の課題である。

遺構 区別 番号	位置 記号	遺構 名 ・番号	遺構 形状	中地区	平面形	類型	規模 (m)	深さ (m)	特徴	色調	土色備註号	堆积状況	遺物	遺物 図記	備考
BKS	E	SF 401	不整形	K6	不整形	Ⅱ	0.63	0.55	張り込みなく、甕蓋上層堆積	暗褐色		中央に粘土層、周囲に 灰化層存在	なし		
BKS	E	SF 402	不整形	K13	不整形	Ⅱ	0.45	0.3	張り込みなく、甕蓋上層堆積	暗褐色		粘土のみ	なし		
BKS	E	SF 403	不整形	K12	不整形	Ⅱ	1.2	0.8	張り込みなく、甕蓋上層堆積	暗褐色		灰土、灰化層部分的に 存在	なし		
BYS	I	SF 5	不整形円形	T4	不整形円形	Ⅱ	0.68	0.32	SF49-7よりよく出てくる	暗褐色	10YR4/6	灰土層、手置層、灰 土に灰化層			
BYS	I	SF 6	不整形円形	T1	不整形円形	Ⅱ	0.45	0.33	0.07			灰土層、手置層			
BYS	I	SF 7	不整形円形	T1	不整形円形	Ⅱ	0.41	0.28	0.11			灰土層、手置層			
遺構 区別 番号	位置 記号	遺構 名 ・番号	遺構 形状	中地区	平面形	類型	規模 (m)	深さ (m)	特徴	色調	土色備註号	堆积状況	遺物	遺物 図記	備考
BKS	G	SF 6488	不整形	P2	不整形	Ⅲ	0.25	0.22		暗褐色	7.5YR3/2				
BKS	K	SK 9504	不整形	T7-8	不整形	Ⅲ	1.3	0.9	1.12	暗褐色	10YR3/2	甕蓋土層堆積	土器		
BKS	K	SK 9505	不整形	T6-7	不整形	Ⅲ	2.1	1.2	0.12	暗褐色	10YR5/4	甕蓋土層堆積			
BKS	K	SK 9506	不整形	O17	不整形	Ⅲ	1.3	1.4	0.08	暗褐色	10YR3/3	甕蓋土層堆積			
BKS	K	SK 9510	不整形	O7	不整形	Ⅲ	1.25	0.7	0.15	暗褐色	10YR3/3	甕蓋土層堆積			
BKS	K	SK 9511	不整形	O7	不整形	Ⅲ	2.8	2.1	0.24	暗褐色	10YR3/2	甕蓋土層70%堆積			
BKS	K	SK 9513	不整形	O2-7	不整形	Ⅲ	1.3	1.2	0.34	暗褐色	10YR3/3				
BKS	K	SK 9514	不整形	O2	不整形	Ⅲ	0.8	0.6	0.3	暗褐色	10YR3/3				
BKS	K	SK 9517	不整形	O3	不整形	Ⅲ	1.6	1.5	0.17	暗褐色	10YR3/3				
BKS	K	SK 9518	不整形	O9	不整形	Ⅲ	1.5	1.4	0.18	暗褐色	10YR3/2-3/3	灰化物片混入			
BKS	K	SK 9519	不整形	J23-24-O5	不整形	Ⅲ	2	1.9	0.12	暗褐色	10YR3/3				
BKS	K	SK 9520	不整形	O1	不整形	Ⅲ	1.4	1.1	0.11	暗褐色	10YR3/4				
BKS	K	SK 9521	不整形	O1	不整形	Ⅲ	0.6	0.6	0.2	暗褐色	10YR3/4				
BKS	K	SK 9527	不整形	J22	不整形	Ⅲ	0.9	0.6	0.25	暗褐色	10YR3/4				
BKS	K	SK 9528	不整形	X	不整形	Ⅲ	0.5	0.5	0.08	暗褐色	10YR3/2				
BKS	K	SK 9532	不整形	K1	不整形	Ⅲ	1.1	1	0.07	暗褐色	10YR3/2				
BKS	K	SK 9533	不整形	F21-K1	不整形	Ⅲ	2.6	2.4	0.13	暗褐色	10YR3/2-3/3	甕蓋土層堆積			
BKS	K	SK 9534	不整形	F21	不整形	Ⅲ	1.7	1.2	0.12	暗褐色	10YR3/2-3/3	甕蓋土層堆積			
BKS	K	SK 9535	不整形	F21	不整形	Ⅲ	0.8	0.7	0.1	比較的重く張り込み	10YR3/2-3/4				
BKS	K	SK 9536	不整形	K2	不整形	Ⅲ	1.1	0.8	0.16	暗褐色	10YR3/2	甕蓋土層堆積			
BKS	K	SK 9540	不整形	K3	不整形	Ⅲ	1.5	1.4	0.44	暗褐色	10YR3/2-4/4	甕蓋土層堆積			
BKS	K	SK 9541	不整形	K3	不整形	Ⅲ	1.4	0.8	0.26	暗褐色	10YR3/2				
BKS	K	SK 9542	不整形	K3	不整形	Ⅲ	0.8	0.6	0.32	暗褐色	10YR3/2-4/4				
BKS	K	SK 9544	不整形	K3	不整形	Ⅲ	0.6	0.8	0.27	暗褐色	10YR3/4				
BKS	K	SK 9545	不整形	K7	不整形	Ⅲ	0.5	0.2	0.35	暗褐色	10YR3/4				
BKS	K	SK 9546	不整形	K7	不整形	Ⅲ	0.5	0.2	0.35	暗褐色	10YR3/2				
BKS	K	SK 9547	不整形	K7-8	不整形	Ⅲ	0.5	0.9	0.13	暗褐色	10YR3/2	特殊なプロック堆積			
BKS	K	SK 9548	不整形	O18	不整形	Ⅲ	0.9	0.9	0.04	張り込みのみ	10YR3/2	特殊なプロック堆積			
BKS	K	SK 9549	不整形	O18	不整形	Ⅲ	1.3	1.2	0.07	張り込みのみ	10YR3/2	特殊なプロック堆積			
BKS	K	SK 9550	不整形	O13	不整形	Ⅲ	1.2	1.1	0.25	張り込みのみ	10YR3/2-3/4	特殊なプロック堆積			
BKS	K	SK 9551	不整形	K2	不整形	Ⅲ	1.4	0.5		暗褐色	10YR3/2	特殊なプロック堆積			
BYS	I	SK 154	不整形	Y2-7	不整形	Ⅱ	1.83	1.36	0.14	なだらかな張り込み	10YR3/3	灰化層のみ	土器		
BYS	I	SK 452	不整形	Y1	不整形	Ⅱ	0.95	0.4	0.1		10YR4/4	灰化層のみ、手置層のみ			
BYS	I	SK 458	不整形	Y1	不整形	Ⅱ	0.65	0.33	0.08		10YR4/4	手置層のみ、灰化層のみ			
BYS	I	SK 605	なし	X28	不整形	Ⅱ	0.75	0.36	0.05		10YR4/4	手置層のみ、灰化層のみ			
BYS	I	SK 619	なし	X13	不整形	Ⅲ	1.74	1.42	0.04		10YR4/3	手置層のみ、灰化層のみ			
BYS	I	SK 622	なし	Y31-22	不整形	Ⅲ	1.5	1.1	1.1		10YR4/3	手置層のみ、灰化層のみ			

表5-(1) 要条里遺跡・鹿代遺跡群 弥生時代SF・SK一覧

遺跡 番号	区画	通稱 記号 番号	遺構 番号	通稱 番号	遺構 名 ・番号	遺構 区画	中地区	平面形	類型	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	特徴	色調	土色・土質	堆積状況	遺物 状況	遺構 範囲	備考
BYS	1	SK 633	T23	不整形凹形	凹形	IV	T23	不整形凹形	凹形	1.4	0.93	0.06	—	—	10YR4/3	—	—	—	—
BYS	1	SK 634	T21	不整形凹形	凹形	II	T21	不整形凹形	凹形	0.97	0.78	—	—	—	10YR4/3	—	—	—	—
BYS	1	SK 637	T22	不整形凹形	凹形	II	T22	不整形凹形	凹形	1.48	0.86	0.22	凹内あり	—	10YR4/3	炭化物混入	—	—	—
BYS	1	SK 638	T7	不整形	凹形	II	T7	不整形	凹形	1.28	0.8	0.16	女だらから窪み	—	10YR4/3	炭化物混入	—	—	—
BYS	1	SK 639	T3-4	不整形	凹形	II	T3-4	不整形	凹形	1.38	0.36	0.15	女だらから窪み	—	10YR4/3	炭化物多量混入	—	—	—
BYS	1	SK 640	O16	不整形	凹形	II	O16	不整形	凹形	3.42	2.56	0.14	女だらから窪み	—	10YR4/3	炭化物多量混入	—	—	—
BYS	1	SK 641	N19	不整形	凹形	II	N19	不整形	凹形	1.2	0.68	0.03	女だらから窪み	—	10YR4/3	炭化物多量混入	—	—	—
BYS	1	SK 642	N20	不整形	凹形	II	N20	不整形	凹形	0.92	0.74	0.32	女だらから窪み	—	10YR4/3	炭化物混入	—	—	—
BYS	1	SK 643	N17-19 15-20	不整形	凹形	IV	N17-19 15-20	不整形	凹形	5.17	2.89	—	女だらから窪み	—	10YR4/3	—	—	—	—
BYS	1	SK 652	N14	不整形	凹形	IV	N14	不整形	凹形	1.95	1.3	0.14	—	—	10YR4/3	炭化物混入	—	—	—
BYS	1	SK 653	N14	不整形	凹形	IV	N14	不整形	凹形	0.74	(0.26)	0.16	—	—	—	—	—	—	—
BYS	1	SK 654	N14	不整形	凹形	IV	N14	不整形	凹形	0.82	0.3	0.2	凹内あり	—	10YR4/3	炭化物混入	—	—	—
BYS	1	SK 655	N14	不整形	凹形	IV	N14	不整形	凹形	1.58	0.92	0.15	凹内あり	—	10YR4/3	炭化物混入	—	—	—
BYS	1	SK 659	N14	不整形	凹形	IV	N14	不整形	凹形	3.06	1.22	0.29	—	—	10YR4/3	焼土、炭化物混入	—	—	—
BYS	1	SK 660	N14	不整形	凹形	IV	N14	不整形	凹形	—	—	—	—	—	—	炭化物多量混入	—	—	—
BYS	2	SK 1038	N14	不整形凹形	凹形	V	N14	不整形凹形	凹形	0.46	(0.52)	0.09	—	—	—	—	—	—	—
BYS	2	SK 1039	N14	不整形	凹形	V	N14	不整形	凹形	0.8	(0.32)	0.09	—	—	—	—	—	—	—
BYS	2	SK 1042	E23	不整形	凹形	IV	E23	不整形	凹形	1.84	1.27	0.28	凹内あり	—	10YR4/3	焼土、炭化物混入	—	—	—
BYS	2	SK 1043	E16	不整形凹形	凹形	III	E16	不整形凹形	凹形	1.18	0.6	0.23	凹内あり	—	10YR4/3	炭化物混入	—	—	—
BYS	2	SK 1045	E16	不整形	凹形	III	E16	不整形	凹形	0.94	0.87	0.39	—	—	10YR3/3-4/3	焼土、炭化物混入	—	—	—
BYS	2	SK 1046	D8	不整形	凹形	II	D8	不整形	凹形	1.42	1	0.33	わずかに凹内あり	—	10YR4/3	焼土、炭化物混入	—	—	—
BYS	2	SK 1047	I6	不整形	凹形	III	I6	不整形	凹形	3.74	3.45	0.96	凹内あり	—	10YR4/3	焼土、炭化物混入	—	—	—
BYS	2	SK 1048	I6	不整形	凹形	III	I6	不整形	凹形	3.74	3.45	0.96	凹内あり	—	10YR4/3	焼土、炭化物混入	—	—	—
BYS	2	SK 1049	E1-6-7	不整形	凹形	II	E1-6-7	不整形	凹形	3.9	3.02	0.59	凹内あり	—	10YR4/3/4	焼土、炭化物混入	—	—	—
BYS	2	SK 1050	X24	不整形	凹形	II	X24	不整形	凹形	1.18	0.74	0.19	凹内あり	—	10YR4/3	焼土、炭化物混入	—	—	—
BYS	2	SK 1051	X24	不整形凹形	凹形	II	X24	不整形凹形	凹形	1.5	0.85	0.16	凹内あり	—	10YR4/3	焼土、炭化物混入	—	—	—
BYS	2	SK 1052	X20-25 Y20-21	不整形	凹形	II	X20-25 Y20-21	不整形	凹形	2.68	1.9	1.3	凹内あり	—	10YR4/3-4/4	焼土、炭化物混入	—	—	—
BYS	2	SK 1053	E14	不整形	凹形	IV	E14	不整形	凹形	3.74	0.87	0.33	凹内あり	—	10YR4/3	炭化物混入	—	—	—
BYS	2	SK 1054	E7	不整形	凹形	IV	E7	不整形	凹形	0.78	0.64	0.33	凹内あり	—	10YR4/3	焼土、炭化物多量混入	—	—	—
BYS	2	SK 1055	Y7-12	不整形	凹形	II	Y7-12	不整形	凹形	2.5	2.26	0.33	凹内あり	—	10YR3/3-4/3	焼土、炭化物混入	—	—	—
BYS	2	SK 1056	Y14-19	不整形凹形	凹形	II	Y14-19	不整形凹形	凹形	2.68	2	0.11	凹内あり	—	10YR3/2-3/3	焼土、炭化物多量混入	—	—	—
BYS	2	SK 1057	E13	不整形	凹形	II	E13	不整形	凹形	1.82	1.2	0.32	凹内あり	—	10YR4/3	焼土、炭化物多量混入	—	—	—
BYS	2	SK 1058	E15	不整形	凹形	II	E15	不整形	凹形	1.76	0.7	0.22	凹内あり	—	10YR4/3	焼土、炭化物多量混入	—	—	—
BYS	2	SK 1059	X4	不整形	凹形	II	X4	不整形	凹形	3.34	1.02	0.26	凹内あり	—	10YR4/3	焼土、炭化物多量混入	—	—	—
BYS	2	SK 1072	X15-20	不整形	凹形	III	X15-20	不整形	凹形	4.6	2	0.25	凹内あり	—	10YR3/4	炭化物混入	—	—	—
BYS	2	SK 1073	V1	不整形	凹形	IV	V1	不整形	凹形	1.6	1.35	0.11	凹内あり	—	10YR4/3	炭化物混入	—	—	—
BYS	2	SK 1074	V1	不整形凹形	凹形	IV	V1	不整形凹形	凹形	0.7	0.55	0.1	—	—	10YR4/3	焼土、炭化物多量混入	—	—	—
BYS	2	SK 1075	V15-21	不整形	凹形	II	V15-21	不整形	凹形	4.1	2.44	0.5	凹内あり	—	10YR3/3-4/3	焼土、炭化物混入	—	—	—
BYS	2	SK 1077	E10-15	不整形	凹形	IV	E10-15	不整形	凹形	4.9	3.89	0.12	凹内あり	—	10YR3/4	炭化物混入	—	—	—
BYS	2	SK 1078	A6	不整形	凹形	IV	A6	不整形	凹形	2.16	1.06	0.1	わずかに凹内あり	—	10YR4/4	炭化物混入	—	—	—
BYS	2	SK 1080	E15-A11	不整形	凹形	IV	E15-A11	不整形	凹形	5.04	3.4	—	凹内あり	—	10YR4/4	—	—	—	—

表5-(2) 更埴系遺跡・屋代遺跡群 弥生時代SF・SK一覽

遺跡 区別	遺構 区別	遺構 名称・番号	田邊地名 ・番号	遺構・大體 位置	中地区	平面形状	類型	長構 (m)	短構 (m)	深さ (m)	特徴	色調	土色附記号	堆積状況	遺物 類別	備考
BYS	2	SK 1082		Vc	Flp A6	不整形	IV	3	0.35	0.12	—	—	10YR3/3	S200黄土+大石(再吃)		
BYS	2	SK 1083		Vc	Y1(15-20)	不整形	IV	1.81	1.37	0.21	凹凸あり	10YR2/3	黄土、炭化物混入			
BYS	2	SK 1084		Vc	E20	不整形	II	1.81	0.8	0.13	凹凸あり	10YR3/3-4/3	黄土混入			
BYS	2	SK 1086		Vc	E24	不整形	II	1.14	0.8	0.11	凹凸あり	10YR3/3	黄土、炭化物混入			
BYS	2	SK 1094		Vc	T14	不整形	II	1.8	1.67	0.24	凹凸あり	10YR3/3-4/2	黄土、炭化物少量混入			
BYS	2	SK 1095		Vc	O13	不整形	V	1.7	1.52	0.37	凹凸あり	10YR4/2	黄土、炭化物少量混入			
BYS	2	SK 1097		Vc	T7	不整形凹形	IV	0.58	0.28	0.24	お手先にご凹凸あり	10YR4/2	黄土、炭化物少量混入			
BYS	2	SK 1098		Vc	O21	不整形	III	0.72	0.42	0.25	凹凸あり	10YR5/3	炭化物少量混入	土器	図25	
BYS	2	SK 1116		Vc	F22	不整形	II	2.06	1.32	0.26	凹凸あり	10YR4/2-3/3	黄土、炭化物混入	石器		
BYS	2	SK 1117		Vc	F22	不整形	IV	2.6	1.4	0.17	凹凸あり	10YR3/3	—			
BYS	2	SK 1120		Vc	F16	不整形	IV	0.8	0.36	0.08	お手先にご凹凸あり	10YR3/3	黄土+コナ、炭化物混入			
BYS	2	SK 1125		Vc	F6	不整形凹形	II	1.9	1.58	0.35	2/3にお手先にご凹凸あり	10YR3/3	黄土+コナ、炭化物混入			
BYS	2	SK 1154		Vc	F8	不整形	II	1.9	1.57	0.32	凹凸あり	10YR3/2-4/3	黄土、炭化物混入			
BYS	2	SK 1155		Vc	F11-16	不整形	II	6.1	3.57	0.52	凹凸あり	10YR2/2-4/2	炭化物混入			
BYS	2	SK 1156		Vc	O0-8	不整形	II	3.4	2.56	0.47	凹凸あり	10YR2/2-4/2	炭化物混入			
BYS	2	SK 1160		Vc	O3	不整形	II	3.04	1.96	0.42	凹凸あり	10YR3/3-4/3	黄土+コナ、炭化物混入			
BYS	2	SK 1161		Vc	O12	不整形	II	2.9	1.63	0.36	凹凸あり	10YR3/2-5/3	炭化物混入			
BYS	2	SK 1163		Vc	I10-13	不整形	III	7	5.63	0.28	凹凸あり	10YR3/2-5/3	炭化物混入			
BYS	2	SK 1164		Vc	I7-18	不整形凹形	II	2.6	2	0.24	凹凸あり	10YR3/2-6/4	炭化物混入			
BYS	2	SK 1165		Vc	I7-18	不整形	II	4.52	3.5	0.41	凹凸あり	10YR4/3-3/2	炭化物少量混入			
BYS	2	SK 1166		Vc	K1	楕円形	V	0.97	0.82	0.39	凹凸あり	10YR4/3	炭化物混入			
BYS	2	SK 1168		Vc	X11	不整形凹形	II	1.78	1.24	0.06	お手先にご凹凸あり	10YR4/3-4/4	黄土、炭化物混入			
BYS	2	SK 1170		Vc	N10	不整形	III	2.04	1.22	0.31	凹凸あり	10YR3/3-4/3	炭化物少量混入			
BYS	2	SK 1171		Vc	N10	不整形	III	3.2	1.49	0.25	凹凸あり	10YR3/3-4/3	炭化物少量混入			
BYS	2	SK 1172		Vc	O1	不整形	II	3.5	1.49	0.25	凹凸あり	10YR3/2-4/3	炭化物少量混入			
BYS	2	SK 1173		Vc	I16	不整形	V	2.96	1.56	0.15	凹凸あり	10YR3/2	炭化物混入			
BYS	2	SK 1174		Vc	I11-16	不整形凹形	V	1.62	0.97	0.15	凹凸あり	10YR4/2-4/2	炭化物少量混入			
BYS	2	SK 1175		Vc	J0-16	不整形	III	7.4	2.49	0.28	凹凸あり	10YR4/2	炭化物混入			
BYS	2	SK 1176		Vc	J0-7	不整形	III	4.45	7.64	0.29	凹凸あり	10YR4/2	炭化物混入			
BYS	2	SK 1179		Vc	O5 K11	楕円形	II	3.4	3.1	5.6	凹凸あり	10YR3/3-5/2	黄土、炭化物混入			
BYS	2	SK 1180		Vc	J0-24	不整形	II	2.3	1.92	0.31	凹凸あり	10YR3/4	—			
BYS	2	SK 1181		Vc	N14-15	不整形	III	3.2	0.3	0.15	凹凸あり	10YR4/3-3/3	炭化物少量混入			
BYS	2	SK 1182		Vc	O7	不整形	III	0.97	1.43	0.08	凹凸あり	10YR3/2	炭化物少量混入			
BYS	2	SK 1183		Vc	O7	不整形	III	1.97	1.55	0.15	お手先にご凹凸あり	10YR3/2-3/3	炭化物少量混入			
BYS	2	SK 1184		Vc	O22	不整形凹形	III	1.06	0.55	0.06	凹凸あり	10YR3/2-3/3	炭化物少量混入			
BYS	2	SK 1188		Vc	J0	不整形	II	2.59	1.4	0.29	凹凸あり	10YR3/2-4/3	黄土、炭化物混入			
BYS	2	SK 1189		Vc	O4-J24	不整形	II	1.26	0.82	0.2	凹凸あり	10YR4/2	黄土、炭化物混入			
BYS	2	SK 1191		Vc	J0	不整形	III	3.83	2.68	0.21	凹凸あり	10YR4/1-4/2	—			
BYS	2	SK 1192		Vc	J0	不整形	III	2.72	2.6	0.19	凹凸あり	10YR4/2	—			
BYS	2	SK 1193		Vc	J19	不整形	II	2.97	2.8	0.37	凹凸あり	10YR3/3	炭化物少量混入			
BYS	2	SK 1194		Vc	J5-10	不整形	III	2.97	2.8	0.37	凹凸あり	10YR3/3	炭化物少量混入			
BYS	2	SK 1196		Vc	O14	不整形	III	1.42	1.36	0.28	凹凸あり	10YR4/2	炭化物少量混入			
BYS	2	SK 1197		Vc	O13	不整形	III	0.52	0.5	0.24	凹凸あり	10YR4/2	炭化物少量混入			
BYS	2	SK 1198		Vc	O13	不整形凹形	III	0.67	0.44	0.23	凹凸あり	10YR4/2	炭化物少量混入			
BYS	2	SK 1201		Vc	E25	不整形	II	1.01	0.49	—	凹凸あり	10YR4/2	炭化物少量混入			
BYS	2	SK 1203		Vc	V17-22	不整形凹形	III	3.56	2.42	2.8	凹凸あり	10YR3/2	黄土、炭化物混入			
BYS	2	SK 1204	SP201	Vc	I13	不整形凹形	II	0.63	0.4	0.1	凹凸あり	10YR5/1-3/3	黄土、炭化物混入			
BYS	2	SK 1208	SD2473	Vc	K1	不整形	II	0.63	0.4	0.1	凹凸あり	10YR5/1-3/3	黄土、炭化物混入			

表5-(3) 更埴系黒川遺跡・鹿代遺跡群 弥生時代SF・SK一覽

遺構 記号	区域 記号	遺構 番号	遺構名 ・番号	女性 地区	中地区	平面形 類型	形状 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	特徴	色調	土色 記号	埋藏 状況	遺物 類別	備考
BYS	3	SK	3054	V	E8-13	不整形	2.14	0.8	0.11	女性台か立橋本		10YR6/3~5/6 10YR6/1~5/3	焼土器遺物入 灰化物混入		
BYS	3	SK	3056	V	E19	不整形	2.27	0.9	0.25			10YR6/2	灰化物混入		
BYS	3	SK	3207	V	E19	不整形	0.42	0.31	0.15			10YR6/2	灰化物混入		
BYS	3	SK	3208	V	E19	不整形	0.48	0.4	0.1			10YR6/2	灰化物混入		
BYS	3	SK	3209	V	E19	不整形	0.64	0.4	0.08			10YR6/2	灰化物混入		
BYS	3	SK	3210	V	E19	不整形	0.77	0.58	0.17			10YR6/2	灰化物混入		
BYS	3	SK	3211	V	E14	不整形	0.38	0.25	0.15			10YR6/2	灰化物混入		
BYS	3	SK	3212	V	E14	不整形	0.92	0.72	0.56	明確な覆り込みあり		10YR6/2~4/3	焼物遺物入、灰化物 混入		
BYS	3	SK	3214	V	E14	不整形	0.52	0.4	0.22			10YR6/2	灰化物混入		
BYS	3	SK	3228	V	E13	不整形	0.42	0.4	0.09			10YR6/2	灰化物混入		
BYS	3	SK	3321	VI	A16	不整形	3.18	2.85	3.84			10YR6/2	灰化物混入		
BYS	3	SK	3322	IV	P2-25	不整形	4.94	3.14	0.32	凹凸あり		10YR6/2~4/3	灰化物混入		
BYS	3	SK	3323	IV	V1-2	隅凹長方形	3.88	3.4	0.44			10YR6/2~4/3	焼土、灰化物混入		
BYS	3	SK	3324	IV	P23	不整形	2.37	1.8	0.57			10YR6/2~5/3	焼土、灰化物混入		
BYS	3	SK	3325	III	V10	不整形	0.14	1	0.27			10YR6/3	灰化物混入		
BYS	3	SK	3326	III	P19	不整形	0.24	0.97	0.18	凹凸あり		10YR6/2	灰化物混入		
BYS	3	SK	3328	III	M15	不整形	1.27	0.94	—			—	—		
BYS	3	SK	3329	SF3001	IV	U20	3.1	0.26	0.35	凹凸あり		10YR6/2~3/3	焼土、灰化物混入		
BYS	3	SK	3330	SF3002	IV	U21	1.74	1.02	0.84			10YR6/3	焼土、灰化物混入		
BYS	3	SK	3331	SF3003	V	E4	1.27	0.95	0.7			—	灰化物混入		
BYS	3	SK	3332	SF3004	V	E8	—	—	—			—	—		
BYS	3	SK	3333	SF3005	VI	U22	2.24	0.7	3.5			10YR3/4	灰化物混入		
BYS	3	SK	3334	SF3006	IV	U20	2.95	0.0	0.13			10YR3/4	灰化物混入		
BYS	3	SK	3335	SF3013	VI	A11	4.4	1.2	0.24			10YR7/3	焼土、灰化物混入		
BYS	3	SK	3336	SF3014	VI	A16-21	2.38	1	0.07			10YR7/3	焼土、灰化物混入		
BYS	3	SK	3337	SF3015	VI	A18	1.97	1.27	0.59			10YR6/2~4/3	焼土、灰化物 混入		
BYS	3	SK	3338	SF3016	VI	A18	1.7	0.67	0.67			10YR7/3	焼土、灰化物混入		
BYS	3	SK	3339	SF3017	VI	A17	0.75	0.58	0.63			10YR7/6	焼土、灰化物混入		

表 3-(4) 更埴系黒瀬遺跡・星代遺跡群 弥生時代SF・SK一覽

※ BKSは北尾米遺跡群、BYSは星代遺跡群

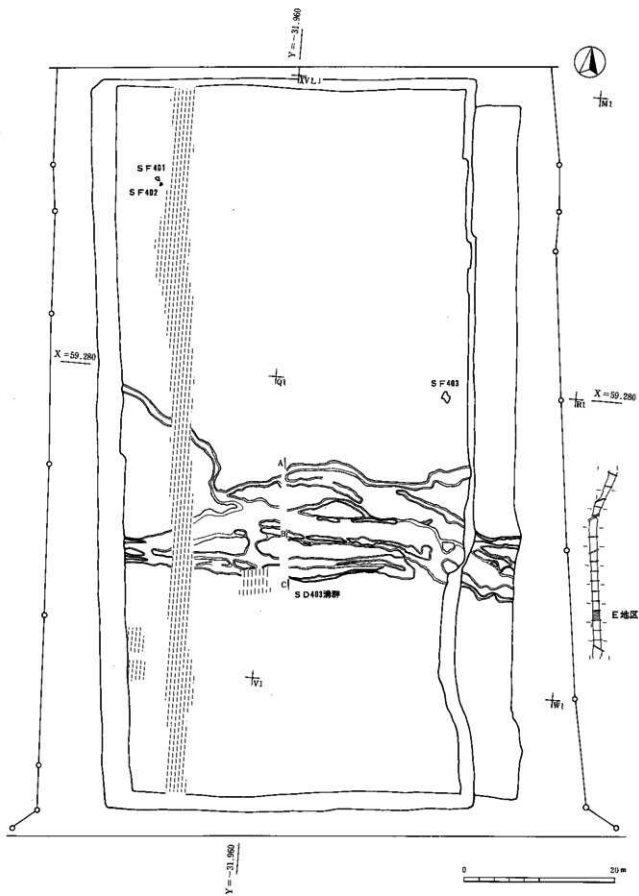


図8 弥生時代遺構分布図 1 (更埴桑田遺跡E地区)

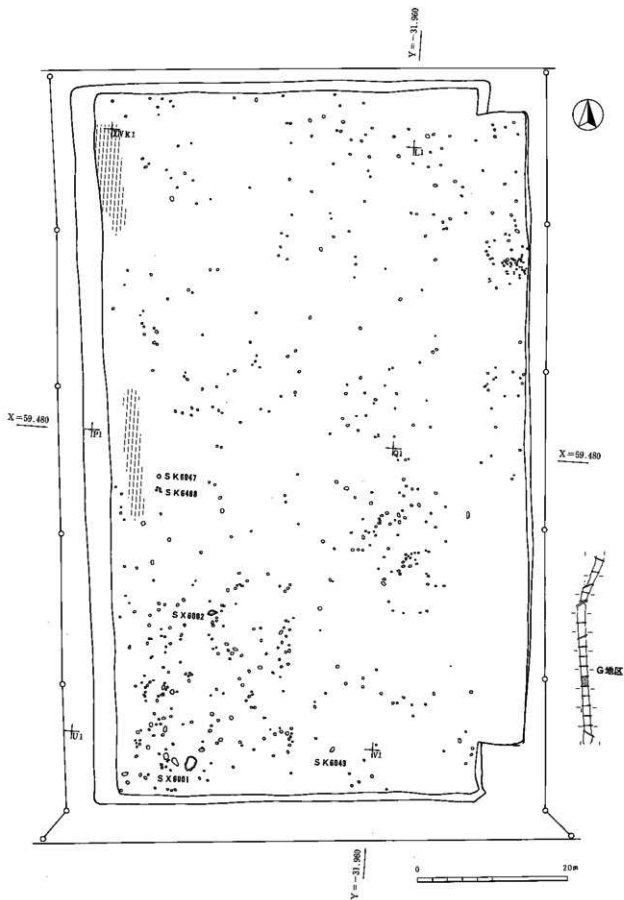


図9 弥生時代遺構分布図 2 (更埴先里遺跡G地区)

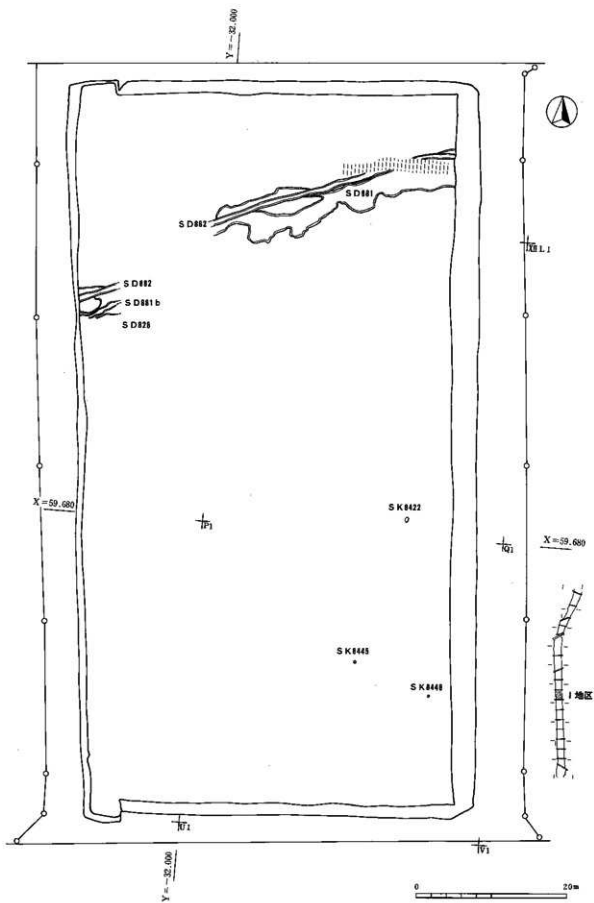


図10 弥生時代遺構分布図 3 (肥地来里遺跡I地区)

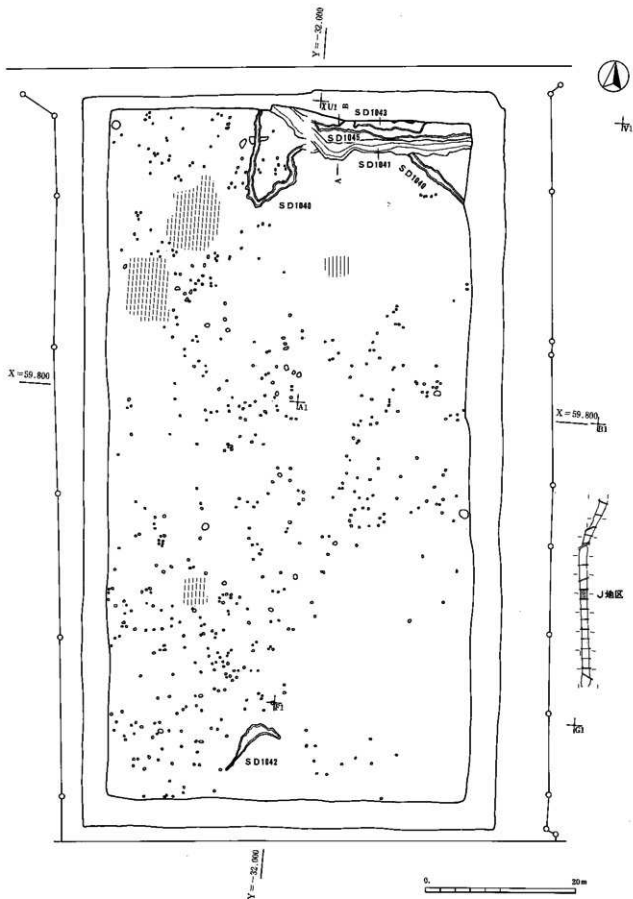


図11 弥生時代遺構分布図 4 (更埴朱里遺跡J地区)

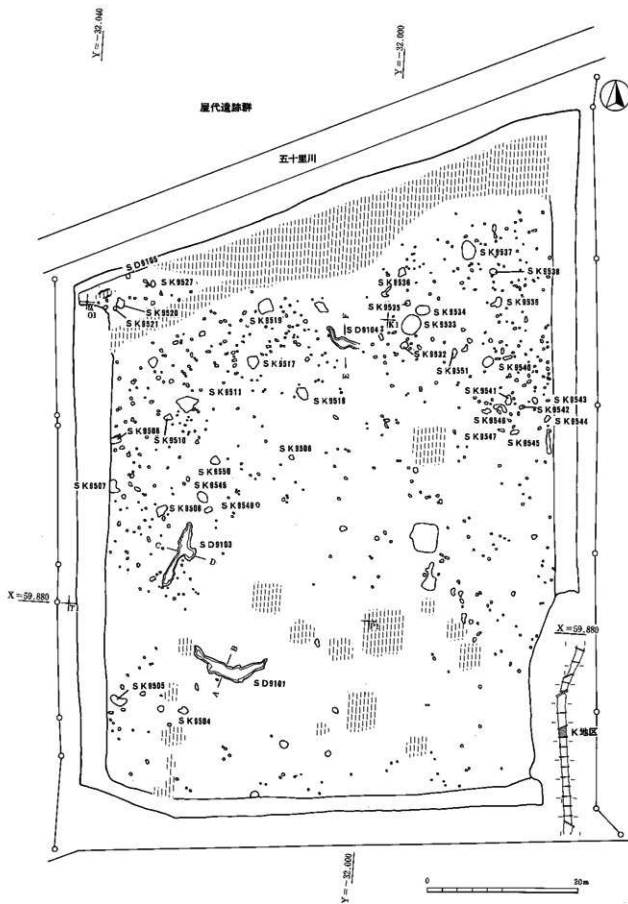


図12 弥生時代遺構分布図 5 (更地桑里遺跡K地区)

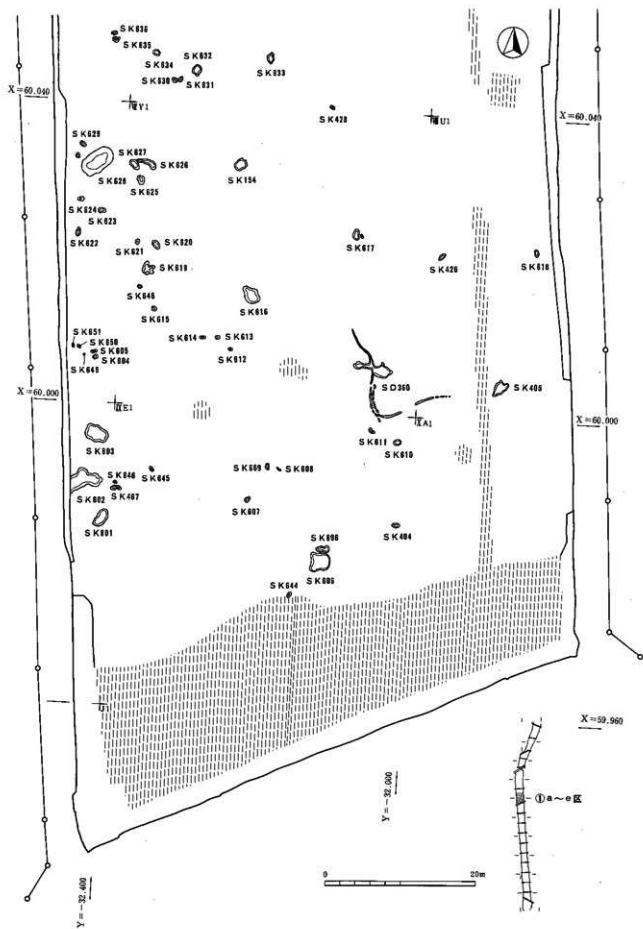


図13 弥生時代遺構分布図 6 (屈代遺跡群①区)

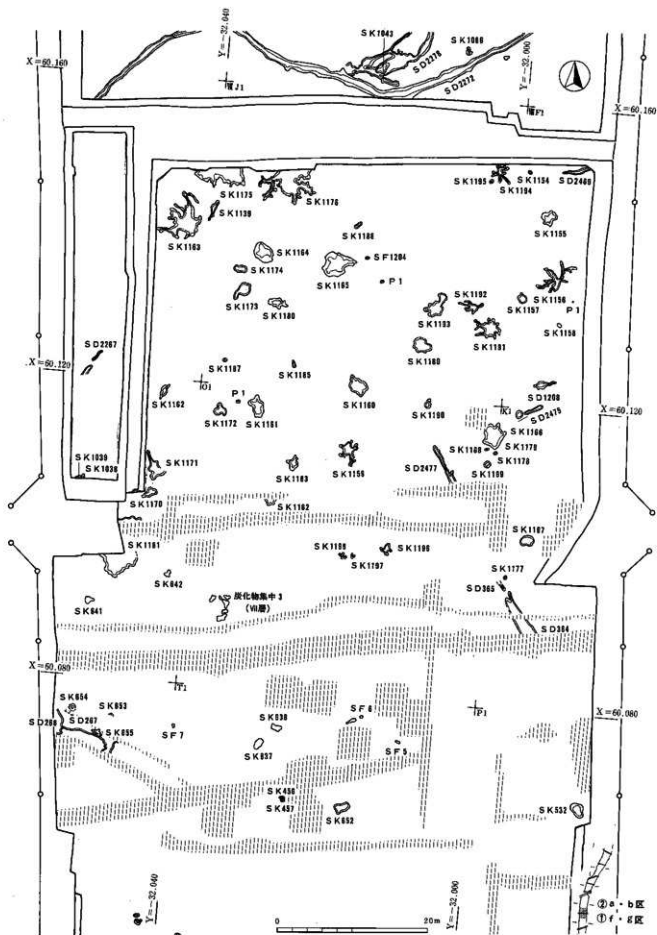


図14 弥生時代遺構分布図 7 (層代遺構○・◎区)

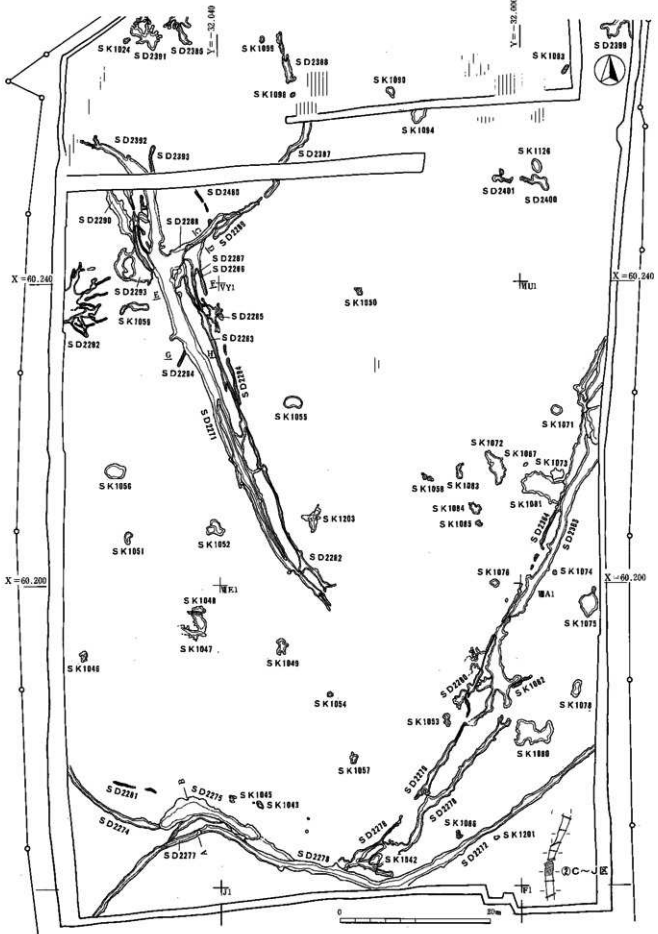


図15 弥生時代遺構分布図 ■ (原代遺跡群分布区)

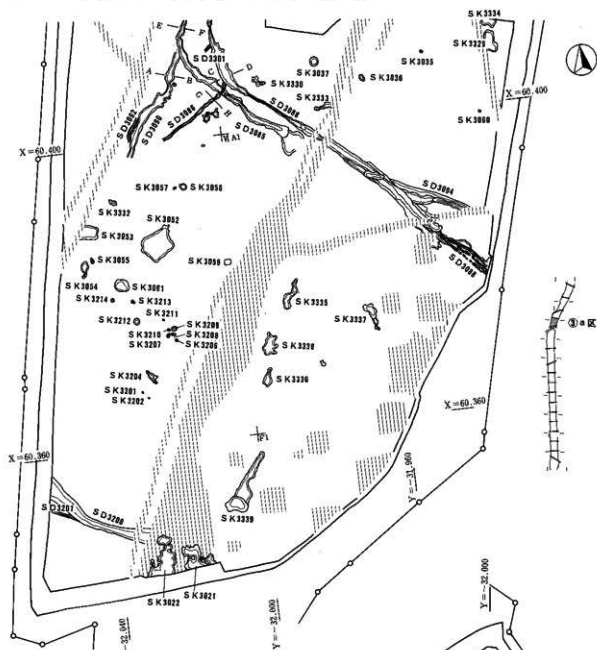


図17 弥生時代遺構平面図 10 (層代遺跡③a区)

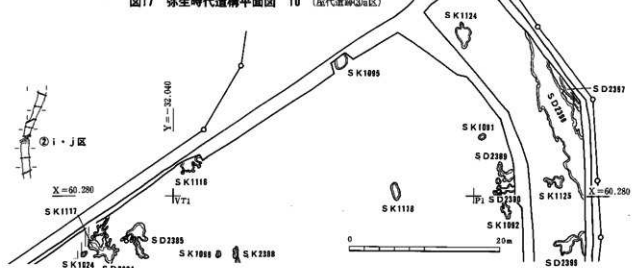


図16 弥生時代遺構分布図 9 (層代遺跡②i・j区)

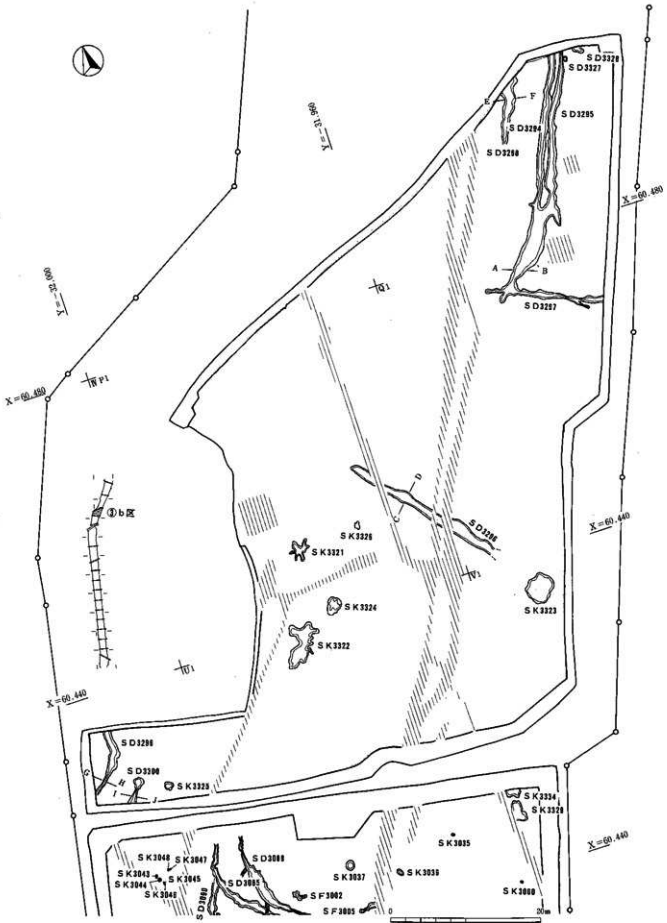


図18 弥生時代遺構分布図 11 (層代遺跡群③区)

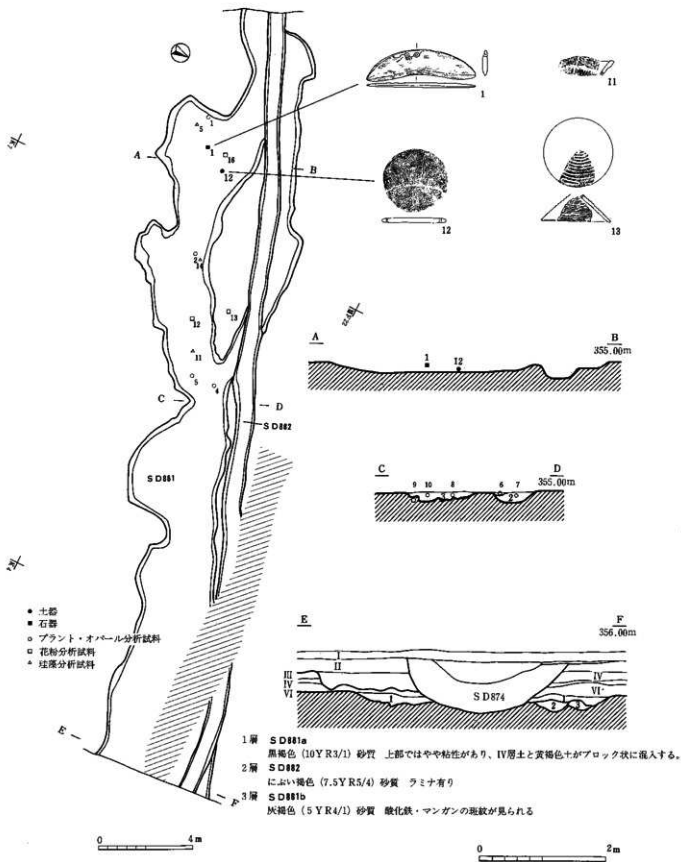


図19 弥生時代個別図 1 (更地発見遺跡SD)

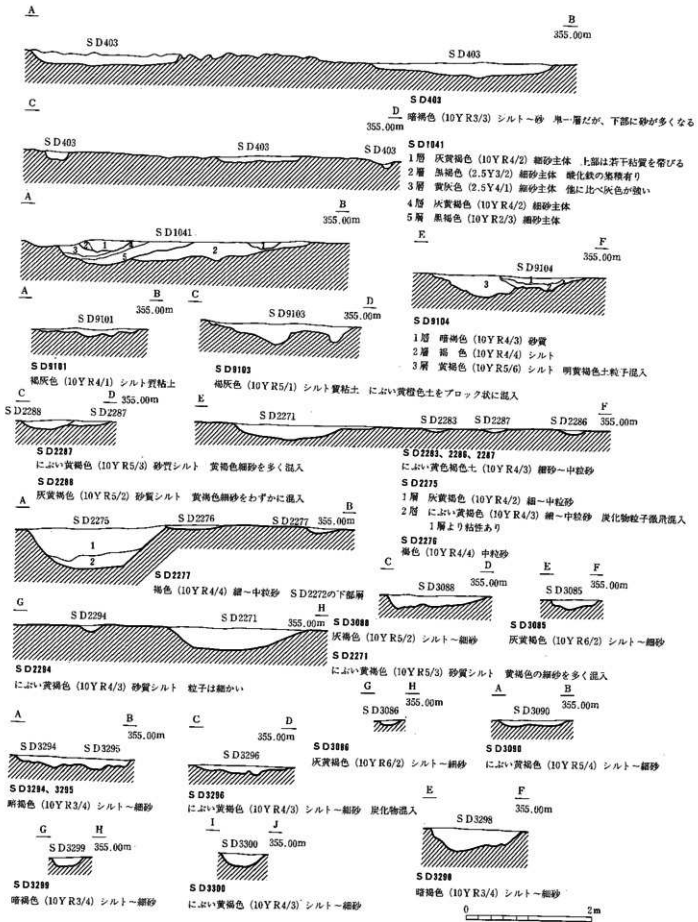


図20 弥生時代個別図 5 (更埴系遺跡、歴代遺跡群SD)

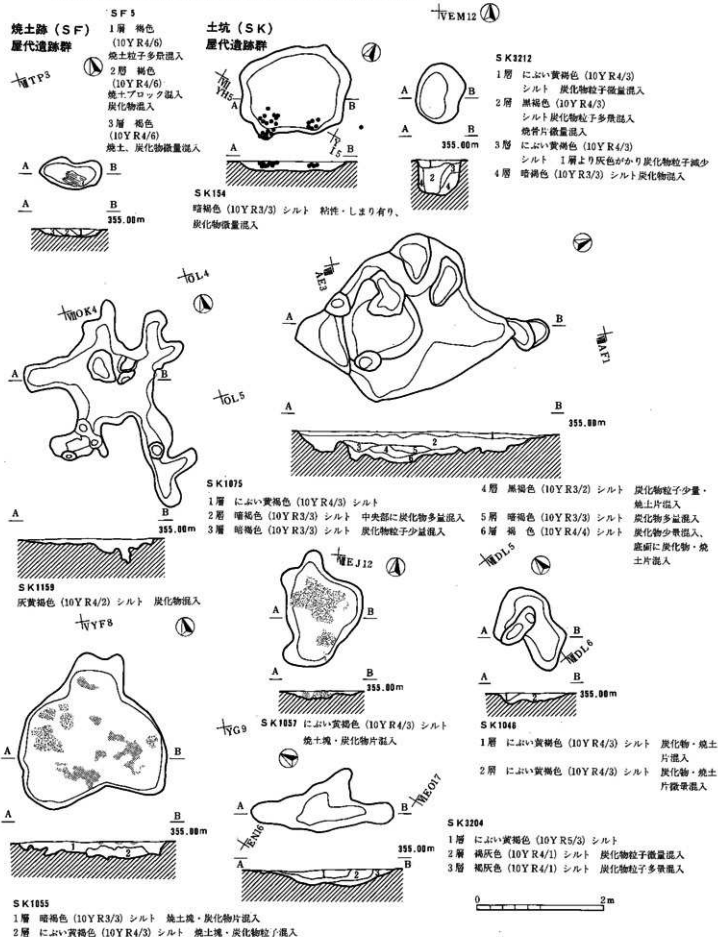
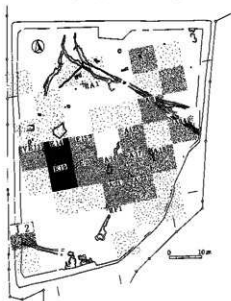


図21 弥生時代個別図 3 (屋代遺跡群SF-SK)

遺物集中地点 (S Q) 厩代遺跡群③a区



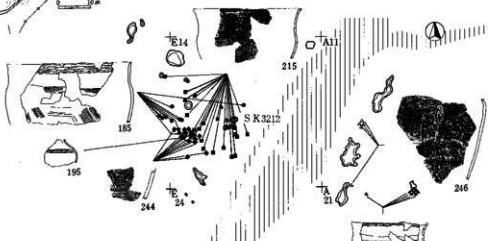
凡例 1~10
11~30
31~70
71~150
151~

遺物出土点数

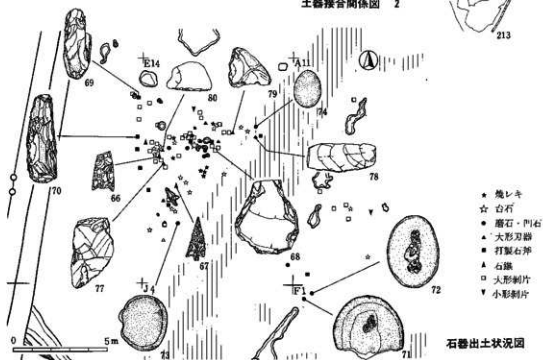
遺物分布図



土器接合関係図 1



土器接合関係図 2



● 焼レキ
☆ 白石
● 磨石・門石
▲ 大形刃跡
■ 打製石片
▲ 石鏃
□ 大形削片
▼ 小形削片

石器出土状況図

図22 厩代遺跡群③a区 遺物出土状況図

< III群2類 >

自然流路に沿って見つかる例が多く“深み”の残存と考えられる。遺物を混入している例が比較的多い。SK1077では完形の蓋が出土している。自然流路の“深み”から土器や石包丁が出土する例には更埴SD881bがあり、ほぼ完形の石包丁を出土する例には、屋代SD268、1080、2397などがある。

(4) 遺物集中地点(SQ) 屋代遺跡群③a区 (図22)

概要：屋代遺跡群③a区において、弥生1期のうち水I式の末期にはほぼ限定される土器、石器、剥片などがまとまって出土した。図22-Aのうち、VIA8・A14グリッドの出土遺物はSD3088に伴うもので除外できる。とすると、この時期の分布はVE13～VIA18グリッドにかけて、南北約20m、東西約50mの範囲に限定される。遺物数は約800点ほどである。**出土層位：**VI層下面～中位である。**土器分布：**最も多く出土したのは、VE19グリッドであり、この地点は焼骨を出土したSK3212の南西5m以内である。土器の大半は煮沸具の甕で占められており、特殊な遺物の集中や特別な廃棄行為は見られず、日常的な生活空間であったと考えられる。また、接合関係の距離は近く、後世の影響が少ないことを示している（第5章第1節）。このことから、廃棄地点を押さえることによって、生活空間を類推することが可能であろう。**石器など分布：**石器は、量が少ないものの日常必要となるべき器種がそろっている。台石？、磨石、各種の大形刃器、打製石斧、石鏃が、SK3212を中心に、やや南西側に多く集中して出土している。これに対し、打製石斧の石材と共通する大型剥片は、SK3212から北西側に集中する傾向を示している。土器・石器といった日常の道具類とは若干離れて、石器製作が行われていたことが推定できる。**焼燻・炭化物の分布：**SK3212に隣接して焼礫が出土している。また、この周囲には、炭化物が比較的多く分布している。SK3212から出土した焼骨が獣骨とすれば、この近辺で獣肉が調理されていた可能性が高い。また、この遺物集中地点にイネが持ち込まれていた可能性を考え、プラント・オパール分析などを実施した。イネ属の割合が高かったが、組織片は比較的少なく、イネの持ち込みであるのか、あるいは上層水田の影響であるのか、検討会においても明確な結論には至っていない。**遺構との関連：**竈穴住居などの明確な遺構は存在していない。ただし、上記の遺物の内容やその分布傾向から、SK3212を中心とした範囲に簡単な小屋掛けが存在していた可能性は高い。

第3節 遺物

1 土器・土製品 (図23～31、PL3～8)

(1) 遺構出土土器

更埴糸里遺跡SD881b・882 (図23 11～13)

壺1点と蓋2点がある。11はおそらく細頸壺で、折り返した口縁部に縄文を施す。器面が風化しているがRLかと思われる。12は全く湾曲のない板状の蓋で、表面・裏面ともナデ整形されるが、土製品に見られる整形である。円盤状の表面は5条の櫛状工具を用いて扇形に6分割され、縁辺には半円が描かれる。この半円にかかる位置に2個1対で焼成前穿孔の小孔2組が点对称になる位置に穿たれる。以後の蓋に伝統的な構図である。13は断面山形の蓋で、内面はナデ、外面はタテナデの後、変形工字文を細いヘラ状工具で描き、赤色塗彩される。破片がやや小さくモチーフが読み取れないが、一部には点刻が使用される。縄文は併用されない。3点とも弥生2期^(註1)あたりに置けそうである。

歴代遺跡群SK154 (図25 76)

76はおそらく同一個体で口縁部が外反する広口の壺。肩部～体部の器形は不明である。かすれたような浅い沈線で施文されるが、先端が崩れたヘラのような工具である。口縁部に2条の横走文、肩部は多段の文様帯構成となり、多条の横走文帯の間に縦方向の短線帯が配置される。体部下半は欠損して、条痕の有無は不明である。北信にはあまり多くない庄ノ畑式に特徴的な文様で、弥生2期と判断される。

歴代遺跡群SD2288-S D2387-S K1098 (図24 53-55、図25 84)

53は屈曲する口縁部内外面に文様帯をもつ広口壺か鉢で、屈曲部内面側は鋭い稜をなす。外面は2条の弧線文がヘラ状工具で描かれ、屈曲部には中央が窪んだボタン状の貼付がなされる。内面文は変形工字文の系統と思われる鍵状のモチーフが4条ヘラで描かれ、構図の中に縄文が取り込まれている。口唇部は縄文。沈線紋系土器(いわゆる大地式)で、永井宏幸の年代観に当てはめれば、第3段階(弥生2期後半)以降と見られる。54はヘラ状工具の沈線をもつ壺、55は木葉痕の底部。84は単純口縁の壺で図が不鮮明だが下端に沈線もしくは段があり、口縁部にLRの縄文帯が形成される。84と53はほぼ同様の年代観を与えられそう、縄文の在り方から見て、弥生2期よりも弥生3期におきたい。

歴代遺跡群SD2282～SD2286 (図24 45-49・51・52)

46は壺の体部下半で、外面はハケの後ミガキ。条痕ではないので、栗林式に下る可能性がある。52は細頸の壺かと思われるが器形は不明。文様帯構成も読み切れないが、頸部～体部上半にかけて2単位1組の横描横走文と縄文を多段に配列する。器表が荒れて糊・縄の原体は十分観察できない。器形や文様帯構成から弥生3期に置きそう。47と51はよく似た壺。47は直立気味の口縁部をもつ壺で、口唇部は丸く外端部には斜めの圧痕が付加される。3条1単位の横描き文だが、小破片でモチーフは不明。51は口縁部が大きく外反し、肥厚気味となる端部外面側に大きめの圧痕が付加される。口縁部直下に横描き横走文、その下に5条1組の横描き波状文を施す。波状文と記したが実際は拓影左側の波頂部とその右の波底部では途切れ、右側の波頂部だけがつながっている。縦位羽状条痕の手法では右波頂部がつながることは考えにくいので、横状工具の動き方を考えれば波状文の変形だと思われる。他の土器は小破片で条痕をもつようだが時期不明。全体的に栗林式の範疇に属するかと思うが、古相を示しているようだ。

歴代遺跡群SD2271-S D2392-S D2294 (図23 18-33)

32は浮線文系の壺で、口唇部が外面を向くようにくっきりと面取りされ、以下はヨコケズリ・ヨコナデで整形される。28も浮線文系の可能性がある細かい網代底で、底部直上はタテケズリされるが、ヨコケズリ技法の変形なのかどうか。ともに弥生1期に置く。33はゆるく外反する壺で、拓本下半は横状工具のヨコ条痕、上半はヨコナデで整形している。浮線文系の規制を踏襲している可能性があるものの、条痕は新しそう。19はごく小形の壺で縄文もしくは条痕をもつ。器面が荒れて判別できないが、縄文の可能性が高い。20は細頸壺で、頸部中程に3条のヘラ描き沈線、その上下に縄文もしくは斜条痕を施す。やはり風化して判別できないが、縄文の可能性が高い。この2点は弥生3期の可能性がある。21は壺の肩部で太い沈線と同様の工具の点列が施される。26も太い沈線と縄文を組み合わせた壺でともにやや古そうだが栗林式の範疇に入るだろう。23は小形の鉢で大きく外反する口縁部は強くヨコナデし、頸部には縄文を地文にしたヘラ描き波状文、それ以下には「コ」の字重ね文を施す。27は軽の圧痕が残る壺の底部と思われ、胎土からみて栗林式に入るだろう。そのほかは斐らしく、横条痕を主体とし一部ヘラ条痕を含む。いずれも栗林式の範疇でよさそう。

全体的には時期幅があるものの、SD2282～SD2286よりは新しいのではないかと。

歴代遺跡群SD2272 (図23 34-37)

36は細頸の壺か。肩部上半が大きく張り出し、体部下半は丸いよう。肩部との境界を2条の太い横走

沈線で区画し、体部上半は縄文地に太沈線で3～4条の縦方向の沈線を描く。弥生3期とみたい。34は装飾性の高い壺の肩部で、太い沈線で三角形区画を構成し、その中を押引で埋める。35は口縁部をヨコナデする甕で、口唇部には縄文が付加される。37を含めた3点は粟林式と見られる。36を重視するとSD2363より古く、SD2280などとは同時期だが、34・35を重視すればSD2363と同時期で、SD2280などより新しくなる。

屢代遺跡群 S D 2363 (図23・24 38～42)

体部破片ばかりで時期判断は難しい。38は横位羽状帯条痕の甕、39は縦位羽状帯条痕の壺の肩部、40は横走沈線と縄文の壺の頸～肩部、42は横走へら条痕の甕で、39・42などのへら状痕はやや古そうだが、全体としては粟林式の範疇に取まるかもしれない。SD2280などより明らかに新しい。

屢代遺跡群 S D 2280-S K 1077-S K 1073 (図24・25 43・78・81～83)

81は細頸で小形の壺。肩部の張りは強くなく、全体に丸い器形らしい。肩部には中央に1条の沈線を配した楕円文を位置をずらしつつ2段に施す。肩部と頸部の境界にはかすかな段を設け、楕円文との間にRL縄文を施す。変形工字文の糸譜を引き、モチーフの中に縄文が組み込まれる段階だ。83は体部が丸い甕で、81とよく似た器形ようだ。全体にへら状工具で浅い沈線もしくは条痕を施す。肩部以上は縦方向、肩部直下は右下がり斜め方向、それ以下は縦位羽状である。43は83と同一個体か？。82は断面形が丸い蓋で、端部には2個1対の小突起が4単位付加される。また図下側の端部近くに2個1対の小孔が穿たれる。外面は全面燃糸文で、中心に向けて逆時計回りに巻き込む方向を取る。内面側端部付近はヨコミガキがなされる。全体としては弥生3期の様相をもつと見たい。

屢代遺跡群 S D 3088-S D 3094 (図24・25 57～71)

62は浮線文系で細密条痕をもつ甕か深鉢。工具が整っており永1式の可能性が強い。

63は壺の体部上半で、櫛描き横走文の上に櫛状工具の連続圧痕を施す。67は壺の体部上半で、縄文を地文とし、細めのへら状工具で変形工字文系統の楕円もしくは長方形のモチーフを描く。69は細頸の壺で、肩部にかなり強い張りを残す。右下がりのハケメがところどころに残っており、恐らく全面ハケメ整形しているだろう。口縁部を欠くが、頸部文様帯、肩部文様帯2段、体部上半文様帯2段に分かれ、それぞれの境界は2条のへら描き沈線で画される。頸部文様帯は全体像は不明だが、RL縄文帯が確認できる。肩部文様帯は2段とも同一の構図で三角連繫文系の図柄を2条1組の沈線で描く。割り付けは追込み型で図正面はその終点らしく、構図が乱れている。三角形の上端に円板状の貼付文を付し、中央に1条沈線の円形構図を描くのが原則らしいが、少々乱れがある。文様帯全体にRL縄文が施されるが、場所によっては縦方向に回転させている。施文順は、縄文⇒沈線文⇒貼付文である。体部上半文様帯は上段は2条、下段は3条のへら描波状文で、上段だけ縄文を地文とし貼付文も付加される。体部下半はヨコハケをナデ消している。71は壺の可能性があり、へら状工具を使用して浅い横位羽状条痕を施す。以上の4点は粟林式直前に位置づくのではないかと。

57は口縁外端部に丸い圧痕をもつへら条痕の甕。58～61は櫛条痕をもつ甕の体部で、櫛状工具の圧痕列またはへら状工具のD字状圧痕列をもつ。甕の破片は粟林式に属し、壺との間にやや隔りがある。65は右上がりのナデで整形した体部下半で、底部には布目圧痕がつく。

総体的には粟林式直前～粟林式古相あたりに位置づくかと思う。

(2) 屢代③a区遺物集中地点出土土器 (図28～31 185～260)

概観 時間幅が限定され、大変良好なひとまとまりの資料である。浮線文系が圧倒的多数を占め、条痕文系は2片あるだけである。粘土・シルト質の土中から検出されたためか器表面の遺存状態が悪く、ナデや

ミガキなどの整形技法はあまり観察できない。

浮線文系土器 浮線文系土器には浅鉢・壺・甕・深鉢がある。胎土には大粒の鉱物粒子が目立ち、透明の石英粒も珍しくない。

浅鉢 7片(186~189・193・194・200)で、甕・深鉢に比べ著しく少なく、すべて口縁部を欠失する。186~189・194は、体部に網状文または変形工字文をもつ。186~188は体部上半の破片で、肩部の屈曲と発達した頸部無文帯が確認できる。189・193・194は体部下半の破片である。文様モチーフは、186は楕円らしく、187~189は網状文というよりはむしろ直線的で変形工字文系統、194も同類のようだ。施文手法をみると188などは細隆線手法ではなく、幅の広い隆起面にかなり省略されたモチーフが沈刻されているが、他は細隆線手法で文様を描出している。こうした在り方からみて、水Ⅰ式の末期に位置付けるのが妥当だろう。無文浅鉢は存否が定かでない。

甕・深鉢 深鉢形の器形で、肩部で屈曲しその上下で整形手法や整形方向を変化させて屈曲を強調するものを「甕」とする。またこうした屈曲をもたないものを「深鉢」とする。図示した土器の大半を甕・深鉢が占めるが、小破片では両者を区別することができない。識別ができる大形破片はほとんど甕なので、深鉢は少量に留まるのではなからうか。

185・190・191・203は口縁部に多条の隆線・沈線をもつ甕だが、肩部の装飾を欠き、装飾性は相対的に低い。199~202・204~207・213は口縁部に1~2条の隆線・沈線をもつ甕、196・208~212・214・215・223~225・229・232~237は口縁部無文の甕である。甕は以上の3者に大きく区別する。240・243~246・248・249は口縁部を欠失するが、甕と思われる。

203を除いて2条以上の隆線・沈線帯は隆線手法で施文され、1条の場合は凹線風になる。203は口縁部からやや下がった位置に4条の幅狭沈線を引き、口縁部の2山の突起に向かって「ハ」の字形の沈線が加えられる。213は口縁部直下に1条の凹線を引き、はみ出した粘土を短い間隔で凹部に寄せており、口端部には圧痕のない小突起を付加している。

口外帯は無文甕を除いては斜め上方に小突起を突出させ、その中央に圧痕を加えることが多い。無文甕の口外帯は小突起中央の圧痕が省略されるようで、234は口外帯をもたないかもしれない。さらに203・229の2山の平板な小突起は小さい波状口縁に近く、210・224・225は口唇外端部に丸い圧痕を付すなど、もはや口外帯とは呼べないほどの変形をみせる。肩部の屈曲はかなりあいまいな例が少なくない。185・196・213・232・234・246・248・249などは一応は屈曲し、中にはシャープなものもあるが、191・233・240・245などは屈曲を失い、整形の手法や方向性の差で辛うじて稜を表現している。

外面の整形はケズリ・ナデ技法と細密条痕とがある。ケズリ・ナデ技法は「器面の凹凸をならす程度の軽いケズリ」、「ナデ」、「ミガキに近いナデ、あるいはミガキ」といった手順で行う整形を指す。その方向には規則性があり、底部から順に「下→上」、「右下→左上」と方向を変え、肩部以上では「右→左」となる「定型的なケズリ・ナデ技法」である。247・249などで明瞭に観察できる。一方、213は器壁が薄く、オサエ痕が顕著でケズリが省略されている。246は定型的なケズリ・ナデ技法が読み取れるのに器面の凹凸が著しく、ケズリが本来の目的を果たしていない。224・225・228なども同様で、全体的にケズリの退化傾向が喧われ始める。

細密条痕は甕の肩部以下に施される。工具は氷遺跡では「針葉樹材の木口板に似た工具」とされたが、192はよく整えられてその可能性があり、234や240なども整っている。しかし、191はかすれたような条痕で板状工具とはいえず、215は2条1単位であることが観察できるのでおそらく竹を使用しているなど、工具にはかなりヴァリエーションがある。細密条痕の方向性は、肩部から一方的な縦方向の「タテ型」とケズリ・ナデ技法と同一の「ヨコ・ナナメ型」がある。後者には191・192・196・214・238・239が該当し、

肩部付近の方向に乱れがある185・240・245もこの仲間だろう。前者には215・234が該当する。

内面の整形は口縁部から底部まで、「横方向のケズリ」⇒「横方向のナデ」が原則的のようだ。なお210は内面に接合痕を顕著に残し、整形の手抜きが目立つ。

確実な深鉢はないが、227は口唇部に丸い圧痕が付加されており、この手法が甕よりも深鉢の方に古くから採用されると見られることと、口縁部断面形が直立的なことからその可能性があらう。

壺 195・197・198の3点だけである。195は口縁部は欠損するが、丸い体部の小形壺である。整形はナデ・ミガキによっているが方向や単位は観察できない。肩部に3条の細い沈線を巡らし、1条目と2条目の中間および3条目にかかるようにヘラ状工具の先端の圧痕が付加される。よく似たつくりの無文口縁部が1点あり、同一個体かと思われる。197は無文で口唇部に斜位の条痕原体圧痕を付し、198も無文で口縁部外端を肥厚させる。

甕か深鉢か区分できないがいずれかの底部がかなりある。ケズリやナデは、幅がかなり狭く底部真近に限定されるか、施されない場合もある。底部外面は網代、木葉、ケズリやナデの3者がほぼ同数ある。

甕の口外帯の消失と関連する小波状口縁や口端部の圧痕、口縁部隆線帯から変化した幅狭沈線帯、屈曲を失って整形だけで作出した肩部などは、相対的に新しい要素で、191、203、210、224、225、229、233、240などにそれが目立つ。口外帯を失って口唇部に圧痕が付加される甕は、水遺跡既報資料や石行遺跡には存在せず、中島A遺跡にはある程度存在し、苜谷原遺跡では屈曲を失った肩部と組み合わせる普遍的であった。屋代遺跡の口唇部圧痕付きの甕は小破片で肩部の状況は不明、口唇部圧痕も苜谷原遺跡のように口唇部中央ではなく、口唇外端部に付加されるなど少々異なっている。中島A遺跡の様相に近く、それと同一段階に属すると考える。

条痕文系土器 2片のうち1片を図示した。242は胎土に白色の長石大粒が顕著で、器壁が薄く、オサエ痕が顕著なので搬入品の可能性がある。貝殻状工具を用いて荒々しい縦位羽状条痕が施される甕または甕の体部である。水神平式だと推測する。もう1片も搬入品の可能性があり横位の粗い条痕が施される。

器種構成 口縁部で数えた器種別構成比は、浮線文系浅鉢0：甕33：深鉢1：壺3：不明8：条痕文系0である。なお、浮線文系土器の整形技法は「細密条痕小考」[百瀬1998]に従って記述した。

(3) 遺構外出土土器 (図23～28、31)

(1)・(2)で取り上げなかった不明瞭な遺構から出七した土器も含めて記述する。

浮線文系土器 浅鉢、甕、深鉢、壺があり、土偶と環状土製品も1点ずつある。胎土・整形等は③a区遺物集中地点の土器と同様である。

浅鉢はわずかしかない。89・90・98は頸部無文帯が発達する網状文浅鉢で、細隆線手法で描かれる。88は体部が丸く上げ底となる無文浅鉢、275は口縁部が外屈する浅鉢で例を見ない器形だが、別の時期の産とも思えない。

甕・深鉢のうち、肩部が確認できる4片は確実に甕、残りは小破片だがほとんどが甕だろう。口縁部の隆線・沈線は1を除けば隆線手法のようだ。隆線・沈線をもつ甕には口外帯が確認できないかわり、無文甕129には定型的な口外帯があり、161や297には上方に突出する小突起が付加される。肩部屈曲は痕跡的な場合が多く、79・80では痕跡的又は外屈して沈線1条で強調され、かなり変形している。細密条痕のつく体部小破片は多いが、工具はさほど整っていない。方向性にはタテ型、ヨコ・ナナメ型双方がある。網代圧痕のつく183は浮線文系甕の底部だろう。

134はナデ仕上げのミニチュア壺で体部に稲妻状沈線を描く。91は口縁部が外屈する短頸の壺かと思われ、肩部には2条の沈線、口唇部には小突起が付加される。

土製品 299は環状の土製品で、完形、断面形は楕円である。器表面はミガキがなされる。類例は御社宮司遺跡などにある。300は頸面土偶である。顔面は平板で、T字状の隆帯で肩鼻を一体表現し、鼻孔、目、口は彫り込む。頬から顎にかけて1～2条の沈線で入鬚を表現し、耳は貼付し耳孔または耳梁孔を貫通させる。頭部前面は欠損し、頭頂部～後頭部は帯状に隆起させて、全面に凹形の管で直角に刺突する。

変形工字文系土器 非在地的胎土と在地的胎土がある。9、120、121は同一個体と思われる壺または鉢。胎土に大粒でローリングを受けたチャートを含み、内面はケズリとナデが見られるが器壁が薄い。当地域の胎土・整形ではなく、搬入品か。肩部に1帯の変形工字文、その上下は縄文帯となる。変形工字文は3条の深めの沈線間の隆起部をつまみ寄せて作出し、ナデで仕上げる。縄文はLR ϵ だが当地域ではまず見かけないほど撚りが細かい。底部側面は突出してナデ、底面は木業痕が残る。緒立式かと思われ、弥生1期に属するだろう。この3点以外は在地的胎土だと思われる。

94は壺の肩部らしく、縄文帯の中に2条の細めの沈線が引かれる。155は小形の壺の肩部。丸く大きめの瘤を中心に楕円文もしくは変形工字文を1帯配し、瘤の上方にはスリットを、下方には円形のモチーフの中に沈線を加える。瘤の下半にはLR ϵ 縄文を付加する。構図は幅が狭く、縄文が中に入らない。以上の2点は弥生1期でもよいかと思う。

286は壺の肩部に三角連繫文の変形かと思われる構図を描き、縄文は併用されない。92は壺か鉢で、長方形モチーフが描かれるが詳細は不明。123は細頸壺の肩で、長方形または楕円形のモチーフを多段に配置し、縦短線化したスリットが継承される。146は丸い体部の小形壺又は鉢。体部に縄文(LR ϵ)を施し、その上半は無文帯となる。これらは弥生2～3期に属すると思う。

条痕文系土器 在地的な胎土と非在地的な胎土があり、後者にはさらに2つのグループが存在する。第1のグループは87、104、105、112、113、173、174で、灰白～灰褐色、大粒の長石が目立つ。東海的な胎土の範疇に入るだろう。条痕の工具は一様ではないが、貝殻に似た荒々しいものが含まれ、縦位羽状条痕が多い。水沖平式との関連が考えられる土器が含まれる。第2のグループは106～111、115、122、135、136、140、142で、雲母や長石粒子を含むが色調は在地的土器と変わらない。条痕はくっきりとして深めだが荒々しさには欠け、工具は貝殻ではないだろう。142は茎束状工具である。122は壺の頸部で跳ね上げ文らしく、140は壺で肩部以上には振幅の大きな波状文帯と横走文帯、以下には縦位羽状条痕が施され、横走文帯から1帯の櫛描線が流れ出るように垂下する。このグループには岩滑式との関連が考えられる土器が含まれる。

当地域の標準的な胎土で条痕を持つ土器は大変多い。156は条痕模倣壺で口縁部に1条の太い隆帯を貼付し、その上にユビ圧痕を付加する。口端部には同様の圧痕を、隆帯より下には条痕を加えるのだろう。弥生1期に位置づくのではないか。

137～139、143は沈線とも条痕ともとれる浅い工具で文様を描く。何条かが1単位となっているが構図工具とは呼びにくい。138は壺の肩部で最上部に振幅の大きな波状文もしくは跳ね上げ文、その下に横走文が配され、構図不明の弧線文が上描きされる。139も同様の器形で複雑鋸歯文に似た構図を取る。143は壺の頸部で横走文の上方に縦位羽状文が描かれる。これら4点は弥生2期に帰属するのではないか。

17、149、289、290などは細かく整った条痕をもつ。149は壺の肩部で頸部近くに横走文、肩部には波長の長いゆったりした波状文を描く。17も壺の肩部で横走文の上方に縦位羽状文を描く。289、290は同一個体の甕らしく、体部上半に横走文、その下に6条1単位の構図工具で縦位羽状文を描く。これらは弥生1期に遡ることはなさそうだが、下限は何とも言えない。

へら状工具で1条ずつ条痕を描くのは171で、甕の体部下半に全面ヨコ条痕が施される。72はへら描き沈線の鉢で、口端部は極度に外反する。肩部以下に横走文、その上方に横位羽状文が描かれる。弥生3期ま

で下るのではないか。

295は口縁部が外屈する壺らしく、屈曲部に隆帯を巡らす。隆帯上には櫛状工具の先端刺突、屈曲部以下には櫛描きの籐状文が見られる。位置付けは不明。

遠賀川式に関連しそうな土器 1点、100は壺の肩部で、多条の沈線を彫り深く立体的に描く。施文手法や整形は読み取れない。胎土には当地域で一般的な透明石英粒や茶褐色粒子が含まれる。遠賀川式模倣の可能性はあるが、断定は避ける。

弥生2～3期の地域色の強い土器 当地域の土器は系譜や時間的な位置付け等不明な点が多い。125は広口壺で口縁部が屈曲し、279は細頸壺で口縁部を外側へ折り返し、ともに口唇部には縄文が付加される。屈曲部や折り返し部の直下には強いヨコナデが施される。176は壺の肩部で、下端を櫛描横走文で区切り、その上は縄文、下は条痕となる。175と298は鉢らしく、横走沈線と縄文帯を組み合わせる。127、262は壺の頸部～肩部で、太いへら描沈線文と櫛描横走文が特徴的である。127は太いへらで押し引文を施し、262は櫛描文帯を太いへらで縦に区切る。93は太頸壺の肩部で、4～5条の沈線を横走させ、その下に斜沈線を施す。

粟林式土器 胎土は大粒の鉱物粒子をほとんど含まず、風化するざらつくという共通性がある。

56は頸部に縦区画文様をもつ装飾性に富んだ壺で、95、180、269、273、280、285なども同類。太いへら描き沈線の区画の中に、櫛描き文やD字匠痕を加え、縄文を併用する。肩部に多様な文様を描く壺と思われるのは73、148、150、179、261、263、267、270、271、274、278、282～284などである。モチーフは弧線文を基本にして横走文や「コ」の字重ねモチーフの変形などもある。一方櫛描き文だけで構成される壺もあり、74、181などは簡素な印象を与える。壺の口縁部は16のみで、ゆるい受口状を呈し、外面はヨコナデ、内面はハケメで仕上げる。底部は119、184の2点で、内外とも櫛状工具の軽い条痕が残され、底面はナデている。

126は装飾に富んだ鉢で、D字形の列点を間に挟んだ2条の沈線で弧線モチーフを描く。296も同類だが、体部には「コ」の字重ねモチーフを描く。153は口縁部が屈曲する鉢で、体部にはへらで弧線文の変形した波状文を描く。268は単純に開く鉢で、外反する口端部内面に縄文、底部に布目匠痕が付される。

128、152は頸に4条1単位の籐状文をもつ壺で、体部は変形した羽状条痕か波長の長い波状文、口唇部には縄文が付されるようだ。壺の口縁部は何点もあり、口唇部の縄文と外端部の匠痕を組み合わせた147や291、口唇部の縄文だけの75、外端部に斜短線を加える178、口唇部に櫛条痕を加える287など多様である。体部は櫛状工具を用いた縦羽状条痕か斜条痕が基本だが、体部最大径付近に匠痕列をもち、その上下の一方は条痕で他方はミガキで仕上げる99、124、292、293などが目立つ。154は左上がりのケズリの後、左下がりの櫛条痕を施す壺の体部、276は外面ナデ仕上げの壺である。

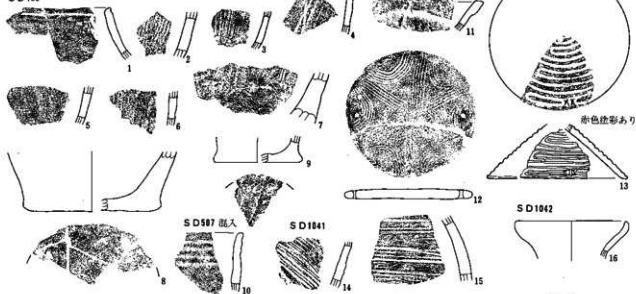
註1 「肥後美里遺跡・原代遺跡群」全編を通しての時期区分に従い、中時期区分は算用数字とした。

参考文献

- 永井宏幸 1994「沈線紋系土器について」『朝日遺跡V』（財）愛知県埋蔵文化財センター
百瀬長秀 1998刊行予定「細密条痕小考」『水遺跡図鑑』水遺跡図鑑刊行会

自然流路・水路 (SD) 更埴糸里遺跡

SD403



厩代遺跡群

SD2287

SD2271

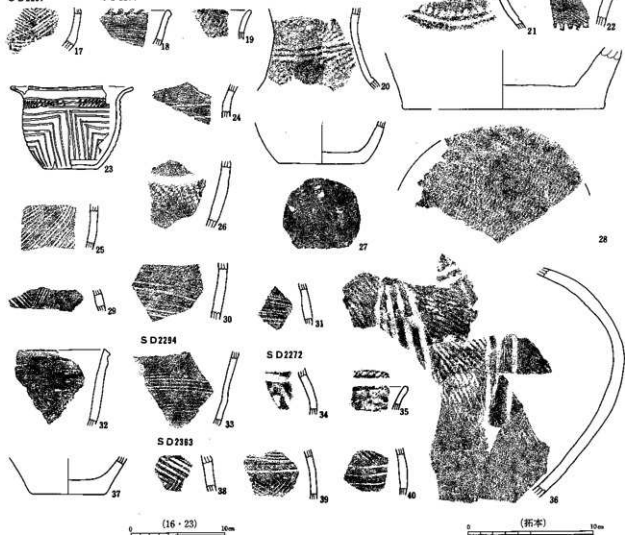


図23 弥生時代の土器 1 (更埴糸里遺跡・厩代遺跡群SD)

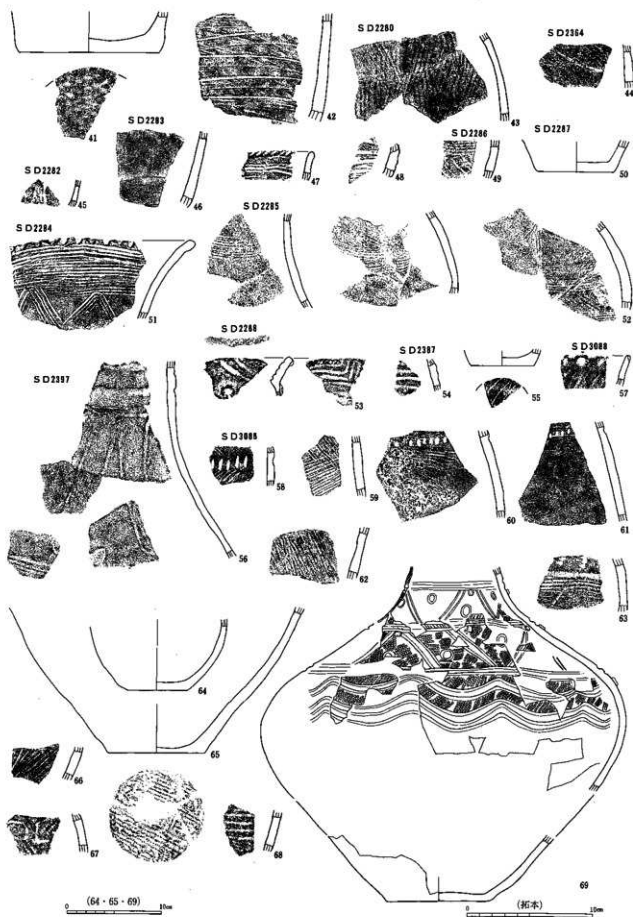


図24 弥生時代の土器 2 (層代遺跡群SD)

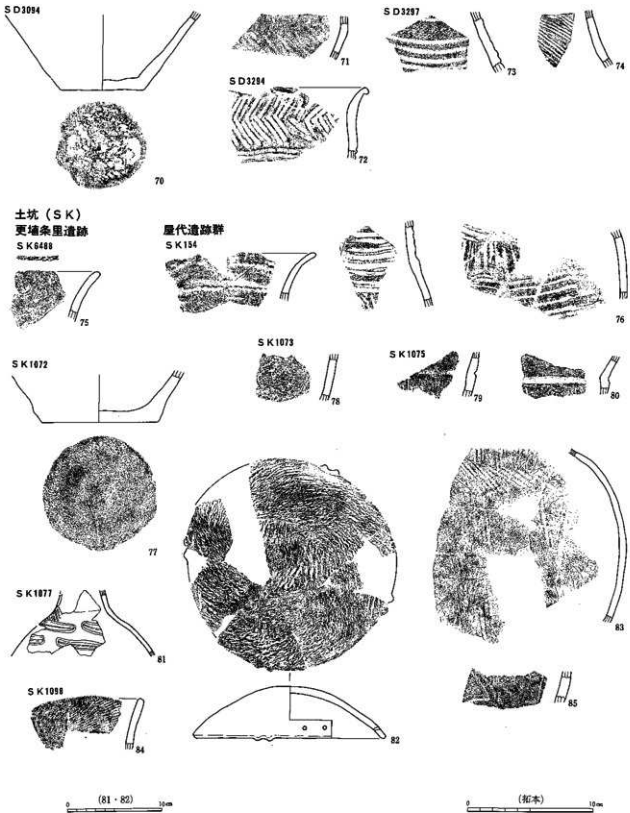


図25 弥生時代の土器 3 (更埴条里遺跡SK・屋代遺跡群SD・SK)

包含層ほか 更埴糸屋遺跡

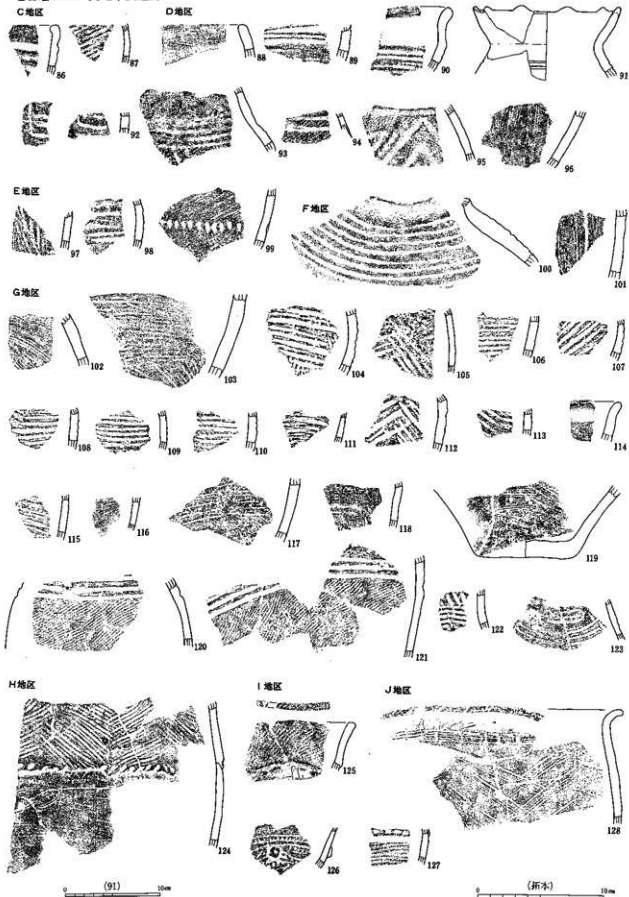


図26 弥生時代の土器 4 (更埴糸屋遺跡包含層)

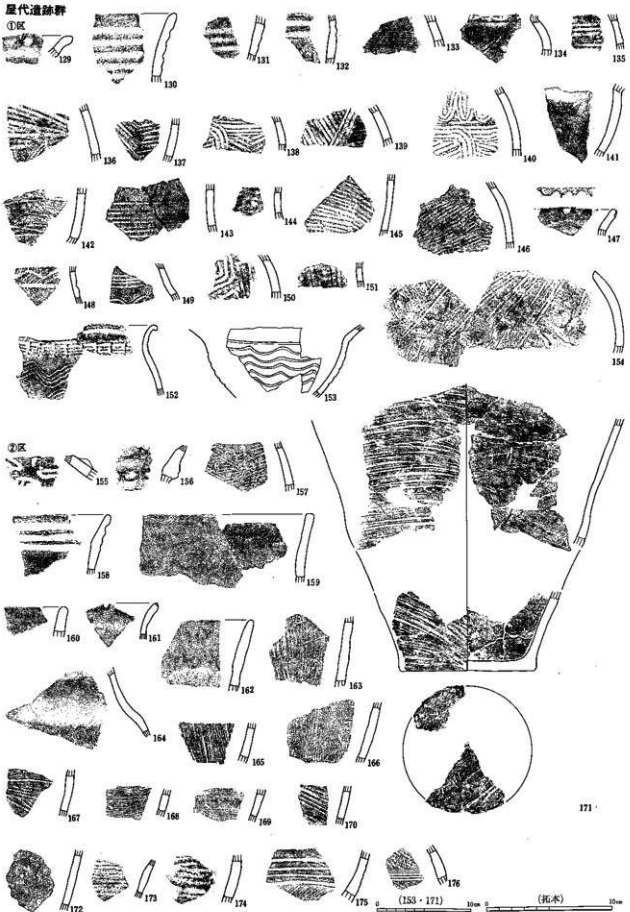
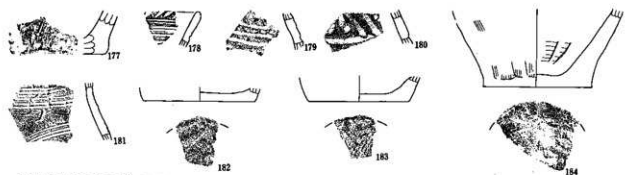


図27 弥生時代の土器 5 (屈代遺跡群包含層)



遺物集中地点 (SQ) ③a区

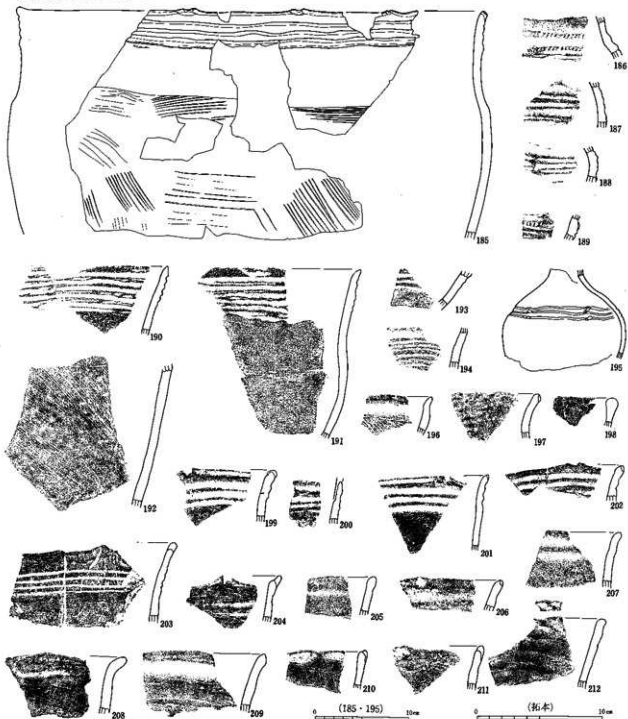


図28 弥生時代の土器 6 (屈代遺跡群③a区遺物集中地点(12分))

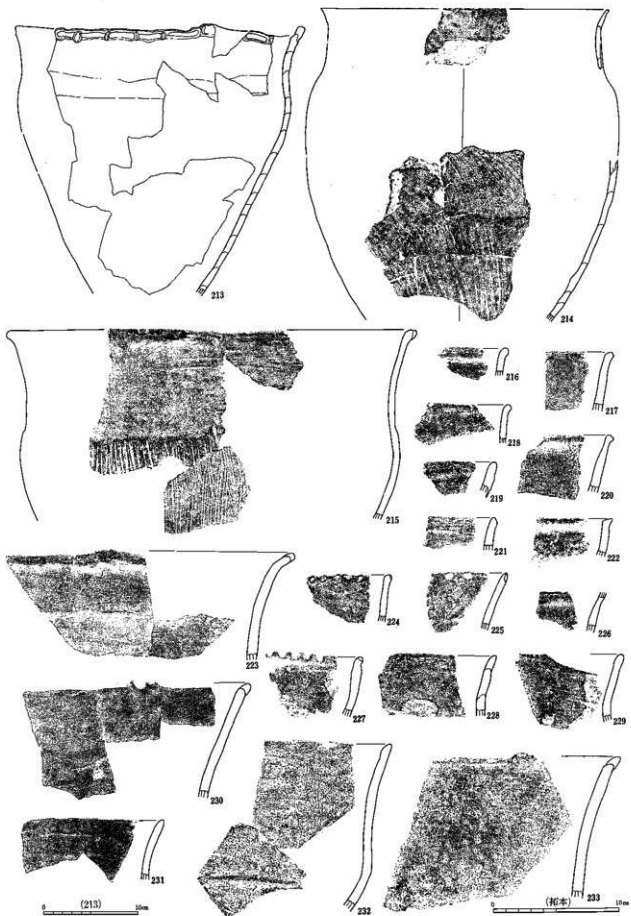


図29 弥生時代の土器 7 (屈代遺跡群③a区遺物集申地点)

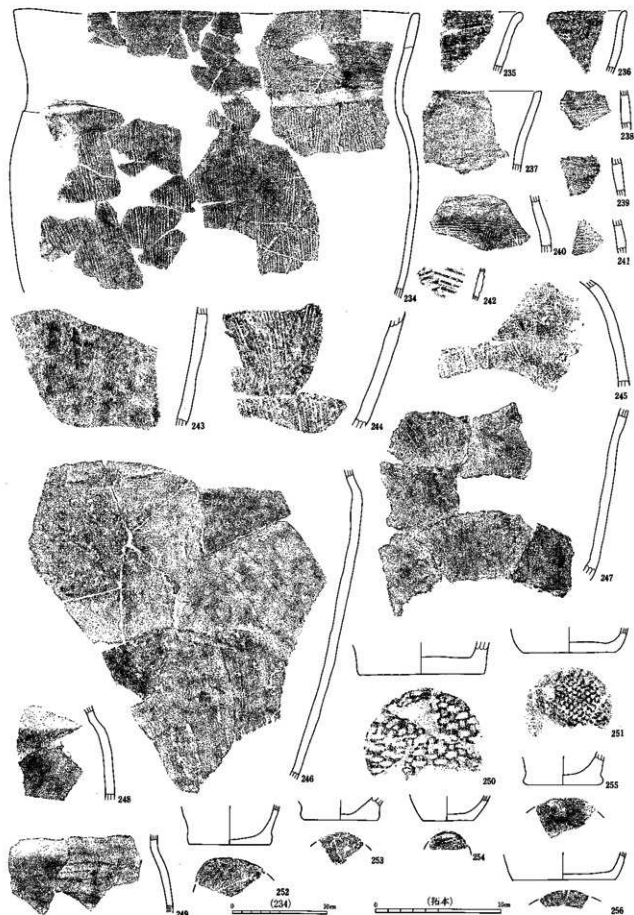


図30 弥生時代の土器 B (国代遺跡群Ⅱa区遺物集中地点)

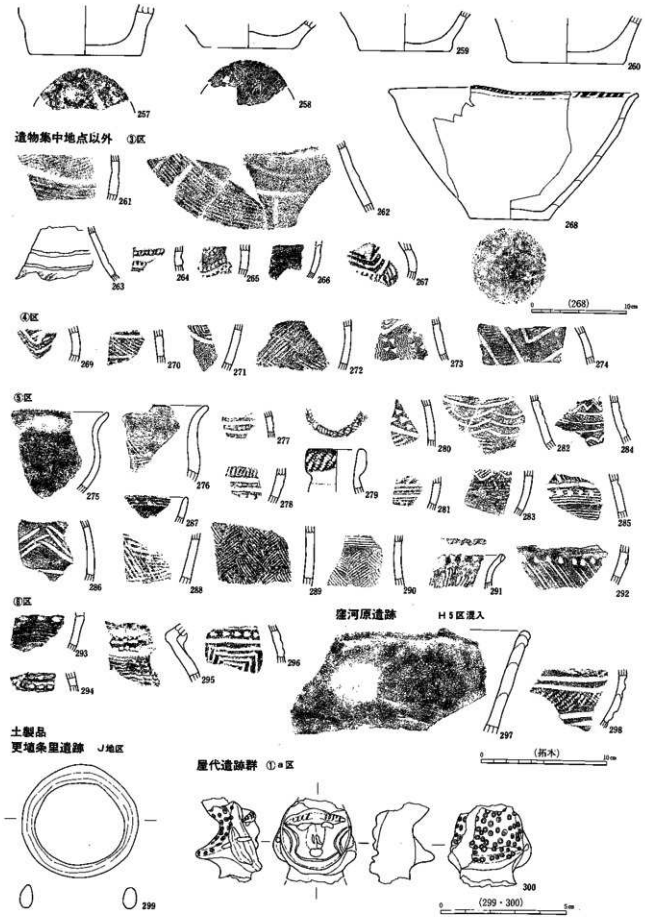


図31 弥生時代の土器 9 (年代遺物集中地点ほか)、土製品 (更埴条里遺跡・屋代遺跡群・壑河原遺跡)

2 石器・石製品

(1) 概要 (図32～39, P L 9・10)

弥生・古墳時代の遺構・包含層から出土した石器および上層から出土した石器のうち、弥生・古墳時代に属す可能性のあるものを、まず抽出した(表6)。これらを、その出土層位を重視して弥生関連(第2章第3節)、古墳関連(第3章第3節)、古代以降関連に区分して報告する。

弥生時代の遺構及びVI層中～下面にて収集された石器297点を該期遺物として扱う。したがって、石器の形式的な所属時期が弥生相当であっても、出土遺構及び検出面の時代により、区別して扱うことにした。遺物中、121点が石器製作に伴い石屑として弾き出された資料で、道具として認定できる資料は176点である。その内訳については表7に示す。

	母岩		石屑 大形剥片/小形剥片	狩猟具		漁労具		採集具		調理具		
	原石	石核		石鏃	石錐	打製石斧	磨石	凹石	砥石	宍石/石皿		
弥生関連	0	0	109/12	40(打39・磨1)	—	38(24)	22	10	1	0/—		
古墳関連	1	0	24/5	19(打18・磨1)	—	14(7)	61	3	5	5/—		
古代関連	1	4	7/9	18	—	4	29	3	3	0/—		
合計	2	4	140/26	77	—	56(31)	112	16	9	5/—		
<不明>	1	0	2/1	4	—	1	2	0	0	0/—		
<合計>	3	4	142/27	81	—	57(31)	114	16	9	5/—		

	調理具			加工具					紡錘具		装飾具	総数
	石匙	石包丁	大形刃器/小形刃器	磨製石斧	石錐	砥石	軽石	R・F	紡錘車	玉環		
弥生関連	1	20	31/7	4	0	0	2	0	—	—	297	
古墳関連	0	7	15/10	4	0	12	18	0	3	178	384	
古代関連	0	4	5/10	7	1	2	1	1	—	23	132	
合計	1	31	51/27	15	1	14	21	1	3	201	813	
<不明>	0	4	3/2	0	1	0	0	0	0	0	21	
<合計>	1	35	54/29	15	2	14	21	1	3	201	834	

表6 弥生時代以降の石器一覧表

名称 数値	総数	石屑		狩猟具		採集具		調理具			加工具			武器形 磨石鏃 1
		剥片はか 121	打石鏃 39	打製石斧 38(24)	磨石類 33	石匙 1	刃器 大31・小<値>7	磨製石包丁 20	磨製石斧 4	軽石 2				
297														

表7 VI層下面出土石器組成表 ()は欠損により1個体と認定不能な数で内数

掲載方法 以下出土資料について報告するが、記述は5つの項目につき実施した。

①材質、②製作法、③分類(形態的類別・機能的類別)、④法量(大きさ)、⑤遺存状態である。③機能的類別についてはルーベ(Vixen×3.5倍)にて全資料を、金属顕微鏡(OLYMPUS BX60M×200倍まで)にて石鏃・石錐・刃器・打製石斧・磨製石斧を観察した。④では属性グラフ・平均値・石器観察表を作成した。属性表中の()は破片資料の意味である。

(2) 各器種の属性

① 剥片・碎片

剥片剥離作業において加工の施される属性を担った対象を剥片とし、これが剥離される過程において産出された、石器製作に不適な資料を破片とする。具体的には石鏃を第一義的な製作物とする目的的な素材剥片から、刃器として石錐にいたる道具類の生産に要する剥片までを包括し、製作途上での出現段階と素材部位を考慮し、2種4類に区別する。すなわち原石の表皮が片面1/2以上認められる剥片を1種、表皮

が1/2以下の剥片を2種(図37-33)とし、各々が両極剝離痕を有する剥片をA類、石鏃製作などに関与する素材用剥片をB類として抽出した。剥片A類はなく、B類が1点(3.1g)のみ収集された。石鏃など小形の剥片石器製作に関わる石屑では、剥片1種4点(33.8g)・剥片2種1点(9.1g)・砕片6点(7.3g)である。また打製石斧や石包丁など、大形の剥片石器製作に関わる石屑では剥片1種34点(1,847g)・剥片2種27点(1,289g)・砕片38点(154g)がある。

() 内は重量 (g) を示す

区分 十 石種	剥片1種						剥片2種				砕片			
	安山岩	頁岩	粘板岩	燧灰岩	閃綠岩	地質岩	安山岩	頁岩	粘板岩	砂岩	頁岩	粘板岩	燧灰岩	砂岩
1区	1(2.8)	—	—	1(48.7)	—	—	—	—	3(69.2)	—	—	—	—	—
2区	1(7.1)	—	9(707.9)	—	2(183.8)	—	—	1(41.0)	5(290.1)	—	2(2.0)	16(50.9)	1(3.1)	—
3区	4(389.7)	3(45.8)	8(298.4)	—	—	1(87.3)	1(18.0)	1(36.0)	11(443.6)	2(162.0)	—	15(78.1)	—	2(12.7)
D区	—	1(7.0)	—	—	—	—	—	1(23.8)	—	—	—	—	—	—
E区	—	—	1(45.2)	—	—	—	—	—	2(52.1)	—	—	—	—	—
F区	—	—	2(65.3)	—	—	—	—	—	4(218.6)	—	—	1(1.9)	—	—
H区	—	—	—	—	—	—	—	—	1(64.4)	—	—	3(9.6)	—	—
J区	—	1(11.6)	1(7.8)	—	—	—	—	—	—	—	—	1(1.4)	—	—
合計	6(399.6)	4(57.4)	22(131.6)	1(48.7)	2(183.8)	1(87.3)	1(18.0)	3(100.8)	26(1138.0)	2(162.0)	2(2.0)	36(141.9)	1(3.1)	2(12.7)

表8 大形剥片地区別出土数量(石材別)

② 石鏃

刺突・殺傷が想定できる資料。製品38点・失敗品2点・合計40点を収集。火成岩を主体とし黒曜石26点・硬質頁岩7点・チャート4点・安山岩2点・頁岩1点である。形態の視点から全体形が無茎なⅠ類3点(打製のみ)と有茎なⅡ類34点(打製のみ)を大別し、基部及び側辺部の形状に基づき細別する。

〈形状〉

ⅠB類—基部が内湾する例4点。袈りが浅く全長の1/6以下で、脚部の開き角が120度以上をB1類1点(図38-46)とし、袈りが深く開き角が120度以下をB2類2点(図36-3、図38-60)とする。

ⅡA類—平らで直線的な基部を呈する平基例6点(図36-14、図37-30、図38-40・41・56)。

B類—基部が内湾する凹基例26点(図36-4・5・11、図37-25、図38-42~45、57~59、図39-66・67、83-85)。

C類—基部が外湾する凸基例2点(図37-29、図38-55)。

以上のほか、形状不明1点がある。

上記類別を補佐する側辺部の形状には、外湾例10点(図37-25・29、図38-45・46・55・56)と直線的な例27点(図36-3・5・11・14、図37-30、図38-40~44・57~60、図39-66・67・83-85)がある。また側辺部が屈折し張り出し部状となったいわゆる「飛行機鏃」(図38-57)が4点含まれる。

〈大きさ〉

大形—長さ2.5cm以上の例(ⅠB2類1点図36-3、ⅡA類5点図36-14、図37-30、図38-40・41・56、ⅡB類11点図36-4、図38-42・43・59、図39-66・67・83-85、ⅡC類2点図37-29、図38-55)

中形—長さ1.5cm以上2.5cm未満の例(ⅠB1類1点図38-46、ⅡB2類1点図38-60、ⅡB類7点図36-11、図37-25、図38-44・45・57・58)

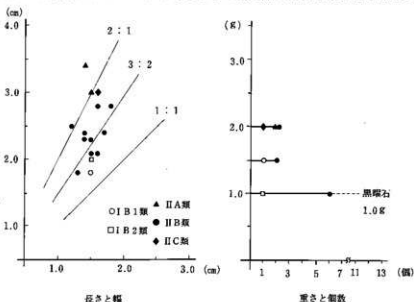


図32 石鏃重量相関グラフ (VI層下面出土)

~20)を使用し、全資料に対して実施した。刃部では8点に摩耗・線状痕が観察できた。また装着痕と考えられる基部の摩耗痕跡は3点に確認できた。法量については表10に形態別の平均値を示した。完形の数値では長さ14cm(幅6cm)以上の特大例(図39-81)と、12cm以上14cm未満(幅4cm)の大形例(図39-70)がある。欠損資料が全体の6割を占める。

④ 磨石・凹石・敲石

する・たたく等の作業を想定できる資料。特徴的で最も頻繁な用法に基づき磨石・凹石・敲石を類別する。総数33点を収集。火成岩を主体とし、安山岩26点・砂岩3点・閃緑岩2点・凝灰岩2点である。明らかな製作痕跡を確認できる資料はなく、河原石を直接使用する例に限られる。形状と大きさから類別を行い、2類・12組分する。

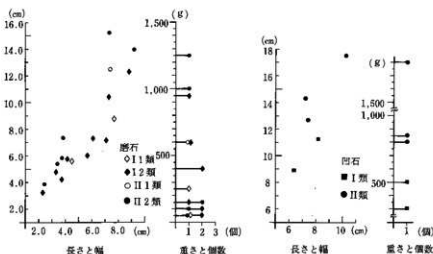


図33 磨石・凹石法量相関グラフ (V1層下面出土)

《形状》

- I類一長幅比で1:1から3:2までに該当する例。平面形状は円形・楕円形を呈する。細別は扁平率を換算し、幅厚比で0.55未満を1類3点(図39-72-73)、0.55以上を2類10点(図36-8-13、図37-34、図38-37)とする。
- II類一長幅比で3:2より長さの比率が高い例。楕円形で棒状を呈する。幅厚比で0.55未満を1類1点、0.55以上を2類9点(図36-10、図37-24、図38-61、図39-74-82)とする。

そのほか、形態不明のもの10点(図36-9-15、図39-71)がある。

《大きさ》

a類一長さ7.0cm以上14点(図36-8-10・13・15、図37-34、図38-37・61、図39-71-73・82)。

形態名	平均値		法量(全体値)				計 数	摩耗面		線状面(凹部)				磨面のみ	凹面のみ	磨面凹面 併存割合	凹面凹面 併存割合	全て 併存	欠損状況					総 数		
	属性 分類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	片 面		両 面	併 存	1	2	11	11						24	44	4	1/2	1/3		2/3	1/4
磨石	I	1 a	8.7	7.7	2.4	328.9	1	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
		1 c	5.6	4.5	1.7	43.7	1	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
		2 a	9.3	7.3	5.6	549.5	4	1	2	1	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	4	4
		2 b	6.0	5.7	3.4	143.6	1	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	II	2 c	4.9	3.7	2.6	62.8	3	1	1	1	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	3	3
		2 d	3.2	2.3	2.1	25.0	1	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
		1 a	12.5	7.4	4.0	574.0	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
		2 a	12.3	2.3	5.3	789.3	3	3	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	3	3
不明	2 c	5.6	3.6	3.5	109.1	2	-	1	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	
	2 d	3.9	2.5	2.0	25.0	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	
	不明	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	3	-	-	-	-	1	4	
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	
凹石	I	1 a	11.3	8.1	4.4	480.0	1	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
		2 a	8.9	6.4	4.4	298.0	1	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	II	2 a	14.8	8.3	7.6	1136.7	3	1	-	-	2	-	-	1	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	3	3
		不明	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	3	2	-	2	1	1	1	-	-	5
不明	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	3	2	-	1	1	1	1	-	-	1	1	

表11 磨石類属性表

b類-長さ6.0cm以上7.0cm未満1点。

c類-長さ4.0cm以上6.0cm未満6点(図37-24、図39-74)。

d類-長さ4.0cm未満2点。

機能的視点からの類別は、する・たたくの大別が可能である。観察は肉眼主体で資料によってはルーペ(×5)を併用し、この時点で使用面の不確かなものは本器種から除外した。

〈摩耗面〉

すべての資料が面全体に広がるもので、局所的な使用例は認められなかった。摩耗面が片割のみに認められる例は12点あり、両面に認められる例は10点ある。

〈敲打面〉

1類-小さな粒状の凹み単位(0.1-0.5cm)が集合し、凹部を形成する例(4点)。

2類-アバタ状を呈する例(2点)。

4類-すり鉢状を呈する例(4点)。

5類-小剝離痕を伴う例(1点)。

7類-礫の割れ口面を使用する例(1点)。

以上、機能部の属性は1個体1対応とは限らず、複数箇所存在する。摩耗面のみ有する磨(礫)石が19点、磨石で敲打部を伴う例が3点、敲打面(凹部)のみ有するか、摩耗面の複合した凹石が8点、凹石で敲打部を伴う例が1点、すべての機能部が複合した例が1点である。これら以外が敲石に相当し、1点ある。

法量は各類別ごとに、平均値を表11に示す。欠損状況では圧倒的に完形資料が多く、磨石で82%、凹石で50%が完形である。

⑤ 刃器

項目中提示した器種以外で、機能部として刃部を有する資料。加工を伴う資料と伴わない資料の2者がある。打製石斧など大型の剥片石器製作と同材を用いる資料を大形剥片素材の刃器とし、石鏃などと同材(黒曜石・チャート)の資料を小形刃器と呼称する。大形刃器は堆積岩を主体とし、頁岩(粘板岩)25点・硬質頁岩24点・砂岩1点・安山岩1点・総数51点である。この内、大形刃器には素材と考えられる剥片1点が含まれる。また小形刃器例(微細な剝離痕跡を有する石屑含む)は8点あり、黒曜石5点・硬質頁岩3点である。硬質頁岩製の石匙1点を含む。

以下、形状・加工状況・大きさの視点から類別する。

〈形状〉

1類-剥片をそのまま使用する例14点。

a類 半月形状(あるいは貝殻状)を呈する例4点(図39-79)。

b類 楕円形あるいは長方形を呈する例9点(図39-77-78)。

c類 石鎌状を呈する例1点(図38-38)。

2類-剥片に加工を施す例の内、素材の形状をそのまま生かす例が14点あり、加工により全体形を変形

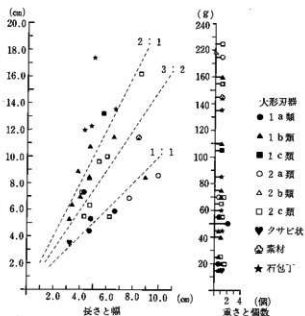


図34 大形刃器・石包丁法量相関グラフ (VI層下面出土)

平均値	法量(全伴数)				計上数	方部										修理数	欠損		総数												
	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	裏さ (cm)		数	方長 (cm)	方短 (cm)	加方 (cm)	方打 (cm)	方角 (cm)	方部内 (cm)	平面部 (cm)	絶頂部 (cm)	絶頂部 (cm)		削り (cm)	削り (cm)		削り (cm)											
1a	6.2	5.1	1.3	41.0	4	4	—	6.0	0.9	—	2	—	13.7	1.3	—	—	1	1	4	—	—	4	—	4							
1b	8.4	4.9	1.2	108.0	8	8	1	5.5	1.5	—	3	1	13.8	13.8	2	6	1	—	2	2	5	1	—	8	1	9					
c	13.2	5.7	1.6	100.5	1	1	—	8.0	—	—	—	—	13.5	13.5	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	1			
w	7.8	8.8	1.8	121.1	2	2	—	7.6	0.6	—	—	—	13.9	13.8	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	2	—	2		
2	8.4	4.7	1.8	66.5	1	2	1	—	5.8	2.5	—	—	13.3	13.3	—	—	—	—	1	1	2	1	—	—	2	1	—	2	3		
c	8.8	5.7	1.5	97.0	7	8	—	7.2	3.6	8	7	—	39.5	13.8	2	6	—	—	1	2	1	—	4	—	7	—	7	1	8		
d	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	1	—	28.0	13.7	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1	1	
3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヤマ石	3.5	3.2	0.7	16.8	1	—	—	3.2	—	—	1	—	36.0	13.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
素材	11.5	8.4	1.3	141.3	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

表12 大形刃器属性表

平均値	法量(全伴数)				計上数	方部										修理数	欠損		総数													
	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	裏さ (cm)		方長 (cm)	方短 (cm)	穴開 (cm)	穴開 (cm)	穴開 (cm)	穴開 (cm)	穴開 (cm)	穴開 (cm)	穴開 (cm)	穴開 (cm)		穴開 (cm)	穴開 (cm)		穴開 (cm)	穴開 (cm)											
1	—	—	—	—	—	—	—	2.2	1.4	0.7	0.7	—	1	—	34.0	13.7	—	—	—	1	—	—	—	—	1	—	—	1	—	1		
鹿角片	12.0	4.6	0.6	49.9	2	11	1	0.8	1.0	0.7	0.7	—	2	—	39.5	13.9	1	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	2	—	2	
石	—	—	—	—	—	—	—	0.7	1.5	0.9	0.8	—	—	10	36.1	14.8	—	—	—	2	4	1	6	1	1	3	6	1	—	9	1	10
外河石	—	—	—	—	—	—	—	0.5	—	—	—	—	—	1	37.0	14.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
内河半	17.4	5.0	0.7	82.4	1	16	9	0.9	1.1	0.8	0.8	—	—	1	35.0	18.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
失敗品	13.6	4.6	1.2	135.0	1	13	0	—	—	—	—	—	—	—	25.0	13.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
不明	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

表13 磨製石包丁属性表

させる例が18点ある。後者については、別に3類・5類として類別する。

- a類 切断を伴い板状を呈する例 2点 (図37-19、図38-64)。
- b類 背部に加工を施す例 3点。
- c類 刃部を剥離加工により作出する例 8点 (図36-7・12、図38-62・63、図39-80)。
- d類 刃部に研磨を施す例 1点 (図37-20、図39-84・86)。

3類—石鏃状を呈する例 1点。

5類—磨製石包丁20点 (図36-1・18、図37-22・26、図38-52—54・65)。

6類—小形刃器 (ニ細難な剥離痕跡を有する石磨) 7点 (図36-17、図38-39、図39-75)、石匙 1点 (図38-51)。

〈大きさ〉

特大形I類—長さ13.0cm以上の例。1c類 1点 (図38-38)・2c類 1点 (図36-12)・2d類 1点 (図37-20)・5類 3点 (図36-1、図37-26、図38-52)。

大形II類—長さ9.0cm以上13.0cm未満の例。1b類 2点 (図39-77、78)・2c類 2点 (図38-62)・5類 2点 (図38-53)・素材 1点。(cm)

中形III類—長さ7.0cm以上9.0cm

未満の例。1a類 1点・1b類 4点・2a類 1点 (図38-64)・2b類 1点・2c類 2点 (図39-80)。

小形IV類—長さ4.0cm以上7.0cm

未満の例。1a類 3点・1b類 2点・2a類 1点 (図37-19)・2c類 3点 (図36-7、図38-63)。

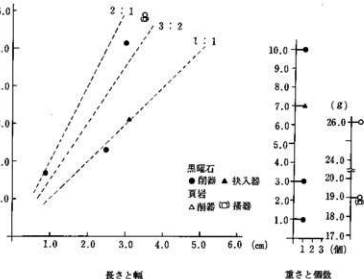


図35 小形刃器法量相関グラフ (VI層下面出土)

以上のほか、楔状を呈する例1点（図39-76）と刃器素材と考えられる資料1点、欠損により分類不能な資料20点がある。小形刃器は長さ4.0cm未満の極小例が4点（57%）と主体を占める。細別は技術形態の視点から行い、剥片の長軸と平行に刃部を有する例が5点、挟り状の刃部を有する例が1点、直行して刃部を有する例を含め複合する例が1点ある。石匙1点は長さ4.9cmの横形例である。

機能的視点では、石器の表面観察を実施した。金属顕微鏡（ $\sim \times 500$ ）を用い、全資料に対して観察を行った。刃部と器体部を区別せずに使用痕跡を観察しており、観察表中に装着痕についての記述はしない。また6類微細な剝離痕を伴う資料（いわゆる使用痕有る石屑を含む）については、顕微鏡で痕跡の有無のみを観察し、結果2点に確認した。

⑥ 磨製石斧

伐採・切断・加工（鑿・削）の作業を想定できる資料。総数4点を収集、両刃石斧4点である。火成岩を主体とし、頁岩1点・ハンレイ岩2点・緑色片岩1点である。形態的な視点から形状・大きさの属性を類別の要点とし細分する。

〈形状〉

両刃石斧（I類）一表裏両面に刃区の作出が認められる例4点（図37-21、図38-49・50）。

〈大きさ〉

大形（a類）一長さ12.0cm以上20.0cm未満の例2点（図37-21、図38-49）。

以上のほか、欠損による形状不明2点がある。

頭部の形態は、尖頭状の2類1点、円頭状の3類1点である。刃部形態は円刃が4点ある。

機能的視点では刃部に摩耗・線状痕を、基部（胴部・頭部）に装着痕を観察した。機器はルーベ（ $\sim \times 20$ ）を使用し全資料に対して実施した。結果刃部3点に痕跡が確認できた。

すべて欠損例で、法量等は各類別ごとに平均値を表14にまとめた。

平均値	法量（全体値）				刃部形態	機能形態			刃部平面別			互換断面形			使用痕跡			添付形態			発生形態			付着物			磨製痕跡			自然痕跡			欠損状況			総数
	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		刃長 (cm)	刃幅 (cm)	刃頭角 (度)	平方 方	四方 方	圓方 方	長さ (cm)	幅 (cm)	刃角 (度)	有無 ○:○	種類 ○:○	種類 ○:○	2	3	2	3	2	3	2	3	2	3	2	3	2	3	2	3			
I a	-	-	-	-	-	3.9	3.7	56	-	2	-	2	1.3	3.8	70	-	2	2	1	1	-	-	-	2	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
不明 I	-	-	-	-	-	4.7	-	-	-	2	-	2	1.3	5.0	74	-	2	2	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	

表14 磨製石斧属性表

⑦ 軽石製品

収集された浮岩（軽石）の内、研磨痕跡や穿孔痕跡など、明らかに使用しないしは加工の痕跡の認められる資料が2点ある。形状と大きさの視点からの類別は磨石類に準じる。

〈形状〉

形状は2点とも長幅比1:1から3:2のI類に該当する。扁平率により細別し、0.55以上0.70未満を2類1点、0.70以上を3類1点とする。

〈大きさ〉

c類一長さが4.0cm以上6.0cm未満の例（I2c類1点・I3c類1点）。

機能的視点では、外面に磨面の認められる例2点がある。

自然流路・水路 (SD)
更地糸置遺跡

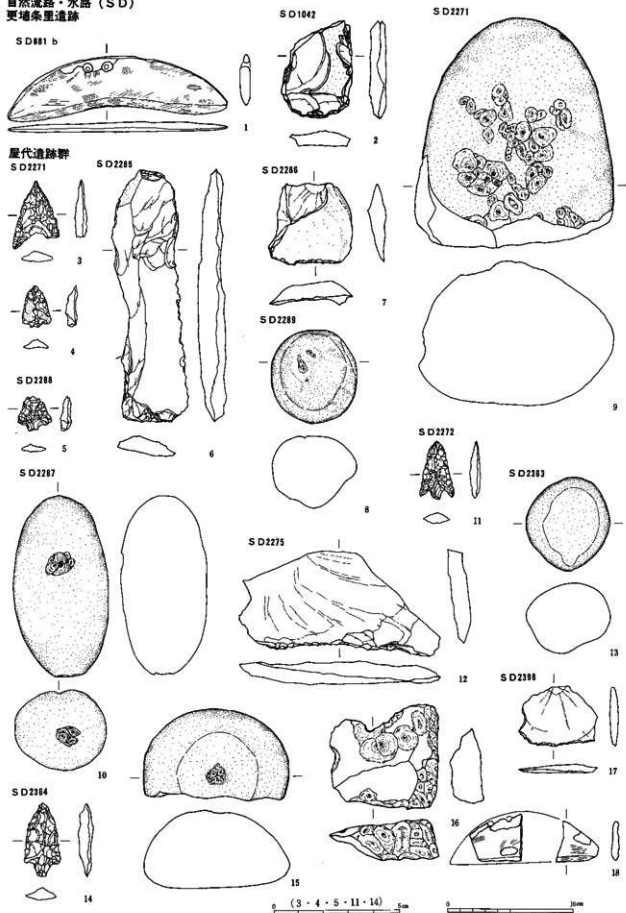


图36 VI層下面出土石器 1 (更地糸置遺跡・厩代遺跡群SD)

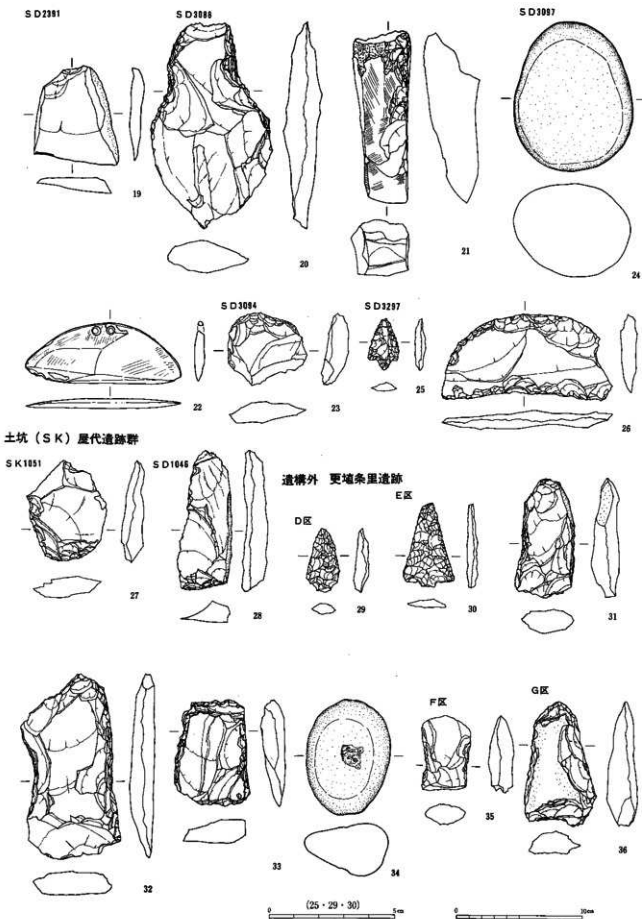


図37 VI層下面出土石器 2 (更埴系遺跡、屢代遺跡群SD・SK・遺構外包含層)

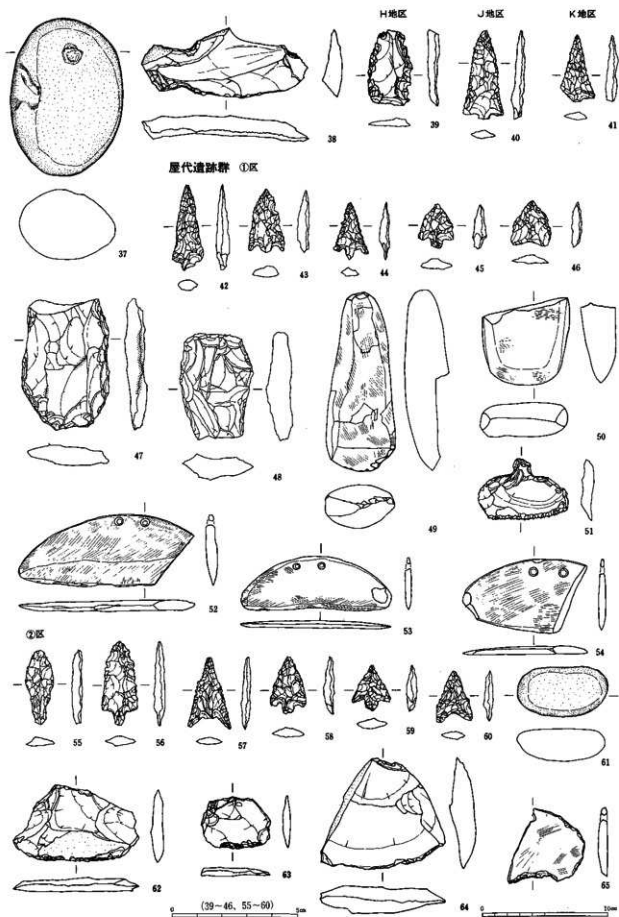
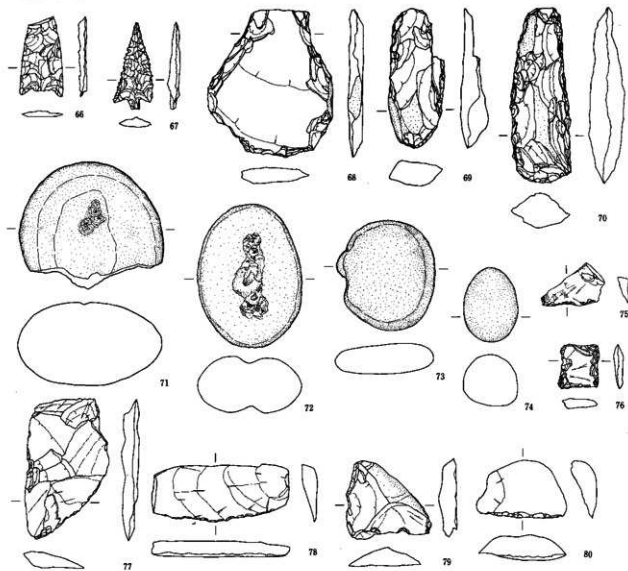


图38 VI層下面出土石器 3 (更埴系屋代群・屋代遺跡群)。

遺物集中地点 ③a区



集中地点以外 ④区

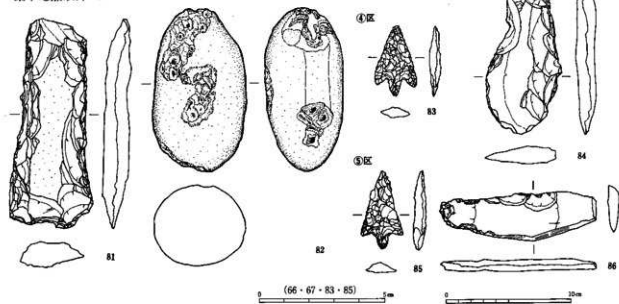


図39 VI層下面出土石器 4 (原代遺跡群③a区遺物集中地点ほか)

第3章 弥生時代後期～古墳時代(VI層上面検出)の遺構と遺物

第1節 概 観

本節ではVI層上面で検出された水田跡と、VI層を埋土にもつ遺構、および古墳時代の遺物を伴出した遺構を掲載した。遺構の広がり、以下の(a)～(c)に大きく分けられる。

- (a) 更埴条里遺跡D～J地区、屋代遺跡群①～④区の水田・水路を中心とした地区
- (b) 低地域内の微高地で、井戸跡などが見つかっている更埴条里遺跡K地区
- (c) 自然堤防の高所に位置する集落跡と北側の河川跡を含めた屋代遺跡群⑤～⑥区

掲載遺構の総数は、竪穴住居跡(SB)117軒、掘立柱建物(ST)6棟、溝跡(SD)72条、土坑139基、水田跡1面である。

弥生5～古墳1期 屋代遺跡群⑤区に集落が形成される。水田域では水路・遺物ともに前時期より少なくなる。一部で水田が営まれていたものと考えられる。

古墳2～3期 屋代遺跡群⑤区では、竪穴住居内(SB5039)に礎遺構が作られるなど、集落内での祭祀遺構が出現する。また、更埴条里遺跡K地区では井戸が見つかっており、近辺に集落が形成された可能性を示している。屋代遺跡群①区には、自然堤防全域を潤す基幹水路SD258が掘削され、大規模な水田開発が始まったと考えられる。

古墳4～6期 屋代遺跡群⑤区の集落が発展をとげ、玉類などを多く出土した大型住居が見られる。また、集落内の礎遺構(SH5001)、集落北側の河川斜面の導水・礎堤を伴う遺構(SD7068・SX7038)などの祭祀施設が充実してくる。更埴条里遺跡D～G地区には水路が新設され、屋代遺跡群①～④区では水田跡が見つかるなど、水田域の拡大がうかがえる。水田域と集落域の間に位置する屋代遺跡群④区では、平行する溝が数条見つかり、畝跡の可能性が考えられる。

古墳7～8期 屋代遺跡群⑤区の集落は継続する。水田跡は②区の断面観察で畦畔らしき高まりを確認したものの、時期は特定できていない。

以下、(a)(b)(c)の地区ごとに遺構と遺物出土状況を記述し、個々の遺物については主として素材別に説明を加える。

第2節 水田域の遺構と遺物出土状況

1 概要

水田域の範囲 水田域で取り上げる地区は、VI層の確認されなかったA～C地区、水田遺構や関連する溝跡が確認されていないK地区の微高地を除く更埴条里遺跡全域、および、水田遺構が確認された屋代遺跡群①～④区である。屋代遺跡群④区では、④a・b区を北流した水路が、自然堤防の高所にさしかかった地点で東へ屈曲する場所があり、それ以北を自然堤防上の集落域として扱っている。

主な遺構・遺物出土状況 ほとんどの地区で水田跡や畦畔状遺構が見つかっている。また、水田が確認されなかった地区でも水路と考えられる溝が検出されており、水田が存在していたと考えられる。水路から、小型丸底壺・ミニチュア土器、あるいは勾玉など祭祀に関連すると思われる遺物がまぎらまぎら出土しているほか、水田面や畦畔からも小型丸底壺、管玉などが見つかっている。

2 遺構各説

(1) 水田跡

① 更埴条里遺跡（BKS） E・F地区 畦畔状遺構（図41・42、PL11）

検出：更埴条里遺跡の古墳水田は、条里水田の耕作で削平されており残存していない。ただし、E・F地区のVII層上面で酸化鉄・酸化マンガンが帯状に集積する状態を平面的に確認した。この「帯状集積」は直線的に伸び、区画が想定されたため、畦畔の下部（痕跡）と認定した。本報文では畦畔状遺構と呼称する。**遺構の状況：**帯状集積のなかには、わずかに高まりを持ち、擬似畦畔B（斎野ほか1987）と見られる部分がある。集積の幅は20～100cmで、方向はS C 423が異なるが、座標北から22～26°ほど西に振れており、条里水田と方向を異にする。なお、屋代遺跡群の古墳水田とは若干ズレがあるが、基本的には一致する。

区画：F地区のS C 513・514・515とそれに交差するS C 519が比較的良好に検出された。交差部分は溝状（SD514）をなしており、区画の基準となっていたと考えられる。これらを基準とすると、南北275～331m・東西223～233mの規模で、北西～南東方向に長軸をもつ長方形の区画を想定できる。屋代遺跡群の水田跡と比べて区画が大きい。

水田域：E・F地区全域。少なくともVI層の確認できるD地区までの広がりがあったと考えられる。

標高と傾斜：E・F地区の地形は、北西から南東方向へ緩やかに傾斜し検出面での比高は約20cmを測る。

畦畔はこの傾斜に平行もしくは直交する方向で配置されている。なお、等高線に平行する畦畔に見られる途切れる部分は水口と推定できる。畦畔の痕跡であるため、水田面の標高、および区画内での比高差は不明である。

土層断面の状況：VI層全体に酸化鉄・酸化マンガンの斑紋集積がある。詳細に観察すると、密集する部分がVII層上部と下部にあり、集積の盛り上がり確認された。これは、VI層に作られた古墳水田の畦畔芯央部の集積が沈着した結果であろう。

出土遺物：なし。

② 屋代遺跡群（BYS） ①・②区水田跡（図46～48、54、PL12、巻頭2）

被覆層と水田の検出状況：古墳水田層に相当するVI層は、①区では基本的に耕作土（VI-Y1-1層）と母材層（VI-Y1-2層）に分層され、畦畔はVI-Y1-2層が盛り上がる。VI層上面には、①区S D 258付近と②区S D 2381付近に被覆砂層の堆積がある（図54中央）。2地点とも溝（水路）に近接しており、小規模な洪水による被覆砂層の可能性が高い。その結果、畦畔の残存状況が比較的良好であった。また、砂層によって被覆されている地点では、耕作土も残存している。これに対し、砂層のない地点では上層からの影響を受けており、耕作土が捉えにくく、水田面を特定することが困難である。調査では、耕作土上部まで斜ぎ平面精査を行ったが、耕作土が残存しない地点では畦畔は検出できなかった。

水田域：畦畔の検出範囲から、①・②区の全域が水田域として考えられる。

水田土壌：VI層の堆積は、ほぼ全域に及んでおり、畦畔が検出された①f区から②区にかけては上層と下層に分層できる。②b区（図54上）の土層断面では、畦畔はVI-Y2-7（母材層）が盛り上がり、母材層直上にVI-Y2-6層（耕作土）が認められる。耕作土は暗灰褐色、母材層は黒褐色土で、色調で区別できるが土

質はかなり酷似する。VI-Y2-6層は、本来、黒褐色である母材層が灰色化した層と考えられる。なお、図54上の土層断面ではVI-Y2-6層上部に複数の薄い黒色層があり、畦畔状に盛り上がる箇所が見られる。被覆砂層がないため洪水との前後関係は不明であるが、部分的に畦畔をつくり直した形跡であろう。

水田域の傾斜：発掘調査に伴う排土の土丘による不等沈下によって、②区北端は傾斜を正確に捉えられないが、等高線からすると、ほぼ中央に位置するSD2270以南は、SD258の西端付近が最も高く、西から東にかけて傾斜する。一方、SD2270以北の地形は、SD2381付近が最も高く、北東に向かい傾斜する。このように、②区ではほぼ中央部に境に南北の傾斜が異なり、水路の可能性のあるSD258とSD2381は地形が最も高まる地点に位置する。

畦の走向と水田区画（図146）：SD258付近から北側は、広範囲にわたって水田の畦畔が確認された。畦畔から想定される水田一筆は、形状と規模が一定ではないが、等高線に沿って基軸となる畦畔が配置されており、規則性をもった小区画水田が展開していたことがわかる。なお、水田区画のなかには、極めて細長い区画がある。これは本来内部を細分する畦畔が存在していたと考えられる。さらに、②区南側には小畦と同軸の「L」字状の畦畔がある。規則的に大畦に相当すると考えられ、交差部分に水口をもつ構造である。また、SD258・SD2381は大畦・小畦と主軸が一致し、SD2270は位置的に大畦の下部施設に相当する。したがって、大畦とこれら水路により大区画が形成されていたと推定される。なおSD258、2381は大畦を付設した水路と考えられる。②区の水路と畦畔の多くは、N55°WおよびN36°Eの方向で、主軸は座標北から40°ほど東に振れている。しかし、①f区SD258と周辺の畦畔は、ほぼ東西南北を向き、両者の主軸方向には30°ほどのズレが見られる。このズレは、VI層上面の傾斜に起因しており、水田区画が微地形（地形の傾斜）を利用して形成されていたことを物語っている。

畦畔：②区の北西部と、①区SD258付近の畦畔で盛り上がり方が確認されたにすぎないが、60～70cm（下端）・30～60cm（上端）で、6cm程度高まる状況であった。なお、盛り上がりがない畦畔痕跡は、30～70cmの幅で、ばらつきがあるものの、相対的に約50cmが多く、畦畔より若干小さい傾向がある。

取配水の方法：基幹水路に想定される遺構に、①f区で東西に走るSD245・258と②区北西隅のSD2381がある。地形の傾斜から、SD245・258は西から東に、SD2381は北東に向けて流れていたことがわかる。両遺構とも①・②区のなかで最も高い場所に設けられており、溝を覆う砂層の一部が周囲の水田跡を埋没している。この状況から、水田内へ引水する取水水路の可能性が高い。大畦下部施設に想定したSD2270は、地形の傾斜から、取水を主目的とした水路の可能性もある。なお、水口が確認されていないが、②区の水田跡はSD245・258とSD2381から取水して北東に向けて水口を媒介とした畦越し灌漑が行われていたと推定できる。

水田の面積（図148）：水田一筆が想定できる198枚を計測した。畦畔の残存状況が悪く、本来の水田一筆を示しているものが少ないため、10～40㎡とばらつきが見られた。しかし、10～20㎡が多数を占め、水田一筆の規模と捉えてよからう。

出土遺物：VI層上面およびVI層中から、古墳2～6期の遺物が出土している。図89～48は①e区SD70わき畦畔上から出土し、高杯（図89～41）や管玉（図129～170）も畦畔上であった可能性が高い。また、田面から小型丸底壺が比較的多く見つかった。

③ 屋代遺跡群（BYS） ③・④区水田跡（図49～51、PL12）

被覆層と水田の検出状況：VI層上面には明確な砂の堆積がなく、水田はVI-Y2～Y6層上面において鉄分集積による帯状の広がりとし、溶脱をあまり受けていない黒色土（母材層）の帯状の広がりが検出された（以下、畦畔と呼称）。

水田域：④区中央から自然堤防の高所（③区）にかけては、地形が緩やかに高まっており、ここからは畦畔が検出されていない。そのため、③区と④区中央付近までが水田域と考えられる。③区・④区ともに畦畔を検出しているが、④区ではIV層～VI層の地積が薄くなるためはっきりとしていない。また、水路であるSD3078～SD3290～4046の西側において畦畔が不明瞭であった。この水路を境に東西で土地利用が異なっていた可能性がある。**水田土壌**：基本的には①・②区と同様の、VI層であるが、②区に比べ溶脱層と集積層が明瞭でない。**水田域の傾斜**：VI層上面の等高線からすると、ほぼ南北に延びるSD3078～3290付近が最も低く、その両側が高まる地形である。畦畔はSD3078～3290東側から検出されている。VI層上面には凹凸がある。③a区南東付近と北西隅付近が最も高く、③b区に向かい傾斜する。④区では北へ向かって高まる。

畦の走向と水田区画（図146）：ほぼ中央部には、②区のSD2381（水路）から続き北方に延びるSD3078～3290があり、SD4046へつながる可能性が高い。水田面との高低差からすると、③区では排水を主目的とした水路の可能性が高い。畦畔はSD3078ほかと主軸方向が一致し、この水路に規制されて水田区画がなされていたようである。水田区画はSD3078ほかと③b区の大畦で大区画が形成され、内部に小区画水田が展開する。畦畔はN54°WおよびN35°Eの方向を示し、①・②区のように傾斜変換点を境に主軸がズレる状況はない。しかし、③a区の畦畔が座標北より40°ほど東に振れるのに対し、③b区の畦畔は若干座標北に戻る傾向がある。全体的に③区の水田はかなり主軸が整った区画である。水田一筆は、③b区で南北に長辺をもつ長方形の区画があるが、正方形をなす区画が多数を占める。

畦畔：水田面を覆う砂層は部分的に残り、畦畔の規模が把握できたものはごく一部である。畦畔の規模は、①・②区の畦畔とほぼ同じ数値を示す。なお、③b区の東西畦畔のなかには、比較的規模の大きい畦畔が1条ある。高まりが残存しないため詳細な規模は不明であるが、大畦の可能性が高い。

取配水の方法：水田への取水の施設は検出されていない。しかし、地形の傾斜から水田の水はSD3078～3290に排水されたと考えられる。これらの溝は、後世の溝に切られて残存状況が悪く、畦畔と水路の関係は明確にできないが、②区同様、大畦を付設する水路と考えられる。

水田の面積：水田一筆が想定できる88枚を計測したが、畦畔の痕跡であるため本来の面積を示しているとはいえない。全体的に12～15㎡が多数を占め、①・②区と比較して若干小さい傾向がある。

出土遺物：VI層上面より小型丸底壺やミニチュア土器（図89-4）が出土しているが、水田との関係は不明である。

（2）溝・自然流路（SD）

① 概要（図53～55、表18、PL11・12）

掲載方法 VI層が落ち込んでいる溝・自然流路、あるいはVI層下面検出の溝のうち、遺物から古墳時代と判断されたものを掲載した。時期判別の困難な例については一覧表にその旨を明記した。個別の属性は表18に記載した。個別図は原則として断面図のみを掲載し、平面図は1/500とした。

分類基準 VI層下面検出溝と同一基準を用いた。この時期のSDはその大半が人工的な水路I群である。

概略 弥生5期～古墳1期については明確な溝がほとんど見つからない。数少ない溝の一つである屋代遺跡群SD4530例では、導水は自然堤防上を通す弥生時代の経路を踏襲している。本格的に水路網の再編が行われるのは、古墳3期～4期である。更埴条里遺跡の低湿地では水田の方向と一致する北西→南東、あるいは南西→北東方向の水路が設置される。一方、屋代遺跡群側では、①区に本線と考えられる大規模な東西水路が掘削され、ここから扇状に幹線水路網が敷かれる。ここに、弥生時代とは全く異なった水路体系が完成し、これらの多くの水路は、現代まで受け継がれることとなる。

②溝・自然流路の変遷（個別例）

ここでも、溝一条ごとの記載は表18を参照していただき、関連性の高い溝の変遷について代表的な例を取り上げておくこととする。

更埴条里遺跡 S D 302・303（図53）

初源：S D 302溝底から小型丸底甕やミニチュア土器が出土しており、古墳4期に水田への配水のため、掘削されたものと考えられる。他水路との関連：S D 304溝群からの分水と見られる。このように、更埴条里遺跡では、前時代から踏襲される東西流路とそこから水田畦畔の方向に沿って斜め方向に分水される流路がセットで見られる。上層水路：確認されていない。少なくとも条里地割の完成以前に消滅している。

厩代遺跡群 S D 258・235溝群（図54・55）

初源：S D 258溝底出土遺物から少なくとも古墳3期には掘削が完了していたと考えられる。断面観察から、流速の速い時期と遅い時期が存在したことがわかる。また、埋没途上で、溝底をさらっている様子が窺える（図55参照）。構造と役割：それ以前の水路とは規模が大きく異なっている。「V」字状に深く掘削されており、それまでの浅い水路に比べ莫大な水量を有していたと考えられる。調査区内では、直接合流した水路を確認できていないが、方向から見てS D 267、S D 2381などの幹線水路への配水は本水路から行われたものと考えられる。よって厩代地区の基幹水路と捉えることができよう。上層水路：水田土壌に類似した堆積土が覆土中ほどに見られ、その後、同時期の洪水砂を被っている。この洪水砂堆積以後にS D 258に代わって掘削されたのがS D 235である。溝底から多量の勾玉などが出土している。この溝は遺物から5世紀代に比定されており、基幹水路が掘削し直されていたことがわかる。その後、この地区に集落の形成される8世紀末まで、水路は小規模ながら継承されてゆく。

厩代遺跡群 S D 2381-3078-3280-4046溝群（図54・55）

初源：遺物が少なく限定はできない。ただし、5世紀代の水田畦畔に沿っており、その時期には完成していたと考えられる。構造と役割：本線であるS D 258から分水し、自然堤防側の水田への給水を担った幹線水路と考えられる。この経路は弥生時代の水路網とは大きく異なっている。上層水路：条里水田に対応する溝まで踏襲される。

以上、古墳時代に再編された水路網は、厩代遺跡群側では古代の条里水田、あるいは現代の水路網へと踏襲されている。これに対し、更埴条里遺跡側では古代において再度、水路網の編成替えが行われる。

(3) 土 坑 (SK)（図55、表17）

水田域からは2基が見つかった。いずれも単独である。S K 5109からは底部穿孔の土器（図89-30）、S K 7214からは小型丸底壺（31）が出土している。性格は不明である。

参考文献

斎野裕彦ほか 1987『富沢遺跡第15次発掘調査報告書』仙台市教育委員会

第3節 更埴条里遺跡微高地域（K地区）の遺構と遺物出土状況

1 概要

更埴条里遺跡と屋代遺跡群の低地部には、手の指状に微高地が張り出している。その大半が古墳時代には水田化しているが、この地区では水田は検出されず井戸などが見つっている。また、遺物の説明は第5節にまとめて記載した。

2 遺構各説

(1) 掘立柱建物跡 ST926 (図56)

遺構属性：一覧表。時期認定：VII層上面で検出されているが、柱穴埋土からは判断できない。ただし、古墳時代中期以降明確となる黒色化した土が含まれておらず、それ以前に掘られた可能性が高い。調査時には1間×1間としたが、VII層上面検出のピットを拾うと1間×2間の可能性もでてくる。**遺物出土状況：**明確に伴う遺物は確認されていない。しかし、この付近には弥生時代の遺物はなく、古墳2期～4期にかけての遺物が見られる。特に、1間×2間とした場合、その平面形中に入ってくるSK9426から古墳2・3期の遺物がまとめて出土している。このSK自体は古代の覆土を有しているが、本来ST関連の遺物であったものが流れ込んだ可能性もある。

(2) 井戸跡 SK9512 (図56、PL13)

位置と残存状況：本調査区内の高所である北西隅に位置する。遺構は、排水用のトレンチによって削られているが、底部の残存状況はよい。**形状・規模：**一覧表参照。**覆土：**8層に分層され、ブロック状の土を多く含むため人為的埋め戻しと考えられる。**出土遺物：**古墳3期の土器が井戸底面と埋土中層に分かれ一括廃棄されている。また、さらに上層の4層からは炭化物とともに土器片が多く出土している。こうした状況から、井戸の廃棄に伴い何らかの祭祀行為がなされた可能性がある。

第4節 集落域および旧河道域の遺構と遺物出土状況

1 概要

縄文中期後葉以降約2,200年間の断絶を経て、屋代遺跡群の⑤区に再び集落が形成されるのは弥生5期に下る。弥生の遺構は竪穴住居跡(SB)3軒(内1軒は古墳時代までの幅を持つ)、土坑8基でありいずれもかなり分散している。古墳時代になると住居跡の数は106軒(内10軒は古代までの幅をもつ)、溝跡15本、土坑・井戸跡52基となり⑤区の全域に拡大する。この他に弥生～古墳とした土坑が76基、溝跡が2本に上る。集落の南限は土ロバイパスライン(④f・⑧区)のやや南であるが、東西は調査区外にも遺構が続いていく。特に⑤区北東隅は古墳中～後期の遺構が密集しており、さらに東側に連続する可能性が高い。

古墳時代は出土土器から1～8期に大別される。土器型式から段階が確定した住居の数は、古墳1期が

9軒、2期0軒、3期0軒、4期6軒、5期9軒、6期9軒、7期4軒、8期7軒で、その他52軒は中期を中心にした時期、10軒は古代まで下る可能性を有するもので、出土土器の検討からは確定し得なかった。集落構造としては古墳1期が前期の、5期が中期の、8期が後期のピークとなる。

集落の北側には4m以上の崖があり、その崖の途中で祭祀遺構が検出された。崖の下には西から東の流れが推定される河道が確認されている。

2 遺構各説

遺構の概要は表15に示した。ただし遺構の構造および廃絶の状況が複雑であるため、説明を簡略化できないものについては、ここで番号順に解説を加えることにする。

(1) 竪穴住居跡 (SB)

SB5009a・b (図68、PL14)

本住居跡の埋土の状況は不明である。ただし貼床とカマドおよび炉、柱穴の配置から最低2段階の変遷がたどれる。新しい方を5009a、古い方を5009bとし、別住居として記載する。

SB5009a 構造：西壁面中央にカマドの片袖のみが残存し、その北側に焼土・炭化物の詰まったP16が検出されている。4本の主柱穴はいずれも厚さ10cm程度の礎盤を有し、特にP23にはぐり石が残存する。中央部にはVII層を固めたと推測される厚さ約2cmの堅緻な貼床がみられる。床下ビット：この貼床下からは焼土や灰を伴う炭化物の詰まったビットが8基検出された。**遺物：**埋土中出土遺物は白玉9点と管玉の未製品を含むものの極めて少ない。**時期：**埋土中出土土器から古墳6期と認定される。

SB5009b 構造：上記のビット検出面から約10cm下の部分的な貼床を、5009bの床面として認定した。やや北より主柱穴の可能性が高いP36・P39とP38・P42の間からこの床面に対応する地床炉が検出された。検出レベルから推測したこの段階に相当するビットは17基。柱穴の位置からは、この段階の住居跡のプランは第1段階とは異なる可能性も否めない。**遺物：**本住居跡の床面出土遺物は白玉1点のみである。**時期：**地床炉を有することからSB5009aよりもかなり時期が遡る可能性がある。

SB5039 (図70、PL14)

同一プランで2段階の変遷を追うことができる。以下新しい方から順に第1段階・第2段階とする。

第1段階 灰・炭化物の堆積：VII層を固めた貼床を有する。西側全域では貼床直上に1cmほどの厚さで純粋な灰が堆積している。南壁東よりに強く被熱した火床面がみられ、灰と炭化物に覆われている。埋土2層は灰と土が何回も交互に投棄されたことによって形成されたと推定される。1・2層の層界面には約5mmの厚さで炭化物が廃棄されている。**遺物：**埋土1層からは白玉類、灰の炭化物・灰中から土器Na2・3が出土している。第1・2段階床面の間には2～4cmの砂質シルトの間層が入る。

第2段階 灰と礫集中：第2段階の床面は第1段階の床面と同様に灰によって覆われている。本段階の特徴は、南西コーナー灰下と東壁際にて0.5～10cm大の川原石903点、合計15.85kgを敷き詰めた礫集中部分が見られることである。前者には北側のP2と南側の炭化物集中が伴う。ただしP1は炭化物および礫の下から検出されており更に前の段階に属する。**遺物：**西側周溝脇の土器Na1、土玉、石Na1である。本住居跡の時期は第1段階が5世紀、第2段階が土器Na1などから古墳2～3期と認定される。

SB5054 (図71、PL14)

カマド：長胴甕(135)中に埴形土器(130)が入り、その上に鉢(133)が載った状態の一群がカマド左袖の芯材となっている。本住居跡では杯E2類の出土は無いものの、130の器形、133の形態が古墳7期に類

第3章 弥生時代後期～古墳時代（VI層上面検出）の遺構と遺物

根拠：「土」は土層による時期比定、「切」は切り合い関係による。

遺構番号	甲遺構番号	時期	実年代比定	遺構	中地区	図号	位置	形状	主軸方位	長軸(m)	短軸(m)	高さ(m)	床面積(m ²)	伊・カマド位置	伊・カマド位置	比定(主軸方向)	付属施設	カマド備	
SB 4814		古墳4期 ～6期	5C前～6C 初葉以前	土切	R21	87	—	(N33°E)	—	—	—	0.2	—	—	—	1	掘方のみ	—	
SB 4815		古墳4期 以前	6C・初葉 以前	土切	R22	57	—	(N53°W)	—	—	—	0.25	—	—	—	—	掘方のみ	—	
SB 4820		古墳5期 (前期)	5C末～7C 初葉	土切	R21-22, W2	57	—	N42°E	—	(3.0)	0.35	—	—	K1	西壁中央	—	掘方のみ	土	
SB 4821		古墳6期	5C末～6 C初葉	土切	R22	57	—	N59°W	—	—	—	0.15	—	—	—	3	掘方のみ	—	
SB 4829		古代6期 以前	7C前以降	土切	R21	57	—	(N25°W)	—	—	—	0.2	—	—	—	—	なし	—	
SB 5009a	SB5009	古墳6期	5C末～6C 初葉	土切	S7-8-12	57-63 -64	—	隅丸長 方形	N36°W	(7.30)	6.1	—	—	49.1	K1	西壁中央	10(4)	古墳6期 後半、古 墳7期前 半まで	—
SB 5009b	SB5009	古墳6期 以前	6C末～6C 初葉	土切	S7-8-12	63-68	—	—	—	—	—	—	—	F1	P36・38 中 実来より	17	掘方のみ	—	
SB 5014	SB5014 -SB5015	古墳4期 (前期) ～古墳4 期(古相)	5C中～5C 末	土切	O1	66-69	—	方形	N2°E	(5.25)	(4.53)	0.55	(21.0)	F1	北壁中央より	10(4)	掘方、東 壁に 築込	—	
SB 5032a		古墳7期 ～古代4 期	6C前～8C 初葉	土切	N14-19	63-69	—	方形	N11°E	(4.35)	(4.95)	0.55	(13.0)	K1	東壁南より	1	なし	—	
SB 5032b		古墳7期 ～古代4 期	6C前～8C 初葉	土切	N14-19	68-69	—	長方形	N23°E	(6.10)	(4.67)	0.30	(24.0)	—	—	—	3	掘方なし	—
SB 5030		墓1(表): 5世紀; 墓2(裏): 古墳2 ～3期	6C前～ 5世紀 土切	O1	O1-2-7	66-70	—	N33°E	7.05	—	—	—	—	F1	南壁中央より	墓1表: 2 墓2表: 7 (2)	掘方、東 壁に築 込、西壁 に築込、 西壁	—	
SB 5042		古墳7期	6C前～中 土切	O7-12	O7-12	66-69	—	N79°W	(6.51)	—	0.19	—	—	K1	西壁中央	2(1)	掘方不明	高山・ 粘土	
SB 5047		古墳6期 (古相)	5C末 土切	S16- 17-21	62-70	—	長方形	N53°W	(6.20)	6.67	0.10	(31.94)	K1	西壁中央	6	掘方、東 壁に 築込、柱 穴あり	粘土		
SB 5049		古墳7期 ～古代2 期	6C前～8C 初葉	土切	O12	66	—	—	—	—	—	—	—	K1	北壁南より	—	掘方不明	—	
SB 5050		古墳7期 ～古墳6 期	5C後～6C 初葉	土切	S16-17	62	—	N56°W	(3.26)	—	—	0.15	—	—	—	—	掘方不明	—	
SB 5054		古墳7期	6C前～中 土切	O16-21 N20-25	65-71	—	方形	N18°W	—	(5.32)	0.30	(26.7)	K1	北壁中央	6(4)	掘方不明	土層・土		
SB 5062	SB1062 -SB5070	古墳6期	5C末～6C 初葉	土切	N10-11	65-66 -71	—	N19°W	5.30	—	0.15	—	—	—	—	4(2)	掘方のみ	—	
SB 5069	SB5069 -SB5097	古墳7期 (古相)	6C前～8C 初葉	土切	O6-11	66-71	—	N17°E	—	(5.23)	0.30	—	—	K1	北壁中央	3(2)	掘方なし、 中壁に 築込	—	
SB 5075		古墳7期 ～古墳2 期以降	6C前～8 C初葉	土切	O12	66	—	N26°E	—	—	0.20	—	—	—	—	—	掘方なし	—	
SB 5088		古墳4期	5C前 土切	N22-S1	67-72	—	方形	N22°E	(3.57)	3.37	0.13	(11.0)	K1	北壁中央	2	掘方、床 下ピット 3基	—		
SB 5094		古墳5期	5C中～6C 初葉	土切	O6-N 16-N20	65-66 -72	—	N22°E	(6.98)	—	0.13	—	—	F2	F1:床、F 2:中央、 F3:東、 F4:西、 F5:北、 F6:南、 F7:東、 F8:西、 F9:北、 F10:南	11(4)	掘方、床 下ピット 7基	—	
SB 5097		古墳8期 (古相)	9C末 土切	O6-N 10-15	65-66 -73	—	—	N57°W	6.93	—	0.36	—	—	K1	西壁中央	10(3)	掘方不明	高山を境 して古 入、土に 築込	
SB 5102		古墳7期 ～8期	6C前～7C 初葉	土切	N19- 24	65	—	N1°E	(6.45)	—	0.25	—	—	(K1)	(北壁中央)	9(6)	掘方なし	—	
SB 5111		古墳3期 ～4期	4C後～5C 初葉	土切	O16	65	—	(N54°W)	—	—	—	—	—	—	—	—	掘方不明	—	
SB 5112		古墳4期	6C前 土切	S10	64-72	—	—	N79°W	—	—	0.45	—	—	—	—	—	2(1)床 に 柱あり	—	
SB 5113		古墳1期 (古相)	3C後 土切	S11-12	63-74	—	長方形	N51°W	(6.70)	5.83	0.23	(30.5)	F2	F1:F1-F7 掘中実 来より F2:F1-F7 掘中実 来より	10(3)	掘方のみ	—		

表15- (1) 弥生時代後期～

第4節 集落域および旧河道域の遺構と遺物出土状況

特徴	色調	土色観記号	遺土の特徴	遺物出土状況	遺物	遺物図	切合関係(古)	切合関係(新)
庭園土床	黒褐色	10YR2/3	1層	灰土・灰土とも少ない	土器・石器	91	—	SB4813-SB4820
庭園土床	黒褐色～暗褐色	10YR3/2～3/4	2層	灰面にほつれ層よりまぶさのみ、灰土中はとどろし	石	—	—	SB4813-SB4817・SB4818-SB4823
庭園土床	暗褐色～濃い黄褐色	10YR3/4～4/3	4層(カマド跡の土層に伴って)	カマド跡層中、カマド周囲に灰面あり	土器・石器	91	SB4813-SB4814	SB4818-SB4843
庭園土床	にじみ黄褐色	10YR4/3	1層	灰面なし、ほつれ少ない	土器	—	SD4815	SB4813-SB4815・SB4821-SB4827
床面灰層	暗褐色～褐色	10YR3/3～4/4	2層	—	—	—	—	—
庭園土層	—	—	不明	灰土中少ない	土器・石器・玉	91	—	SB5008-SB5120・SB5151
庭園土層	—	—	不明	灰土中少ない	土器・石器・玉	91	—	SB5009A
土間に土器土層あり、掘りかき、新築時に灰土と灰化物の混入	暗褐色～黒褐色	10YR3/2～3/2	3層(か・ボン・柱多量混入)	灰面・灰土層ともに破片が多い	土器・骨	91	—	SB5013-SB5150・SB5209-SB5607
カマドは埋壊され、遺土中に土器散在	褐色～にじみ黄褐色	10YR4/4～5/4	4層(土上灰化層全体に広がっている)	床面南西側に高杯など	土器	—	SB5032B-SK5032	SB5037-SB5065・SB5144
—	褐色	10YR4/4	1層	—	—	—	—	SB5033-SB5065・SB5144-SB5302
1床から2床の範囲がある。3床も可能性あり。1床・2床ともに壁柱を床面	灰黄褐色～褐色	10YR4/2～4/4	4層(2層の境界層は、人為的の戻しによって1・2層が堆積。1・2・3・4層程度には、灰が堆積)	壁土1層から5層、第2床面西側に壁。第3床面西側に壁	土器・玉・骨	92	SB137-SB5160・SB5162	SD6007
庭園はカマドの掘削の高域、カマド土層が覆っている	にじみ黄褐色	10YR4/3	1層(人為的の戻しとされる)	カマド遺土中に土器片集中。カマド土層に土器散在。床面土器片ややあり	土器・石器・玉・骨	92	SB5117-SB5127・SB5160-SK5052	SK5054
床は壁跡層(土保状、カマド土層の境界層が全面に広がる。中に土器が散在されている)	暗褐色～黄褐色	10YR6/1～7/8	2層(床面、カマド面に伴って)	カマド遺土中庭園から土器・石器多量散在。遺土中ほつれ少ない	土器・石器	92・93	—	SB5004-SB5045・SD6002-ST6002-SI6972
壁道ののみ。床・灰層付は庭園	にじみ黄褐色	10YR4/3	不明(壁道のみにつき)	カマド前方床面にあり。庭園土層遺物少ない	土器	—	SB5042	SB5075-SD5006
—	にじみ黄褐色	10YR5/4	1層	床面・遺土中も少ない	土器	—	—	SB5014-SB5045
カマド土層(基礎)に灰散在と所収土器・灰。壁に灰が塗布	暗褐色～灰褐色	10YR3/2～4/2	1層	カマド西側に合併など	土器・石器・玉	90	SB5195	SB5053-SB5055-SB5101・SK5266-SK5294-SK5312-SK5341
庭園土層、灰土層	暗褐色～暗褐色	10YR3/3～5/6	2層(奥山の灰色シルトで埋められている)	壁(138)は、庭園出土。2層下部に遺物多い	土器・玉・骨	93	—	SB3006-SB5097・SB5134-SK5263
第2層が庭園中層	黒褐色～褐色	10YR3/2～4/4	3層(2層は特に灰の中層する層)	カマド遺土中、土器片散在	土器・石器・玉・骨	93	SB6136	SB5063-SB5066-SB5073-SB5074-SB5081-SB5097-SB5098-SB5115-SB5010-OI171
灰散在で一般用途でない可成りあり	にじみ黄褐色	10YR4/3	1層	庭園なし。遺土中少ない	土器	—	SB3049-SB5136	SB5189
カマドは埋壊された上、古代の住居に傾かされている	褐色	10YR4/4	1層(人為的戻)	カマド遺土中庭園に土器。遺土中央部に土器散在集中	土器・石器	94	SB5145	SB5079-SB5096
内壁面のはは。カマドの可能性あり、その北側に高杯が埋積	黒褐色～灰褐色	10YR3/2～4/2	1層	伊豆山の斜面に土器。灰下に土器多い	土器・石器・玉・骨	94	SB5174-SK5253-SK5256-SB5050	SB5066-SB5067-SB5089-SB5097-SB5092-SB5136-SB5141-SK5049-SK5184-SK5198-SK5222-SK5340-SK5351-SB5011
カマドは庭園縁側に天井あり。その1に2層。灰散在の痕跡。埋壊された状態	暗褐色～にじみ黄褐色	10 YR 3 / 4～5/1	6層(表層は埋の戻し)	伊豆山斜面にカマド遺土に土器を遺棄し、V層で埋められている。カマド遺土中にも土器が散在した状態が集中	土器・石器・玉・骨	94-95	SB4902-SB5060-SB5136-SK5138-SK5094-SK5231-SK3277-SK3274-SK3279-SB50119-ST501194	SB5073-SB5074-SK5237-SK5129-SK5129-SB5069-SB5010
—	暗褐色	10YR3/3	1層	遺土中少ない	土器・石器・玉	95	SB5190-SK5300-SK5303-SK5304-SK5306-SK5307	SB5119-SK5308-SK5311-SK5336-SB5004
—	暗褐色	10YR2/3	1層	遺土中少ない	土器・石器	95	—	SB5109
—	黒褐色～暗黄褐色	10YR2/1～2.5Y/2	5層(自然積)	床面に、室(190)と壁(191)	土器・石器	96	—	SB5178-SK5154
灰は中央部が多い。庭園土層の跡は高域に露出の白地帯を形成して、高域が土として埋積。庭園下の跡は地床	灰褐色～にじみ黄褐色	10YR5/1～6/4	2層	庭園面壁部に土器破片集中	土器・石器	96	—	SB5114-SB5002

古墳時代 壁穴住居跡(SB)一覽

第3章 弥生時代後期～古墳時代（VI層上面検出）の遺構と遺物

遺構番号	番号	田圃番号	時期	表層年代	地区	大区	中地区	遺構番号	平面形	主軸方位	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	広さ(m ²)	材	呼称	呼称・カド位置	柱穴(主)	柱穴(副)	付随施設	カド材	備考		
SB	S116		古墳1期 (古墳)	3C後	土	+	S18・17 22	62-74	長方形	N65°W	6.40	4.30	0.40	29.06	F2		P1: 西東より P2: P1南	11(1)		2(南にも柱穴あり)	葺きのみ	-		
SB	S117		古墳5期 ～6期	5C中～ 6C初	土	+	O6-7	72	---	N57°W	-	3.37	0.15	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
SB	S118		古墳4期 ～6期	5C前～ 6C初	土	+	N16	66	---	(N18°E)	(6.16)	-	0.20	-	-	-	-	-	-	-	7(4)	葺き不明	-	
SB	S121		古墳1期	3C後	土	+	S19	63-73	---	N35°E	(4.34)	-	0.15	-	-	-	-	-	-	-	-	葺き不明	-	
SB	S124		古墳1期	3C後	土	+	S18-23	S1- 63-74	長方形	N23°E	(4.10)	(3.83)	0.30	(15.2)	-	-	-	-	-	-	3(2)	葺きなし	-	
SB	S125		弥生5期 ～古墳1 期	弥生後期 後半～3C 後	土	+	S14-18	63	-	-	-	-	-	-	-	F1	北より	-	-	-	-	葺きのみ	-	
SB	S132		古墳4期 ～6期	5C前～ 6C初	土	+	N9-16	66	-	(N24°E)	-	(2.70)	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	葺き不明	-	
SB	S136		古墳5期	5C中～ 6C初	土	+	O6-7 11-12	75	隅丸方形	N56°W	9.75	9.30	0.30	(44.2)	K1, F1	K1: 西東中央 F1: 南東中央	16(4)	-	-	-	-	葺きのみ	粘土	
SB	S142		古墳1期	3C後	土	+	N19- 23-24	65-74	-	(N19°E)	-	-	0.15	-	-	-	-	-	-	-	-	葺きなし	-	
SB	S143	SB143- SB139	古墳4期	3C前	土	+	N18-19 23-24	65-76	-	N22°E	(7.16)	-	0.10	-	-	-	-	-	-	-	2	葺きのみ	-	
SB	S145		古墳1期	3C後	土	+	N22	76	---	N67°W	(4.17)	-	0.30	-	-	-	-	-	-	-	9(4)	葺きなし 1C: 西東中央 2C: 西東中央	-	
SB	S147		古墳4期 ～5期 (古墳)	5C中～6C 初	土	+	N10, O6	66	-	(N62°W)	-	-	0.13	-	-	F1	中央より	-	-	-	-	葺き不明	-	
SB	S148		弥生5期	3C前	土	+	S11-16, R15-23	62-76	-	(N38°E)	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	2	葺きのみ	-	
SB	S150	SB152- SB154	古墳6期	5C末～6C 初	土	+	S1	67-76	---	N99°E	3.60	-	0.15	-	-	K1	東壁中央	-	-	-	2	葺きなし	粘土	
SB	S153		古墳6 期以降	5C末以降	土	+	S1	67	---	N16°E	(4.85)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	葺きなし	-	
SB	S156		古墳1期	3C後	土	+	S13	63-76	---	N30°E	5.15	-	0.32	-	-	F1	P7東より	-	-	-	8(4)	-	-	
SB	S157		古墳1期 ～2期	3C後～4C 初	土	+	O1-2, 6-7	66	-	N25°E	4.75	-	0.2	-	-	-	-	-	-	-	2	葺きなし	-	
SB	S158		弥生5期	弥生後期 後半	土	+	N10, O6	66	-	(N62°W)	-	-	0.65	-	-	-	-	-	-	-	-	葺きのみ	-	
SB	S160		古墳1期 ～2期 (古墳)	3C後～4C 初	土	+	O2-7	66	-	(N68°W)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	葺き、粘土の付随穴あり	-	
SB	S162		古墳1期 ～2期	3C後～4C 初	土	+	O7	66	---	(N19°W)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	葺きなし	-	
SB	S166		古墳7期 ～8期	6C前～7C 初	土	+	S14	63	---	(N72°W)	-	-	0.15	-	-	-	-	-	-	-	5	葺き不明	-	
SB	S167	SB S167- SB131	古墳4期 (古墳) ～古墳 6期	5C前～6C 初	土	+	N10	66	---	(N28°E)	-	-	0.15	-	-	-	-	-	-	-	-	葺き不明	-	
SB	S168		古墳4期 ～5期	5C前～6C 初	土	+	N23	54	---	(N72°W)	-	-	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	葺き不明	-	
SB	S169		古墳4期 ～6期	5C前～6C 初	土	+	O12	66	---	(N10°E)	-	-	0.15	-	-	-	-	-	-	-	-	葺きなし	-	
SB	S170		古墳5期 ～6期	5C中～6C 初	土	+	O12	66	---	(N9°E)	-	-	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	1(1)	葺きなし	-
SB	S172		古墳4期	5C前	土	+	N15-20, O16	65-77	---	(N41°W)	-	-	0.22	-	-	-	-	-	-	-	-	4(2)	葺きのみ	-
SB	S178		古墳7期	6C前～ 6C中	土	+	S9-10	64-77	---	(N39°E)	-	-	0.25	-	-	F1	P2東より	-	-	-	2	葺き(付随穴より下けてい)	-	
SB	S179		古墳5期 ～古墳8 期	5C末～ 7C初	土	+	S3	64	---	(N32°E)	-	-	0.22	-	-	-	-	-	-	-	3	葺き、粘土の付随穴あり	-	
SB	S180		古墳7期 以降	6C前～6C 中以降	土	+	S9	64	---	(N86°E)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	葺きなし	-	
SB	S181		古墳4期 以降	5C前	土	+	O16	65	---	(N21°E)	-	-	0.20	-	-	-	-	-	-	-	1	不明、葺き面に付随	-	
SB	S182		古墳4期 ～6期	5C前～ 6C初	土	+	O16-21	65-77	---	N34°E	(4.30)	-	0.35	-	-	-	-	-	-	-	-	4(2)	葺き不明	-
SB	S183		古墳4期	5C前	土	+	O16-21	65	---	(N19°E)	-	-	0.15	-	-	-	-	-	-	-	-	葺き不明	-	

表15-(2) 弥生時代後期～

特徴	色調	土色記号	地層の特徴	遺物出土状況	遺物	遺物区	切合関係 (A)	切合関係 (新)
第1の層面に部分的な砂状。底面の下に砂土	黒褐色～灰褐色	10YR3/1 ～10YR5/3	4層 (自然堆積)	床面内側に土砂破片集中	土器・石器	96	-	SB5004-SB5040-SB5044-SB5009-SK5094-SK5097-SK5012-ST5002P3
位階中央部等に地土との境界が見られ、砂の混入あり	暗褐色	10YR3/4	1層 (人為堆積の可能性あり)	惣整理、床面に土砂破片	土器	97	SK5209-1-SK5206-SD6020	SB5042
位階中央より上に、地土集中	黄褐色	10YR4/3	4層	地土集中部に散在	土器・石器・骨	97	SH5132-SB5167	SH5208-SH5140-SH5171-SK5062
床面に灰、押し土に炭化植物層	灰褐色～灰黄色	10YR3/3	1層 (人為堆積の可能性あり)	床面から砂土など。地土上部に破片多い	土器	97	-	SB5004-SK5004-SK5009-SK5008-SK5008-SK5009-SK5106-SK5115
中央に地上の遺つた炭層(2層)	緑灰色～灰黄色	10YR4/1 ～2/3	3層	床面に散れた破片で土器2割。厚土層に破片多い	土器・骨	97	-	SB5209P1-SB5123
灰褐色粘床	灰褐色	10YR5/2	1層	遺土中少ない	土器	97	-	SB5121-SB5106-SB5128
-	-	-	1層	床面に土砂破片やや多い	石器・玉・鉄	-	SB5167	SB037-SB5171
灰褐色粘床	暗オリーブ褐色～黄褐色	2.5Y3/3 ～5/4	3層	カマド破壁上面に突起土器集中。押し土層ともにも遺物多し。底下に玉類多い	土器・石器・玉・鉄・骨	97-98	SH4975-SK3179-SD6020	SH5042-SH5140-SB5097-SB5117-SB5135-SB5177-SK5195-SD6010
床は軟弱	緑灰色	10YR4/1	1層	床面に土器2点など。厚土層下に土砂片	土器	99	-	SH5143-SK5038-SD6004-S73014P1-S75014P2-S75014P3
灰褐色粘床	-	-	1層	黄褐色土層下に土砂片。厚土層は少ない。灰質炭層床面に少量	土器・骨	99	SH5142	SH5003-SH5058-SH5059-SB5146-SB5141-SK5038-SK5232-SD5004
灰褐色粘床	暗褐色	10YR3/4	1層 (床面上一層に灰が広がる)	床面上部2点と約3点。床面やや上に土砂集中	土器・石器	-	-	SH5079-SB5088-SB5086-SB5102-1-SD6062
地床砂あり	暗灰褐色～黄褐色	2.5Y4/2 ～5/3	1層 (床面に土砂の混入が中絶におよぶ)	床・地土中ともに少ない	土器	99	SH5158-SK5201-SK5019	SH5013-SB5037-SB5044-SB5069-SB5097
-	暗灰褐色～暗褐色	10YR7/6 ～3/1	6層 (自然堆積)	床面内側に土砂破片	土器・石器	99	-	SD6016
カマド下層は切られる。灰質土が床面から露出。P1には焼土層あり。灰が厚く残る	黄褐色	10YR4/3	1層	カマド土層下に破片集中	土器	99	SK5334-SK5335	SB5151-SB5153-SK5202-SD6002
床面やや粗も不明のため、住居の可能性低	-	-	-	-	-	-	SB5152-SK5334-SK5335	SK5202-SD6016
灰褐色粘床に地床砂	灰褐色～灰黄色	2.5Y4/1 ～6/4	4層 (自然堆積)	押し土中少ない	土器	99	-	SH5091-SB5072-SH5085-SB5095-SB5145-SB5165-SB5166-SK5104-SK5170-SK5192-1-SD6012
-	暗灰褐色	2.5Y4/2	1層	床面に土器2点。押し土は少ない	土器・石器・玉	99	-	SK5058-SB5042-SK5054-SK5200
土層に磁器片が混ざっているため、遺土は不純。床面高層に灰質土	灰黄褐色～黄褐色	10YR4/2 ～3/1	1層	床面に少ない。押し土は少ない	土器	100	SK5202	SH5013-SH5037-SB5044-SB5069-SB5097-SB5117-SK5182-SK5196-SB5019
1層に灰褐色粘床。SB5157-SB5162が遺構(押し土の混入)不明	灰黄褐色～黄褐色	10YR4/2 ～3/2	1層 (灰は炭層)	床面に土器 (205-207) とペンダラ残。押し土破片多し	土器・石器・ペンダラ類	100	SD6020-ST5009P4	SH5039-SB5157-SB5162-SK5228-ST5007P1-S7300P3-S75013P4
灰褐色粘床	-	-	1層 (灰は炭層)	床面になし。押し土は少ない	土器	100	SB6166-SK5237-SK5238-SD6020-ST5009P4	SB6039-ST5009P5-S75013P4
-	-	-	1層 (中心に粘床)	-	土器・石器	100	-	-
押し土が厚く多量入り。層が厚く砂が少く、地土含む	灰褐色	10YR5/1	2層	床面に土器少量	土器・石器	100	-	SB5037-SB5132
灰軟弱	緑灰色	10YR5/1	1層	床面になし。押し土中少ない	-	-	SB5184	SH5140-SB5200-SK3245-SD6004
床面に粘土散在	灰褐色	10YR5/1	1層	床面になし。1層に破片少量	土器	-	-	SB5075
床は部分的に堅い	暗褐色	10YR3/4	1層	床面に土器1個残。押し土層には土器片	土器	100	-	SB5093-SK3257
床は部分的に堅い	緑灰色～灰黄褐色	10YR4/1 ～4/2	2層 (押し土層が厚い海側の遺構)	床面は少ない。押し土全体に破片多し	土器・石器	100	-	SH5092-SH5094-SH5183-SB5195-SD6059
磁器片が散在。位階中央部、位階部分に砂が混入して見られる。粘土の塊状砂	黄褐色～暗黄褐色	10YR3/2 ～2/6	1層	床面内側に上部破片。押し土中少ない	土器・玉	100	-	SB5112-SB5177-SB5180-SK4275-SK5276-SK5291
-	黄褐色～暗褐色	10YR5/6 ～3/2	1層 (押し土層が厚い) 遺土中部分的に	-	土器・玉	100	-	SH5173-SB5175-SB5176-SK5316
埋められているため詳細不明	-	-	1層 (押し土層が厚い) 灰化層	床面になし。押し土中少ない	-	-	SB5378	SK5276
粘床あり	黄褐色～灰褐色	10YR5/3 ～4/2	2層	-	-	-	SH5092-SH5094-SB5183-SK5222	SB5054-SB5101
-	黄褐色～灰黄褐色	10YR3/2 ～4/2	2層	P1・P2内に土器	土器	101	-	SB5055-SH5092-SB5189-SB5181-SD5182
-	-	-	1層	-	土器	101	-	-

古墳時代 竪穴住居跡 (SB) 一覽

第3章 弥生時代後期～古墳時代（VI層上面検出）の遺構と遺物

遺構 記号	遺構 番号	出遺品名 番号	時期	年代区分	区域	大 地 区	中 地 区	遺 構 号	平面形	主軸方位	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	埋 戻 土 (m)	が の マ タ	が の マ タ 位 置	柱穴 (柱 穴)	付属 施設 番号	が の マ タ 層	
SR	5184		古墳4期以前	SC前-5C 初	土	I	N23	64	-	(N42°W)	-	-	0.08	-	-	-	1	遺方なし	-	
SR	5185		古墳6期	SC末-6C 初	土	I	N23	64-77	-	(N47°W)	-	-	0.12	-	-	-	6(1)	遺方なし	-	
SR	5187		古墳4期 -6期	SC前-6C 初	土	I	S10	64	-	(N9°E)	5.80	-	0.20	-	-	-	-	遺方不明	-	
SR	5189	S5077- S5078- S5079- S5080- S5161- S5162	古墳5期	SC中-5C 土	土	I	N14-15 19-20-24	64-66- 78	方形	N29°E	10.74	10.6	0.45	(33.2)	-	-	-	9(4)	遺方のみ	-
SR	5190		古墳5期	SC中-5C 土	土	I	N24-25- S4-5	64-65- 79-80	方形	N18°E	10.2	9.8	上式: 0.12・下 式: 0.25	(48.5)	F3	上土層: F9-F10 中土層: 中央 や西より, 下 土層: F11・F12 中央に遺構あり	上土層: 5(4) 下土層: 12(4)	遺方のみ	-	
SR	5191		古墳1期	3C後	土	I	S4	64	-	(N18°E)	-	-	0.36	-	-	-	-	遺方のみ	-	
SR	5194		古墳3期 -4期	4C後-5C 前	土	I	N20-25	65	-	-	-	-	0.20	-	F1	-	2	遺方なし	-	
SR	5195		古墳4期 -6期	SC前-6C 初	土	I	N26	65-77	-	N69°W	4.83	-	0.25	-	F1	層間や中央 よりに埋戻あり	1(1)	遺方のみ	-	
SR	5200		古墳4期 -6期	SC前-6C 土	土	I	N23	64	-	(N40°W)	-	-	-	-	-	-	-	遺方不明	-	
SR	5219		古墳4期 -6期以前	SC前-6 C初	土	I	SF-R13	64-65	-	(N38°W)	-	-	0.20	-	-	-	3	遺方不明	-	
SR	5222		古墳4期 -6期	SC前-6C 初	土	I	S5	64	-	(N75°W)	-	-	0.11	-	-	-	1	遺方不明	-	
SR	6001	S5601- S5701	内墳5期	SC中-5C 土	土	I	H24-25 M4-5	61-81	隅丸方形	N8°W	6.4	3.0	0.35	-	F2	F1: 北側中央 や西より, F2: 北側部分	11(4)	なし	-	
SR	6003		古墳8期 (新編)	6C末-7C 初	土	I	N11, M15	60	隅丸方形	N47°W	3.7	3.3	0.3	11.02	K1	北西側中央	-	なし	墓域に石室 に近しい。	
SR	6004		古墳4期 -5期以前	SC前-7C 初	土	I	M9-9, 13-14	60	隅丸方形	N18°E	6.1	-	0.1	-	-	-	1(1)	遺方, 墓域 中央F1。	-	
SR	6008		古墳2期 -5期以前	SC前-7C 初	土	I	M8-9	60-61	-	N66°E	3.3	-	-	-	-	-	1	なし	-	
SR	6009		古墳5期 (古墳)	SC中-5C 土	土	I	M8-9, 13-14	60-80	隅丸方形	N37°E	7	6.7	0.1	44.84	-	-	12(4)	遺方のみ	-	
SR	6010		古墳4期 (新編)	SC前-5C 土	土	I	M4-9 10	60-81	隅丸方形	N18°E	7.15	6.5	0.1	45.03	-	-	22(4)	遺方, 墓域 中央に石室 あり, 下土層 に下土層	-	
SR	6011		古墳5期 以前	SC中-5C 土	土	I	M9-14- 15	60	隅丸方形	N21°E	-	-	0.2	-	-	-	4(4)	なし	-	
SR	6012		古墳5期	SC中-5C 土	土	I	M10- N6	60- 61-81	-	N33°W	4.8	-	0.35	-	K1	南側中央	7(4)	なし	埋土・粘土	
SR	6015		古墳4期 -5期	SC前-5C 土	土	I	H24, M 4-5	61	-	(N37°E)	-	-	0.1	-	-	-	-	なし	-	
SR	6020		古墳5期 以前	SC前-5C 土	土	I	H24, M4	61	-	-	-	-	-	-	-	-	-	なし	-	
SR	6024		古墳5期	SC中-6C 土	土	I	M19-20 24-25	59-82	隅丸方形	N37°E	7.79	7.35	0.2	(49.26)	F1	中央や北より	10(4)	遺方のみ	-	
SR	6031		古墳6期	SC末-6C 土	土	I	N5	59	-	(N49°W)	-	-	0.15	-	-	-	-	なし	-	
SR	6032		古墳4期 (新編) -5期	SC前-5C 土	土	I	M24, R4	59	-	N6°W	4.8	-	0.1	-	-	-	4(4)	遺方なし	-	
SR	6034		古墳4期 -6期	SC前-6C 土	土	I	H4-5	59	-	N63°W	-	-	0.2	-	-	-	6	なし	-	
SR	6037		古墳5期	SC中-5C 土	土	I	M19-20	59-60	方形	N38°E	4.4	4.3	0.3	17.41	-	不明	7(3)	遺方(石室 あり)	-	
SR	6041		古代0期 以前	7C前以前	土	I	H3	59	-	(N37°E)	2.8	-	0.35	-	-	-	-	なし	-	
SR	6042		古代0期 以前	7C前以前	土	I	R3-3	58	-	(N70°E)	-	-	-	-	-	-	-	なし	-	
SR	6047		古墳6期	SC末-6C 土	土	I	R3-4, 58-59- 82	-	N70°W	(5.3)	(4.6)	0.25	-	K1	西側中央	6(2)	遺方不明	粘土		
SR	6048		古墳6期	SC末-6C 土	土	I	R3-4-8- 9	58-83	-	N45°W	(6.55)	(5.9)	0.15	(37.88)	K1	西側中央	5(3)	遺方のみ	埋土・粘土	
SR	6056		古墳8期 以前	7C前以前	土	I	R3-10	58	-	(N66°W)	-	-	0.3	-	-	-	-	なし	-	
SR	6061		古墳8期	6C後-7C 初	土	I	R9-10- 14-15	58-83	-	N59°E	5.5	4.45	0.2	22.19	K1	東側中央	7(4)	遺方のみ	粘土	

表15-(3) 弥生時代後期～

第4節 集落域および旧河道域の遺構と遺物出土状況

特徴	色調	土色総記号	遺土の特徴	遺物出土状況	遺物	遺物区	切合関係(古)	切合関係(新)
床面軟弱	暗褐色 -黄褐色	10YR3/3 -2/6	1層	床面軟弱に土層と土。埋土は少ない	土器・玉	101	-	SB5079-SB3080-SB3168・ SB5185-SB5200-SB5264
-	暗褐色	10YR3/3	1層(伊州中央部層)	床面に高灰、瓦など。埋土中は少ない	土器・石器・土・鉄	101	SB5184-SB5200	SB5079-SB5140-SB5176・ SK5343-SK5344
-	灰青褐色	10Y5S/2	1層	埋面軟弱に感	土器	101	-	SK3147-SB5001
部分的に壁面を 形成。壁面に瓦 ・土塊・灰が散在	暗青褐色 -暗褐色	10YR4/6 -2/3	6層	床面地土に土器片多い。下層下層・層方から瓦	石器・瓦・鉄・骨	101	-	SB7036-SH3003・SH3002 (A)・SB5032(B)・SB5052・ SB5117・SH3154-SK4602・ SK5329-SK3329-SH3011P 1P-ST3611E13
壁面が粘土が3 枚あり。手柱穴 内に硬灰あり	灰褐色 -に白い 黄褐色	10YR2/2 -5/4	3層	第3床面直上に土器破片多い。北面土柱穴内に白土層中	土器・石器・土・骨	101・ 102	SB5112	SB5102-SB5119-SH4177・ SB5180-SB5211-SK5304-1 -SK5313-SK5314-SK5322・ SK5327-SB0001-SH0604
-	黒褐色-緑 色	10YR2/2 -4/4	3層(床に面状に灰化層)	床面軟弱上部に硬灰層。埋土中ほとんどなし	-	102	-	SB5172-SB5177-SB5180
明確な柱状。壁(散 きしまる床面)	暗青褐色	2.5YR4/2	1層	床面・埋土中ともに少ない	-	-	-	SB5053-SH4964-SB2103・ SB5119-SB2190-SB5180
床面軟弱	灰青褐色- に白黄褐色	10YR2/2 -5/4	5層(自然底取1・4・5 層に灰化物少量)	床面遺物少量で破片のみ。埋土中は少ない	土器	102	SB3172-SB3183-SB5194	SH4956-SH4310-SK5294
床面軟弱	暗褐色	10YR3/3	1層	-	-	-	SB5166-SB5184	SB5140-SH5185
-	暗褐色 -黄褐色	10YR3/4 -5/6	1層(伊州に粘土灰化物、 床下に灰化層)	-	-	-	-	SB5189-SB5061
-	-	-	1層	-	-	-	-	SB5177-SB5190P4-SB5211
壁面が粘土	灰青褐色	10Y5S/2	1層	北面壁面直から壁など。埋土中に破片	土器・玉・鉄	102・ 103	SH4906-SB4919-SB4922	-
壁面が粘土。カマド は遺構を伴って埋 没。瓦も散在	暗褐色	10YR3/1	1層	カマド面に瓦片散在など。床面軟弱に土層	土器・玉	103	SB4908	SK6069
部分的に壁面を 形成。後の遺構に 埋没。カマドは不明	-	-	-	床面遺物ごく少量	土器	103	SB4908-SB4909	SK4230-SK4241
床面軟弱	不明	-	-	遺物なし	-	-	-	SB4906-SK4934-SK4937 -SK4942
中央やや南より に軟弱	暗褐色	10YR3/3	1層(伊州層に床面直下)	P9中およびP9A東側床面 から壁1点1点	土器	104	SB4906-SB4919- SB5011-SK4941	SH4905-SK4906-SK4945
埋面不明。東壁 中央に灰化層。土 手柱穴の土で塞 ぎあり	黒褐色	7.5YR3/2	1層	床面になし。埋土中は少ない	土器	104	SB4911-SK4938- SK4943-SK4944	SB4909-SK4936-SK4940
床面軟弱	暗褐色	10YK3/3	1層	土柱穴P3横土上部に壁 が崩れた状態の埋土	土器	104	SK4944	SB4909
遺灰層。ごく薄 い粘土	暗青褐色	10YR4/2	7層(床面直上。灰化層)	カマド周囲と北面軟弱 面に土層入埋土	土器・玉・鉄	104・ 105・ 106	-	SB4905-SH4907-SH4913・ SH4912-SK4942
床面は軟弱	褐色	7.5YR4/6	1層	埋土中から少量	土器・玉	106	SH4909-SK4945-SK4944	SB4901-SB4906
床面のみ硬直。 埋面不明	-	-	-	遺物なし	-	-	SK4901	SH4919-SH4921
住居跡破壊。P2 は柱を置くに構 の崩し。遺物と ともに埋没	-	-	4層(自然底層)	P2、P5から資料層など 灰化物を伴って出土。床 面中央に付壁つなれた 状態	土器・玉・鉄	106・ 107	SH4906	SB4903-SB4971-SK4934・ SK4936-SK4937-SK4938・ SK4943-SK4945-SK4947
床面軟弱	黒褐色	10YR2/2	1層	床面に土器破片。隅に同様。 埋土中に破片	土器	107	-	SB4923-SK4909
床面不明。土柱 穴内に硬灰あり。 土柱穴の埋土 の崩壊。土柱は 砂の可能性あり	暗褐色-暗 色	10YR3/4 -4/4	2層	埋土中は破片多い。SK 4946内の遺物はカマド遺 構の可能性あり。埋土中 の破片はP2・P5の埋土 の可能性がある。他に土	土器	107	SB4925	SB4903-SB4935-SB 4937-SB4938-SK 4939
埋面が粘土	暗褐色	10YR3/3	1層	床面・埋土中に破片少ない	土器	108	-	SB4925
床面軟弱。床面直 上から中央。カマ ドは不明	黒褐色 -黄褐色	10YR3/1 -4/2	5層(うち3層は北 壁の土層ブ ロック)	壁土中破片が多い。北面 壁の埋土直下P2・P5 に壁・高灰・土と散在	土器・石器・玉	108	SK4944	SB4927-SH4948-SK4944・ SK4922-SK4928-ST4904P 4-ST4904P3-ST4904P6・ SK4949-SK4950
床面不明	暗褐色	10YR3/3	1層	埋土中破片3片のみ	土器	-	-	SB4948-SK4906-SK4913
床面軟弱	-	-	1層	埋面軟弱に高灰。埋土中 は少ない	土器	-	-	SH4940-SB4944-SB4919-SB4920
中央に粘土	-	-	1層(カマド穴口に埋 土。灰化層)	床面から黄灰。P1底部 から土。埋土中に破片少 量	土器・玉	108	-	SB4943-SB4947-SB4949・ SB4951-SK4952-SK4953・ SK4954-SK4955-SK4956・ SK4957-SK4958-SK4959
埋面不明。カマド跡 は幅40×130と 24×130。埋土は30 cm。北面は壁1層	-	-	1層	P2に壁片。カマドを補助 に灰・黄褐色と前方土層 に壁片と散在。埋土中破 片あり	土器・玉	108	SH4948-SK4938-SK4940・ SK4941-SK4942	SB4943-SB4947-SB4949・ SB4951-SK4952-SK4953・ SK4954-SK4955-SK4956・ SK4957-SK4958-SK4959
埋面不明	-	-	-	-	土器	-	-	SB4925-SB4925-SK4919
埋面が粘土2枚	-	-	3層(全粘土)	埋面直壁面に壁1層1。 埋土中以下層のみ	土器	108	SB4950-SK4949	SB4925-SK4919-ST4902

古墳時代 壑穴住居跡 (SB) 一覧

第3章 弥生時代後期～古墳時代（VI層上面検出）の遺構と遺物

調査区	遺構番号	田道標名・番号	時期	美年代比定	相違区	人地	中地記	図番号	平面形	主軸方位	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	崖面傾(°)	伊・カマド	伊・カマド位置	柱穴(注)	柱穴(注)	カマド構
S3	6057	古墳4期(新橋)	5C前	土0	I	M18-18	59-62-82	-	N29E	4.95	4.65	0.2	20.9	-	-	-	7(4)	東方・南方に金環を有	-
S3	6058	古墳4期～6期	5C前～6C初	土0	I	M23	59	-	N20E	-	4.2	0.3	-	-	-	-	1(1)	なし	-
S3	6065	古墳4期～6期	5C前～6C初	土0	II	M13-14 -18-19	59-66	IF方形	N28W	6.1	5.5	0.1	30.93	K1	西壁中央	27(4)	東方のみ	10層の黄褐色土を穿む土	
S3	6068	内溝4期～6期	5C前～6C初	土0	I	R8-9	58	-	N8E	(5.2)	-	0.1	-	-	-	-	4	東方のみ	-
S3	6070	古墳8期	6C後～7C初	土0	I	K7	58	正方形	N64W	3.5	3.4	0.2	11.81	K1?	西壁	4(4)	東方あり	-	
S3	6072	古代9期以前	7C確以前	土0	I	K1-2	58	-	(N32W)	-	-	-	-	-	-	-	-	なし	-
S3	6073	古墳8期	6C後～7C初	土0	I	R7-8 12-13	58	隅丸方形	N54E	6.7	6.35	0.15	(39.24)	-	-	-	8(4)	東方のみ	-
S3	6078	古墳5期	5C中～5C後	土0	I	M18	59	-	N28W	-	-	0.25	-	-	-	-	5(2)	なし	-
S3	6079	内溝5期以前	5C中～5C後以前	土0	I	M18	59	-	(N28W)	-	-	0.2	-	-	-	-	-	なし	-
S3	6080	古墳4期～6期以前	5C前～6C初以前	土0	I	M18-23	59	隅丸長方形	N29W	(5.2)	4.5	0.2	(24.23)	K1?	(西壁)	3(3)	東方のみ	-	
S3	6083	古墳5期以前	5C中～5C後以前	土0	I	M18-23	59	-	N69W	(4.93)	-	0.05	-	-	-	-	1(1)	東方のみ	-
S3	6084	古墳8期	6C後～7C初	土0	I	R8-12-13	58	方形	N137E	(5.35)	(4.95)	0.2	(25.74)	K1	東壁中央	14(4)	東方あり	堆山	
S3	6086	古墳4期～5期	5C前～5C後	土0	I	M19-20 24-25	59	隅丸長方形	N49W	4.60	3.8	0.25	16.65	F1	中央や中央より	3	東方のみ	-	
S3	6088	古墳1期	3C後	土0	I	M15, N11	60-83	-	N51W	3.9	4.75	0.45	26.54	F1	I9・P19の間	10(4)	東方なし 遺構が全形	-	
S3	6122	古墳5期以前	5C中～5C後以前	土0	I	M5	61	-	(N68W)	-	-	9.17	-	-	-	-	4(4)	なし	-
S3	6126	古墳8期以前	6C後～7C初以前	土0	I	R2-7	58	-	N49W	(4.14)	-	0.1	-	K1	西壁	3(2)	東方のみ	-	
S3	6130	古代1期以前	7C確以前	土0	I	R18	57	-	-	-	-	0.2	-	-	-	-	-	東方のみ	-
S3	6134	古墳5期以前	5C中～5C後以前	土0	I	M18	59	-	(N12W)	-	-	0.2	-	-	-	-	1(1)	東方のみ	-
S3	6135	古墳4期～6期	5C前～6C初	土0	I	M20-21 23-4	59	-	N82E	3.75	-	0.1	-	-	-	-	1(1)	なし	-

表15-(4) 弥生時代後期～

特徴	色調	土色顔記号	埋土の特徴	遺物出土状況	遺物	遺物種	併合関係(古)	併合関係(新)
堅固な陥床	—	—	1層(住居直下に炭層)	床面では正層付近に破片多い。埋土正層の炭化物中に土器破片、床下にも破片	玉・骨	109	—	SB600-SB606-SK6074
床面陥凹	暗褐色	10YR3/3	1層	埋土中に少量	土器	109	SB0980-SB6080-SK6075-SK6357-SK6359-SK6364-SK6318-SK6319	SB6056-SB6090-SK6079-SK6080-SK6379-SB6091
陥床あり、カマド前方に土盛り。柱は3本の柱で土盛り	黒褐色～褐色	7.5YR3/2～4/4	2層	埋土中に破片少量	土器・玉	—	—	SB6038-SB6039-SB6040-SB6063-SB6064-SK6067-SK6019-SK6078
堅固な陥床	黒褐色	10YR3/1	1層	埋土中に破片少量	土器	109	—	SB5943-SB6052-SB6049-SK6103-SK6104-SK6395-SK6398-SK6397-SK6398-SK6399-SK6449
堅固な床面、SK6074に準じた西壁部に土盛りあり、カマドが埋没される	黒褐色	10YR3/2	2層	床面・埋土中ともに破片少量	土器	109	SB6129-SB6132-SK6454-SK6470	SB6046-SB6114-SK6141-SK6149-SK6221-SK6253-SK6284-SK6297-SK6377-SK6667-SK6669
左側のノリ面につき、掘出のみ	—	—	—	—	—	—	SD6013	SB6119-SK6236-SK6238
堅固な陥床、(P2に柱痕跡あり)	黒褐色	10YR3/2	1層	床面中央に破片多い。埋土中に破片少量	土器	—	—	SB6094-SK6448-SK6469-SK6473
床面は堅固	暗褐色～黒褐色	10YR3/3～7/6	3層(自然埋没)	床面表層に破片と遺物の埋没。土2層中に破片多い	土器・玉・骨	109	SB0083-SB6128-SK6365-SK6366-SK6367-SK6369	SB6036-SK6073
床面は堅固	—	—	1層	埋土中なし	—	—	—	SB6010-SK6071-SK6072-SK6365
床面は堅固。埋没の程度から高壇にカマドが構築される	黒褐色	10YR3/2	1層	北壁付近の床面に土器	土器	—	—	SB0038-SB6056-SB6058-SB6060-SK6079-SK6090-SK6359-SK6360-SK6361-SK6362-SK6364-SB6081
中央部に堅固な陥床。その上に炭の層	にじみ・黄褐色	10YR4/3	1層	埋土中に少量。床面壁際に炭が堆積した土器片	土器	—	—	SB6054-SB6055-SB6060-SB6078-SB6080-SB6134-SK6073-SK6378
堅固な陥床	黒褐色	10YR3/2	1層	床面土柱穴の内側に破片多い。埋土中破片が全体に多い	土器・石器	110	SB6459-SK6473	SB6054-SB6073-SB6074-SK6098-SK6129-SK6124-SK6136-SK6444-SK6413-SB6084
堅固な陥床	暗褐色～明黄褐色	10YR4/1～7/6	3層(床面直上土層4/5全層に炭層)	床面表層中に破片	土器	110	—	SB6004-SB6071-SK6351-SK6352-SK6353
伊賀辺に陥床	—	—	3層	ほぼ定形土器が西壁部床面で出土。埋土中土器少ない	土器・石器	110	—	SB6093-SB6096-SB6076-SB6077-SK6014-SK6088-SK6089-SK6390-SK6397
床面堅固	褐色～黄褐色	10YR4/4～5/4	2層(P13:14区、地土30%)	遺物なし	—	—	—	SB6001-SB6096-SB6097
堅固な陥床。(西壁中央部の床面に炭化物が堆積している部分のカマドと推定した)	黒褐色	10YR3/2	1層	カマド左側の床面に炭化物中に破片。埋土中遺物少ない	土器	—	—	SB6044-SB6086-SB6070-SB6116-SB6119-SB6132-SK6240-SK6384-SK6385
堅固な陥床	—	—	1層	埋土中に破片少量	土器	—	—	SB6053-SB6052-SB6074-SB6101-SB6117-SK6137-SK6441
床面は軟弱。土盛り調査区外	黒褐色	10YR3/1	1層	埋土中に少量	土器	—	SD6003	SB6054-SB6078-SB6083-SK6369
堅固な陥床	明褐色	10YR3/3	1層(自然陥床)	埋土中に少量	土器	—	—	SB6033-SB6047-SK6096-SK6091-SK6227-SK6342-SK6343-SK6344

古墳時代 堅穴住居跡(SB)一覽



例が多いこと、135も胴部に最大径をもつことから、これらカマド芯材土器のセットは古墳7期と認定される。それはすなわち本住居跡の構築年代として捉えられる。

SB5097 (図73、PL15)

カマド：本住居跡のカマドは地山を袖として掘り残し、更にその上に粘土を積み上げて構築されている。カマド検出段階で、袖、火床、燃焼部内壁の焼土が残存し、焼土を挟んで火床の上部に天井が崩落している様子が観察された。カマドの構築粘土の崩落土と推定される1層中には杯類が廃棄され、支脚石は抜き取られている。**床面遺物**：カマド両脇の床面直上からは壺、杯、高坏などが押し潰された状態で石器や炭化材とともに検出され、古墳8期の良好なセットを構成している。完形土器が多く検出された住居跡北側は、VII層に類似した土が厚く堆積しているため、土器を遺棄したまま埋め戻したものと推測される。

SB5102 (図65)

本住居跡は北側に破壊された状態と推測されるカマドを有し、その西側床面に炭化物の廃棄場が検出されている。床面から数cm浮いた状態で直径5cm程度の礫がカマドの西側に集中している。西壁南より床面にも10cm程度の石が7点ままとまっている。

SB5136 (図75、PL16)

建て替え：本住居跡は堅固な貼床を一枚有するだけであるが、主柱穴がそれぞれ柱痕を2つ以上もつことから柱の立て替えが推定される。P1・P3・P4はいずれも内側の柱痕が外側の柱痕よりも古いことから内側から外側へ柱だけが立て替えられたと推定されるが、P2は逆に外側の柱痕の方が古い。4本とも古い方の柱痕には非常に堅い灰色粘土が礎盤の代わりもしくは根固めとして用いられている（P1の4・5層、P3の6・7層、P4の4・5層）。P2の埋土からは高坏の脚部、骨、鉄製品が出土している。**炉とカマド**：住居跡中央部に炭化物を伴う焼け面、P1周辺および西壁中央部に焼土廃棄ブロックが見られることから中央部の施設は炉と判断される。更に住居跡東壁ではカマドが完全に破壊された状態で検出され、中央部に支脚石を抜いた穴が確認された。カマド破壊土中に高坏・杯・壺などが折り重なった状態で廃棄されている。**床面遺物**：床面からは土器破片の他に白玉・棒状鉄製品が出土している。**時期**：カマドおよび床面の土器から本住居跡は古墳5期と認定される。**掘方**：掘方は外周部が10cmほど深く掘られており（図153）、この溝状の部分の南側から2点、東側から6点、北側から1点、西側から1点白玉が出土している。イノシシ・ニホンジカ・トリの骨も床下で多く出土している。

SB5189 (図78、PL13)

規模：本住居跡は本集落最大規模で10.74m×10.6mを測る。**カマドほか**：カマドは住居跡の北側を切るSB5134床下で検出された焼土だまりが該当する可能性があるが、床面北側および南西隅を中心に炭化物を伴わない焼土塊が、南東部分には灰が多量に検出されている。**遺物**：中～下層に多く焼土内からも出土しているが、床面のものは極めて少ない。また埋土からは白玉4点、管玉1点が出土した。このことから本跡では家屋の廃棄時に家屋を意図的に焼く行為が行われたか、あるいは多量の焼土塊や灰が廃棄された可能性を有する。**掘方**：床下には南東コーナーにはL字状を呈する溝状遺構が検出されており、掘方の特殊なものと考えられる。掘方からは白玉が2点とウマの骨が出土した。

SB5190 (図79・80、PL13)

床の貼り替え：本住居跡は床面の貼り替えから同一プランで3段階の変遷を追うことができる。以下調査順に新しい方から第1段階・第2段階・第3段階と仮称する。**第1段階**：貼床は住居跡中央部に限定され、地床炉を伴うが所属施設は不明。**第2段階**：床面は厚さ2cm程度の貼床で、第3段階の柱穴であるP5を埋め戻して掘り直したP2および第3段階の主柱穴であるP1・P3・P4のうち新しい柱痕部分が主柱穴である。炉は中央やや西よりに1基。**第3段階**：貼床は2～4cm程度で主柱穴よりも内側に貼られて

いる。ただしP6は柱の部分避けて柱穴の上まで貼られている。本段階の主柱穴はP1・P3・P4・P6でいずれも直径40cm程度の礎盤を有する。P1では廃絶時の抜き取り痕が観察された。炉は中央東よりに1基あり、火床部分はかなり堅く焼けている。床面南西隅には炭化物が廃棄されている。遺物と時期：本住居跡の遺物は第3段階床面直上で土器破片が多く古墳5期と認定している。また北側の主柱穴と炉に挟まれた部分の床直からは白玉が集中的に出土している。更に⑥区湧水坑から持ち込まれたと考えられる摩耗土器片が1点出土している。本住居跡の埋土中出土遺物も古墳5期が多くを占めるため、第1段階・第2段階とも古墳5期の範囲内で捉えられる。掘方：掘方はやや外側が深いものの、SB5136やSB5189のような定型的な溝ではない。ただし掘方からイノシシ・ニホンジカの骨・歯類が多く出土している点でSB5136に共通する。

SB6012 (図81、P L17)

焼失状況：本住居跡は焼失住居である。主柱穴であるP4からは炭化した柱(カエテ属)が立った状態で検出された。また、その他の住居構築材(カエテ属・コナラ属)も炭化して中央を向いて放射状に倒れている。カマド前方部床面には焼土が面的に広がる。遺物：床面出土土器はカマドの東脇とその延長の北側に集中する。これらはつぶれた状態であるもののかかなり細かく割れた状態で、大量に出土している。カマド西脇からも少量の土器が出土しているがいずれも破片である。カマド：カマドは軸を残して既に破壊されており、明確な火床は存在しない。ただし高坏を逆にして2点重ねた支脚(443・448)が残存している。

(2) 掘立柱建物跡(ST) (図84・85、表16)

掘立柱建物跡の記載はすべて表16に示した。

(3) 土坑(SK) (図85、表17)

土坑は⑤区集落のほぼ全域に分布する。弥生・古墳期土坑の詳細な説明は表17に掲載したが、このほかに古墳～古代の時期幅で捉えられるものもある(『古代編』掲載予定)。井戸跡は東側のSK5179とSK5465の2基のみで、そのほかは柱穴や貯蔵穴などになる可能性があるものが含まれる。

(4) 溝(SD) (図86、表18)

集落域の溝のうちSD4051は、④区から⑤b区中央を北北東から南南西へ縦断する。南側は緩やかに傾斜するが、北側はかなり平坦である。時期的には⑤区北側のSD5019からSD5020に連結する可能性があるが埋土の比較からは明確には断定しがたい。この溝の南側では東西方向に交わる平行な溝が3本検出されている。

(5) 祭祀関連施設(SH・SK・SD・SX) (図86・87、PL19)

ここでは、その立地や形態から生活および生産活動に直接関わるとは判断できない特殊なものを祭祀関連遺構として取り上げることとする。

SH5001・SK5038 (図86)

位置：集落域である⑤区で確認された、土坑(SK5038)の周りに礎盤(SH5001)を伴う遺構である。属性：一覧表参照。特徴：土坑を中心として周囲に浅い掘り込みがみられ、東南東方向を開放するC字状に礎が敷かれている。礎は、0.4～11cm、0.1～345gを測り、合計3342点、41.1kgに達する。礎盤の下にベンガラ集中域が2カ所確認されている。おそらく礎を敷く前段階で意識的に配されたものと思われる。土坑は素掘であり、掘り込みの浅さや堆積状況からみて井戸としては機能していない。遺物：土坑中から小型丸

底壺（630～632）、礫敷中から土製丸玉（玉NO.167）が出土している。時期：古墳4期。所見：SB5039床面にも礫が敷かれている部分がある。このように礫を敷き詰める行為はこの2遺構のみに認められ、ある種の祭祀的な施設と考えられる。

SD7068・SX7038（図87）

SD7068

概要：屋代遺跡群⑥区の千曲川旧河道への傾斜地に位置する。SD7068は、縄文面の平行調査と後代の遺構による削平によりその全貌を知ることはできなかったが、素掘の溝の一部とそこに連結して設置された大小の木樋2基が確認できた。**植物体：**検出時点では木樋直上に植物体の堆積が認められた（PL19）。風化が進んでいたためサンプルのみ採取したが、細い丸木と板状のものが組まれた状況が見てとれ、ある段階で人為的に木樋の上を覆ったものと考えられる。**導水：**木樋は板材や枕などが補助材として設置されており、水が小木樋から大木樋へ導水され、下方に設置されたSX7038に至る構造となっている。水は湧水坑から取水されたものと思われるが、前述のように縄文面を先行して調査したために特定することができなかった。よって直接湧水坑から小木樋に導水されたか、器物などによって流されたかは不明であるが、木樋の規模からみて流量はそれほど多くなかったものと思われる。**遺物：**遺物は溝上部に木製刀形（図130-1）が確認され、大木樋の脇に須恵器匙（図112-613）が置かれた状態で出土した。両者とも祭祀的な要素をもつものであり、この遺構の性格付けの上で重要な資料である。他に土師器などが数点出土したが、出土状況から木樋に覆いがなされた段階のものである可能性が高く目立った廃棄の状況は見られない。おそらく木樋が機能していた段階では周囲が清浄にされていたものと思われる。

SX7038

概要：SD7068の下方は一旦傾斜が緩やかになったテラス状の部分がある。そこを直径4～5mほどの範囲で浅く掘り、再び川に向かって傾斜が急になる境に礫を堤状に積んだ施設が確認された。堤は土盛りと礫積みが併用されており、おそらく漏水防止を目的にしていたものと思われる。一部柱材などの木製品が構築に利用されている。**属性：**一覧表参照。**構造：**上方のSD7068と一体の施設と考えられ、木樋によって導水された水を一度堤内に貯水する役割をもっていたようである。**時期：**古墳5～6期。**遺物・所見：**遺物は堤内に混じった土器片や木製品のほかはほとんどなく、SD7068同様に周囲が清浄に保たれていたようである。

この導水・貯水施設は立地からみて生産や生活に直接関わるものとは考えにくく、出土遺物などからみて湧水に関わる祭祀施設であったと思われる。

SD7072

概要：⑥区傾斜面に確認された湧水坑である。これを起点として下方に溝が掘られていたと考えられるが、検出段階で湧水坑が出てしまったこと、古代の湧水施設（SX7035）に切られていたことによりその全貌は不明である。**属性：**一覧表参照。**時期：**SD7068・SX7038とSX7035の間に古墳後期の土器を含む堆積層（SD7055）があり、この段階に掘られたものと考えられる。あるいはSX7035の段階でも湧水坑として機能していたかもしれない。**遺物：**遺物は湧水坑脇に体部穿孔がなされた土師器壺（図112-626）が1点確認された。**所見：**やはり湧水に関わる祭祀と関連がありそうである。

遺跡 位置 区 号	遺構 番号	遺構時期	遺構区 域	中地区	平面形	断面 類型	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	色調	土色概 記号	附随状況(シントリ以 外の場合のみ)	遺物	遺物図	備考	
BYS 5b	SK 5644	前期～後期	65	I	N24	円形	A	0.46	0.46	0.18	褐色	10YR4/4	1層 (出土状況不明)			
BYS 5b	SK 5653	後期	66	I	N5	楕円形	C	0.62	0.48	0.4	暗灰黄色～灰 ナリ～多色	2.5Y4/2～5 3Y3	2層 1・2層(主に土鏡・ 指輪・布の残片等)	112		
BYS 5b	SK 5662	6期古墳	19.66-85	I	O11	円形	A	0.91	0.85	0.57	不明	不明	不明	112, 113		
BYS 5b	SK 5143	後期	63	I	S11	円形	A	0.9	0.86	0.56	不明	不明	不明	113		
BYS 5b	SK 5153	5C	64	I	O11	楕円形	A	1.45	1.27	0.28	暗灰黄色	2.5Y4/2	1層 (灰化跡あり)			
BYS 5b	SK 5179	4期～5期	84	I	O6-11	円形	C?	0.45	0.33	0.7	黒褐色～灰褐色	10YR3/2～4/2	2層(土鏡・灰化 跡・指輪等)			
BYS 5b	SK 5180	7期山岳	66	I	O7	円形	C	0.3	0.25	0.19	黒褐色	2.5Y2/1	2層(土鏡)			
BYS 5b	SK 5183	5C?	66	I	O11	円形	C	0.68	0.6	0.48	黒褐色～灰褐色	10YR3/1～4/2	4層(1・2層:土鏡)			
BYS 5b	SK 5195	5期	66-85	I	O11	楕円形	A	1.83	1.18	0.28	黒褐色	10YR3/1	1層	113		
BYS 5b	SK 5200	5C?	66	I	O6	楕円形	G	1.64	1.28	0.79	暗灰黄色	2.5Y4/2	4層			
BYS 5b	SK 5207	1・2期～7期	66	I	O7	円形	B	0.22	0.21	0.31	黒褐色	10YR4/1	1層			
BYS 5b	SK 5216	6期～7期	66	I	O11	円形	F	1.25	1.1	0.6	黒色～灰黄色	10YR2/1～4/2	3層(土鏡・指輪・ 指輪に灰化跡あり)			
BYS 5b	SK 5219	5C?	65	I	N18-O11	楕円形	不明	0.31	0.29	0.28	暗灰黄色	2.5Y4/2	1層(土鏡・フラスコ)			
BYS 5b	SK 5225	1・2期～7期	66	I	O7	円形	B	0.32	0.3	0.51	黒褐色	10YR3/1	1層			
BYS 5b	SK 5226-1	2期～6期	66	I	O6	円形	A	1.65	1.55	0.28	暗灰黄色	2.5Y4/2	1層			
BYS 5b	SK 5229-2	5C	65	I	N25	円形	E, F	1	0.94	0.55	暗灰黄色	2.5Y4/2	1層			
BYS 5b	SK 5231	5C?	66	I	N10	円形	B	0.51	0.43	0.55	暗褐色	10YR3/4	1層			
BYS 5b	SK 5232	5C-6.5期以前	66	I	N10	楕円形	F	1.17	0.98	0.4	暗褐色	10YR3/4	1層			
BYS 5b	SK 5235	1期～7期	66	I	O7	不明	不明	1.30	1.08	0.21	暗灰黄色	2.5Y4/2	1層			
BYS 5b	SK 5236	5期～6期	66	I	O6	不明	不明	1.30	1.08	0.21	暗灰黄色	2.5Y4/2	1層			
BYS 5b	SK 5237	1期～2期	66	I	O7	楕円形	F	0.47	0.38	0.29	不明	不明	不明	土鏡破片		
BYS 5b	SK 5238	1期～2期	66	I	O7	楕円形	A	0.89	0.55	0.43	不明	不明	不明			
BYS 5b	SK 5244	2・3期以前	66	I	O2	円形	F	0.69	0.66	0.43	黒褐色	2.5Y2/1	1層			
BYS 5b	SK 5255	5期以前	66	I	O12	不明	A?	0.89	0.80	0.24	不明	不明	不明			
BYS 5b	SK 5256	2期以後	66	I	O11	楕円形	F	0.75	0.47	0.69	不明	不明	不明			
BYS 5b	SK 5257	5期以前	66	I	O12	円形	F	0.46	0.46	0.2	不明	不明	不明			
BYS 5b	SK 5259	5C?期以前	66	I	O6	不明	不明	1.84	0.27	0.32	黒褐色～暗灰色	10YR3/1～5/2	2層(7層より検出)			
BYS 5b	SK 5261	5C?	65	I	O11	不明	不明	0.63	0.39	0.7	不明	不明	不明	113		
BYS 5b	SK 5272	8期以前	65	I	N15	円形	A	0.29	0.28	0.11	黒褐色	10YR3/1	1層			
BYS 5b	SK 5274	8期以前	66	I	N15	円形	A	0.34	0.33	0.35	黒褐色	10YR3/1	1層			
BYS 5b	SK 5279	8期以前	66	I	N15	円形	A	0.62	0.56	0.64	黒褐色	10YR3/1	1層(灰化跡あり)			
BYS 5b	SK 5284	2・3期以前	66	I	O2	円形	A	0.57	0.5	0.44	黒褐色～灰褐色	10YR3/2～4/2	1層			
BYS 5b	SK 5285	2・3期以前	66	I	O2	不明	不明	0.30	0.33	0.28	灰黄色～土上 に灰化跡あり	10YR4/2～4/2	1層			
BYS 5b	SK 5288	2～3期以前	66	I	O2	円形	A	0.47	0.42	0.59	不明	不明	不明			
BYS 5b	SK 5289	2～3期以前	66	I	O2	不明	A	0.3	0.13	0.11	不明	不明	不明			
BYS 5b	SK 5293	5C?	65	I	N20	不明	A	0.54	0.47	0.48	不明	不明	不明			
BYS 5b	SK 5287	6期～6期	65	I	N25	楕円形	C	1.01	0.76	0.25	黒褐色	10YR3/1	1層(灰化跡あり)			
BYS 5b	SK 5304	6期山岳	67	I	S1	円形	C	0.61	0.37	0.22	灰黄色～土上 に灰化跡あり	10YR4/2～5/6	1層			

表17-(*) 弥生時代後葉～古墳時代土坑 (SK) 一覧

遺構 位置	区域	遺構 番号	報告時期	遺構図	大地区	中地区	平面形状	断面 類型	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	色調	土色 記号	埋没状況(シメント 外の割合のみ)	遺物	透射図	備考
BYS 5b	SK	S335	6期以前	67	I	S1	円形	A	0.7	0.7	0.22	灰褐色-に 多い灰褐色	不明	不明	不明	113	
BYS 5b	SK	S340	4期-5期	65	I	N20	楕円形	A	0.63	0.47	0.15	不明	不明	不明	不明	113	
BYS 5b	SK	S341	SC 7	65	I	N20, O16	楕円形	A	0.9	0.55	0.44	不明	不明	不明	不明	不明	不明
BYS 5b	SK	S353	7期-8期以前	65	I	N24	円形	A	0.65	0.6	0.3	不明	不明	不明	不明	不明	不明
BYS 5b	SK	S354	7期-8期以前	65	I	N24	楕円形	C	0.58	0.45	0.14	不明	不明	不明	不明	不明	不明
BYS 5b	SK	S355	7期-8期以前	65	I	N19	不明	不明	0.23	0.63	0.31	不明	不明	不明	不明	不明	不明
BYS 5b	SK	S357	7期-8期以前	65	I	N19	円形	A	0.53	0.49	0.18	不明	不明	不明	不明	不明	不明
BYS 5b	SK	S375	1-2期以前	66	I	O7	円形	F	0.28	0.28	0.28	黒褐色-に多い 黒褐色-灰褐色	不明	不明	不明	不明	不明
BYS 5b	SK	S380	発見5期以前	66	I	O6	円形	F	0.44	0.42	0.23	黒褐色	不明	不明	不明	不明	不明
BYS 5b	SK	S381	発見5期以前	66	I	O6	楕円形	F	0.48	0.34	0.22	黒褐色-に多い 黒褐色-灰褐色	不明	不明	不明	不明	不明
BYS 5b	SK	S382	発見5期以前	66	I	O6	楕円形	A	0.44	0.3	0.22	黒褐色-灰褐色	不明	不明	不明	不明	不明
BYS 5b	SK	S383	7期以前	66	I	O11	楕円形	F	1.06	0.52	0.56	黒褐色-に多い 灰褐色	不明	不明	不明	不明	不明
BYS 5b	SK	S384	発見5期以前	66	I	N10	円形	B	0.46	0.4	0.42	黒褐色	不明	不明	不明	不明	不明
BYS 5b	SK	S385	発見5期以前	66	I	N10	楕円形	A	0.6	0.54	0.2	黒褐色	不明	不明	不明	不明	不明
BYS 5b	SK	S387	2-3期以前	66	I	O2	円形	A	0.3	0.26	0.1	黒褐色-に多い 黒褐色	不明	不明	不明	不明	不明
BYS 5b	SK	S386	2-3期以前	66	I	O2	円形	A	0.16	0.16	0.1	黒褐色-に多い 黒褐色	不明	不明	不明	不明	不明
BYS 5b	SK	S391	8期以前	65	I	N15	円形	A	0.28	0.24	0.11	黒褐色-に多い 黒褐色	不明	不明	不明	不明	不明
BYS 5b	SK	S393	8期以前	66	I	N10	楕円形	F	0.6	0.3	0.5	黒褐色-に多い 黒褐色	不明	不明	不明	不明	不明
BYS 5b	SK	S396	4期-6期以前	66	I	N5	楕円形	A	2.1	1.4	0.44	黒褐色-に多い 黒褐色	不明	不明	不明	不明	不明
BYS 5b	SK	S402	5期	66	I	O11	円形	B	0.28	0.26	0.24	黒褐色-に多い 黒褐色	不明	不明	不明	不明	不明
BYS 5b	SK	S414	4期以前	65	I	N18	円形	F	0.5	0.48	0.26	黒褐色-に多い 黒褐色	不明	不明	不明	不明	不明
BYS 5b	SK	S417	4期以前	65	I	N23	楕円形	E	0.6	0.4	0.38	黒褐色	不明	不明	不明	不明	不明
BYS 5b	SK	S418	4期以前	67	I	N23	楕円形	B	0.58	0.33	0.4	黒褐色-に多い 黒褐色	不明	不明	不明	不明	不明
BYS 5b	SK	S419	4期以前	67	I	N23	円形	A	0.4	0.38	0.1	黒褐色-に多い 黒褐色	不明	不明	不明	不明	不明
BYS 5b	SK	S422	6期以前	64	I	N23	楕円形	A	0.46	0.38	0.15	黒褐色-に多い 黒褐色	不明	不明	不明	不明	不明
BYS 5b	SK	S423	4期-6期以前	64	I	N24	円形	B	0.36	0.32	0.36	黒褐色-灰褐色	不明	不明	不明	不明	不明
BYS 5b	SK	S429	5C	65	I	N24	楕円形	A	1.02	0.9	0.29	黒褐色	不明	不明	不明	不明	不明
BYS 5b	SK	S430	6期以前	64	I	N23, S3	円形	F	0.44	0.43	0.33	黒褐色-に多い 黒褐色	不明	不明	不明	不明	不明
BYS 5b	SK	S435	6期以前	64	I	N23	円形	A	0.3	0.3	0.14	黒褐色-に多い 黒褐色	不明	不明	不明	不明	不明
BYS 5b	SK	S436	6期以前	64	I	S3	円形	B	0.6	0.62	0.54	黒褐色-灰褐色	不明	不明	不明	不明	不明

表17-(3) 弥生時代後期～古墳時代土坑 (SK) 一覧

遺構 番号	遺構 位置	遺構 番号	報告時期	遺構図	大地 区	中地区	平面形	断面 類型	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	色調	土色層 記号	層状状況(シムト区 外の場合のみ)	遺物	遺構 備考
BYS 5b SK 5446		54	山腰～植民?		I	S3	円形	B	0.42	0.4	0.5	黒褐色～ 黒褐色に 多い	10YR3/2-4/3 4.0%, 60%	1層(黄土・灰化層)		
BYS 5b SK 5467		65	4期以前		I	N20	円形	A	0.34	0.3	0.2	黒褐色～ 黒褐色に 多い	10YR3/2-4/3 4.0%	1層		
BYS 5b SK 5453		65	4期以前		I	O16	円形	B	0.3	0.28	0.24	黒褐色～ 黒褐色に 多い	10YR2/2-4/3	1層		
BYS 5b SK 5459		65	4期以前		I	O16	円形	B	0.42	0.4	0.42	黒褐色～ 黒褐色に 多い	10YR3/2-4/3	1層		
BYS 5b SK 5461		65	3期～4期以前		I	O21	円形	B	0.44	0.4	0.38	黒褐色～ 黒褐色に 多い	10YR3/2-4/3	1層(灰化層ごく少量)		
BYS 5b SK 5463		65	3期～4期以前		I	O16	円形	B	0.44	0.4	0.46	黒褐色～ 黒褐色に 多い	10YR3/2-4/3	1層(灰化層ごく少量)		
BYS 5b SK 5465		66-64	8期以前		I	N15	楕円形	B	2	1.68	(0.88)	黒褐色	10YR2/2	2層(1:1層以上 2:2層以上)		井戸跡
BYS 5b SK 5466		65	4期～6期以前		I	N20	円形	B	0.3	0.28	0.4	黒褐色～ 黒褐色に 多い	10YR3/2-4/3	1層		
BYS 5b SK 5468		65	7期～8期以前		I	N20	円形	F	0.34	0.34	0.28	黒褐色～ 黒褐色に 多い	10YR3/2-4/3	1層		
BYS 5b SK 5469		65	1期以前		I	N19-N24	円形	C	0.5	0.5	0.16	黒褐色～ 黒褐色に 多い	10YR2/2-3/2 30%	1層		
BYS 5b SK 5470		65	7期～8期以前		I	N24	円形	B	0.44	0.4	0.46	黒褐色～ 黒褐色に 多い	10YR3/2-4/3 4.0%, 60%	1層(灰化層含む)		
BYS 5b SK 5473		65	4期以前		I	N20	円形	F	0.26	0.26	0.16	黒褐色～ 黒褐色に 多い	10YR3/2-4/3 4.0%, 60%	1層		
BYS 5b SK 5498		65	5期～7期		I	N20	円形	C	1.1	0.8	0.25	黒褐色～ 黒褐色に 多い	10YR3/2-4/3	5層	甌土中、高杯	
BYS 5a SK 6006		61	3期		I	N6	(楕丸五角形)	C	0.8	0.6	0.22	褐色	10YR4/4	1層	114	
BYS 5a SK 6021		61	1期～2期		I	M4	楕円形	B	0.85	0.75	0.48	暗褐色	10YR3/3	3層(2層に灰化 物混入50%左右)	2層に土層	
BYS 5a SK 6024		61	4期		I	N6	楕円形	A	0.59	0.48	0.21	暗褐色	10YR3/3	1層	甌土中上跡多量	
BYS 5a SK 6044		59-60	5期		I	M19	円形	A	0.62	0.61	0.13	暗褐色	10YR3/1	1層		
BYS 5a SK 6074		59	4期以降SC代		I	M18	円形	A	0.67	0.6	0.06	褐色	10YR4/1	1層		
BYS 5a SK 6075		59	5期以降SC代		I	M23	楕円形	F	0.9	0.64	0.41	黒褐色	10YR3/2	1層		
BYS 5a SK 6076		59	中身～後身?		I	M13	楕円形	A	0.72	0.68	0.2	暗褐色	10YR3/3	1層		
BYS 5a SK 6087		59	後身?		I	R3	楕丸五角形	F	0.65	0.5	0.38	暗褐色	10YR3/3	1層		
BYS 5a SK 6088		59	中身～後身?		I	R3	楕丸五角形	F	0.68	0.50	0.15	黒褐色	10YR3/2	1層		
BYS 5a SK 6089		59	中身～後身?		I	R3	楕丸五角形	F	1	0.49	0.44	黒褐色	10YR3/2	1層		
BYS 5a SK 6111		58	5C		I	R7	楕円形	A	0.75	0.64	0.17	暗褐色	10YR3/2	1層		
BYS 5a SK 6254		58	後身?		I	R7	楕円形	C	0.45	0.37	0.13	黒褐色	10YR3/2	1層		
BYS 5a SK 6286		19-59	7期		I	R4	円形	A	1	0.85	0.33	暗褐色	10YR3/3-3/4 甌土混入含む	3層(2層を中心に 甌土混入含む)	114	
BYS 5a SK 6289		58	7期		I	R6	円形	C	0.32	0.24	0.26	暗褐色	10YR3/3	1層		
BYS 5a SK 6296		58	7C以降		I	R2	円形	C	0.32	0.32	0.15	暗褐色	10YR3/3	1層		
BYS 5a SK 6349		59	8期		I	M24	楕円形	A	(0.68)	0.67	0.21	暗褐色	10YR3/3	1層		
BYS 5a SK 6352		59	SC?		I	M19	円形	A	0.55	0.55	0.16	黒褐色～暗褐色	10YR2/2-3/2 60%に土層	2層(土層～SB 60%に土層)	114	
BYS 5a SK 6354		59	SC?		I	M25	円形	B	0.25	0.31	0.26	暗褐色	10YR3/2	1層		
BYS 5a SK 6357		59	5C以降		I	M23	小楕円形	A	0.6	0.3	0.11	暗褐色	10YR3/3	1層		

表17-(4) 弥生時代後期～古墳時代土坑(SK)一覽

遺構番号	遺構形状	大地区	中地区	平面形状	断面形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	色調	土色表記号	押検状況(シルト以外の割合の%)	遺物	遺物区	備考
BYS 5a	SK 6359		M23	円形	B	0.38	0.35	0.6	暗褐色	10YR2/3	1層			柱穴状
BYS 5a	SK 6363		M23	円形	A	0.26	0.25	0.11	暗褐色	10YR2/3	1層			
BYS 5a	SK 6364		M23	円形	A	0.26	0.25	0.11	暗褐色	10YR2/3	1層			
BYS 5a	SK 6365		M23	隅丸長方形	A	0.68	0.45	0.18	暗褐色	10YR2/3	1層			
BYS 5a	SK 6366		M18	正方形	C	2.88	0.45	0.45	暗褐色	10YR2/3	<不明>			
BYS 5a	SK 6367		M18	正方形	A	0.93	0.78	0.28	暗褐色	10YR2/3	1層(焼土混1%)			
BYS 5a	SK 6368		M18	楕円形	F	1.07	0.79	0.2	暗褐色	10YR2/3	1層			
BYS 5a	SK 6369		M18	(円)	F	(0.6)	0.75	0.25	暗褐色	10YR2/3	1層			
BYS 5a	SK 6369		M18	(楕円形)	C	(0.55)	0.85	0.33	暗褐色	10YR2/3	1層			
BYS 5a	SK 6378		R3	楕円形	A	0.76	0.54	0.3	黒褐色～暗褐色	10YR2/2-3/2	2層			
BYS 5a	SK 6379		R3	楕円形	A	0.9	0.53	0.33	黒褐色	10YR2/2	1層(焼土混7%)			
BYS 5a	SK 6380		R3	(円)	A	0.55	(0.3)	0.27	暗褐色	10YR2/3	1層			
BYS 5a	SK 6381		R3	(円)	A	(0.3)	(0.26)	0.08	暗褐色	10YR2/3	1層			
BYS 5a	SK 6388		R3	円形	A	0.28	0.27	0.16	暗褐色	10YR2/2	1層			
BYS 5a	SK 6390		R9	(楕円形)	A	(0.33)	0.59	0.2	黒褐色～暗褐色	10YR2/2-3/2	3層(焼土混1%) 1層(焼土混40%) 2層(焼土混40%) 3層(焼土混40%)			
BYS 5a	SK 6409		M6	楕円形	A	0.86	0.71	0.09	上記の暗褐色～黒褐色	10YR2/2-3/2	3層(焼土混40%) 2層(焼土混40%) 3層(焼土混40%)			焼土混じりと思われる
BYS 5a	SK 6421		M6	楕円形	A	0.86	0.78	0.13	暗褐色	10YR2/3	1層			
BYS 5a	SK 6424		M10	楕円形	A	0.86	0.5	0.3	暗褐色	10YR2/3	3層(2層は焼土混3層との間に灰層あり、灰もみ混じり) 2層(1層は中級土混2%を含む)			114
BYS 5a	SK 6448		R7-12	隅丸長方形	A	1.23	(0.95)	0.32	暗褐色～暗褐色	10YR2/2-3/2	2層			
BYS 5a	SK 6451		R4	楕円形	F	0.4	(0.26)	0.27	暗褐色	10YR2/3	1層			
BYS 5a	SK 6454		R7	楕円形	A	0.53	0.46	0.2	暗褐色	10YR2/2	1層			
BYS 5a	SK 6456		M19	(隅丸長方形)	A	0.96	(0.8)	0.2	暗褐色	10YR2/1	1層			
BYS 5a	SK 6459		M19	不整形	A	0.31	0.66	0.29	暗褐色	10YR2/3	1層			
BYS 5a	SK 6464		M19-20	楕円形	E	0.55	0.38	0.71	暗褐色	10YR2/3	1層			
BYS 5a	SK 6470		R7	円形	C	0.2	0.19	0.15	暗褐色	10YR2/2	1層			柱穴状
BYS 5a	SK 6473		R12-13	楕円形	A	0.55	0.45	0.16	暗褐色	10YR2/3	1層			
BYS 5a	SK 6506		M17	楕円形	C	0.3	0.49	0.51	暗褐色	10YR2/3	1層(焼土中級土混1%)			
BYS 5a	SK 6518		M23	円形	C	0.67	0.62	0.34	暗褐色	10YR2/3	1層			114
BYS 5a	SK 6519		M23	円形	A	0.34	0.34	0.09	暗褐色	10YR2/3	1層			表層下に土層
BYS 5a	SK 6534		M4	円形	C	0.2	0.17	0.18	暗褐色	10YR2/1	1層(焼土あり)			
BYS 5a	SK 6539		M9	円形	A	1	1	0.23	暗褐色	10YR2/3	1層			中級あり
BYS 5a	SK 6543		M9-10	M形	F	0.84	0.8	0.52	暗褐色	10YR2/3	不明			
BYS 5a	SK 6544		M14	円形	B	0.75	0.58	0.63	暗褐色	10YR2/2	1層			

表17-(3) 弥生時代後期～古墳時代土坑 (SK) 一覧

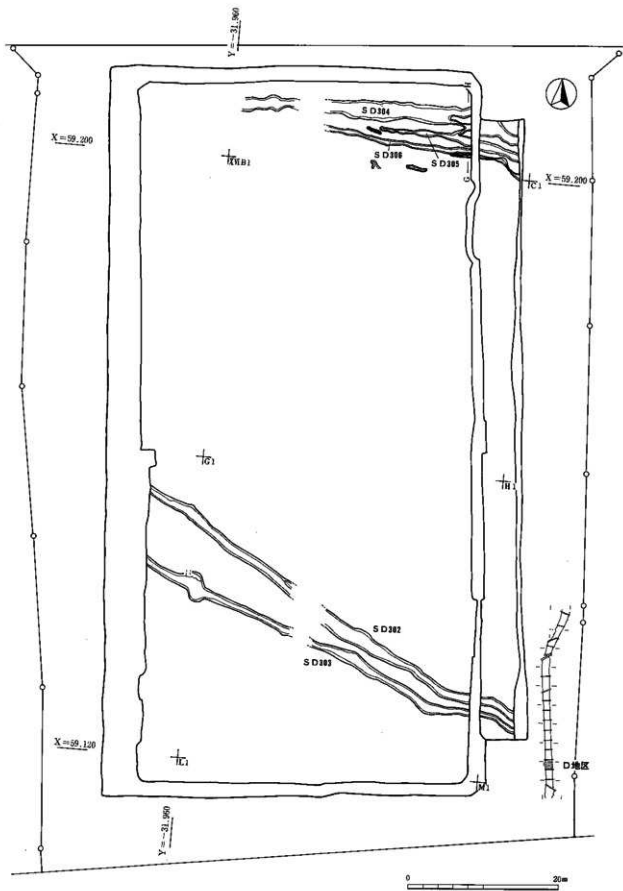


図40 古墳時代遺構分布図 1 (更埴糸里遺跡D地区)

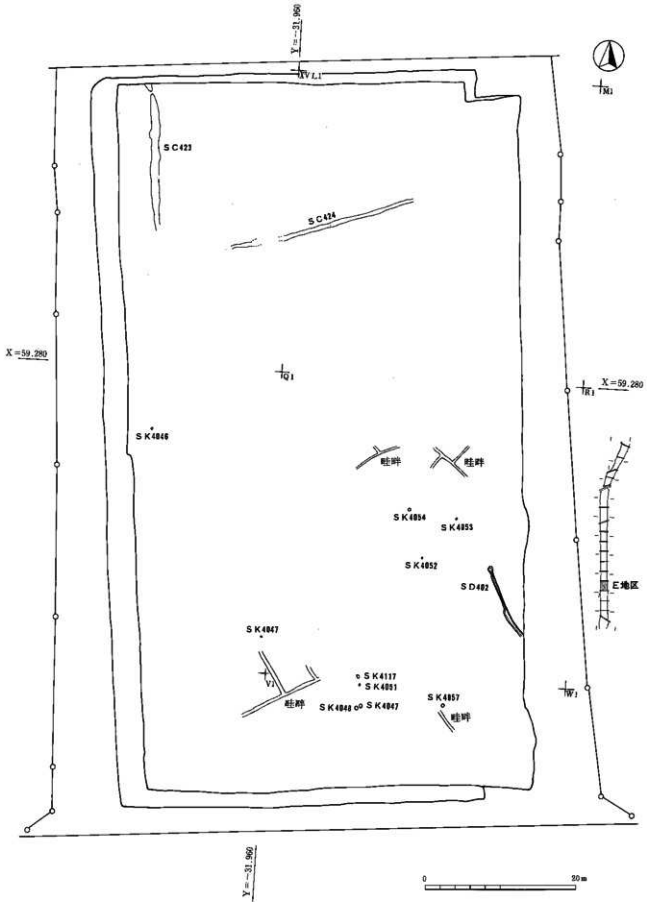


図41 古墳時代遺構分布図 2 (肥後県星野E地区)

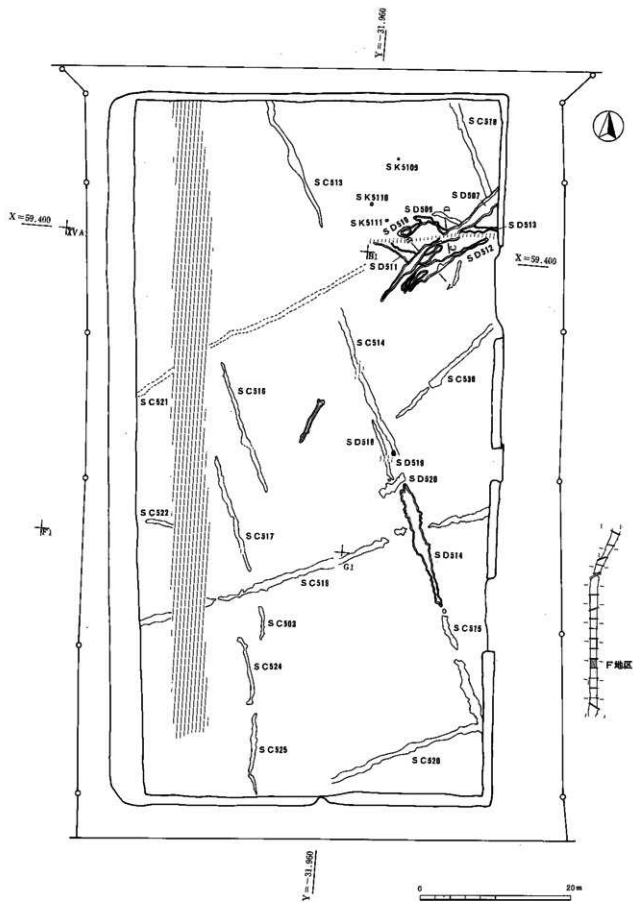


图42 古墳時代遺構分布図 3 (更埴糸里遺跡F地区)

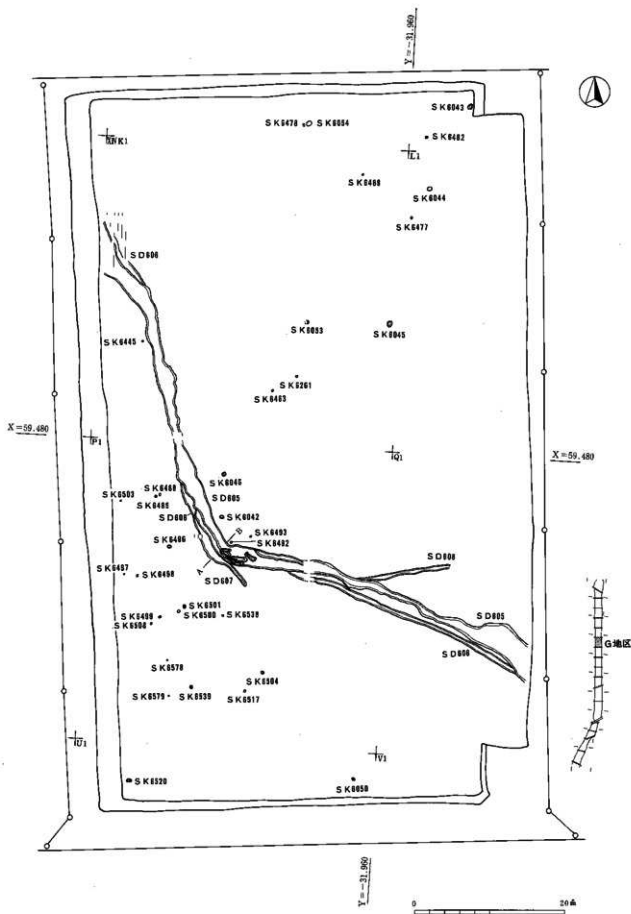


図43 古墳時代遺構分布図 4 (更埴系遺跡G地区)

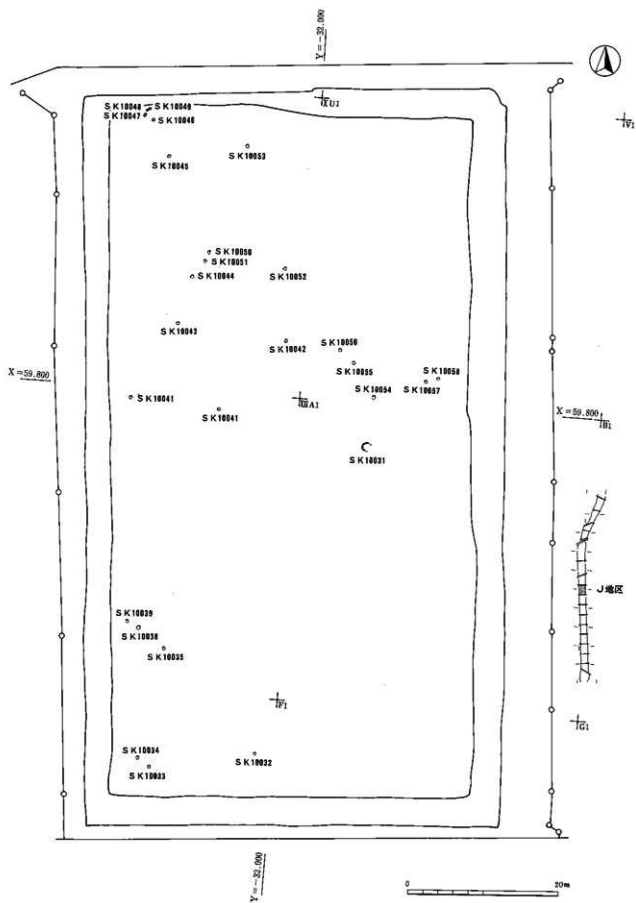


図44 古墳時代遺構分布図 5 (更埴朱里遺跡J地区)

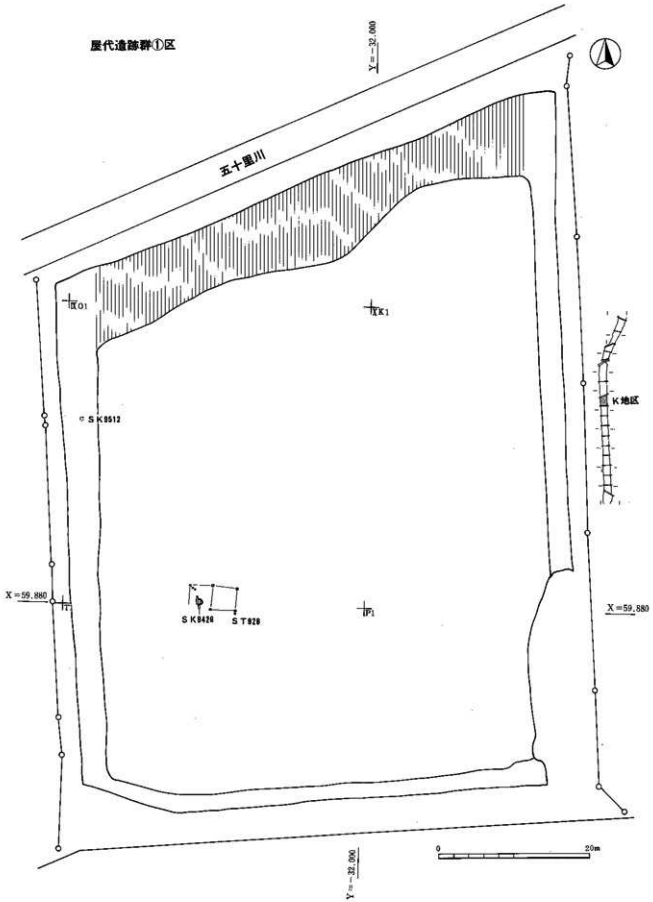


図45 古墳時代遺構分布図 6 (更埴赤里遺跡K地区)

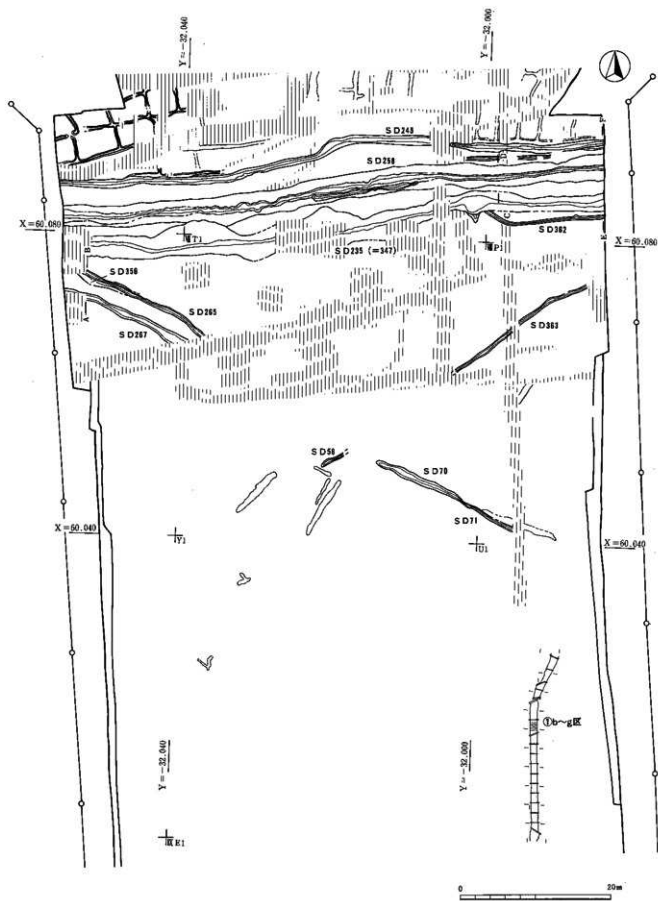


図46 古墳時代遺構分布図 7 (深代遺跡群D区)

第4節 集落域および旧河道域の遺構と遺物出土状況

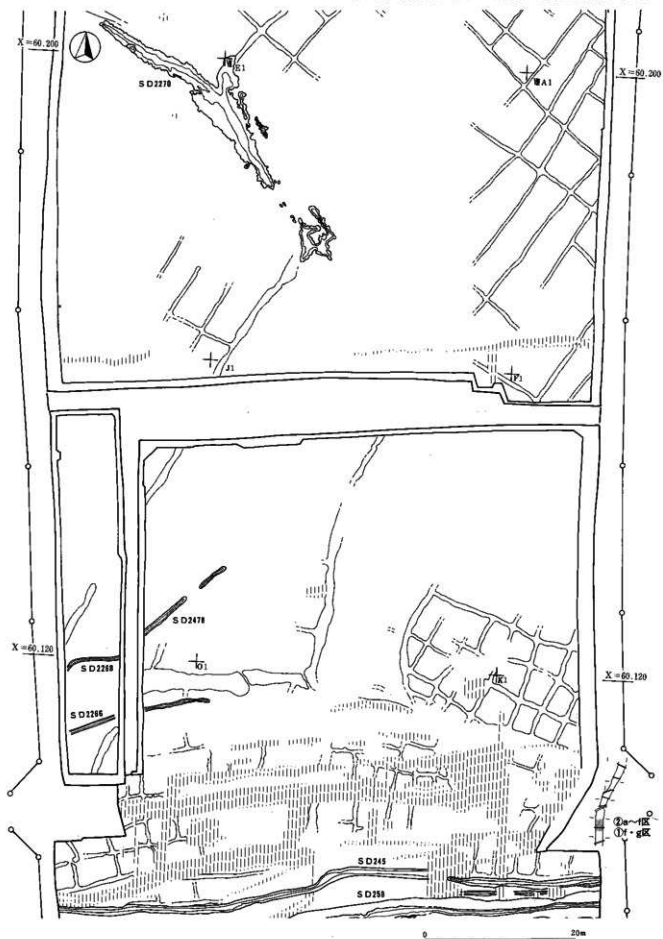


図47 古墳時代遺構分布図 B (原代遺跡群①②区)

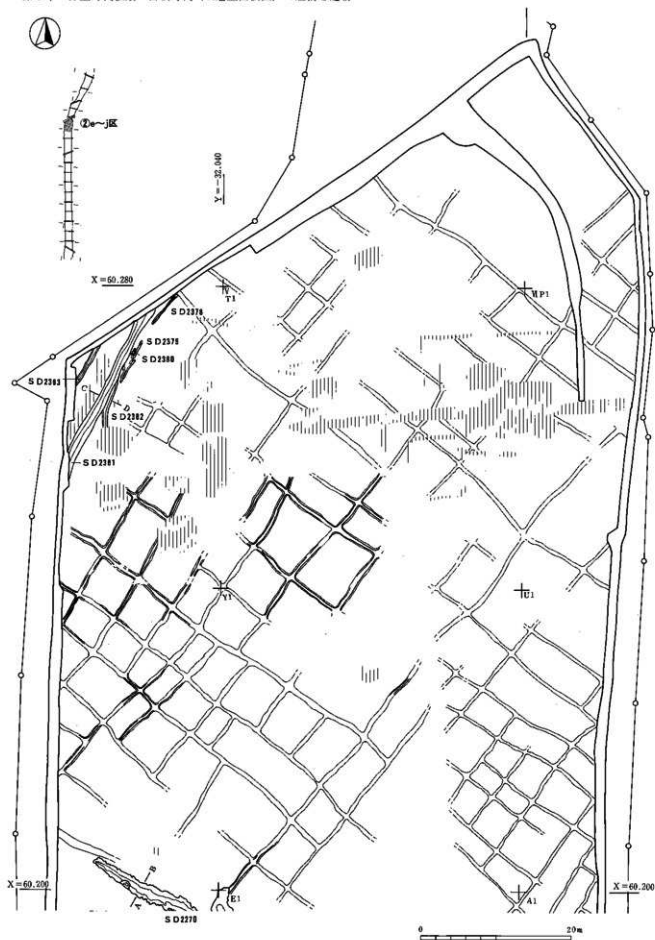


図48 古墳時代遺構分布図 9 (層代遺跡群2区)

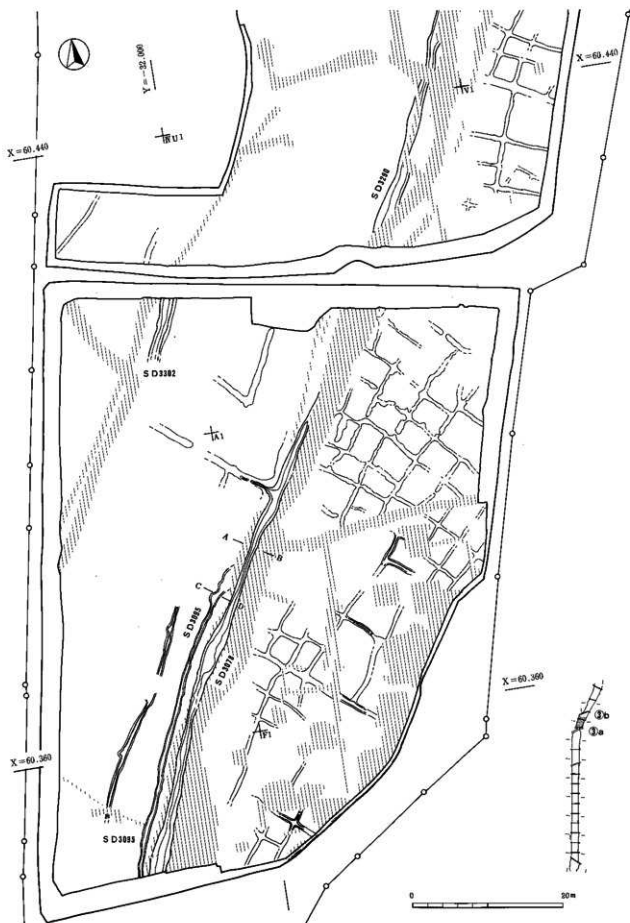


図49 古墳時代遺構分布図 18 (麻代遺跡群③区)

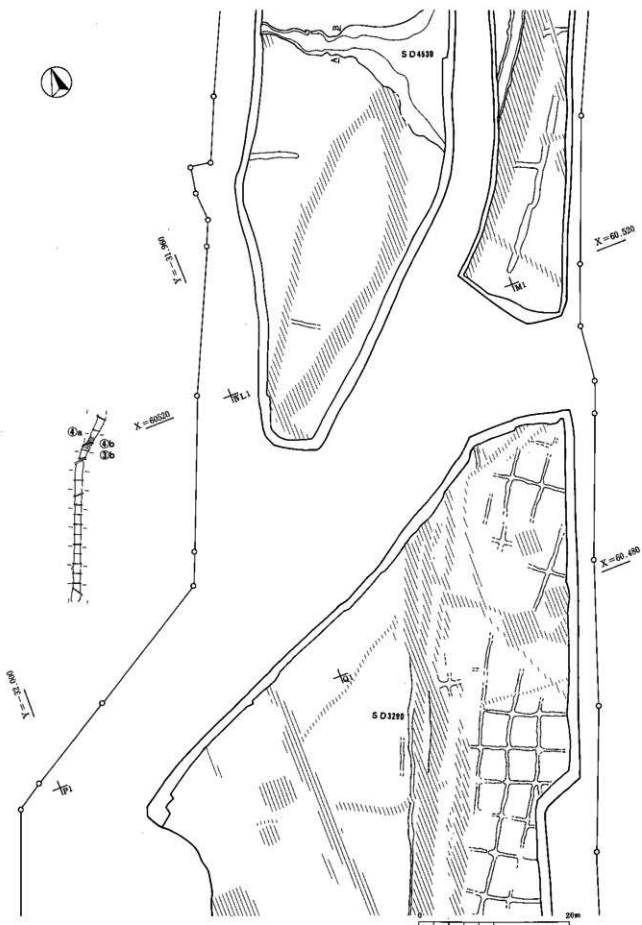


図50 古墳時代遺構分布図 11 (原代遺跡群3a～3b区)

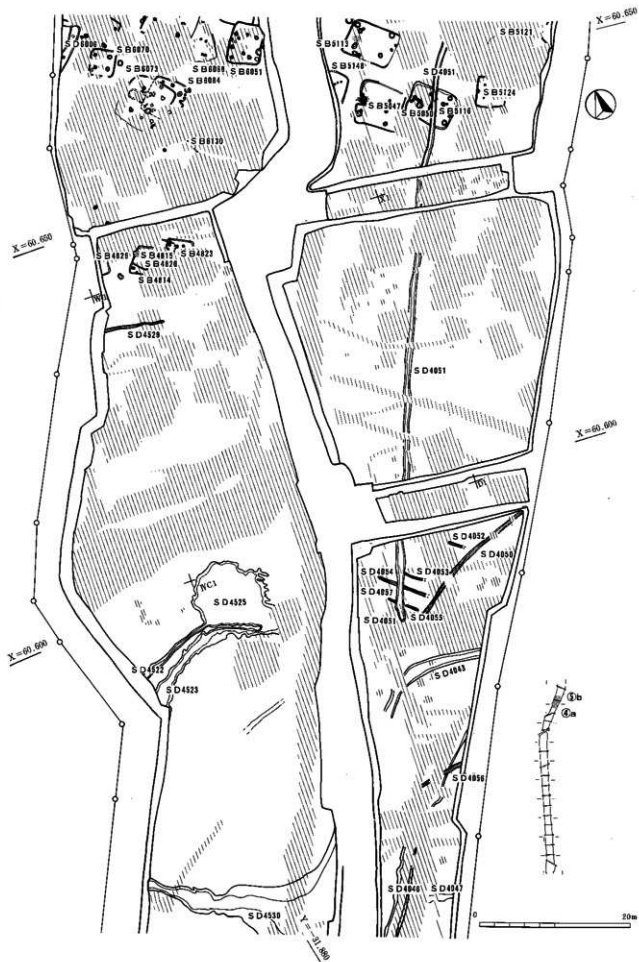


图51 古墳時代遺構分布图 12 (原代遺跡群④~⑤b区)

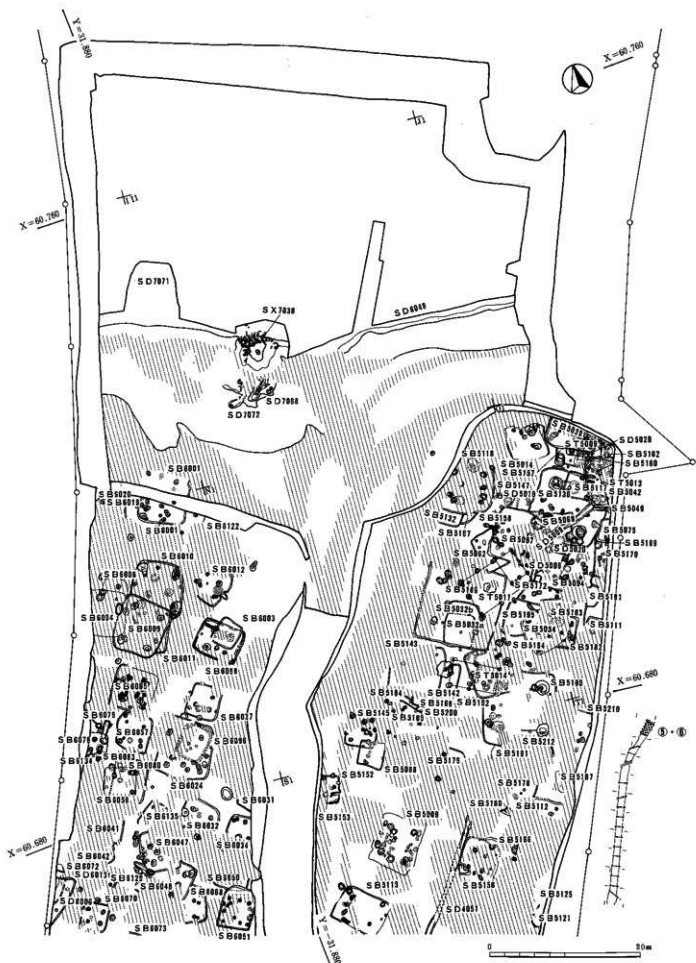
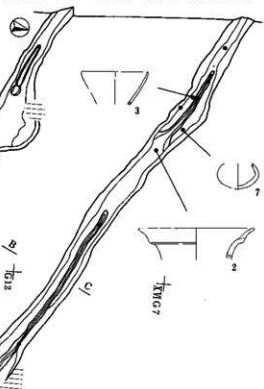
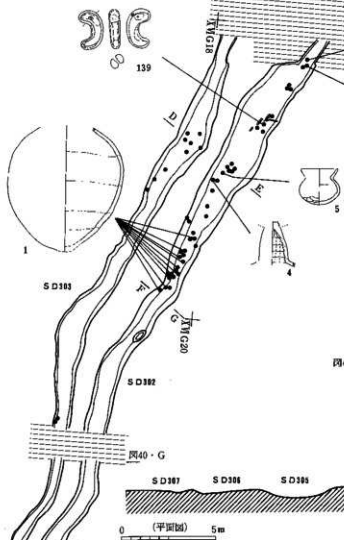


図52 古墳時代遺構分布図 13 (屋代遺跡群⑤~⑩区)

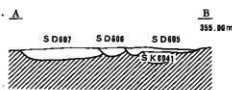
溝・自然流路 (SD) 更埴条里遺跡



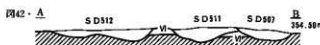
- 1層 黒褐色 (5 Y R 2/1) 粗くしまりのあるシルト質黄土
酸化鉄がまたらに2-3cmの塊状で存在する
- 2層 黒褐色 (10 Y R 2/2) シルト質黄土、今中やわらかく粘性をもつ
わずかに砂質性を帯び、炭化粒、炭化物を含む。酸化鉄の塊状がなくなる。
- 3層 黒褐色 (10 Y R 3/1) 2層より更に砂質を帯びる。シルト質黄土
灰黄色 (10 Y R 6/2) のシルトを1mmぐらいのブロック状に含む。
炭化物を含み、腐植植物を混入する。



- SD587 オリーブ褐色 (5 Y 3/1) シルト VI層土を基調とし、砂多量混入
SD588 オリーブ灰色 (5 Y 3/1) シルト SD587に類似



- SD685 灰褐色 (7.5 Y R 4/2) シルトまじり細砂 シルトの含有量が多い
SD686 におい褐色 (10 Y R 5/3) 細砂 シルト、中粒砂をわずかに混入
SD687 におい黄褐色 (10 Y R 7/3) 中粒砂まじり細砂

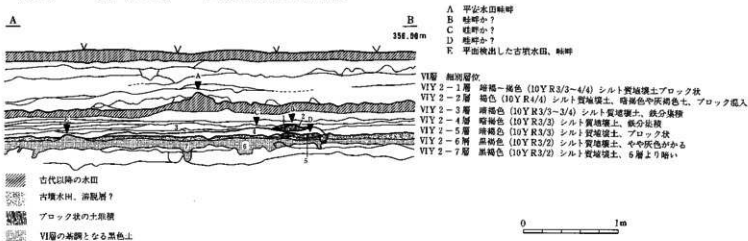


- SD512 灰色 (5 Y 4/1) シルト、VI層土を主に砂 VII層土ブロック等混入
SD511 オリーブ褐色 (5 Y 3/1) シルト VI層土を主に砂を混入



図53 古墳時代遺構個別図 1 (更埴条里遺跡水田域SD)

水田域 水田 (SC他) 屋代遺跡群②b区東壁断面



屋代遺跡群③b区東壁断面

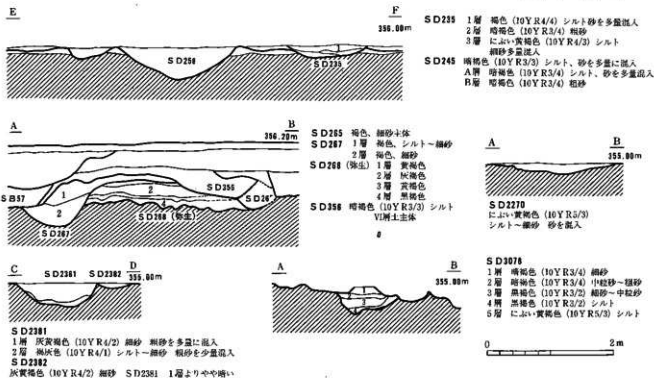
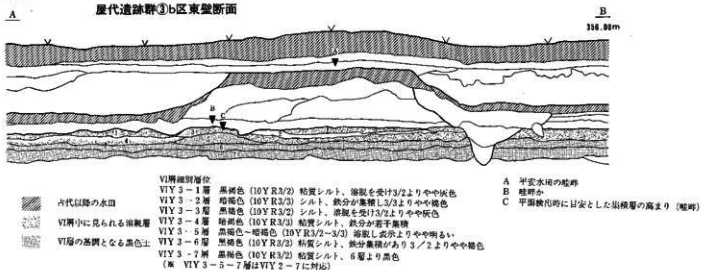
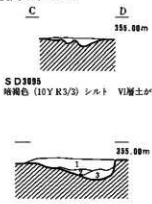
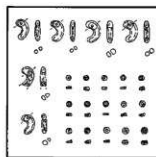
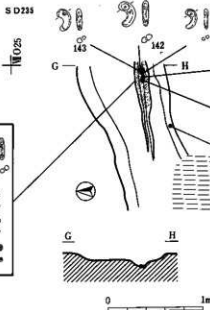
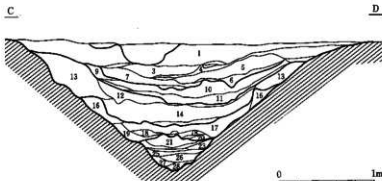


図54 古墳時代遺構個別図 2 (屋代遺跡群軸峙SD)

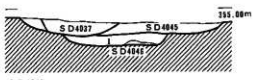
- SD284**
- 1層 灰青色 (10Y R6/2) 粗砂 軽石粒少量混入
 - 2層 黄褐色 (2.5Y 5/3) 中粒砂 4層砂が同時堆積の最上層か
 - 3層 におい黄褐色 (10Y R5/3) 中粒砂 粗砂がブロック状に入る部分有り
 - 4層 暗灰色 (2.5Y 4/2) 粗砂 下部に鉄分集積
 - 5層 暗褐色 (10Y R3/4) 中粒砂 粗砂少量混入
 - 6層 黄灰色 (2.5Y 4/1) 中粒砂 10層の粘質土を混入
 - 7層 暗灰色 (2.5Y 3/2) 粗砂 同様な砂層
 - 8層 灰色 (5 Y 5/1) シルト～粗砂 6層より粘性が強い
 - 9層 におい黄褐色 (10Y R4/3) シルト～粗砂 VI層土など混入
 - 10層 灰黄褐色 (10Y R5/2) 粘土 しまりよく、きめ細かい、植物体混入。下部から11層にかけて鉄分集積
 - 11層 黄灰色 (2.5Y 4/1) 粗砂
 - 12層 灰青色 (10Y R4/2) シルト～粗砂 VI層砂粒の土と砂が混在
 - 13層 灰黄褐色 (10Y R5/2) 粗砂～粗砂 軽石粒混入
 - 14層 灰色 (5 Y 4/1) シルト 砂が少量混入
 - 15層 灰黄褐色 (10Y R4/2) 粗砂 粘質土混入
 - 16層 におい黄褐色 (10Y R4/3) シルト 砂やVI・VII層の土を混入する
 - 17層 黄灰色 (2.5Y 5/1) 粘土～粗砂 粘土と粗砂がブロック状に混在
 - 18層 灰黄褐色 (10Y R5/2) 中粒砂
 - 19層 黄灰色 (10Y 6/1) 粘土 砂微量混入
 - 20層 暗褐色 (10Y R4/1) 中粒砂 粗砂のそろった砂層
 - 21層 におい黄褐色 (10Y R4/3) 粗砂 下部ほど粒子が粗い
 - 22層 灰黄褐色 (10Y R4/2) 粘質土 泥の凝縮か
 - 23層 黄灰色 (10Y R4/1) 粘質土 砂とVII層の土が混在部分有り
 - 24層 黄褐色 (10Y R3/1) 粗粒砂 上・下部に鉄分集積有り
 - 25層 暗黄褐色 (7.5Y R3/3) 中粒砂
 - 26層 暗褐色 (7.5Y R3/3) 粗粒砂 25層に北へ小河溝が入っていない
 - 27層 黄灰色 (2.5Y 4/1) 粗砂 24層よりやや中細かい
 - 28層 オリーブ灰色 (5 Y 3/1) 粗砂 砂判別



- SD3885**
暗褐色 (10Y R3/3) シルト VI層土が主体
- SD4842**
- 1層 黄灰色 (10Y R5/1) シルト
 - 2層 暗灰色 (10Y R4/1) シルト
 - 3層 暗褐色 (10Y R4/1) シルト 褐色土粒子混入



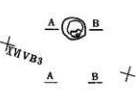
SD4830
灰色 (—) 粗砂 炭化物、灰白色粗砂ブロックなど混入



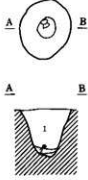
- SD4846**
- 1層 暗褐色 (10Y R3/3) シルト
 - 2層 褐色 (10Y R4/6) シルト～粘質土 底部に鉄分集積

土坑 (SK)
更埴条里遺跡 水田域

VA20



SK1089
オリーブ黒色 (5 Y 3/1) VI層を基調砂多量混入



- SK7214**
- 1層 黄褐色 VI層土が灰色がかり
 - 2層 粗砂
 - 3層 粗砂

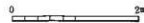


図55 古墳時代遺構個別図 3 (副代遺跡群SD、更埴条里遺跡SK)

更埴桑里遺跡K地区 微高地
掘立柱建物跡（ST）

ST926

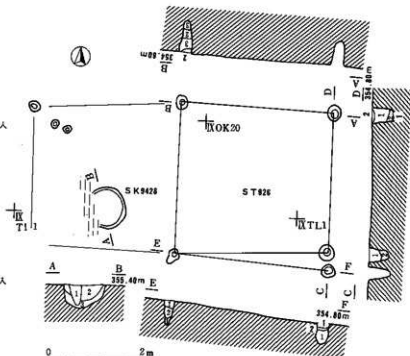
- 1層 褐色 (10YR5/1) シルト主体 褐色土ブロック混入
- 2層 ———— 軽い砂を混入する
- 3層 褐色 (10YR4/6) シルト主体

土坑（SK）

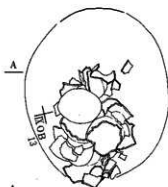
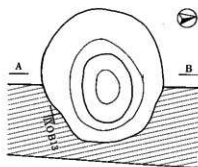
SK9426

（古代参考資料）

- 1層 灰褐色 (7.5Y4/2) シルト VI層土ブロック混入
- 2層 灰褐色 (7.5Y4/2) シルト VI層土ブロック減少
- 3層 黒褐色 (10YR3/2) シルト VI層土を基調とする、灰褐色土ブロック混入



SK9512



SK9512

- 1層 黄灰色 (2.5Y6/1) シルト～粘土 灰色粘土ブロック、酸化鉄皮殻含む
- 2層 淡黄色 (2.5Y7/3) シルト～粘土 灰色粘土ブロック、酸化鉄皮殻含む。1層より明るく、砂が増加。
- 3層 黄灰色 (2.5Y6/1) シルト～粘土 灰色粘土ブロック多量、酸化鉄皮殻含む
- 4層 淡灰色 (2.5Y7/3) シルト～粘土 黄化鉄粒子、灰色粘土ブロック、酸化鉄皮殻含む。
- 5層 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト～粘土 黄灰色粘土ブロック、酸化鉄屑あり
- 6層 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト～粘土 黄灰色粘土ブロック、酸化鉄屑あり。2層より砂質になる。
- 7層 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト～粘土 黄灰色粘土ブロック、酸化鉄屑あり。
- 8層 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト～粘土 黄灰色粘土ブロック、酸化鉄屑あり。7層より暗い。

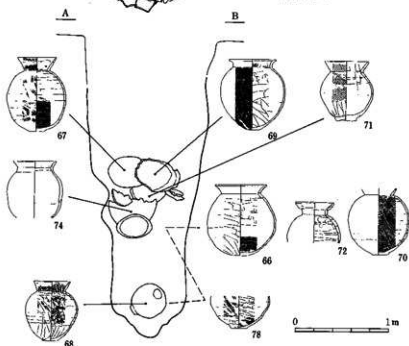
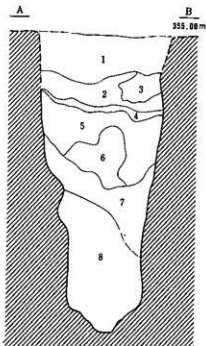


図56 古墳時代遺構個別図 4（更埴桑里遺跡ST・SK）

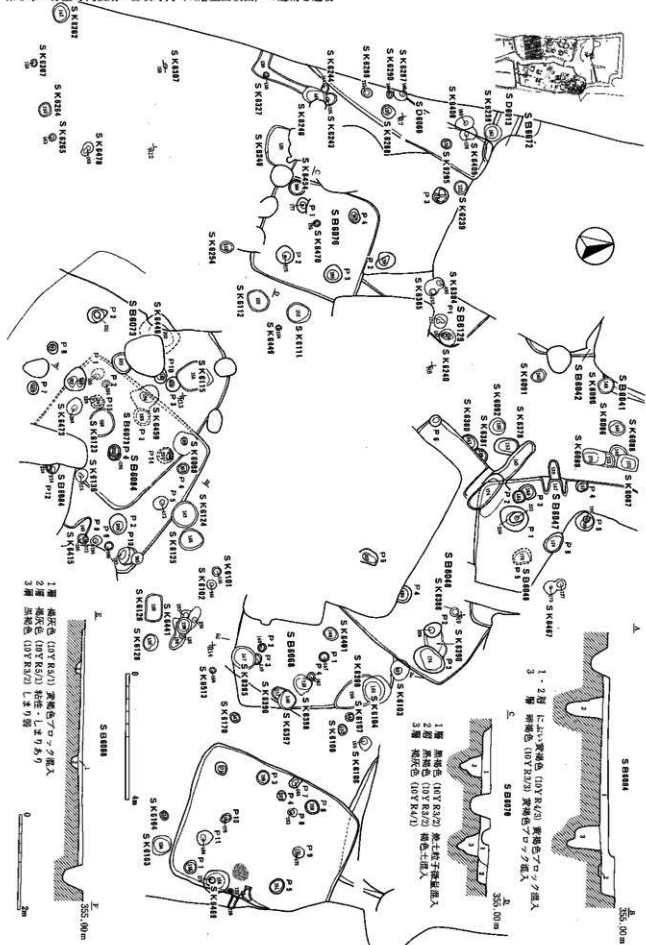


図58 古墳時代遺構劃分図 (2)

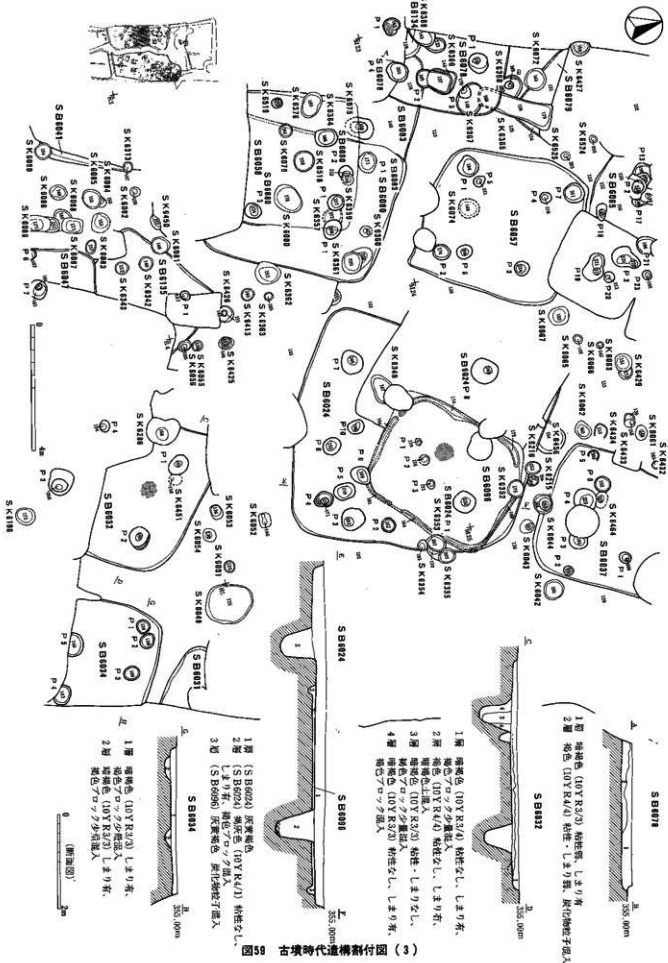


図3 古墳時代遺構劃分図 (3)

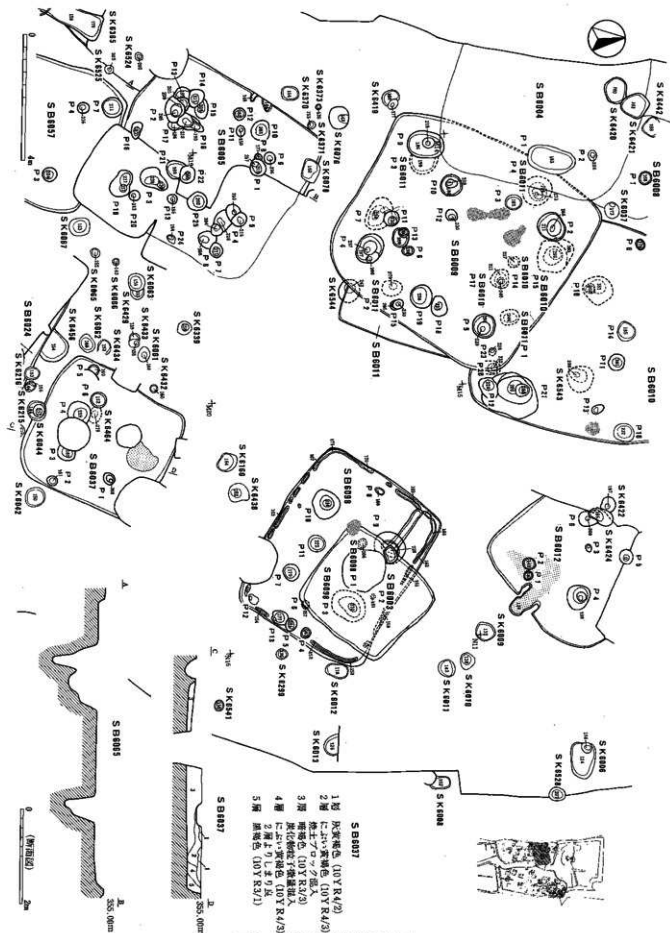


図60 中城時代遺構劃分図(4)

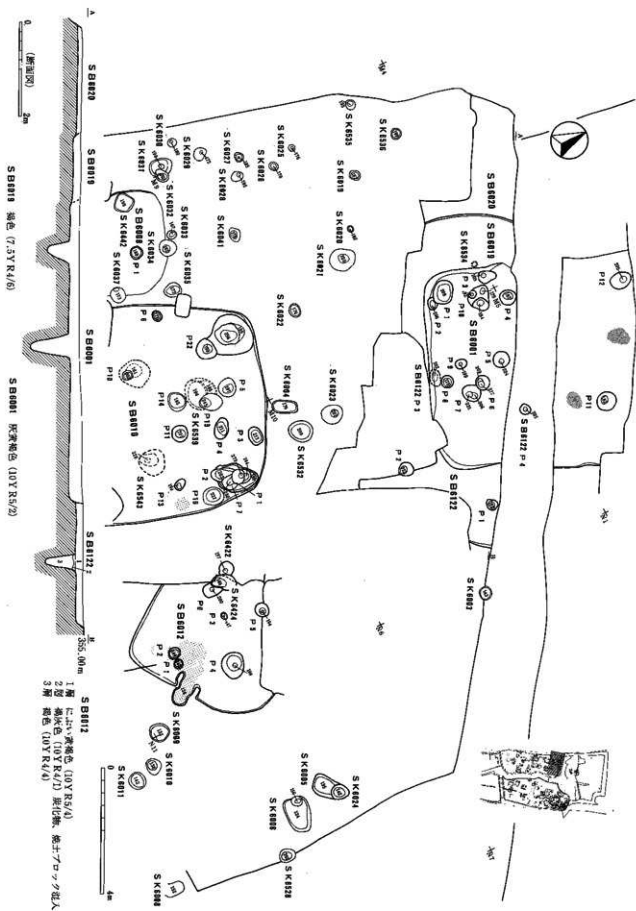


図51 古墳時代遺構劃分図(5)

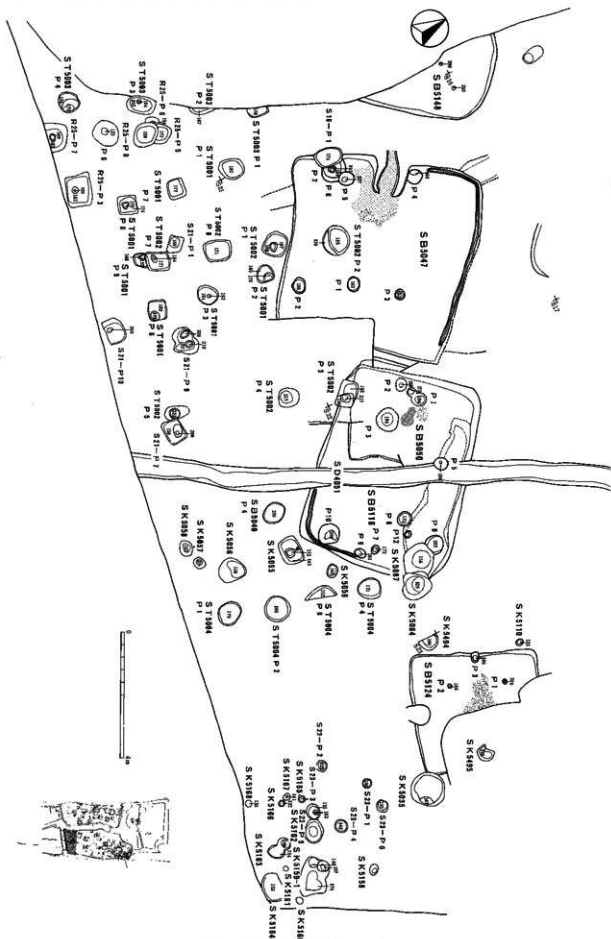


図62 古墳時代遺構劃分図(6)

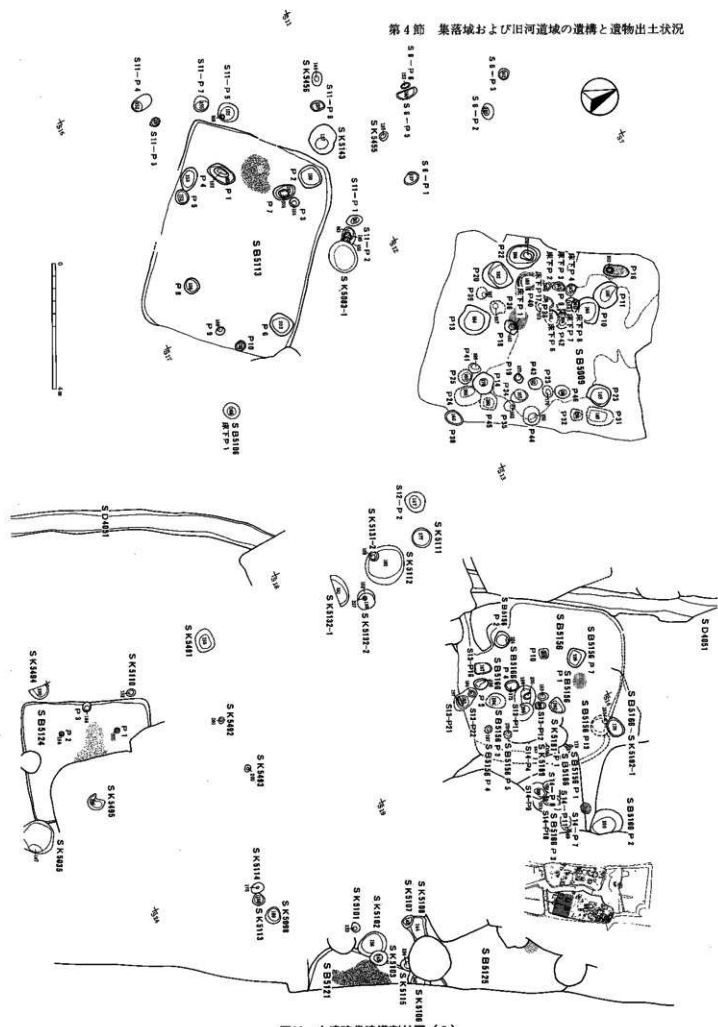


図63 古墳時代遺構劃付図(7)

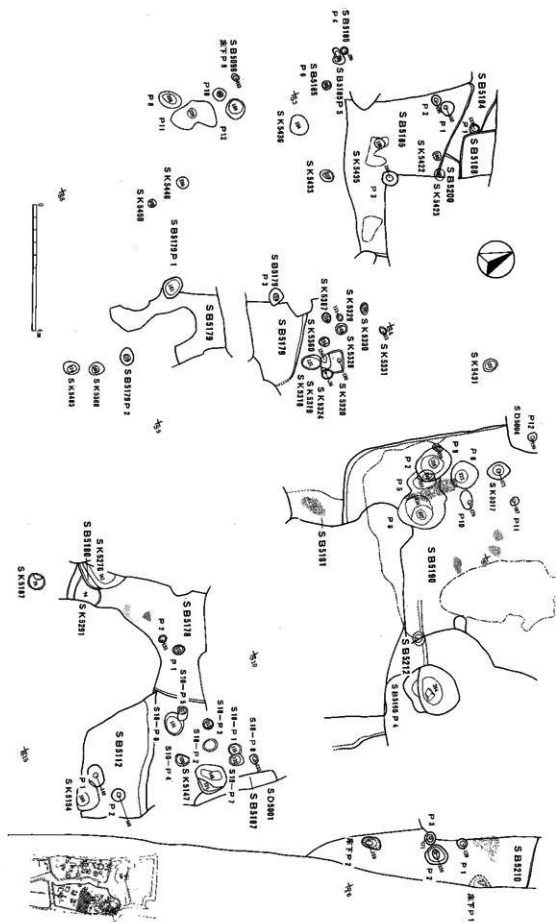


図64 古墳時代遺構劃分図(8)

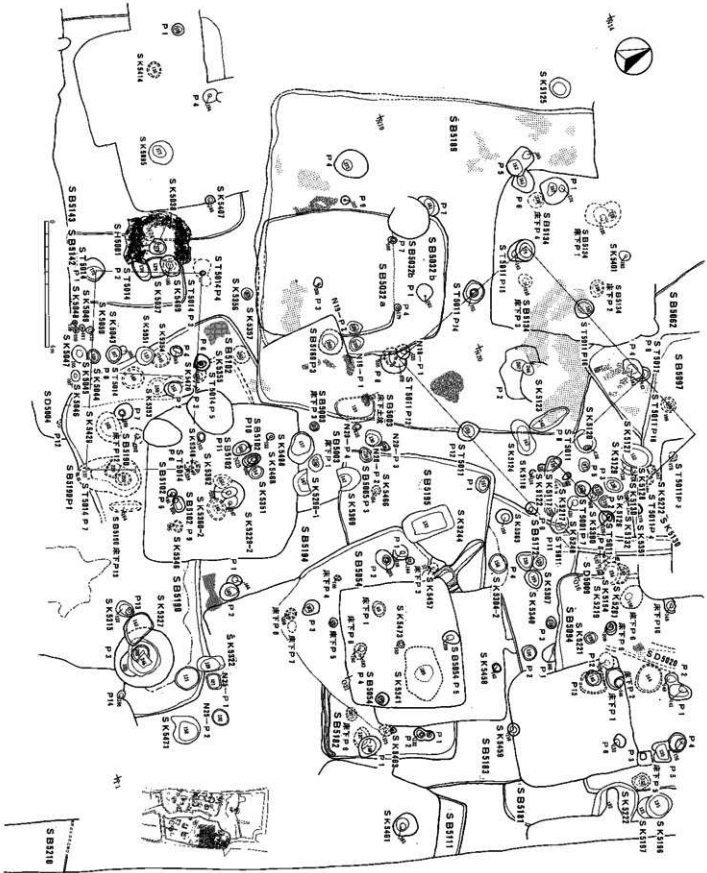
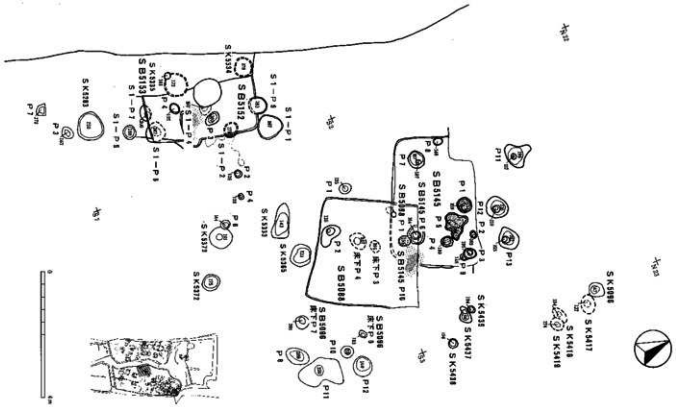


図5 古墳時代遺構劃分図(9)

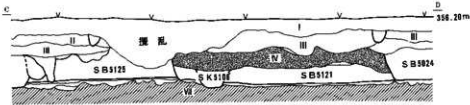


屋代遺跡群⑤b区 東壁 基本土層図



- I 層 現耕作上および堆乱
- II Y 5層 黒褐色 (10Y R3/2) シルト-砂 粘性しまりなし
- III Y 5層 黒褐色 (10Y R2/3) シルト-砂 粘性しまりなし
他地区で見られた 洪水砂田-2層が居く、
全て黒色化している。中世遺構の埋上
- IV Y 5層 黒褐色 (10Y R3/2) シルト-砂 粘性なし しまり有 他地区の
IV-1層が全て、水田土壌であるのに対し、
ここでは異なる。砂質が強く、黒色化してい
る。主に平安時代遺構の埋上
- V Y 5層 暗褐色 (10Y R3/3) シルト IV層に比べ粘性が高い。しまりやや
あり、黒色化していないVI層ブロックおよび
VII層ブロックが混入する。主に古墳時代遺構
の埋上
- VI Y 5層 ぶい黄褐色 (10Y R5/3) 砂-シルト 他地区に比べ砂が多い

IV層
↑
SB3108 (古代1期後半) } VI層との区別がむじょうに難しい
↑
SB5111 (古墳3~4期)



SB5124 (古代)
↑
SB5121 (古墳1期) 廃絶後の出地にIV層が堆積
↑
SB5125 (古墳1期以前)

図67 古墳時代遺構割付図(11)・集落域基本土層図

集落域 竪穴住居跡（SB） 屢代遺跡群⑤区

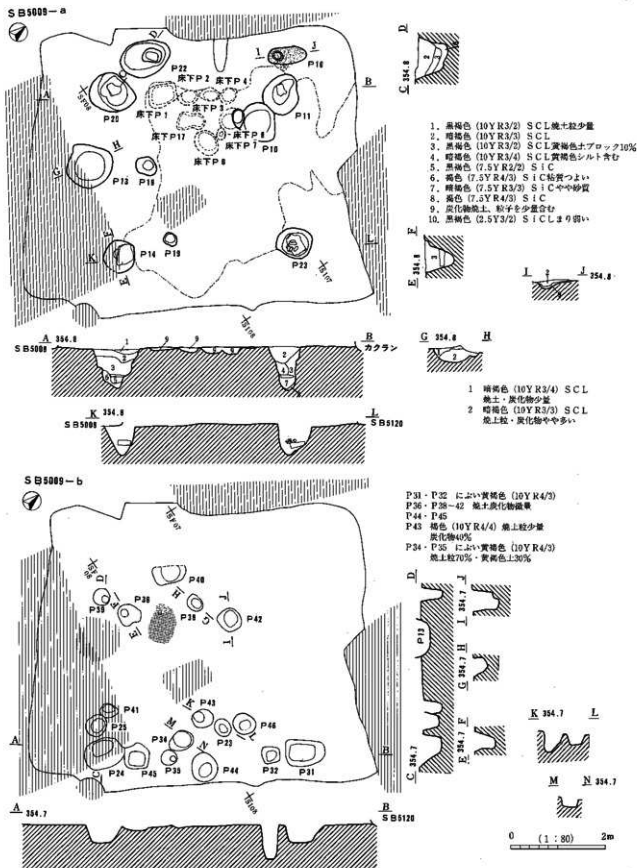


図68 古墳時代遺構個別図 16 (屢代遺跡群⑤区SB)

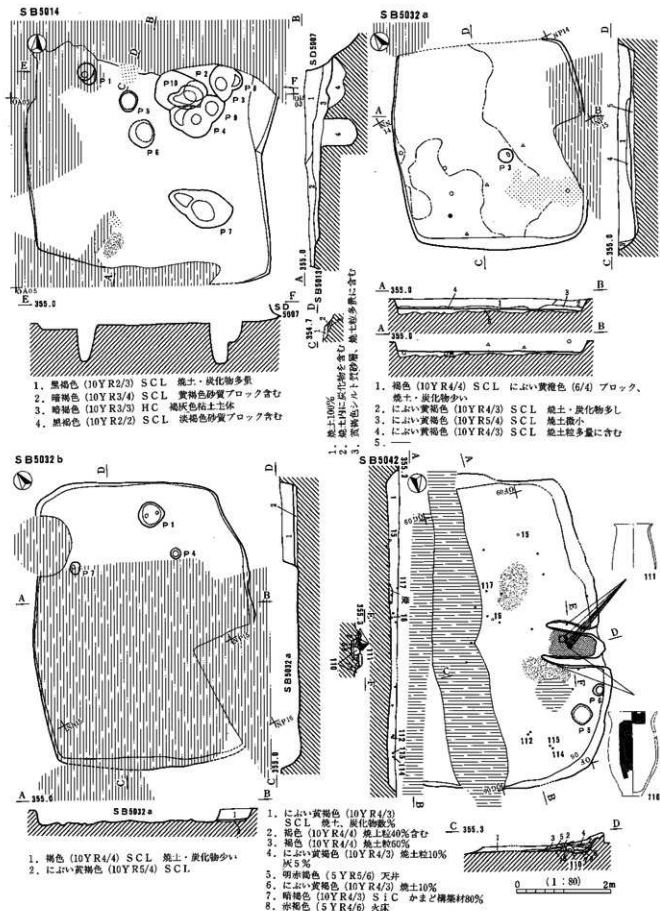


図69 古墳時代遺構個別図 17 (年代5区B)

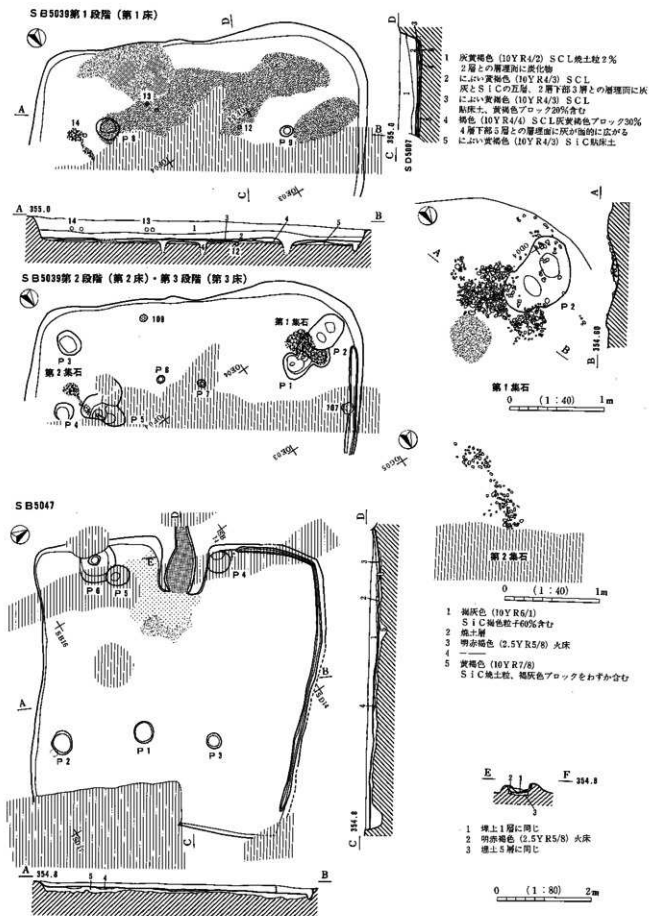


図70 古墳時代遺構個別図 18 (近代S区SB)

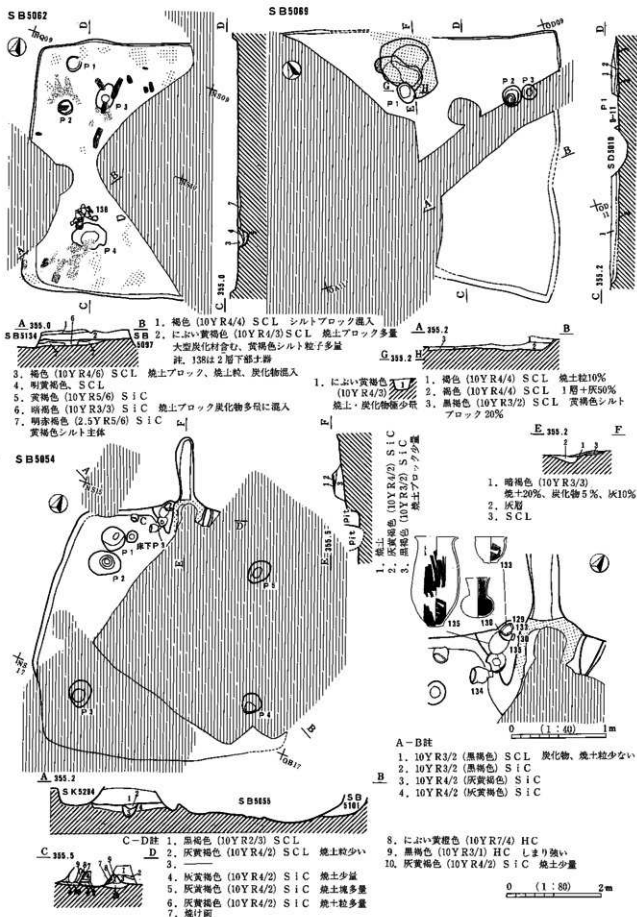


図19 古墳時代遺構個別図 19 (近代S区SB)

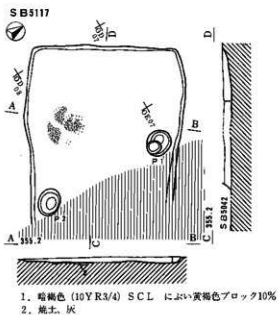
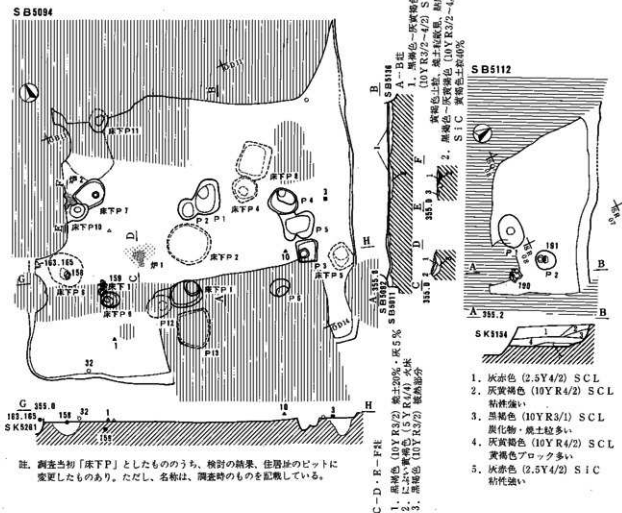


図2 古墳時代遺構個別図 20 (原代5区SB)

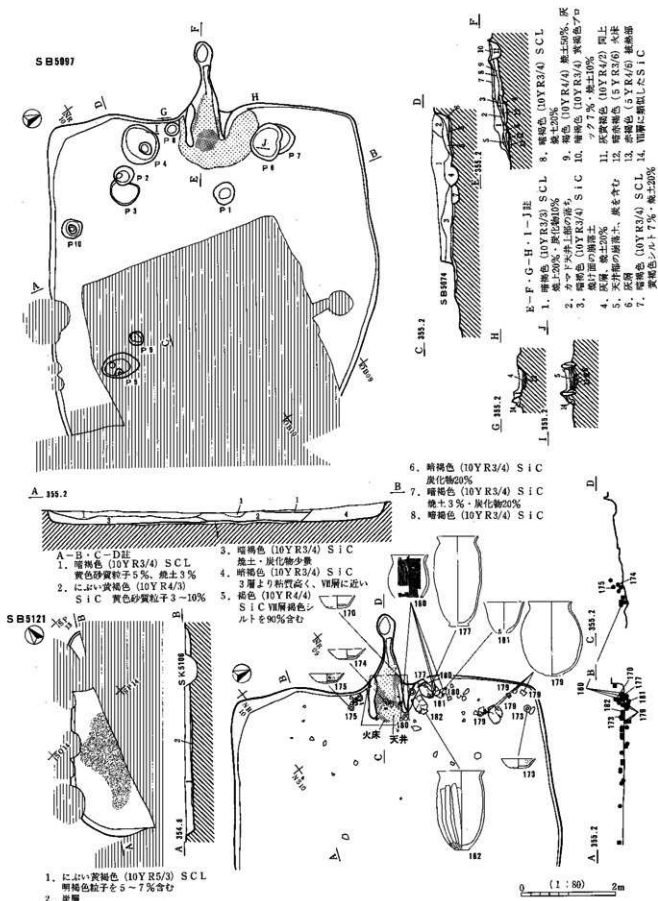


図73 古墳時代遺構個別図 21 (歴代5区SB)

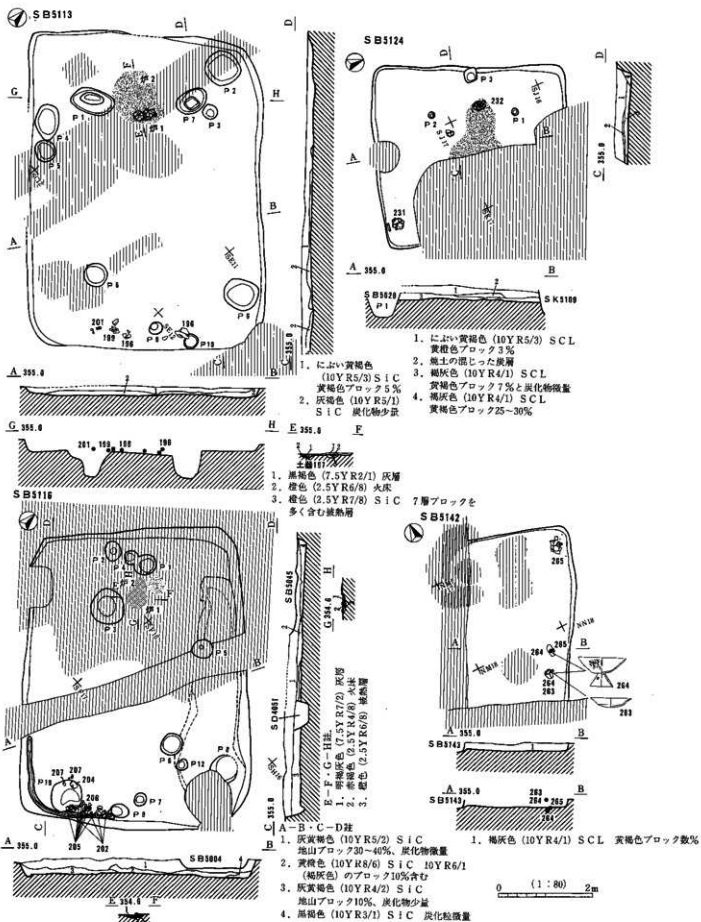
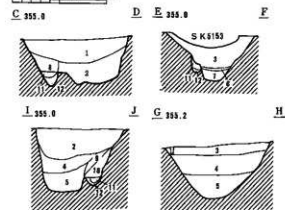
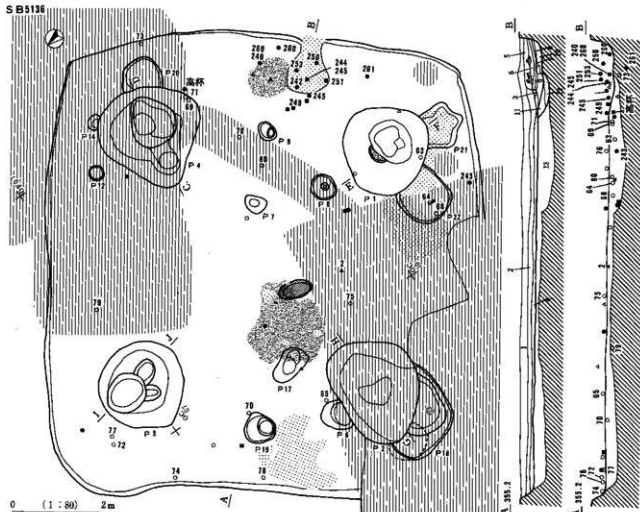


図74 古墳時代遺構個別図 22 (塚代5区SB)

SB5136



C-D-E-F-I-J-G-H註

1. 灰黄褐色 (10YR4/2) SiC 黄褐色土粒炭化物粒・焼土粒が全体に入る
2. 灰黄褐色 (10YR4/2) SiC 黄褐色土混在。1層土とVII層がそれぞれ大小ブロック状に混在
3. 暗灰黄色 (2.5Y4/2) SiC 焼土粒、炭化物粒、黄褐色土ブロック点在
4. 黄灰色 (2.5Y4/1) → 黒褐色 (2.5Y3/1) SiC 炭化物粒全体に点在、炭分多量
5. 黒褐色 (2.5Y3/1) 黄褐色土 (地山土) ブロック多量 粘性しまりあり
6. オリーブ黄色 (5Y6/3) S 粘性、しまりなし
7. 黒褐色 (10YR3/1) SiC 粘性あり、しまりなし
8. 黄灰色 (2.5Y4/1) → 黒褐色 (2.5Y3/1) 黄褐色土ブロック
9. 明黄褐色 (10YR6/6) SiC VII層と同じ、粘性あり
10. _____
11. HC 灰色粘土にうすい黄褐色土小ブロック混在、炭化物が入る
12. HC 灰色粘土とうすい黄褐色土がレンガ状に入る

A-B註

1. 新オリーブ褐色 (2.5Y3/3) SiC 焼土粒・炭化物粒多量、黄褐色土小ブロック含む
2. 黄褐色 (2.5Y5/4) SiC 暗オリーブ褐色土がブロック状に混在
3. 灰褐色 (2.5Y5/4) SiC 2層より盛り
4. 灰色 (5Y5/1) → 灰オリーブ色 (5Y5/2) SiC (ハツグー) 粘りがわずかに、しまり少し
5. 黄褐色 (2.5Y5/4) 2層に焼土粒小ブロック含む
6. 黄褐色 (2.5Y5/4) 5層にさらに多くの焼土粒、ロウカク
7. 黄褐色 (2.5Y5/2) SiC 炭化物粒・焼土粒多量
8. 黒色 (10YR2/1) SiC 炭化物層、粘粒少々あり、しまり少し
9. 明黄褐色 (2.5YR5/8) SiC 粘性あり、しまりつつ
10. 黄褐色 (2.5Y5/4) SiC 粘性あり、しまりつつ、VII層底層のカマド構築土
11. 黄灰色 (2.5Y6/4) SiC 粘土状、粘性あり、しまり少し
12. 暗灰黄色 (2.5Y4/2) SiC 粘性あり、しまりやわらかい
13. 黒褐色 (2.5Y3/1)

カマド土器出土状況

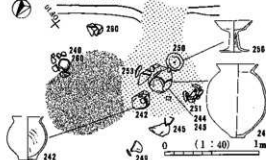


図75 古墳時代遺構個別図 23 (新代5区SB)

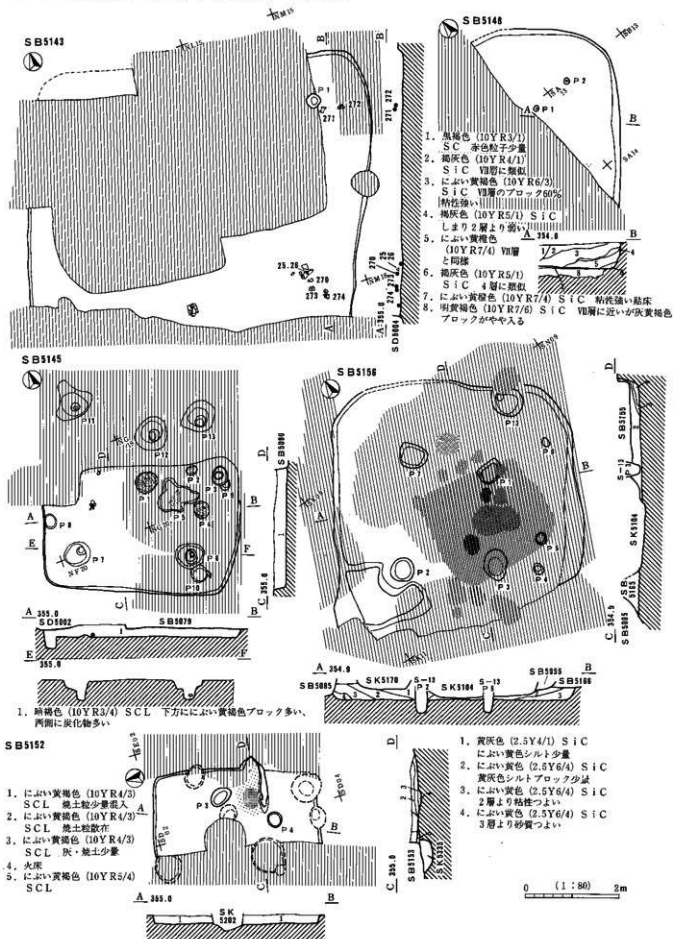


図76 古墳時代遺構個別図 24 (現代SKS)

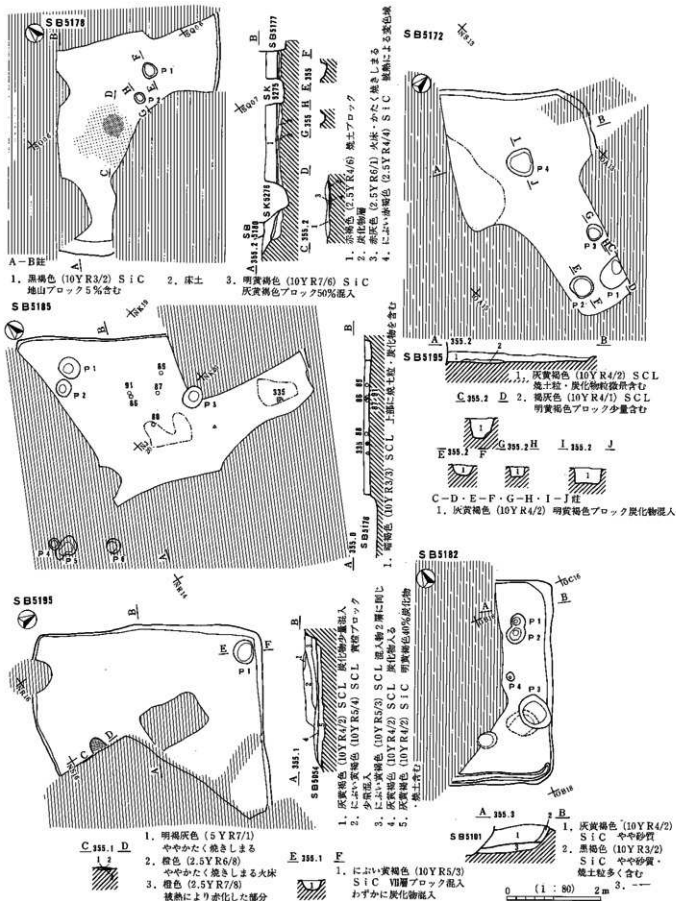


図77 古墳時代遺構個別図 25 (現代D区SB)

SB5100第3段階(下床)

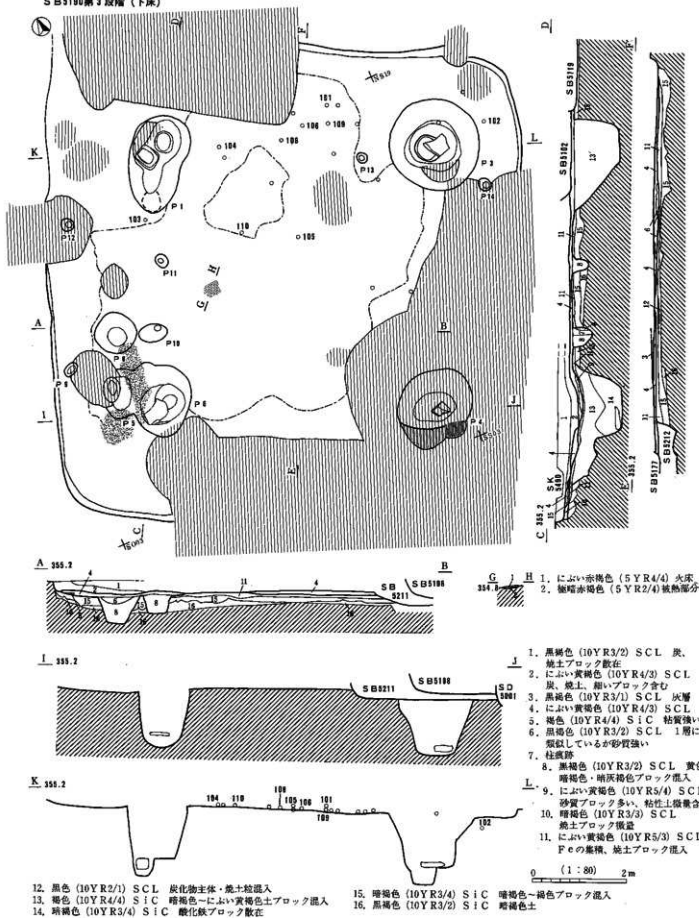
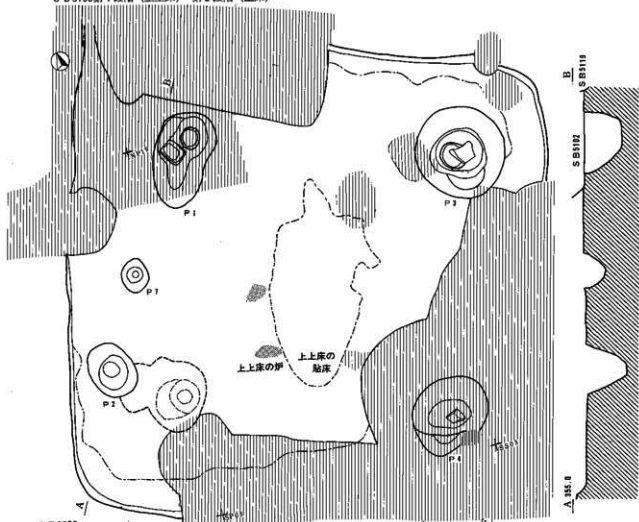
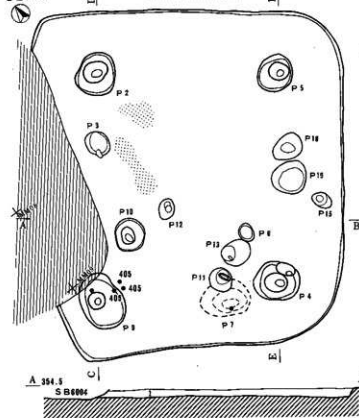


図79 古墳時代遺構個別図 27 (歴代5区SB)

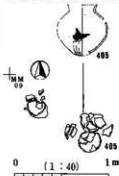


SB6089



SB6089

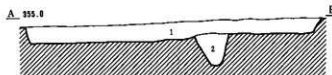
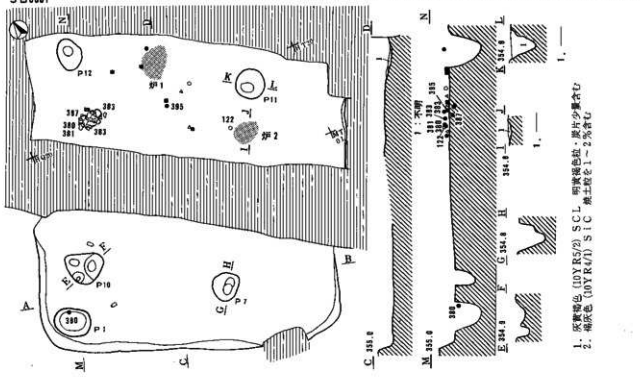
床面土層出土状況 (P1付近)



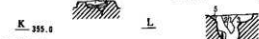
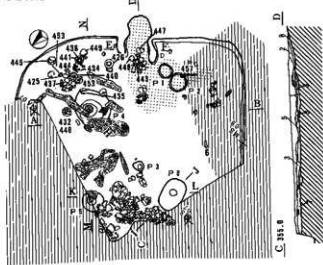
1. 暗褐色 (10YR3/3) SCL
粘性少あり
2. 黒褐色 (10YR3/2) SCL
しまり良、炭10%
3. 褐色 (10YR4/4) SCL
粘性あり

0 (1:80) 2m

図60 古墳時代遺構個別図 28 (近代SIXSB)

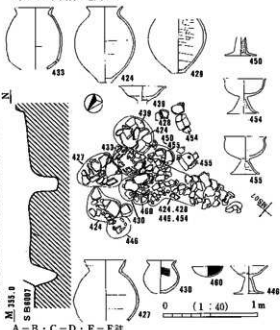


SB6012



- SB6007
1. 黒褐色 (7.5YR3/2) SCL 粘性。しまりあり、炭シマ状に入る
 2. 褐色 (10YR4/4) SCL 粘性あり、炭30%含む
 3. におい・黄褐色 (10YR4/3) SCL 地山黄色土5%含む
 4. 暗褐色 (10YR3/3) SCL 粘性あり、地山黄色土50%含む
 5. 暗褐色 (10YR3/4) SCL しまりよく、粘性あり

SB6012北西部土器集中



- A=B・C・D・E-F群
1. 灰黄褐色 (10YR4/2) SCL 黄褐色粒子3~5%含む
 2. 暗褐色 (10YR3/3) SCL 焼土15~20%含む
 3. 褐灰色 (10YR4/1) SCL 焼土粒子・黒色灰20%含む
 4. 灰黄褐色 (10YR4/2) 焼土屑灰黄褐色ブロック15~20%含む
 5. 灰白色 (10YR7/1) SCL 白色の灰を含み、粘性なし
 6. —
 7. 地灰色 (10YR4/1) SCL 黄褐色土がマール状に入る
 8. カマドのソデ

1. 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) SCL 粘性あり、炭10%含む
2. オリーブ褐色 (2.5Y4/4) SCL 粘性あり、炭土粒少量含む

図61 古墳時代遺構個別図 29 (歴代5区SB)

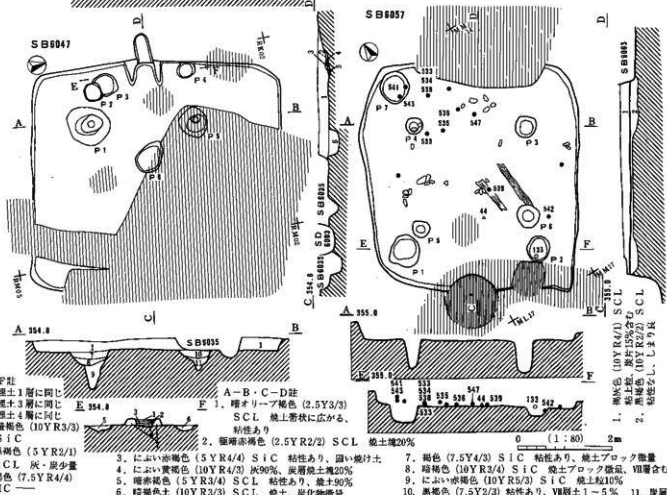
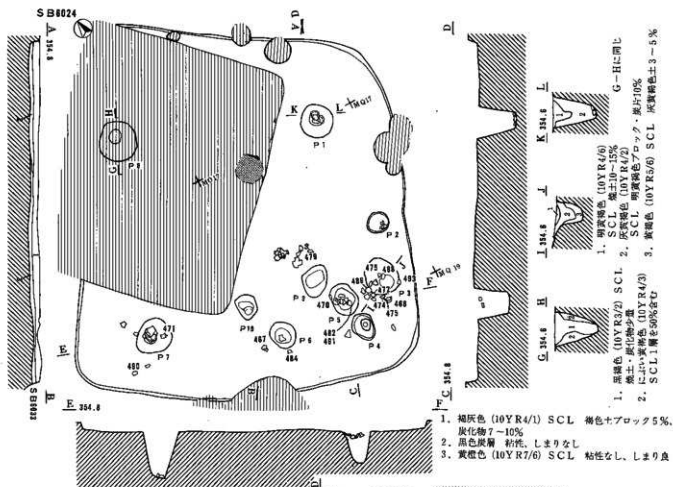


図82 古墳時代遺構個別図 30 (現代区B区)

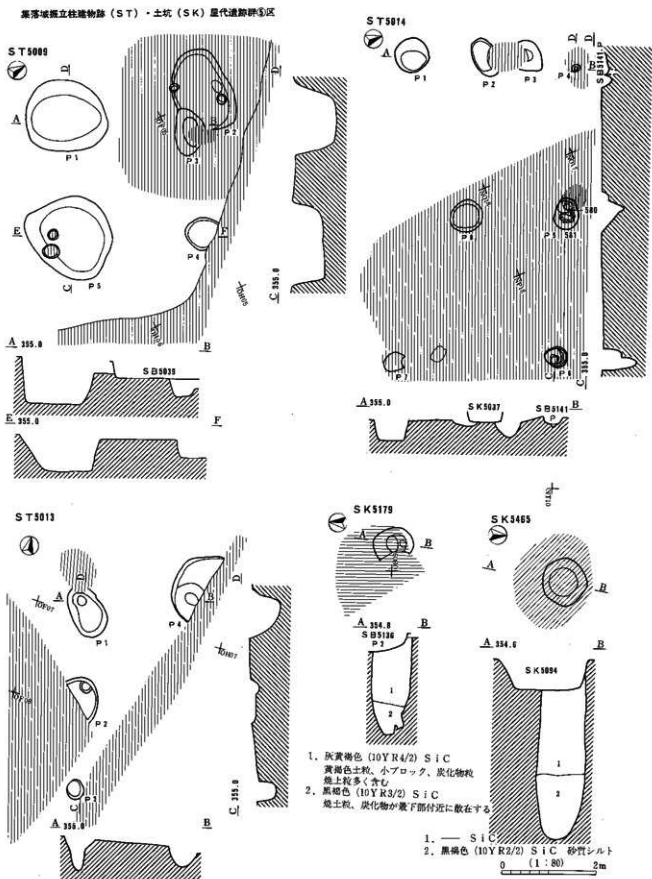
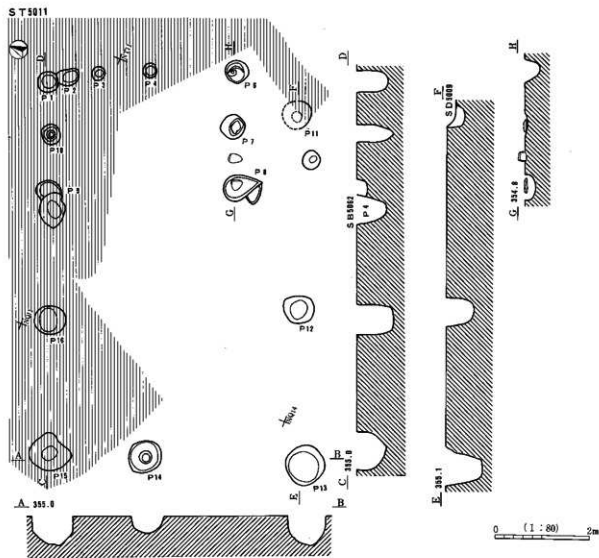
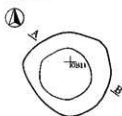


図84 古墳時代遺構個別図 32 (屋代SKSB)



S K 5092

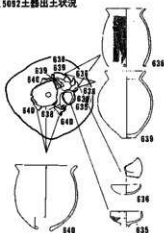


A 355.0

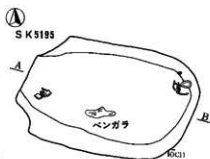


1. 暗灰黄色 S I C 粘性少ない、
地土較、ブロック多い
2. オリーブ褐色 (2.5Y 4/3)
黄褐色七粒少混含む

S K 5092土器出土状況



(1 : 40) 1m



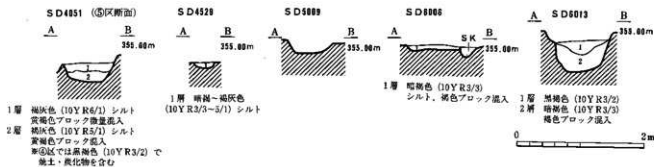
A 354.0



(1 : 40) 1m

図85 古墳時代遺構個別図 33 (歴代5区SB)

溝 (SD)



祭祀関連遺構 (SH5001・SK5038)

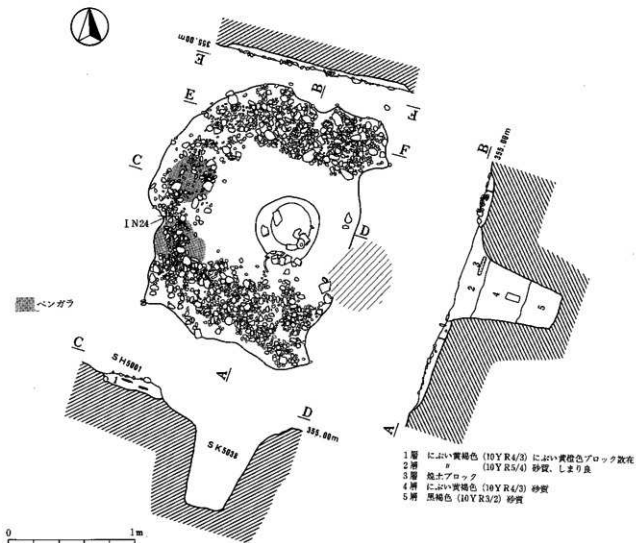


図86 古墳時代遺構個別図 34 (Ⅱ区遺跡群④・⑤区SD・SH・SK)

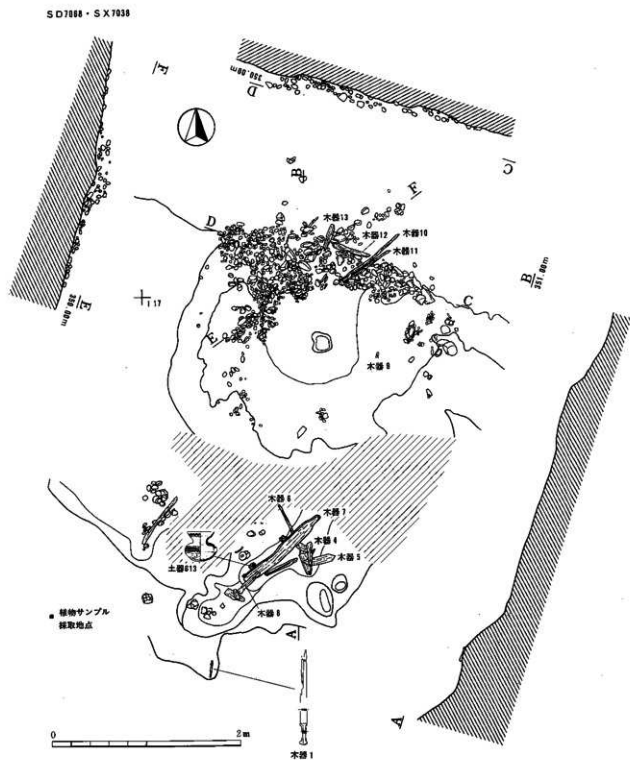


図87 古墳時代遺構個別図 35 (歴代遺跡群⑧区SD・SX)

第5節 遺物

1 土器・土製品

(1) 概要

VI層上面および弥生時代後期から7世紀初頭に至る遺構から出土した土器・土製品は、300箱にのぼる。ここでは、全てを紹介することができないため、各遺構の時期を推定できる資料を中心に図示（図88～117）し、掲載した遺物の属性を一覧表（表19）に示した。対象となる遺物の時期は、弥生5期。古墳時代は1期～8期に区分した。詳細については第5章3節を参照していただきたい。

遺構記号	遺構名	同番号	報告番号	出土位置	器種	焼き物種別	口径	底径	器高	残存率	色調	土質の属性	外面整形	内面整形	底部整形	備考		
BKS	SD	302	88	1	F 8, 9, 17, 17, 14, 25, 18, 18, 20, 22, 22, 23, 24, 24, 24	甕A	土師	-	-	2/3	にぶい	産	ナテ	ナテ				
BKS	SD	302	88	2	52.57	有段口鉢	土師	34.7	-	1/1/3	産	磨製により不明	産製により不明					
BKS	SD	302	88	3	60	埴	土師	14.2	-	0/3/5	産	ナテ	ナテ					
BKS	SD	302	88	4	54	高杯	土師	-	-	0/3/5	にぶい	ハケケナテミダキ	シロリナテ					
BKS	SD	302	88	5	33	小型丸蓋	土師	7.9	-	7/6	9/16	にぶい	ナテ	口縁ナテ	ナテ	半片ナテ	内面に赤い土質あり	
BKS	SD	302	88	6	32	小型丸蓋	土師	-	-	4/5	にぶい	ナテ	ナテ	口縁ナテ	ナテ			
BKS	SD	302	88	7	58	小型丸蓋	土師	-	-	0/1/2	にぶい	ナテ	ナテ	口縁ナテ	ナテ			
BKS	SD	302	88	8	49	ミナチナテ	土師	4.7	3.5	4.8	10/10	にぶい	ナテ	口縁ナテ	ナテ		内面に赤い土質あり	
BKS	SD	302	88	9	50.53	ミナチナテ	土師	4.2	3.5	6.1	4/5	にぶい	ナテ	口縁ナテ	ナテ		内面に赤い土質あり	
BKS	SD	106	88	19		甕	土師	32.8	-	1/4/5	にぶい	ナテ	ナテ			SD 302 で取り上げ		
BYS	SD	235	88	11	347	甕	土師	17.8	-	0/1/3	にぶい	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ		=SD47	
BYS	SD	235	88	12	347	小型丸蓋	土師	4.1	-	6	1/2	にぶい	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ		=SD47
BYS	SD	235	88	13	236	埴	土師	-	-	1/4	にぶい	産	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ		
BYS	SD	235	88	14	225	高杯	土師	-	-	0/1/2	産	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ		
BYS	SD	245	88	15		甕?	土師	-	4.8	-	0/1/3	にぶい	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ		
BYS	SD	258	88	16	MLL	甕	土師	-	9.2	-	0/3/10	産	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ		
BYS	SD	258	88	17	W N23 MLL	埴	土師	23.4	-	-	1/1/5	産	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ		
BYS	SD	258	88	18	MLL	甕	土師	-	14.6	-	0/3	産	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ		
BYS	SD	302	88	19	W K21 1	高杯	土師	-	-	0/1/2	産	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ		
BYS	SD	2270	88	20		甕A	土師	36.7	-	-	0/5/6	にぶい	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ		
BYS	SD	2098	88	21	FV Q16.40L1	高杯	土師	-	10.9	-	0/2/3	明焼灰	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ		
BYS	SD	2298	88	22	FV L18.40L1	小型丸蓋	土師	10.3	-	6.2	1/2	産	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ		
BYS	SD	3038	88	23		有段口鉢	土師	13.6	-	-	0/1/2	産	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ		
BYS	SD	407	88	24		高杯	土師	-	-	-	0/1/3	にぶい	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ		
BYS	SD	407	88	25		有段高杯	土師	16.8	-	-	0/1/3	産	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ		
BYS	SD	4943	88	26		高杯	土師	-	-	-	0/1/2	産	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ		
BYS	SD	4215	88	27		甕	土師	-	6.1	-	0/1/10	産	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ		
BYS	SD	4230	88	28		高杯	土師	-	10.2	-	0/3/10	産	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ		
BYS	SD	4300	88	29		甕A	土師	30.6	-	-	1/2/5	産	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ		
BKS	SK	3309	89	30		甕	土師	-	9.2	-	0/10/10	にぶい	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ		
BKS	SK	7214	89	31		小型丸蓋	土師	9.7	2.9	8.8		産	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ		
BKS	F	区	89	32	SD681	甕	土師	-	-	-	小片	灰	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ		
BKS	F	区	89	33	SD672	高杯	土師	-	-	-	0/1/3	産	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ		
BYS	F	区	89	34	I	甕	土師	-	-	-	2/5	にぶい	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ		
BYS	F	区	89	35	SD58	甕	土師	-	-	-	小片	にぶい	産	ナテ	ナテ	ナテ		
BYS	F	区	89	36	SD 258 W O 20 MLL	甕	土師	-	-	-	0/1/12	にぶい	産	ナテ	ナテ	ナテ		
BYS	F	区	89	37	SD 258 W O 20 MLL	甕	土師	-	-	-	小片	灰	産	ナテ	ナテ	ナテ		
BYS	SD	308	89	38	MLL	?	土師	-	-	-	小片	産	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ		

表19- (1) 古墳時代土器・土製品一覧表

発掘記号	遺物記号	図番	報告書番号	出土位置	器種	地物種別	口径	底径	器高	残存率	色調	土の性状	外面整形	内面整形	底部整形	備考	
BYS	1区	80	39	VI OB3 46L下	鉢	土師	13.4	-	-	11/8	青い土質 内面に赤褐色	口縁下 底へツナナ	口縁下 底へツナナ				
BYS	1区	80	40	VI OB8	鉢	土師	-	-	-	10/12	黄灰	口縁下ナナ	口縁下ナナ			黒山研 (TK30)	
BYS	1区	80	41	IX B3 46L上面	高杯	土師	-	-	-	1/3	黄	ミガキ	口縁下ナナ	口縁下ナナ			
BYS	1区	80	42	VI 113 46L上面	土師	土師	-	-	-	4/4	黄	ナナ	ナナ				
BYS	1区	80	43	VI 104 46L上面	高杯	土師	12.3	-	4.6	1/2	内へ黄褐色 外に赤褐色	下ナナ口縁下 ミガキ、底へツナナ	ミガキ	へツナリ ミガキ			
BYS	1区	80	44	VI 125 46L上面	高杯	土師	12.4	5.6	4.5	1/3	内へ赤褐色	ナナ	ナナ	ナナ			
BYS	1区	80	45	VSS 46L上面1	小瓶丸底2	土師	11.3	-	6.3	1/3	内へ赤褐色	口縁下ナナ	口縁下ナナ	ナナ	へツナリ		
BYS	1区	80	46	VI 118 46L	小瓶丸底1	土師	-	-	-	1/4	内へ赤褐色	ナナ	ナナ	ナナ			
BYS	1区	80	47	SR08 469	小瓶丸底2	土師	9	4.6	7.8	4/5	内へ赤褐色	ナナ	ナナ	ナナ	へツナリ		
BYS	1区	80	48	VI 116 46L上面	小瓶丸底2	土師	9.1	4.4	9.7	9/10	内へ赤褐色	ナナ	ナナ	ナナ	ナナ		
BYS	SQ	2000	80	49	3.7.11.13.14.15. 17.18.21.28.40	有段口鉢	土師	14.9	-	-	1/4	黄	ミガキ	ナナ			型別一致の 資料1枚のみ
BYS	3区	80	50		甕	野生	-	-	-	小片	内へ赤褐色	横線状文、垂状文	横線			写本	
BYS	3区	80	51	46L 660	甕	野生	-	-	-	1/8	内へ赤褐色	横線状文、垂状文	横線			写本	
BYS	3区	80	52	V 171 46L	甕	野生	-	-	-	小片	内へ赤褐色	横線状文、垂状文	ミガキ			写本	
BYS	3区	80	53	36.46L上面	甕B	土師	16.5	-	-	11/4	内へ赤褐色	ハケ	ナナ				
BYS	3区	80	54	36.46L上面23 シムラノ土	土師	3.2	1.4	2.4	10/10	黄	ナナ	ナナ	ナナ	ナナ			
BYS	3区	80	55	36.46L上面13	小瓶丸底1	土師	-	-	-	3/6	黄	ナナ	ナナ	ナナ	ナナ		
BYS	3区	80	56	SR008 46	ヒコウ	野生	-	-	-	2/3	灰	黄、褐色文、ナナ	口縁下ナナ	内面ツナナ 底ナナ			
BYS	4区	80	57	SD430	甕	野生	-	-	-	小片	内へ赤褐色	横線状文、垂状文	ミガキ			写本	
BYS	4区	80	58	SD430	甕	野生	-	-	-	小片	内へ赤褐色	横線状文、垂状文	ミガキ			写本	
BYS	4区	80	59	IV 24 46L上面	高杯	内製	-	-	-	100/3	黄	口縁下ナナ、口縁 ミガキ一色色地	口縁下ナナ	口縁下ナナ			
BYS	4区	80	60	IV 24 46L上面	高杯	土師	-	15.1	-	100/3	黄	ナナ	ナナ				
BKS	SK	9436	80	61	覆斗	埴	16.4	-	-	11/5	黄	ミガキ	口縁下ナナ	口縁下ナナ			
BKS	SK	9436	80	62	DC120	小瓶丸底1	土師	7	-	-	1/2	黄	一部ハケ、刺多 横線ナナ	口縁下ナナ	口縁下ナナ		1孔
BKS	SK	9436	80	63	覆斗	小瓶丸底1	土師	-	9.9	-	100/10	内へ赤褐色	ナナ	ナナ			空室 横線4孔
BKS	KI2	80	64	46L DXTK3	有段口鉢	土師	21.2	-	-	11/4	黄	ハケナミガキ	ハケナナナ				
BKS	KI2	80	65	46L	小瓶丸底1	土師	8.7	-	8.4	9/10	黄	上ナナナ、口縁下 ナナナナナ	口縁下ナナ	口縁下ナナ	へツナリ		
BKS	SK	9512	90	66	1.4.10.11.12.15	甕A	土師	18.3	-	25.1	9/10	明赤黄	口縁下ナナ 口縁下ナナ	口縁下ナナ	口縁下ナナ	へツナリ	
BKS	SK	9512	90	67	2	甕B	土師	14	5.4	26.2	10/10/10	黄	ハケミガキ	口縁下ナナ	口縁下ナナ	ナナ	
BKS	SK	9512	90	68	19	甕A	土師	13.2	5.6	21	10/10/10	黄	ハケナナナ	口縁下ナナ	口縁下ナナ	へツナリ	刺多(黒色あり)
BKS	SK	9512	90	69	13	甕B	土師	17	5.2	26	9/10	黄	口縁下ナナ 口縁下ナナ	口縁下ナナ	口縁下ナナ	へツナリ	
BKS	SK	9512	90	70	9.12.14.16.17.18	甕(覆斗)	土師	-	6.2	-	9/10	内へ赤褐色	口縁下ナナ、上ナナ ナナナナ	口縁下ナナ	口縁下ナナ	へツナリ	
BKS	SK	9512	90	71	6	甕B	土師	15.5	7	21.1	10/10	明赤黄	口縁下ナナ 口縁下ナナ	口縁下ナナ	口縁下ナナ	ナナ	
BKS	SK	9512	90	72	覆斗	有段口鉢	土師	13.5	-	-	1/3	黄	口縁下ナナ	口縁下ナナ			
BKS	SK	9512	90	73	18	甕A	土師	-	6	-	10/10/10	内へ赤褐色	ナナ	ナナ	ナナ	へツナリ	
BKS	SK	9512	90	74	4	甕(覆斗)	土師	15.3	-	-	1/3	黄	ミガキ	ミガキ			
BKS	SK	9512	90	75	覆斗	甕B	土師	-	5.3	-	1/4	黄	ハケ	ハケ、ナナ	ナナ	ナナ	
BKS	SK	9512	90	76	覆斗	甕(覆斗)	土師	11.7	3.7	-	2/3	明赤黄	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BKS	SK	9512	90	77	6	甕B	土師	-	7.5	-	10/10	明赤黄	下ナナへツナリ 刺多	ナナ	ナナ	へツナリ	
BKS	SK	9512	90	78	17.10	甕B	土師	-	6.5	-	1/4	内へ赤褐色	ハケ	ハケ、ナナ	ナナ	へツナリ	
BKS	SK	9512	90	79	4	甕B	土師	-	5.5	-	10/10	黄灰	へツナリ	へツナリ	へツナリ		
BKS	SK	9512	90	80	3	甕B	土師	-	6	-	10/10/10	黄灰	ハケナナナ	ハケ、ケズリ			
BYS	SB	4814	91	81	横穴	内製	17.6	-	-	1/3	内へ黄褐色 外に赤褐色	上ナナミガキ、下ナナ ナナナ	ミガキ一色色地				
BYS	SB	4814	91	82	1	横穴	土師	-	-	1/2	黄	ミガキ				刺多5孔	
BYS	SB	4814	91	83	4	横穴	内製	12.1	6	11.7	1/2	内へ赤褐色 外に赤褐色	上ナナナ、下ナナ ナナ、ハケナナ	ナナ一色色地	ミガキ	同一側面あり	
BYS	SB	4820	91	84	3.2.4	甕	土師	18	4	11	9/10	黄	口縁下 口縁下ナナ	口縁下ナナ	口縁下ナナ	へツナリ	1孔
BYS	SB	4830	91	85	瓦フキン	横穴	土師	14.2	-	3.3	9/10	内へ赤褐色	口縁下ナナ	口縁下ナナ	ナナ	刺ミガキ	へツナリ
BYS	SB	4830	91	86	1.K7フキン	横穴	土師	14.3	-	4.3	1/2	内へ赤褐色	口縁下ナナ	口縁下ナナ	ナナ	へツナリ	
BYS	SB	5009	91	87	P21.16	甕A	土師	18.7	-	-	1/3	内へ黒、外に 内へ赤褐色	ナナ	ナナ			内面は下ナ ナナ
BYS	SB	5009	91	88	P9.P10	甕A	土師	15	-	-	11/4	黄	口縁下ナナ	口縁下ナナ			
BYS	SB	5009	91	89	D9E.D.9A.9D	甕F	土師	18	-	-	11/2	内へ赤褐色	ミガキ	ミガキ			
BYS	SB	5009	91	90	D	鉢	土師	12.2	-	-	11/2	内へ赤褐色	口縁下ナナ	口縁下ナナ			同一側面あり
BYS	SB	5009	91	91	P9.P21	横穴	土師	14.2	-	-	5.1	11/4	黄	ミガキ	ミガキ	ミガキ	
BYS	SB	5009	91	92	P18	横穴	内製	14.2	-	-	1/7	内へ黄褐色 外に赤褐色	ミガキ	ミガキ一色色地	ミガキ		
BYS	SB	5009	91	93	P17	横穴	内製	14.2	-	-	5	1/2	下ナナへツナリ 刺多	ミガキ一色色地	ナナ	へツナリ	
BYS	SB	5011	91	94	8.7.2	横穴	土師	15.1	-	-	1/3	内へ赤褐色	ミガキ	ナナ	ミガキ		
BYS	SB	5014	91	95	横穴	土師	13	-	-	11/3	内へ赤褐色	7ナナナナ、刺多	ナナ	ナナ	へツナリ		

表19-(2) 古墳時代土器・土製品一覧表

第3章 弥生時代後期～古墳時代（VI層上面検出）の遺構と遺物

遺構番号	遺構形状	図番	報告書番号	出土位置	器種	器物名	口径	底径	器高	残存率	色調	外面形状	内面形状	底部形状	備考
BYS SR 5014 91 96	1	OB1 SB中	横土	土師	13.1	—	5.8	9/30	1	1/3	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	
BYS SB 5014 91 97	A.1L	横土	土師	11.8	—	4.1	1/3	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SR 5011 91 98	1	SK2020 UL	横土	土師	12.8	—	3.6	1/4	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5014 91 99	ホリ	横土	土師	11.1	5	5.5	2/3	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5014 91 100	ホリ	横土	土師	14.5	5.4	5.3	1/2	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5014 91 101	ホリ	横土	土師	14.7	—	11.8	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5014 91 102	ホリ	横土	土師	13.1	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5014 91 103	ホリ	横土	土師	13.1	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SR 5011 91 104	C.トレ.1.2L.1L	横土	土師	11.3	—	8	1/2	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5014 91 105	C.3L	横土	土師	20.2	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5014 91 106	1	横土	土師	11.6	—	6.1	9/30	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SR 5029 92 107	1	横土	土師	23.6	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5029 92 108	D.底	横土	土師	6.6	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5029 92 109	3	横土	土師	—	11.3	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5042 92 110	横土	土師	29.7	8.5	8.5	1/2	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5042 92 111	横土	土師	16.4	—	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5042 92 112	横土	土師	14	—	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5042 92 113	横土	土師	16.4	—	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5042 92 114	横土	土師	17	—	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5042 92 115	横土	土師	13.8	—	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5042 92 116	横土	土師	13.3	—	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5042 92 117	横土	土師	14.3	—	6.3	2/5	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5047 92 118	横土	土師	16	—	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SR 5047 92 119	1	横土	土師	18.5	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5047 92 120	9	横土	土師	10	4.8	11.2	10/10	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SR 5047 92 121	1	横土	土師	17.5	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5047 92 122	F1	横土	土師	10	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5047 92 123	6	横土	土師	19.4	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5047 92 124	9.10.14	横土	土師	18.2	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SR 5047 92 125	11	横土	土師	18.1	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5047 91 126	A.2L	横土	土師	12.8	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5047 91 127	F4	横土	土師	14.9	—	5.3	1/3	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5047 91 128	ホリ	横土	土師	14.7	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5054 91 129	ホリ	横土	土師	13.7	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5054 91 130	ホリ	横土	土師	16.4	—	16.9	9/30	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5054 91 131	K7フケン	横土	土師	16.6	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5054 91 132	3	横土	土師	21.4	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5054 91 133	4	横土	土師	13.8	6	11	1/2	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5054 91 134	1	横土	土師	15.2	8.8	17	9/30	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5054 91 135	5	横土	土師	18.5	6.0	38.2	9/30	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5054 91 136	K7フケン	横土	土師	15.5	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5054 91 137	K	横土	土師	—	12	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5062 91 138	1L	横土	土師	18.2	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SR 5062 91 139	1L	横土	土師	14.4	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5062 91 140	横土	土師	14.8	—	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5062 91 141	2	横土	土師	11.4	—	5	10/30	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SR 5069 91 142	K21	横土	土師	20.6	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5069 91 143	A.ホリ	横土	土師	—	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5069 91 144	K22	横土	土師	14	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5069 91 145	K17	横土	土師	16	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5069 91 146	K21.1L	横土	土師	13.9	—	5.8	10/30	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5069 91 147	1L	横土	土師	17.2	—	4.6	1/3	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5068 94 148	3	横土	土師	18.2	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5068 94 149	4	横土	土師	—	15	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5068 94 150	19.30	横土	土師	20.4	14.1	13.1	3/4	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5068 94 151	横土	土師	14.2	—	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5068 94 152	小型丸蓋	土師	8.8	—	8.5	3/4	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5068 94 153	11.14	小型丸蓋	土師	9.2	—	11	2/3	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5088 94 154	3ニットツ 半筒型土製	土師	6.9	4.2	4.3	5/4	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5094 94 155	I OD2 SB中	横土	土師	14.9	7.8	21.1	1/2	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5094 94 156	I OD2 SB中	横土	土師	17.8	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5094 94 157	横土	土師	15.4	—	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5094 94 158	C.1L.3	横土	土師	11.7	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5094 94 159	横土	土師	14.6	—	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SR 5094 94 160	横土	土師	13.3	—	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5094 94 161	1L.底ノ	横土	土師	14.6	4	11.5	2/3	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		
BYS SB 5094 94 162	I D22 SB中	横土	土師	8.2	—	—	—	にぶい焼	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		

表19-（3） 古墳時代土器・土製品一覧表

遺物 品名	遺物 番号	図号	報告 書番号	出土位置	器種	焼物 物種別	口径	底径	器高	残存率	色調	土質 の 系	外面整形	内面整形	底部整形	備考						
BY5	SB	2094	94	163	床下P4 1	煎茶鉢	土師	13	—	—	灰白/10	にじみ-黄	ミガキ	ミガキ								
BY5	SB	2094	94	164		研C型	土師	13	—	4.4	2/5	内→外 煎茶鉢 研C型	ミガキ	ミガキ	ミガキ							
BY5	SB	2094	94	165	P12 1	研C型	土師	14	—	4.2	9/10	にじみ-黄	ミガキ	ミガキ	ミガキ	へう張り						
BY5	SB	2094	94	166	1L	研M型	土師	14.8	—	—	1/7	灰黄	ミガキ	ミガキ	ミガキ							
BY5	SB	2094	94	167	1L	研M型	土師	11.8	—	—	1/7	内→外 にじみ-黄	ミガキ	ミガキ→黄色地	ミガキ							
BY5	SB	2094	94	168	床下	研K型	内黒	15.4	—	—	1/7	内→外 にじみ-黄	ミガキ	ミガキ→黄色地	ミガキ							
BY5	SB	2094	94	169	1L	研	土師	11.1	—	5.5	2/5	にじみ-黄	ミガキ	ミガキ	ミガキ							
BY5	SB	2097	94	170	K11	研B型	土師	15.3	10.1	5.3	10/10	にじみ-黄	漆部ミガキ	ミガキ	字押らへう張り	内黒黒色内 面焼入り						
BY5	SB	2097	94	171	B.1L K3	研M型	土師	14.2	—	—	1/4	内→外 にじみ-黄	ミガキ	ミガキ								
BY5	SB	2097	94	172	1L A2L	研B3+研B	内黒	12.4	8.6	4.8	9/10	内→外 にじみ-黄	ミガキ	ミガキ→黄色地	ミガキ		内面見出し部は にじみ-黄					
BY5	SB	2097	94	173	19	研B型	内黒	14.8	8.7	4	10/10	内→外 にじみ-黄	漆部ミガキ	ミガキ	字押らへう張り							
BY5	SB	2097	94	174	K3.K32	研B型	内黒	15.7	8.8	4.9	10/10	内→外 にじみ-黄	ミガキ	ミガキ→黄色地	ミガキ							
BY5	SB	2097	94	175	床1	研B型	内黒	14.6	8.5	4	10/10	内→外 にじみ-黄	漆部ミガキ	ミガキ→黄色地	字押らへう張り							
BY5	SB	2097	94	176	K3.AZL.F.A5L	煎(研) F	土師	19.5	—	—	1/8	内→外 にじみ-黄	ミガキ	ミガキ 漆部ミガキ			1個あり、床1					
BY5	SB	2097	94	177	A.1L.B.K3.K3L	煎A	土師	17.5	8.5	9.5	10/10	にじみ-黄	ナデ	ナデ	ナデ							
BY5	SB	2097	94	178	床1.AZL.A5L.B1	煎B	土師	17.4	7	20.3	9/10	煎赤	口縁以下ナデ 体部土師	1個へう張り 体部ナデ	ナデ	ナデ						
BY5	SB	2097	94	179	E.14.L18.25	煎F	土師	18.6	7.8	31.6	9/10	内→外 にじみ-黄	口縁ナデ 体部土師	ナデ	ナデ	ナデ						
BY5	SB	2097	94	180	K3.K4.K5 K6.K9	煎B	土師	15.7	—	—	1/2	煎赤	口縁ナデ 体部土師	口縁ナデ 体部土師	ナデ	ナデ						
BY5	SB	2097	94	181	K12	煎	土師	17.2	5.5	13.1	10/10	煎	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	1丸					
BY5	SB	2097	94	182	K9	煎引	土師	20.2	5.8	22.4	10/10	にじみ-黄	1個ナデ 体部へう張り	ナデ	ナデ	ナデ						
BY5	SB	2102	94	183		煎A	土師	18.4	8.5	24	1/2	にじみ-黄	ナデ→煎ナ	ナデ	ナデ	ナデ		片一懸体あり				
BY5	SB	2102	94	184	煎十輪	煎	内黒	15	10.7	5.4	10/10	内→外 にじみ-黄	ミガキ	ナデ→黄色地	ミガキ							
BY5	SB	2102	94	185	1	煎群	土師	—	11.8	—	100/10	にじみ-黄	ナデ	ナデ								
BY5	SB	2102	94	186		煎	土師	—	—	—	天押10/10	煎	ナデ→煎ナ	ナデ				天押2.5cm				
BY5	SB	2111	94	187	ZL	煎(黄)	土師	16	—	—	12/5	にじみ-黄	ヨコナデ	ヨコナデ				SB112と結合				
BY5	SB	2111	94	188	ZL	煎A	土師	15.4	—	—	13/4	にじみ-黄	ナデ	ナデ	ナデ							
BY5	SB	2111	94	189	1L	煎存	土師	—	—	—	100/5	内→外 にじみ-黄	ナデミガキ	ナデ								
BY5	SB	2112	94	190	2	煎口縁	土師	18.1	—	—	10/10	煎	ナデ	ナデ	ナデ							
BY5	SB	2112	94	191	1	煎A	土師	22.4	—	—	1/5	煎	ナデ	ナデ	ナデ							
BY5	SB	2112	94	192		煎H	土師	18	7.3	30.3	9/10	にじみ-黄	上下ナデ 下へう張り	1個ヨコナデ 以下へう張り	ナデ	ナデ						
BY5	SB	2112	94	193	4	煎林	内黒	—	11.5	—	100/5	内→外 にじみ-黄	ミガキ→黄色地 外→煎赤	ミガキ	ミガキ	ミガキ						
BY5	SB	2112	94	194		煎型煎2	土師	—	—	—	1/3	にじみ-黄	上下ナデ	上下ナデ	ナデ	ナデ			へう張り			
BY5	SB	2112	94	195	3	煎丸煎2	土師	—	—	—	2/2	煎赤	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ						
BY5	SB	2113	94	196	4.5	煎	赤土	—	—	—	1/3	内→外 煎赤	煎→煎 煎赤 口縁ミガキ 体部土師	口縁ミガキ 体部土師	ミガキ	ナデ						
BY5	SB	2113	94	197	D	煎口縁	土師	20.3	—	—	110/10	内→外 にじみ-黄	ミガキ 口縁はつじナ	ミガキ								
BY5	SB	2113	94	198	A.1L	煎	赤土	—	—	—	小片	煎	煎赤	ミガキ	ナデ				煎本			
BY5	SB	2113	94	199	3.C18.1	煎	赤土	19	—	—	1/4	煎	煎赤	ミガキ								
BY5	SB	2113	94	200	A.1L	煎	赤土	—	—	—	小片	にじみ-黄	煎赤	ミガキ					煎本 煎入り口縁 煎本 煎入り口縁			
BY5	SB	2113	94	201	2	煎	赤土	—	—	—	小片	にじみ-黄	煎赤	ミガキ								
BY5	SB	2116	94	202	1.5.H.13.D.1L	煎	赤土	15	—	—	1/3	煎	煎赤	ミガキ								
BY5	SB	2116	94	203	EW1レ	煎B	土師	17.2	—	—	11/4	煎	ハク	ハク	ナデ	ナデ				口縁はナデ 体部土師		
BY5	SB	2116	94	204	14.P10	煎	赤土	15.2	3.9	6.6	4/5	煎	○	ミガキ→黄色地	ミガキ	ミガキ→黄色地				片あり		
BY5	SB	2116	94	205	3.4.5.6.7.8. 10.11	煎林	赤土	15.2	11.8	22.4	9/10	煎	○	ミガキ→黄色地	ナデ	煎ハク				煎部三連 (1.6)		
BY5	SB	2116	94	206	6	煎林	赤土	—	—	—	10/5	内→外 にじみ-黄	○	ミガキ→黄色地	ナデ	ナデ						
BY5	SB	2116	94	207	15.16	煎口縁	赤土	10.2	—	—	100/4	にじみ-黄	ミガキ	ミガキ	ミガキ					煎部多		
BY5	SB	2116	94	208	P10	煎	赤土	—	—	—	小片	にじみ-黄	煎赤	ミガキ	ミガキ							
BY5	SB	2116	94	209	D.1L	煎	赤土	—	—	—	小片	にじみ-黄	煎赤	ミガキ							煎本	
BY5	SB	2116	94	210		煎	赤土	—	—	—	小片	にじみ-黄	煎赤	ミガキ							煎本	
BY5	SB	2116	94	211	C.1L	煎	赤土	—	—	—	小片	にじみ-黄	煎赤	ミガキ							煎本	
BY5	SB	2116	94	212	C.1L	煎	赤土	—	—	—	小片	煎	煎赤	ミガキ							煎本	
BY5	SB	2116	94	213	P9.P10.C.1L	煎	赤土	—	—	—	小片	にじみ-黄	煎赤	ナデ	ナデ						煎本	
BY5	SB	2117	94	214	D.1L	煎	赤土	—	—	—	小片	にじみ-黄	煎赤	ナデ	ナデ						煎本	
BY5	SB	2117	94	215	B1L.A.N.105	研C-M型	内黒	14.4	—	4.8	1/2	煎	口縁ミガキ 下へう張り	ミガキ	ミガキ						へう張り	
BY5	SB	2117	94	216	煎A.煎B.煎	煎F	土師	—	8.2	—	100/10	にじみ-黄	漆部ミガキ	へう張り	へう張り							
BY5	SB	2118	94	217	床	煎	土師	15.5	—	—	10/5	煎	ナデ	ナデ	ミガキ→一部ハク							
BY5	SB	2118	94	218	床	研A型	内黒	15.2	—	—	1/8	煎	唇部へう張り 体ミガキ	ミガキ								煎本
BY5	SB	2118	94	219	LL	研	内黒	14	—	—	1/7	煎	ミガキ	ミガキ→黄色地								
BY5	SB	2121	94	220		煎	赤土	8.1	—	—	1/2	煎	ナデ	ナデ→一部ハク	ナデ							
BY5	SB	2121	94	221	1	煎	赤土	—	—	—	小片	にじみ-黄	煎赤	ミガキ								煎本
BY5	SB	2121	94	222	1	煎	赤土	—	—	—	小片	煎	煎赤	ミガキ								煎本
BY5	SB	2121	94	223	煎	赤土	土師	—	—	—	小片	にじみ-黄	ナデ	ナデ	ナデ							煎本

表18-(4) 古墳時代土器・土製品一覧表

第3章 弥生時代後期～古墳時代（VI層上層検出）の遺構と遺物

遺構記号	遺構番号	図番	報告番号	出土位置	器種	焼き物類別	口径	底径	器高	残存率	色調	土の基	外面整形	内面整形	底部整形	備考		
BYS	SB	S121	97	254	東	甕	赤色	-	-	-	小赤	にぶい	上層部取次文 下層に小赤	ミガキ		基本		
BYS	SH	S121	97	225		甕	赤色	-	-	-	小赤	にぶい	上層部取次文 下層に小赤	ミガキ		基本		
BYS	SB	S121	97	226		甕	赤色	-	-	-	小赤	にぶい	取次文 帯に小赤	ミガキ		基本		
BYS	SB	S124	97	227		甕	土層	19.1	-	-	白/2	にぶい	ナダ	ナダ				
BYS	SB	S124	97	228	4	合付埴	土層	-	-	-	黒/3	にぶい	ハケ	ミガキ				
BYS	SB	S124	97	228	3	高杯	土層	-	-	-	黒/2	にぶい	ナダ	ミガキ		胴深4孔		
BYS	SB	S124	97	230		釜	土層	5.4	-	-	白/2	黒	ナダ	ナダ				
BYS	SH	S124	97	231	6	甕	赤色	16.9	6.2	22	9/10	黒	黒地に取次文 下層に小赤	ミガキ		ナダ		
BYS	SB	S124	97	232	1.2	甕	赤色	17.8	6.3	24	2/3	黒	黒地に取次文 帯に小赤	ミガキ		ナダ		
BYS	SB	S121	97	233		甕	赤色	-	-	-	小赤	にぶい	取次文	ミガキ		基本		
BYS	SB	S124	97	234		甕	赤色	-	-	-	小赤	黒	取次文	ミガキ		基本		
BYS	SB	S124	97	235	6	甕	土層	-	-	-	小赤	にぶい	ミガキ	ハケ→ミガキ		基本		
BYS	SB	S124	97	236		甕	土層	-	-	-	小赤	にぶい	ハケ	ナダ	ミガキ	基本		
BYS	SB	S124	97	237		甕	土層	-	-	-	小赤	にぶい	ナダ	ミガキ		基本		
BYS	SH	S124	97	238		甕	土層	-	-	-	小赤	にぶい	ハケ	ミガキ		基本		
BYS	SB	S136	97	239		有段口埴	土層	19.4	-	-	白/2	黒		ミガキ				
BYS	SH	S136	97	240	6	甕A	土層	14.8	-	-	1/4	にぶい	ナダ	ハケ	ナダ	ハケ		
BYS	SB	S136	97	241	7D, 東下1, K3	甕A	土層	21.6	-	-	1/5	にぶい	ミガキ	ミガキ			同一個体あり	
BYS	SH	S136	97	242	K8	甕A	土層	13.4	7.9	16.2	1/4	にぶい	ナダ	ナダ	ナダ			
BYS	SB	S136	98	243	8	甕B	土層	-	4.4	-	3/4	にぶい	白埴子 下層に小赤	ナダ	ハケ			
BYS	SB	S136	98	244	E7	甕F	土層	17.6	6.1	31.1	1/4	にぶい	ミガキ	ミガキ	ナダ			
BYS	SH	S136	98	245	K, K3, K7	甕F	土層	-	7.5	-	1/5	白→黒 片一層取次	赤→ミガキ	ミガキ	ナダ			
BYS	SB	S136	98	246		甕	土層	-	6.1	-	黒/10	黒	有段ハケ ヘラ張り	黒→ミガキ	ヘラ張り	胴深1孔, 口内 黒→ミガキ		
BYS	SB	S136	98	247	ML9, P9	甕合	土層	-	-	-	1/2	にぶい	ミガキ	ハケ	ナダ			
BYS	SB	S136	98	248	地下	高杯	土層	-	14.6	-	黒/2	黒	ミガキ	ナダ				
BYS	SH	S136	98	249	1	高杯	土層	-	15	-	黒/10	黒	ミガキ	下層に小赤				
BYS	SB	S136	98	250	K5, K9	有段口埴	土層	16	12.5	13.3	9/10	にぶい	ミガキ	ミガキ	胴深1孔, 下層に小赤 片一層取次	ナダ		
BYS	SB	S136	98	251	K4	有段口埴	土層	-	13.9	-	黒/10	黒	ミガキ	下層に小赤				
BYS	SB	S136	98	252	T9	有段口埴	土層	16.3	-	-	黒/5	黒	ミガキ	ミガキ				
BYS	SB	S136	98	253	K6	有段口埴	土層	20.8	-	-	黒/10	黒	ミガキ	ミガキ				
BYS	SB	S136	98	254	K, K3	有段口埴	土層	-	19.2	-	黒/10	黒	ミガキ	下層に小赤				
BYS	SB	S136	98	255	地下	杯M	内周	16.1	-	-	4.5	1/2	黒	ミガキ	ミガキ	ミガキ	胴深1孔	
BYS	SB	S136	98	256		杯M	内周	15	-	-	1/3	黒	ミガキ	ミガキ→赤色取次	ミガキ		胴深ヘラガキ	
BYS	SB	S136	98	257	P9	杯M	内周	12.4	-	-	3.4	9/10	黒	ミガキ	ミガキ→赤色取次	ミガキ		
BYS	SH	S136	98	258	K, C	杯M	内周	13.7	-	-	4.8	1/4	黒	ミガキ	ミガキ→赤色取次	ミガキ		
BYS	SB	S136	98	259	地下	杯C	内周	10.9	-	-	4.5	1/2	黒	ミガキ	ミガキ→赤色取次	ミガキ		
BYS	SB	S136	98	260	6.7	杯C	内周	19.1	-	-	1/3	白→黒 片一層取次	ミガキ	ミガキ→赤色取次	ヘラ張り			
BYS	SH	S136	98	261	12	杯	土層	-	-	-	3/4	黒	白埴子, 黒	黒	黒	ミガキ		
BYS	SB	S136	98	262	13	杯	土層	-	1.5	-	9/9	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ			
BYS	SH	S136	98	263	1	杯	土層	17.4	11	4	1/2	黒	ミガキ	ミガキ	ミガキ			
BYS	SB	S142	99	264	2.6	高杯	土層	20.3	9.8	12.4	1/4	にぶい	白	ハケ→ミガキ	胴深1孔, 胴深ナダ		胴深1孔, 5孔	
BYS	SH	S142	99	265	3.3	甕	土層	-	8.3	-	1/5	黒	ミガキ	ミガキ	ナダ		片一層取次	
BYS	SB	S145	99	266	A	甕	土層	13	-	-	1/15	黒	山埴子, 取次ハケ	ハケ	ナダ	ナダ		胴深ナダ
BYS	SB	S145	99	267	A	高杯	土層	-	10.8	-	黒/10	黒	ハケ	ハケ			胴深ナダ	
BYS	SB	S145	99	268	PH, B	甕合	土層	8.1	-	-	受取/2	赤	ミガキ	ミガキ				
BYS	SB	S143	99	269	K10	有段口埴	土層	19.8	-	-	黒	ミガキ	ミガキ				SB156年代より	
BYS	SB	S143	99	270	4	有段口埴	土層	14.6	10.2	10.4	4/5	にぶい	ナダ	胴深1孔, 下層に小赤				
BYS	SH	S143	99	271	7	高杯	土層	-	-	-	1/2	黒	ナダ	胴深1孔, 下層に小赤				
BYS	SB	S143	99	272	8	小型丸取	土層	14	-	-	1/2	黒	ナダ	ナダ				
BYS	SB	S143	99	273	1	小型丸取	土層	-	-	-	2/2	にぶい	上層に小赤, 下層に小赤	ナダ	ハケ			
BYS	SB	S143	99	274	2	小型丸取	土層	-	-	-	1/2	にぶい	黒	ナダ	黒		胴深1孔ガキ	
BYS	SH	S143	99	275		甕	赤色	-	-	-	小赤	黒	黒地に取次文	口ナダ			胴のみの編入	
BYS	SB	S147	99	276	1	杯C	内周	12.8	-	-	3.1	1/2	白→黒 片一層	ミガキ	ミガキ→赤色取次			
BYS	SB	S148	99	277	東	甕	赤色	-	-	-	小赤	にぶい	黒地に取次文	ミガキ			基本	
BYS	SB	S148	99	278	9.3.5	甕	赤色	-	-	-	小赤	にぶい	黒地に取次文	ミガキ			基本	
BYS	SB	S148	99	279	1.2, 4.5	甕	赤色	-	-	-	1/15	白→黒 片一層	黒地に取次文	ミガキ			基本	
BYS	SB	S152	99	280	K	甕A	土層	15.6	-	-	口/2	にぶい	ナダ	ナダ				
BYS	SB	S152	99	281	F	杯A	土層	15.9	-	-	5.3	1/2	にぶい	ミガキ	ミガキ			
BYS	SB	S152	99	282	C, L	杯M+C	内周	12.8	-	-	1/5	黒	白→黒 片一層取次	ミガキ→赤色取次				
BYS	SB	S152	99	283	K, R	杯	土層	15.8	4.6	5.7	1/2	にぶい	ミガキ	ミガキ	ナダ			
BYS	SD	S162	99	284	F	高杯	内周	-	9.1	-	1/2	内→黒 片一層	黒	ナダ	ハケ	ナダ		
BYS	SB	S166	99	285	D, 1L	甕	赤色	-	-	-	小赤	にぶい	黒地に取次文	ミガキ			基本	
BYS	SB	S166	99	286	2	高杯	土層	11.8	-	-	黒/2	黒	黒	ナダ			胴深1孔	
BYS	SB	S166	99	287	D, 1L	高杯	土層	-	9.3	-	黒/10	白→黒 片一層	○ミガキ→赤色取次	上層に小赤 下層に小赤			胴深1孔, 胴深ナダ	
BYS	SB	S166	99	288	1	高杯	土層	-	9.3	-	黒/10	白→黒 片一層	○ミガキ→赤色取次	ナダ			胴深1孔, 胴深ナダ	
BYS	SB	S167	99	289		高杯	土層	-	10.9	-	黒/10	黒	ミガキ	ナダ			胴深4孔	

表18- (5) 古墳時代土器・土製品一覧表

発掘 番号	遺物 番号	図号	報告 書番号	出土位置	器物 種類	口径	底径	器高	残存半	色調	土質の 説明	外面整形	内面整形	底部整形	備考	
BYS	SB	5158	100	200	甕	赤赤	-	-	小片	内一黒 外一黒	縦線1、下文字 1、下文字	ナデ			瓶本	
BYS	SB	5158	100	201	甕	赤赤	-	-	小片	内二白 外一黒	縦線1 縦線2	ナデ			瓶本 底面少し凹	
BYS	SB	5158	100	202	甕	赤赤	-	-	小片	黒	縦線2	ミガキ			瓶本	
BYS	SB	5158	100	203	甕	赤赤	-	-	小片	黒	縦線2	ミガキ			瓶本	
BYS	SB	5158	100	204	甕	赤赤	-	-	小片	内一白 外一黒	上二横線 下二横線	ミガキ			瓶本	
BYS	SB	5160	100	205	3	甕	赤赤	-	-	小片	内一白 外一黒	ナデ			ミガキ	
BYS	SB	5160	100	206	Py.1	鉢	14.8	6.7	6.7	9/10	内一白 外一黒	体部ハツマシガキ	ミガキ		ナデ	
BYS	SB	5160	100	207	2	鉢	18.4	4	7.2	10/10	黒	体部ハツマシガキ	ミガキ		ナデ	
BYS	SB	5162	100	208	甕	赤赤	-	-	小片	内一白 外一黒	縦線2	ミガキ			瓶本	
BYS	SB	5162	100	209	甕	赤赤	-	-	小片	内一白 外一黒	ナデ				瓶本	
BYS	SB	5162	100	300	甕	赤赤	-	-	小片	内一白 外一黒	ナデ				瓶本	
BYS	SB	5162	100	301	甕	赤赤	-	-	小片	内一白 外一黒	ナデ				瓶本	
BYS	SB	5162	100	302	7	甕	-	-	小片	内一白 外一黒	ナデ				瓶本	
BYS	SB	5166	100	303	P1	杯C型	内黒	20.8	-	01/4	内一白 外一黒	ナデ			ミガキ一色体部	
BYS	SB	5166	100	304	△リ	鉢	土師	11.3	-	11/7	黒	口縁ナデ			ヘウ張り	
BYS	SB	5167	100	305	UL	杯D型	土師	9.3	-	01/7	内一白 外一黒	ナデ			ナデ	
BYS	SB	5167	100	306	△底上、底下7	鉢	土師	11.1	4.1	6.4	1/3	黒	ナデ			ナデ
BYS	SB	5167	100	307	底下7	鉢	土師	-	3.9	-	底10/10	内一白 外一黒	ナデ			ミガキ
BYS	SB	5167	100	308	UL	杯E型	内黒	12.8	-	3	1/4	内一黒 外一黒	ミガキ			ミガキ一色体部
BYS	SB	5167	100	309	UL	杯E型	内黒	13.7	-	3.9	1/2	内一黒 外一黒	ミガキ			ミガキ一色体部
BYS	SB	5167	100	310	UL、底下11	杯C型	内黒	12.2	-	3.4	1/2	内一白 外一黒	ミガキ			内面に沈線
BYS	SB	5167	100	311	UL	杯F型	内黒	12.6	-	3.6	1/2	黒	口ナデ			ヘウ張り
BYS	SB	5170	100	312	7	甕	赤赤	-	-	2/2	黒	ナデ			ミガキ	
BYS	SB	5172	100	313	A	甕A	土師	15.7	-	1/6	赤黒	ナデ			口縁ナデ	
BYS	SB	5172	100	314	A、B	甕A	土師	17.3	-	1/6	赤	ナデ			ナデ	
BYS	SB	5172	100	315	A	甕B	土師	16.9	-	1/4	内一白 外一黒	口縁ナデ			ナデ	
BYS	SB	5172	100	316	A	高杯	土師	-	-	100/7	内一白 外一黒	ナデ			ナデ	
BYS	SB	5172	100	317	初段の高杯	土師	13.5	-	-	1/3	黒	口ナデ			ナデ	
BYS	SB	5172	100	318	A	小型丸足2	土師	-	-	6/5	内一白 外一黒	ナデ			ナデ	
BYS	SB	5178	100	319	埴土	杯C+D型	内黒	14.7	-	01/8	内一黒 外一黒	ミガキ			ミガキ一色体部	
BYS	SB	5178	100	320	埴土	杯E型	内黒	15.8	-	11/6	赤	ミガキ			ミガキ一色体部	
BYS	SB	5178	100	321	埴土	杯E型	土師	14	-	4.8	2/3	赤	ミガキ			ヘウ張り
BYS	SB	5178	100	322	埴土	杯E型	土師	15.3	-	1/5	赤	ミガキ			ミガキ一色体部	
BYS	SB	5219	100	203		杯H	内黒	12	6.8	3.1	1/7	赤	縦線ハツマシガキ			口ナデ
BYS	SB	5282	101	304	△	甕	土師	18.4	-	016/10	赤	ミガキ			ナデ	
BYS	SB	5282	101	305	1	甕F	土師	19	-	118/10	赤	ミガキ			ミガキ	
BYS	SB	5282	101	306		杯C型	内黒	12.4	-	01/5	内一白 外一黒	ミガキ			ミガキ一色体部	
BYS	SB	5282	101	307	A	甕A	土師	16.9	-	1/3	赤	ナデ			ナデ	
BYS	SB	5283	101	328	1.2.D	初段の高杯	土師	19.6	-	-	1/3	赤	ミガキ			ミガキ
BYS	SB	5283	101	329	D2	高杯	土師	13.1	-	84/4	赤	ミガキ			ナデ	
BYS	SB	5283	101	330	D1	杯C型	土師	10.5	-	01/6	内一白 外一黒	口縁ナデ、体部ナデ			ナデ	
BYS	SB	5283	101	331	D3	小型丸足2	土師	-	3.8	-	3/3	赤	ナデ			ナデ
BYS	SB	5283	101	332	△リ	小型丸足2	土師	8.8	3	8.9	10/10	赤	ナデ			ナデ
BYS	SB	5284	101	333	J	甕A	土師	12.4	-	1/6	内一白 外一黒	ナデ			ナデ	
BYS	SB	5284	101	334	2	鉢	土師	12.5	3.1	10.9	4/5	内一白 外一黒	ナデ			ナデ
BYS	SB	5285	101	335	1	埴土製高杯	内黒	15.4	-	101/10	内一白 外一黒	横いミガキ			横いミガキ一色体部	
BYS	SB	5109	101	326	底下1、2	高杯	土師	-	14.2	-	10/10	赤	ナデ			ナデ
BYS	SB	5109	101	327	底下1、3	高杯	土師	-	-	101/2	赤	ナデ			ナデ	
BYS	SB	5109	101	328	△	鉢	土師	12	-	6.3	10/10	赤	ナデ			ナデ
BYS	SB	5109	101	330	1	1 KM14 7レ	鉢	19.8	-	8.2	4/5	内一白 外一黒	ミガキ			ミガキ一色体部
BYS	SB	5109	101	340	2	甕	内黒	15.3	-	1/8	赤	縦線ハツマシガキ			口縁ナデ	
BYS	SB	5107	101	341	7	鉢	土師	12.8	-	9.2	2/3	内一白 外一黒	ナデ			ヘウ張り
BYS	SB	5107	101	342	1	甕	土師	20.2	4.6	10.9	4/5	内一白 外一黒	口縁ナデ、体部ナデ			ナデ
BYS	SB	5109	101	343	F	甕F	土師	11.3	-	01/9	内一白 外一黒	口縁ナデ			ナデ	
BYS	SB	5109	101	344	横	甕A	土師	17	-	11/2	赤	ナデ			ナデ	
BYS	SB	5109	101	345	C	甕B	土師	17.8	-	03/4	内一白 外一黒	口縁ナデ、体部ナデ			ナデ	
BYS	SB	5109	101	346	S、横、F	高杯	土師	-	14.5	-	100/10	赤	口縁ナデ			ナデ
BYS	SB	5200	101	347	A	初段の高杯	土師	14.7	-	89/3	赤	ミガキ			ミガキ	
BYS	SB	5200	101	348	A形2S-4	初段の高杯	土師	15	-	-	10/10	赤	ミガキ			ミガキ一色体部
BYS	SB	5200	101	349	底下	初段の高杯	土師	17.7	-	87/3	赤	ミガキ			ミガキ	
BYS	SB	5200	101	350		初段の高杯	土師	16.5	-	83/4	赤	ミガキ			ミガキ	
BYS	SB	5200	101	351	A、ト、レ	杯C型	土師	19.2	-	3.7	3/4	赤	ミガキ			ミガキ
BYS	SB	5200	101	352	P3	杯C型	土師	13.7	-	3.6	3/6	赤	ミガキ			ミガキ
BYS	SB	5109	101	353	Py.A	杯C型	土師	12.6	-	3.2	2/3	赤	ミガキ			ミガキ
BYS	SB	5109	101	354	上段	杯C型	土師	12.8	-	-	1/5	赤	ミガキ			ミガキ
BYS	SB	5109	101	355	フキ	杯C型	土師	11.2	-	3.4	3/4	赤	ミガキ			ミガキ

表19-(6) 古墳時代土器・土製品一覧表

第3章 弥生時代後期～古墳時代（VI層上面検出）の遺構と遺物

遺構 番号	遺構 番号	国名	報告 番号	出土位置	器種	焼色 物種	口径	底径	器高	残存率	色別	表面の 色	外面整形	内面整形	底部整形	備考		
BYS	SB	5180	101	356	床A	粘板瓦	土製	18.8	-	-	1/5	にぶい	ナナギキ	ナナギキ				
BYS	SB	5180	102	357	P2, トレ.A.B	粘板瓦	土製	13.3	-	4.4	1/2	黄	ナナギキ	1層目コナダ 底面ナナギキ	ミギキ	1層目コナダ 底面ナナギキ		
BYS	SB	5180	102	358	S	粘板瓦	内出	12.3	-	3.9	1/3	内→黒 色焼	ミギキ	ミギキ→黒色焼		ミギキ		
BYS	SH	5180	102	359	A	粘板瓦	内出	13	-	-	1/4	内→黒 色焼	ミギキ	ミギキ→黒色焼				
BYS	SB	5180	102	360	7D	粘板瓦	内出	12.6	-	3.3	1/2	内→黒 色焼	ミギキ	ミギキ→白色焼		ミギキ		
BYS	SB	5180	102	361	7E	粘板瓦	内出	13.4	6.6	3.2	3/4	内→黒 色焼	ミギキ	ミギキ→黒色焼		ミギキ		
BYS	SB	5180	102	362	7F	粘板瓦	内出	14.8	-	3.2	1/2	黄	ミギキ	ミギキ→白色焼		ミギキ		
BYS	SB	5180	102	363	トレ.ホリ	粘板瓦	内出	12	-	-	1/3	黄	1層目ミギキ 2層目黄	ミギキ→白色焼		1層目のため不明		
BYS	SB	5180	102	364	上座→下座上	粘板瓦	内出	12.6	-	3.4	1/2	内→黒 色焼	1層目ミギキ 2層目黄	ミギキ→黒色焼		へうり→ ミギキ		
BYS	SB	5180	102	365	7G	粘板瓦	内出	12.4	-	-	1/2	黄	ミギキ	ミギキ→黒色焼		ミギキ		
BYS	SB	5180	102	366	4	粘板瓦	内出	15.6	8.2	5.2	2/3	内→黒 色焼	ミギキ	ミギキ→白色焼		ミギキ		
BYS	SH	5180	102	367	ホリ.P2	粘板瓦	内出	13.8	-	-	1/2	内→黒 色焼	ミギキ	ミギキ→白色焼		ミギキ		
BYS	SB	5180	102	368	7D	粘板瓦	内出	12.6	-	-	1/2	黄	ミギキ	ミギキ→白色焼		ミギキ		
BYS	SH	5180	102	369	C	粘板瓦	内出	10.5	-	1/8	内→黒 色焼	ミギキ	ミギキ→黒色焼			底面黄→黒		
BYS	SB	5180	102	370	E	ナ	土製	9.6	-	-	0/10	黄	ナダ	ナダ				
BYS	SB	5180	102	371	床下 小段土蔵	土製	-	-	-	2/2	黄	ナダ	ナダ			ナダ		
BYS	SB	5180	102	372	上座 トビニユツ 土製土蔵	土製	-	2.3	-	1/3	にぶい	黄	ナダ	ナダ			ナダ	
BYS	SB	5180	102	373	粘板瓦	土製	12.1	-	-	0/10	灰	灰	灰	灰			TK200TK40	
BYS	SB	5180	102	374	4	粘板瓦	土製	-	-	1/10	灰	灰	灰	灰			TK200TK40	
BYS	SB	5180	102	375	C	粘板瓦	土製	-	-	1/4	灰	灰	灰	灰			ナダ	
BYS	SH	5180	102	376	ホリ	粘板瓦	土製	13.5	-	-	1/4	黄	黄	黄			黄	
BYS	SB	5180	102	377	2	粘板瓦	土製	-	12.3	-	1/10	黄	○	ミギキ→白色焼	ナダ	へうり		
BYS	SB	5180	102	378	A	粘板瓦	土製	11.6	-	-	1/6	黄	ミギキ	ミギキ				
BYS	SB	6001	102	379	要	土製	15.1	-	-	0/10	黄	ハケナダ	ナダ					
BYS	SB	6001	102	380	1	要	土製	11.5	-	-	1/2	にぶい	ナダ				SB6001で取り上げ	
BYS	SB	6001	102	381	1M4 1	要	土製	12.4	-	-	1/2	にぶい	ナダ					
BYS	SB	6001	102	382	要	土製	15.6	-	-	0/10	黄	ナダ→ハケ	口縁ナダ	口縁ナダ			SB6001で取り上げ	
BYS	SB	6001	102	383	3.4.6	要	土製	19	7.8	10.2	1/8	にぶい	ナダ	ナダ	ナダ		SB6001で取り上げ	
BYS	SB	6001	102	384	要	土製	32.9	-	-	0/10	黄	口縁コナダ 口縁コナダ	口縁コナダ 口縁コナダ					
BYS	SB	6001	102	385	要	土製	-	-	-	-	にぶい	ナダ						
BYS	SB	6001	102	386	7D	粘板瓦	土製	16.4	-	-	6/45	黄	ミギキ	ミギキ				
BYS	SH	6001	103	387	9	粘板瓦	土製	15.2	-	-	6/10	黄	ミギキ	ミギキ			SB6001で取り上げ	
BYS	SB	6001	103	388	7E	粘板瓦	土製	19.9	-	-	6/10	黄	ミギキ	ミギキ			SB6001で取り上げ	
BYS	SH	6001	103	389	ホリ	粘板瓦	土製	-	-	-	6/10	黄	ハケ	ナダ	ナダ		SB6001で取り上げ SB6001で取り上げ	
BYS	SB	6001	103	390	粘板瓦	土製	15.6	-	4.6	1/2	内→黒 色焼	ミギキ	ミギキ	ミギキ			ミギキ	
BYS	SB	6001	103	391	粘板瓦	土製	16.6	-	-	7/10	内→黒 色焼	ミギキ	ミギキ					
BYS	SB	6001	103	392	ホリ	粘板瓦	土製	14	-	-	1/2	にぶい	ミギキ	ミギキ			SB6001で取り上げ	
BYS	SB	6001	103	393	粘板瓦	土製	15.1	-	4.7	3/4	内→黒 色焼	口縁ナダ	口縁ナダ	口縁ナダ			へうり	
BYS	SB	6001	103	394	7E	粘板瓦	内出	13.3	-	5	1/5	内→黒 色焼	ミギキ	ミギキ→白色焼			ウズ→ミギキ	
BYS	SB	6001	103	395	粘板瓦	土製	14.3	-	4.8	2/3	内→黒 色焼	ミギキ	ミギキ→黒色焼				SB6001で取り上げ	
BYS	SB	6001	103	396	7	土製	-	3.4	-	1/2	にぶい	ナダ	ナダ	ナダ				
BYS	SB	6001	103	397	要	土製	13.3	-	-	1/6	灰	口縁コナダ	口縁コナダ	口縁コナダ			SB6001で取り上げ	
BYS	SB	6003	103	398	4.6	要	土製	19.1	-	-	1/2	にぶい	口縁コナダ	口縁コナダ	口縁コナダ			
BYS	SB	6003	103	399	4.5.6.庫	要	土製	10.7	-	-	1/2	にぶい	ミギキ	ミギキ	ミギキ			口縁コナダ
BYS	SB	6003	103	400	2	要	土製	15.9	4.3	16.3	10/10	黄	口縁コナダ	口縁コナダ	口縁コナダ			ナダ
BYS	SB	6003	103	401	要	土製	14.8	7	29.1	9/10	内	にぶい	口縁コナダ	口縁コナダ	口縁コナダ			ナダ
BYS	SH	6003	103	402	要	土製	27.2	-	26	2/3	内	黄	口縁コナダ	口縁コナダ	口縁コナダ			ナダ
BYS	SB	6003	103	403	8	粘板瓦	土製	11.6	-	4.4	10/10	灰	口縁コナダ	口縁コナダ	口縁コナダ			口縁コナダ
BYS	SB	6004	103	404	1.内上	要	土製	20.1	7.8	34.6	7/8	にぶい	口縁コナダ	口縁コナダ	口縁コナダ			ナダ
BYS	SB	6009	104	405	2.蔵土	要	土製	12.4	-	21.7	1/2	黄	口縁コナダ	口縁コナダ	口縁コナダ			ナダ
BYS	SB	6009	104	406	7E	要	土製	-	-	-	1/2	にぶい	口縁コナダ	口縁コナダ	口縁コナダ			ナダ
BYS	SB	6009	104	407	要	土製	-	-	-	1/2	にぶい	口縁コナダ	口縁コナダ	口縁コナダ			ナダ	
BYS	SB	6009	104	408	要	粘板瓦	土製	14.2	-	-	0/10	黄	口縁コナダ	口縁コナダ	口縁コナダ			ナダ
BYS	SB	6009	104	409	要	粘板瓦	土製	13.6	-	3.7	1/2	にぶい	口縁コナダ	口縁コナダ	口縁コナダ			ミギキ
BYS	SB	6009	104	410	要	粘板瓦	土製	14.8	-	-	1/10	にぶい	ミギキ	ミギキ				
BYS	SB	6009	104	411	要	粘板瓦	土製	16.6	-	-	0/10	黄	ミギキ	ミギキ→白色焼				
BYS	SB	6009	104	412	要	土製	10.4	-	-	1/10	にぶい	ミギキ	ミギキ					
BYS	SB	6009	104	413	7D	要	土製	9.2	-	-	受用10/10	にぶい	ミギキ	ミギキ				
BYS	SH	6009	104	414	内上	要	土製	17.7	-	-	1/10	灰	口縁コナダ	口縁コナダ	口縁コナダ			TK200-TK21
BYS	SH	6010	104	415	要	土製	13	-	-	0/10	にぶい	ナダ	ナダ	ナダ				
BYS	SB	6010	104	416	要	土製	14.8	-	-	1/2	にぶい	ナダ	ナダ	ナダ				
BYS	SB	6010	104	417	7E	要	土製	12	4.8	5.8	2/2	にぶい	口縁コナダ	口縁コナダ	口縁コナダ			ナダ
BYS	SB	6010	104	418	要	土製	15.2	-	-	1/8	にぶい	ナダ	ナダ	ナダ				
BYS	SH	6010	104	419	要	土製	-	-	-	-	にぶい	ナダ	ナダ	ナダ				
BYS	SB	6010	104	420	要	土製	-	-	-	10/10	にぶい	ハケ→ナダ	ミギキ	ナダ				

表19-(7) 古墳時代土器・土製品一覧表

発掘記号	遺物番号	図番号	報告書番号	出土位置	器種	焼色・物種別	口径	底径	器高	残存率	色調	土の性状	外面整形	内面整形	底部整形	備考	
BYS	SB	0010	104	421	埴土	粘Co灰 内型	15.2	-	-	1/4	にじみ色	内型・底に赤褐色	山崎コシガキ ミダキ-黒色焼斑	ミダキ-黒色焼斑		へう刷り	
BYS	SB	0010	104	422	埴土	粘Co灰 内型	11.9	-	4.2	1/4	にじみ色	内型・底に赤褐色	山崎コシガキ ミダキ-黒色焼斑	ミダキ-黒色焼斑		へう刷り	
BYS	SB	0011	104	423	1.2	埴土	土製	15.4	3.3	21.9	9/10	産	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ		へう刷り	
BYS	SB	0012	104	424	21.25.15.埴土	埴土	15.4	6.4	21.9	3/4	産	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ		ナデ		
BYS	SB	0012	104	425	2.埴土	粘Co灰 土製	-	3.5	-	1/2	産	ナデ	ナデ		ナデ		
BYS	SB	0012	104	426	11	埴土	-	-	-	2/5	産	ナデ	ナデ		ナデ		
BYS	SB	0012	104	427	20.33.埴土	粘Co灰 土製	17.8	-	-	3/4	にじみ色	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			病態良好	
BYS	SB	0012	105	428	20.23.埴土	埴土	18.4	5.7	27.6	9/10	にじみ色	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			ナデ	
BYS	SB	0012	105	429	38	埴土	土製	13.7	6.1	13.8	1/3	にじみ色	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			土質に不十分
BYS	SB	0012	105	430	30	埴土	土製	12.6	6.5	12.7	4/5	産	ナデ	ナデ			ナデ
BYS	SB	0012	105	431	40	埴土	土製	16.1	-	-	1/2	内型・底に赤褐色	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			ナデ
BYS	SB	0012	105	432	8	埴土	土製	14.8	4.9	15.4	10/10	産	ナデ	ナデ			ナデ
BYS	SB	0012	105	433	27.埴土	埴土	15.9	-	-	1/2	にじみ色	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			ナデ	
BYS	SB	0012	105	434	40	埴土	土製	-	-	3.8	4/5	にじみ色	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			ナデ
BYS	SB	0012	105	435	7	埴土	土製	14.3	5.1	10.7	9/10	赤褐色	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			底面にくぼみ
BYS	SB	0012	105	436	埴土	土製	9.8	5.5	8.3	9/10	にじみ色	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			ナデ	
BYS	SB	0012	105	437	3	埴土	土製	14.3	-	25.5	9/10	産	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			ナデ
BYS	SB	0012	105	438	42	埴土	土製	11.2	-	8.1	10/10	赤褐色	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			ナデ
BYS	SB	0012	105	439	26	粘板の残片	土製	20.1	-	-	10/10	産	ヨコシガキ	ヨコシガキ			ナデ
BYS	SB	0012	105	440	5	粘板の残片	土製	17.1	-	-	6/10/10	産	ヨコシガキ	ヨコシガキ			ナデ
BYS	SB	0012	105	441	41	粘板の残片	土製	17.5	-	-	10/10	産	ヨコシガキ	ヨコシガキ			ナデ
BYS	SB	0012	105	442	19.埴土	粘板の残片	土製	17.5	-	-	10/10	産	ヨコシガキ	ヨコシガキ			ナデ
BYS	SB	0012	105	443	44	粘板の残片	土製	17.1	-	-	6/10/10	産	ヨコシガキ	ヨコシガキ			ナデ
BYS	SB	0012	106	444	4.埴土	粘板の残片	土製	15.2	13.2	13.4	9/10	にじみ色	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			ナデ
BYS	SB	0012	106	445	1	粘板の残片	土製	18	13.8	13.6	10/10	明赤色	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			ナデ
BYS	SB	0012	106	446	8.23.32.埴土P	粘板の残片	土製	15.8	11.6	13	4/5	産	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			ナデ
BYS	SB	0012	106	447	14.埴土	粘板の残片	土製	16.1	-	-	10/10	産	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			ナデ
BYS	SB	0012	106	448	13.埴土	粘板の残片	土製	17.7	14.1	13.4	9/10	にじみ色	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			ナデ
BYS	SB	0012	106	449	43	粘板の残片	土製	15.4	12.1	12.5	9/10	にじみ色	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			ナデ
BYS	SB	0012	106	450	24.45.埴土	高杯	土製	-	15.3	-	10/10	明赤色	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			ナデ
BYS	SB	0012	106	451	16.45.埴土	高杯	土製	-	22.9	-	1/2	明赤色	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			ナデ
BYS	SB	0012	106	452	埴土	高杯	土製	-	18.4	-	10/10	明赤色	ヨコシガキ	ヨコシガキ			ナデ
BYS	SB	0012	106	453	4.5.埴土	その他の高杯	土製	14.3	11.4	12	9/10	産	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			ナデ
BYS	SB	0012	106	454	21.23.28.37.埴土	その他の高杯	土製	17.7	13.2	14.6	9/10	明赤色	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			ナデ
BYS	SB	0012	106	455	22.34	その他の高杯	土製	17.8	13.3	15.8	10/10	産	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			ナデ
BYS	SB	0012	106	456	埴土	高杯	土製	-	-	-	10/10	にじみ色	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			ナデ
BYS	SB	0012	106	457	16.埴土	粘Co灰 土製	15.2	-	5	9/10	産	ナデ	ナデ			ナデ	
BYS	SB	0012	106	458	埴土	粘Co灰 土製	14.1	-	-	1/10	産	ナデ	ナデ			ナデ	
BYS	SB	0012	106	459	埴土	粘Co灰 土製	13.1	-	-	1/10	産	ナデ	ナデ			ナデ	
BYS	SB	0012	106	460	31	粘Co灰 内型	11.9	-	4.3	10/10	産	ナデ	ナデ			ナデ	
BYS	SB	0012	106	461	埴土	粘Co灰 内型	11.8	-	-	1/10	内型・底に赤褐色	ナデ	ナデ			ナデ	
BYS	SB	0012	106	462	埴土	粘Co灰 土製	13.8	-	-	1/5	産	ナデ	ナデ			ナデ	
BYS	SB	0013	106	463	蓋	土製	-	-	-	1/2	にじみ色	ナデ	ナデ			ナデ	
BYS	SB	0013	106	464	粘Co灰 内型	土製	13.6	-	-	1/10	内型・底に赤褐色	ナデ	ナデ			ナデ	
BYS	SB	0013	106	465	埴土	土製	-	12.3	-	10/10	産	ナデ	ナデ			ナデ	
BYS	SB	0013	106	466	埴土	土製	6.4	-	-	1/10	産	ナデ	ナデ			ナデ	
BYS	SB	0013	106	467	8	埴土	土製	31.8	-	-	10/10	にじみ色	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			ナデ
BYS	SB	0013	106	468	埴土	土製	16.1	-	-	10/10	産	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			ナデ	
BYS	SB	0013	106	469	埴土	埴土	17.5	-	-	11/10	にじみ色	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			ナデ	
BYS	SB	0013	106	470	15.15.1	埴土	土製	-	6.4	-	10/10/10	産	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			ナデ
BYS	SB	0013	107	471	P7-1	埴土	土製	11.1	-	1/5	にじみ色	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			ナデ	
BYS	SB	0013	107	472	P7-2	埴土	土製	18.5	-	-	1/10	にじみ色	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			ナデ
BYS	SB	0013	107	473	埴土	土製	13	-	-	1/10	にじみ色	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			ナデ	
BYS	SB	0013	107	474	P9.P9-9	埴土	土製	11.1	-	-	11/10	にじみ色	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			ナデ
BYS	SB	0013	107	475	P9.P9-10	その他の高杯	土製	14.4	12.1	12.1	1/2	明赤色	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			ナデ
BYS	SB	0013	107	476	3.埴土	粘板の残片	土製	28.0	-	-	10/10	にじみ色	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			ナデ
BYS	SB	0013	107	477	15.埴土	粘板の残片	土製	-	-	-	10/10	産	ヨコシガキ	ヨコシガキ			ナデ
BYS	SB	0013	107	478	3.埴土	粘板の残片	土製	-	20.7	-	10/10	にじみ色	口縁コシガキ ミダキ	口縁コシガキ ミダキ			ナデ

表19-(8) 古墳時代土器・土製品一覧表

第3章 弥生時代後期～古墳時代（VI層上面検出）の遺構と遺物

遺構 番号	遺構 番号	図号	備考 書号	出土位置	器種	地層 物種	口径	底径	器高	残存率	色調	窯 の 系	外面形状	内面形状	底部形状	備 考
BYS SB 0024 107 479	5.床下	その他西側	土層	20.6	-	-	45/45	度				ミガキ	口縁部面取	ミガキ		
BYS SB 0024 107 480	P1, 床下, 地上	その他西側	土層	15.4	-	-	46/22	にぶい・赤褐色				ミガキ	口縁部面取	ミガキ		
BYS SB 0024 107 481	P1-1	西側	土層	-	13.5	-	46/10	褐色				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 107 482	P1-3	西側	土層	-	11.8	-	46/10	褐色				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 107 483	2	西側	土層	-	-	-	46/23	にぶい・赤褐色				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 107 484	9	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 107 485	10	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 107 486	P1-5	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 107 487	11	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 107 488	P1-1	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 107 489	P1-2	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 107 490	12	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 107 491	P1-3	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 107 492	1	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 107 493	P1-12	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 107 494	13	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 107 495	14	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 107 496	15	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 107 497	16	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 107 498	17	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 107 499	18	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 107 500	19	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 107 501	2	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 107 502	2	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 107 503	P1-1	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 107 504	P1-2	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 107 505	K, 床下	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 306	2. 遺土	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 507	遺土	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 508	1	支脚	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 509	9	支脚	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 510	10	支脚	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 511	遺土	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 512	遺土	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 513	5	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 514	遺土	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 515	1	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 516	2	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 517	7	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 518	8	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 519	P5	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 520	2	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 521	1	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 522	遺土	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 523	1	その他西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 524	3. 埋土	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 525	遺土	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 526	6	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 527	3	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 528	1	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 529	4	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 530	半瓦	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 531	3.2	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 532	1	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 533	9.12. 床下	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 534	12. 床下	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 535	8	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 536	6. 床	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 537	床, 床下	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		
BYS SB 0024 108 538	12. 床下	西側	土層	-	-	-	46/22	度				ミガキ	ナデ	ナデ		

表19-(9) 古墳時代土器・土製品一覧表

遺物 品目	遺物 番号	図番	報告 番号	出土位置	器種	粘土 色別	口径	底径	器高	残存率	色調	表面 色別	外面整形	内面整形	底部整形	備考
YYS	SB	6057	109	539	4	高杯	土師	-	11.8	-	黒4/5	土師土器 土師土器	ナテ			
YYS	SB	6057	109	540		高フキヤ	土師	-	-	-	黒中のみ	土師土器	ナテ			
YYS	SB	6057	109	541	14	高脚瓶	土師	14.7	-	-	黒1/3	明赤焼	土師土器	土師土器		
YYS	SB	6057	109	542	3.米	高脚瓶	土師	12.9	-	3.5	黒10/10	赤土器 土師土器	土師土器		へつくり	土師土器
YYS	SB	6057	109	544	16	高脚瓶	土師	12.3	-	5	1/2	赤土器 土師土器	土師土器	土師土器		
YYS	SB	6057	109	543	14	高脚瓶	土師	12.1	-	5	4/5	土師土器	土師土器	土師土器		へつくり
YYS	SB	6057	109	545	米	高脚瓶	内黒	13.3	-	4.8	9/10	土師土器	土師土器	土師土器		
YYS	SB	6057	109	546	2	杯	土師	9.5	-	14.2	10/10	明赤焼	土師土器	土師土器	土師土器	
YYS	SB	6057	109	547	5	小袋丸瓶	土師	7.3	3.5	8.6	10/10	赤土器	土師土器	土師土器	ナテ	
YYS	SB	6058	109	648		高脚瓶	土師	16.6	-	-	黒1/4	明赤焼	土師土器	土師土器		
YYS	SB	6058	109	649		高脚瓶	土師	-	-	-	黒1/8	土師土器	土師土器	土師土器		
YYS	SB	6060	109	550		高脚瓶	土師	14	-	-	黒1/4	土師土器	土師土器	土師土器		
YYS	SB	6070	109	351	明上床下	高脚瓶	土師	13.6	-	-	1/4	内黒焼	土師土器	土師土器		
YYS	SB	6070	109	352		高脚瓶	内黒	13.7	8.1	5.3	1/2	内黒焼	土師土器	土師土器	土師土器	へつくり
YYS	SB	6070	109	353		高脚瓶	内黒	15.8	-	-	1/5	灰白	土師土器	土師土器	土師土器	TK43
YYS	SB	6070	109	354		高脚瓶	内黒	14.4	-	-	1/7	灰白	土師土器	土師土器	土師土器	TK43
YYS	SB	6079	109	356	2	高脚瓶	土師	21.1	-	1.5	明赤焼	土師土器	土師土器	土師土器		
YYS	SB	6079	109	356	塊	土師	23.2	-	-	1/1/4	土師土器	土師土器	土師土器			
YYS	SB	6079	109	357	4	高脚瓶	土師	17.5	-	-	黒1/4	土師土器	土師土器	土師土器		
YYS	SB	6079	109	358	3	高脚瓶	土師	-	13.1	-	黒10/10	明赤焼	土師土器	土師土器		
YYS	SB	6079	109	359	塊	土師	11.7	-	4	1/3	土師土器	土師土器	土師土器			
YYS	SB	6079	109	360	フタ上	高脚瓶	内黒	-	-	-	黒1/5	土師土器	土師土器	土師土器		
YYS	SB	6079	109	362	1	高脚瓶	内黒	9.2	-	11.2	9/10	赤土器	土師土器	土師土器		
YYS	SB	6084	119	561	6	高脚瓶	土師	14.4	-	-	黒1/3	土師土器	土師土器	土師土器		
YYS	SB	6084	119	563	1	高脚瓶	土師	15.6	-	-	2/3	明赤焼	土師土器	土師土器		
YYS	SB	6084	119	564	5	高脚瓶	土師	18.1	-	-	1/8	土師土器	土師土器	土師土器		
YYS	SB	6084	119	565	3.4	高脚瓶	土師	17.3	-	-	1/2	土師土器	土師土器	土師土器		
YYS	SB	6084	119	566		高脚瓶	土師	16.5	-	-	1/2	赤土器	土師土器	土師土器		
YYS	SB	6084	119	567	7	高脚瓶	土師	-	9.8	-	1/2	土師土器	土師土器	土師土器		
YYS	SB	6084	119	568	K	高脚瓶	内黒	17.3	-	-	11/5	赤土器	土師土器	土師土器	土師土器	へつくり
YYS	SB	6086	119	569		高脚瓶	土師	16	-	-	1/16	赤土器	土師土器	土師土器		
YYS	SB	6086	119	570	床下	高脚瓶	土師	16.6	-	-	黒1/5	赤土器	土師土器	土師土器		
YYS	SB	6086	119	571	床下	高脚瓶	土師	-	1/3	-	赤土器	土師土器	土師土器			
YYS	SB	6119	119	572		高脚瓶	土師	18.4	-	-	1/2/5	赤土器	土師土器	土師土器		
YYS	SB	6088	119	573	1	高脚瓶	赤土	17.7	7.5	22.4	黒10/10	明赤焼	土師土器	土師土器	土師土器	へつくり
YYS	SB	6088	119	574	4	高脚瓶	土師	15	-	-	1/1/7	赤土器	土師土器	土師土器		5/5と同一
YYS	SB	6088	119	575		高脚瓶	土師	-	-	-	小片	土師土器	土師土器	土師土器		5/4と同一
YYS	SB	6088	119	576	2	高脚瓶	赤土	13	-	-	1/3	赤土器	土師土器	土師土器		
YYS	SB	6088	119	577		高脚瓶	赤土	-	-	-	小片	土師土器	土師土器	土師土器		新本
YYS	SB	6088	119	578	9	高脚瓶	赤土	-	-	-	小片	土師土器	土師土器	土師土器		新本
YYS	SB	6094	119	579		高脚瓶	赤土	-	-	-	小片	土師土器	土師土器	土師土器		新本
YYS	ST	3054	119	580		小袋丸瓶	土師	9.5	-	8.7	4/5	土師土器	ナテ			
YYS	ST	3054	119	582	1/1	高脚瓶	土師	22.3	-	-	9/10	土師土器	土師土器	土師土器		
YYS	SD	4051	111	583	SD410.4	高脚瓶	土師	-	-	-	黒1/3	土師土器	土師土器	土師土器		
YYS	SD	4051	111	583	SD410.1	高脚瓶	土師	-	-	-	1/5	明赤焼	土師土器	土師土器		
YYS	SD	4051	111	584	SD410.2	高脚瓶	土師	-	13.6	-	黒1/4	明赤焼	土師土器	土師土器	土師土器	
YYS	SD	4051	111	585	SD410.3	高脚瓶	土師	-	4.6	-	黒10/10	明赤焼	土師土器	土師土器	土師土器	
YYS	SD	2009	111	586	1L	高脚瓶	土師	-	8.5	-	黒10/10	明赤焼	土師土器	土師土器	土師土器	
YYS	SD	2009	111	587	2	高脚瓶	土師	-	6.5	-	黒10/10	明赤焼	土師土器	土師土器	土師土器	
YYS	SD	2009	111	588	1L	高脚瓶	内黒	9	-	-	黒1/8	明赤焼	土師土器	土師土器	土師土器	
YYS	SD	3041	111	589	3	高脚瓶	土師	13.2	-	-	1/7	土師土器	土師土器	土師土器		
YYS	SD	3051	111	590	1	高脚瓶	土師	15.4	-	4.4	1/2	土師土器	土師土器	土師土器		
YYS	SD	3051	111	591	2	高脚瓶	内黒	12.1	6.4	3	1/2	赤土器	土師土器	土師土器	土師土器	
YYS	SD	6043	111	592		高脚瓶	内黒	16	-	-	黒1/5	赤土器	土師土器	土師土器		
YYS	SD	6043	111	593		高脚瓶	内黒	14.8	-	4.9	6/7	赤土器	土師土器	土師土器	土師土器	
YYS	SD	7065	111	594		高脚瓶	内黒	23.1	-	-	1/7	赤土器	土師土器	土師土器	土師土器	
YYS	SD	7065	111	595	1 117, MLL 1 118 117, 118	高脚瓶	土師	14.1	-	-	1/2	土師土器	土師土器	土師土器	土師土器	
YYS	SD	7065	111	596	1 117, MLL 1 117, 118	高脚瓶	土師	12.6	-	-	-	-	土師土器	土師土器	土師土器	
YYS	SD	7065	111	597	1 118, マツウ	高脚瓶	内黒	14.6	8.1	3	1/3	赤土器	土師土器	土師土器	土師土器	
YYS	SD	7065	111	598	1 117, 1	高脚瓶	土師	14.3	-	7	-	-	土師土器	土師土器	土師土器	
YYS	SD	7066	111	599	1 117, 7.8.9	高脚瓶	土師	-	8	-	1/5	赤土器	土師土器	土師土器	土師土器	

表19-(10) 古墳時代土器・土製品一覧表

第3章 弥生時代後期～古墳時代（VI層上面検出）の遺構と遺物

遺構番号	遺構番号	図号	報告番号	出土位置	器種	器物類別	口径	底径	器高	残存率	色調	表面の意	外面整形	内面整形	底部整形	備考
BYS SD 7068 111 600	I 117.7	窯口	土師	17.9	-	-	1130/10	にぶい焼	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SD 7068 111 601	I 117	窯	土師	14	-	-	131/7	にぶい焼	ナデ	ハケ	ナデ					5字横
BYS SD 7068 111 602	I 117	窯	土師	16.1	-	-	131/10	にぶい焼	ナデ	ハケ	ナデ					5字横
BYS SD 7068 111 603	I 117	窯	土師	14.4	-	-	131/8	にぶい焼	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SD 7068 111 604	I 117	付置	土師	-	10.8	-	106/10	既赤	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SD 7068 111 605	I 117	移置の器	土師	14.9	-	-	131/4	焼赤	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SD 7068 111 606	I 117	高形	土師	-	12.1	-	106/16	内一黒	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SD 7068 111 607	I 117.7	丸蓋	土師	15.6	-	-	1/7	にぶい焼	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SD 7068 111 608	I 117	丸蓋	土師	15.6	-	4.6	1/4	内一黒	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SD 7068 111 609	I 121 23LL	丸蓋	土師	15.6	-	4.8	1/3	内一黒	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SD 7068 111 610	I 117	丸蓋	土師	15.2	-	-	1/4	内一黒	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SD 7068 111 611	I 117	丸蓋	土師	12.6	-	-	1/4	内一黒	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SD 7068 112 612	I 117.2	丸蓋	土師	15.7	-	6.5	10/10	内一黒	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SD 7068 112 613	I 117.12	丸蓋	土師	9.7	-	10.2	9/10	既黒	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SD 7068 112 614	I 117	丸蓋	土師	9.8	-	10/10	既	ナデ	ハケ	ナデ						
BYS SD 7068 112 615	I 117	丸蓋	土師	-	-	つまみのみ	既	ナデ	ハケ	ナデ						
BYS SX 7038 112 616	I 117.3	丸蓋	土師	-	-	既	既	ナデ	ハケ	ナデ						
BYS SX 7038 112 617		有段の口縁	土師	16.2	-	-	112/10	にぶい焼	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SX 7038 112 618		高形	土師	-	-	101/12	にぶい焼	ナデ	ハケ	ナデ						
BYS SX 7038 112 619		高形	土師	-	-	101/12	にぶい焼	ナデ	ハケ	ナデ						
BYS SX 7038 112 620		丸蓋	土師	18.4	-	-	131/8	内一黒	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SX 7038 112 621		丸蓋	土師	14.4	-	-	131/8	内一黒	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SD 7071 112 622		丸蓋	土師	10.8	-	-	131/10	にぶい焼	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SD 7071 112 623		丸蓋	土師	14.4	-	-	131/7	にぶい焼	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SD 7071 112 624		丸蓋	土師	12.7	8.3	3.8	1/5	内一黒	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SD 7071 112 625		丸蓋	土師	13.6	-	-	131/5	内一黒	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SD 7072 112 626	I 116.1	丸蓋	土師	12.6	5.4	23.4	131/10/10	既	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 682 112 627		丸蓋	土師	13.8	5.2	14.5	9/10	赤	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5038 112 628	2	丸蓋	土師	13.1	-	-	1/2	内一黒	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5038 112 629	1000-1	丸蓋	土師	18.8	-	-	既	ナデ	ハケ	ナデ						
BYS SK 5038 112 630	5	丸蓋	土師	-	-	-	3/3	既	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5038 112 631		丸蓋	土師	-	-	-	1/2	にぶい焼	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5038 112 632	4	丸蓋	土師	8.5	-	8.5	9/10	既	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5042 112 633		丸蓋	土師	-	-	-	101/10	既	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5052 112 634		丸蓋	土師	13.2	-	-	131/5	引	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5092 112 635	I 116.1	丸蓋	土師	13.3	-	-	100/10	にぶい焼	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5092 112 636	2	丸蓋	土師	12.5	-	4.2	1/4	既	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5092 112 637	2L	丸蓋	土師	15	-	-	1/4	にぶい焼	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5092 112 638	4.3.3L	丸蓋	土師	17	-	-	1/2	にぶい焼	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5092 113 639	5.6	丸蓋	土師	17.2	6.5	28.2	1/2	既	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5092 113 640	3.L	丸蓋	土師	16.7	6.9	27.2	9/10	既	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5143 113 641		丸蓋	土師	14.2	-	-	112/4	既	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5143 113 642		丸蓋	土師	10.6	-	-	131/4	内一黒	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5143 113 643		丸蓋	土師	-	-	-	101/12	にぶい焼	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5153 113 644		丸蓋	土師	16	-	-	131/8	既	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5196 113 645	3	丸蓋	土師	-	4.7	-	1/5	内一黒	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5196 113 646		丸蓋	土師	13.2	-	3.2	1/8	内一黒	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5261 113 647		丸蓋	土師	9.2	-	-	131/16	既	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5261 113 648		丸蓋	土師	12.5	-	-	131/7	内一黒	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5264 113 649		丸蓋	土師	17	-	-	131/8	既	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5264 113 650		丸蓋	土師	16.2	-	-	131/5	にぶい焼	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5327 113 651		丸蓋	土師	-	13.6	-	100/13	既	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5307 113 652		丸蓋	土師	18.7	-	-	1/7	にぶい焼	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5339 113 653		丸蓋	土師	12.2	-	-	131/7	にぶい焼	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5339 113 654		丸蓋	土師	-	-	-	161/7	赤	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5340 113 655		丸蓋	土師	-	14.1	-	100/13	にぶい焼	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5340 113 656		丸蓋	土師	-	-	-	161/4	既	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5340 113 657		丸蓋	土師	18.4	4.4	5.2	2/5	にぶい焼	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5369 113 658		丸蓋	土師	12.8	-	-	3/5	にぶい焼	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5385 113 659		丸蓋	土師	12.4	-	-	131/13	内一黒	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5418 113 660		丸蓋	土師	15.5	7.5	4.4	2/5	内一黒	ナデ	ハケ	ナデ					
BYS SK 5446 113 661		丸蓋	土師	11.8	-	-	-	内一黒	ナデ	ハケ	ナデ					

表19- (11) 古墳時代土器・土製品一覧表

遺物 種類	遺物 番号	図 番 号	報告 番号	出土位置	器種	焼色 特徴	口径	底径	器高	残存率	色別	土質	外面整形	内面整形	底部整形	備考	
BYS	SK	605	114	652	1	甕B	土製	-	4.8	-	1/2	にじみ焼	底面ナシ 全体ハゲナシ	ナシ	ナシ		
BYS	SK	605	114	653	1	甕B	土製	15.8	-	-	1/7	にじみ焼	口縁ナシ 胴部ナシ	口縁ナシ 胴部ナシ	ナシ		
BYS	SK	605	114	654	1	壺	土製	10.8	-	14	4/5	内二色 外一色焼	口縁ナシ 胴部ナシ	ナシ	ナシ		
BYS	SK	605	114	665	1	甕B	土製	-	19.9	-	100/1	にじみ焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ		
BYS	SK	605	114	666	1	小豆丸底土	土製	10	3.8	4.9	9/10	にじみ焼	ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ	ナシ	
BYS	SK	605	114	667	1	小豆丸底土	土製	8.7	-	8.5	4/5	焼	ハゲナシ	ナシ	ナシ	ハゲナシ	
BYS	SK	626	114	668	1	甕	土製	15.9	-	-	1/3	にじみ焼	口縁ナシ、胴ナシ	口縁ナシ、胴ナシ	口縁ナシ、胴ナシ		
BYS	SK	626	114	669	1	甕B	土製	19.8	-	-	11/7	にじみ焼	口縁ナシ、胴ナシ	口縁ナシ、胴ナシ	口縁ナシ、胴ナシ		
BYS	SK	626	114	670	3	甕B	土製	-	18.4	-	100/10	内二色 外一色焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ		
BYS	SK	626	114	671	2,3	研2段	内製	14.5	-	5.4	1/2	内二色 外一色焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ		
BYS	SK	626	114	672	3	研2段	内製	16	-	6.9	1/3	内二色 外一色焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ		
BYS	SK	639	114	673		研2段	内製	14.4	-	-	1/7	内二色 外一色焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ		
BYS	SK	643	114	674	1	甕B	土製	-	-	-	100/3	にじみ焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ		
BYS	SK	643	114	675	2	新設高林	土製	-	18.2	-	100/10	焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ		
BYS	SK	643	114	676	1	甕	土製	28.3	6.7	29.9	5	焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ		
BYS	SK	643	114	677	1	甕	土製	22.4	-	-	1/6	内二色 外一色焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ		
BYS	SK	644	114	678		甕	土製	-	-	-	1/20	内二色 外一色焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ		
BYS	SK	643	114	679		甕B	土製	19.1	-	-	100/2	焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ		
BYS	SK	643	114	680		土製	13.5	4.7	4.5			にじみ焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ		
BYS	SB	608	114	681	P7-3	小豆丸底土 甕?	土製	10.1	4.3	9	4/5	焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ		
BYS	5 区	115	682			甕	土製	25.6	-	-		焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ		
BYS	4 区	115	683	SD419.4		甕	土製	-	-	-	1/7	にじみ焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ		
BYS	5 区	115	684			甕	土製	-	-	-	1/1	にじみ焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ		
BYS	5 区	115	685	IV CLA ナナコシ		甕	土製	13.8	-	-	11/4	内二色 外一色焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ		
BYS	4 区	115	686	IV OC3 6E.1上	冊?	土製	-	-	-	1/7	内二色 外一色焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ			
BYS	5 区	115	687	SB204		甕	土製	14.4	-	-	1/7	焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ		
BYS	5 区	115	688	SB204 あり		甕	土製	-	-	-	1/8	焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ		
BYS	5 区	115	689	SB204 5	合併書	土製	15	9.3	21.5	9/10	にじみ焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ			
BYS	5 区	115	690	SB204 4	合併書	土製	17.5	9.3	27.9	9/10	にじみ焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ			
BYS	5 区	115	691		甕	土製	14.1	-	-	11/7	内二色 外一色焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ			
BYS	5 区	115	692	SB204 あり		甕	土製	14.4	-	-	11/8	内二色 外一色焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ		
BYS	5 区	115	693	I SB P2-1	甕B	土製	18.7	-	-	10/10	焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ			
BYS	5 区	115	694	I S14 カタ	甕	土製	-	-	-	小尺	内二色 外一色焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ			
BYS	5 区	115	695	SB209		甕	土製	-	-	-	小尺	内二色 外一色焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ		
BYS	5 区	115	696	SB209		甕	土製	-	-	-	小尺	内二色 外一色焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ		
BYS	5 区	115	697	SB209 D		甕	土製	-	-	-	小尺	内二色 外一色焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ		
BYS	5 区	115	698	SB195 D		甕	土製	-	-	-	小尺	内二色 外一色焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ		
BYS	5 区	115	699	SB202	手造り土製	土製	-	-	-	小尺	にじみ焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ			
BYS	5 区	115	700	SB204 30	甕B	土製	8.8	13.3	8.7	1/2	にじみ焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ			
BYS	5 区	115	701	SB205		甕	土製	14.8	-	-	100/3	焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ		
BYS	5 区	115	702	SK5170	甕B	土製	12	-	-	100/3	焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ			
BYS	SK	549	115	703	東京製鉄所 高林	内製	14.3	11	13.3	9/10	内二色 外一色焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ			
BYS	5 区	116	704	SB5129	甕B	土製	12.6	-	-	100/3	焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ			
BYS	5 区	116	705	SK5429	研2段	土製	15.4	-	-	-	100	焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ		
BYS	5 区	116	706	3e 4L土製	研A深	土製	13	-	-	1/3	焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ			
BYS	5 区	116	707	I N85 3eL	研B浅	土製	12.5	-	-	11/7	100	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ			
BYS	5 区	116	708	SB5075.1	甕	土製	13.8	-	-	11/2	100	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ			
BYS	5 区	116	709	I NH19 4CL	研2段	内製	14.8	7.1	3.9	7/8	内二色 外一色焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ			
BYS	5 区	116	710	SB263 LL	研A深	内製	13.6	-	-	11/8	内二色 外一色焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ			
BYS	5 区	116	711	5e4L I S13 5e5L	甕	土製	16.8	-	-	100/10	焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ			
BYS	5 区	116	712	SB5099	甕	土製	16.8	-	-	11/3	100	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ			
BYS	5 区	116	713	4L土製	研B	土製	-	-	-	100/8	内二色 外一色焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ			
BYS	5 区	116	714	5b	研B浅深林	土製	-	-	-	小尺	内二色 外一色焼	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ			
BYS	5 区	116	715	SB206	研B浅	土製	14.4	-	-	11/8	100	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ			
BYS	5 区	116	716	SB2071 底ナ	研B浅	土製	14	-	-	11/8	100	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ			
BYS	5 区	116	717	SB204 あり	研B浅	土製	11.7	-	-	1/5	100	口縁ナシ	口縁ナシ	口縁ナシ			

表19-(12) 古墳時代土器・土製品一覧表

第3章 弥生時代後期～古墳時代（VI層上面検出）の遺構と遺物

遺跡記号	遺構番号	四角番号	報告番号	出土位置	器種	焼き物種	口径	底径	器高	残存率	色調	土の基	外観整形	内面整形	底面整形	備考	
BYS	5区	116	718	1 NG20 4C1	研蓋目	灰土	12.2	-	-	1/3	灰	灰土	シガキ	シガキ			TK216
BYS	5区	116	719		研蓋目	灰土	10.8	-	-			灰土	シガキ	シガキ			
BYS	6区	116	720	SD604 LL 1層上	空	土師	-	4.6	-	4/5	灰緑	シガキ	シガキ	シガキ	ナデ		
BYS	6区	116	721	SD608	有段口縁輪	土師	16.2	-	-		シガキ	シガキ	シガキ	シガキ			
BYS	6区	116	722		壺	土師	12.2	-	-			シガキ	シガキ	シガキ			5字線
BYS	6区	116	723	SD602 4M	壺	土師	16.4	-	-	1/5	灰白	シガキ	シガキ	シガキ			5字線
BYS	6区	116	724		壺	弥生	-	-	-		シガキ	シガキ	シガキ	シガキ			断面 1/4、断面 1/4、口縁
BYS	6区	116	725	SD602 4L 5	和歌山朝土師	土師	16.8	-	-	1/3	灰	シガキ	シガキ	シガキ			
BYS	6区	116	726	SD709 1 117 4	餅合	土師	-	10.3	-	2/3		シガキ	シガキ	シガキ			断面 1/4、断面 1/4
BYS	6区	116	727	SD604	研蓋目	土師	11.8	-	-	1/8		シガキ	シガキ	シガキ			
BYS	6区	116	728		研蓋目	内土	18.5	-	-			シガキ	シガキ	シガキ			
BYS	6区	116	729	SD604 LL	研蓋目	内土	14.3	-	-	1/4		シガキ	シガキ	シガキ			
BYS	6区	116	730	SD705 1 118 2 LL	小形丸蓋 2	土師	-	2.3	-	4/5		シガキ	シガキ	シガキ			
BYS	6区	116	731	SD602 1 N 3 2 LL	小形丸蓋 2	土師	-	-	-	3/4		シガキ	シガキ	シガキ			
BYS	6区	116	732	SD602 1	小形丸蓋 1	土師	9.5	2.2	6.7	5/10		シガキ	シガキ	シガキ			
BYS	6区	116	733	SD707 1 118 2 LL	丸蓋	土師	-	-	-	1/3		シガキ	シガキ	シガキ			TK209
BYS	6区	116	734	SD601	高杯	内土	15.5	10.2	11.9	1/2		シガキ	シガキ	シガキ			断面 1/4、断面 1/4
BYS	6区	116	735	SD708 1 117 4	研蓋目	内土	12	-	-	1/4		シガキ	シガキ	シガキ			TK23、TK47
BYS	6区	116	736	SD601	研蓋目	内土	12.2	-	-	1/4		シガキ	シガキ	シガキ			6C代
BYS	6区	116	737	SD706 1 117	研蓋目	内土	13	-	5.3	2/3		シガキ	シガキ	シガキ			NT15
BYS	6区	116	738	SD605-1	研蓋目	内土	12.7	-	5	1/5		シガキ	シガキ	シガキ			
BYS	6区	116	739	1 122	研蓋目	灰土	10.7	10.2	-	1/3		シガキ	シガキ	シガキ			TK216
BKU		117	740		壺	弥生	-	-	-	小片		シガキ	シガキ	シガキ			
BYS	5区	117	741	1	土師	土師	4.5	-	6.5	1/2		シガキ	シガキ	シガキ			断面 1/4
BYS	5区	117	742	P 1L7	土師	土師	4.3	-	11.8	10/10		シガキ	シガキ	シガキ			断面 1/4
BYS	5区	117	743	1 117 MLL	土師	土師	0.7-2.0	-	5.4	10/10/10		シガキ	シガキ	シガキ			断面 1/4
BYS	5区	117	744		土師	土師	1.0-2.5	-	7	5/4		シガキ	シガキ	シガキ			断面 1/4
BYS	5区	117	745		土師	土師	1.0-2.8	-	8.8	10/10		シガキ	シガキ	シガキ			断面 1/4
BYS	5区	117	746		土師	土師	1.2-2.4	-	7.6	10/10		シガキ	シガキ	シガキ			断面 1/4
BYS	5区	117	747	3	内面輪	土師	-	-	-	小片		シガキ	シガキ	シガキ			断面 1/4
BYS	5区	117	748	3L	内面輪	土師	-	-	-	小片		シガキ	シガキ	シガキ			断面 1/4
BYS	5区	117	749	SD601	丸形土師	土師	-	-	-	断面 1/4		シガキ	シガキ	シガキ			断面 1/4、断面 1/4
BYS	5区	117	750	SD609	有段口縁輪	土師	-	-	-	断面 1/4		シガキ	シガキ	シガキ			断面 1/4
BKU	117	751		1 117 MLL	内面輪	土師	-	-	-	小片		シガキ	シガキ	シガキ			断面 1/4
BYS	5区	1190	1129	752	摩訶土師	縄文						シガキ	シガキ	シガキ			断面 1/4

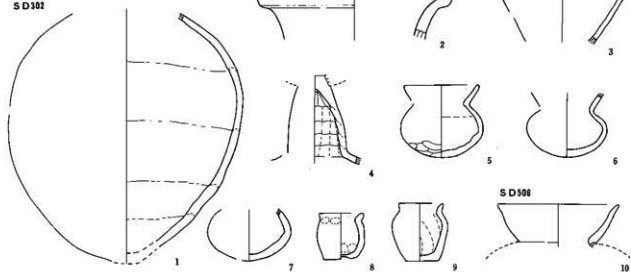
※出土位置略号凡例一覧

- L = 層
- U L = 上層
- L L = 下層
- M L L = 最下層
- A 1 L = A区 1層
- K = カマド
- F = 炉
- P 1 = ピット 1
- ホリ = 掘方

表19- (13) 古墳時代土器・土製品一覧表

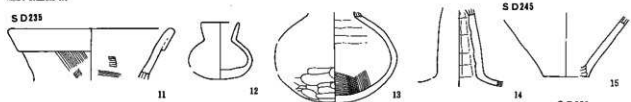
低地城 更埴桑里遺跡

SD302



屋代遺跡群

SD235



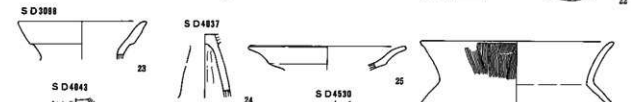
SD258



SD2278



SD3888



SD4841

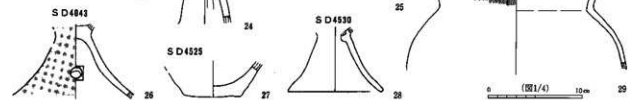
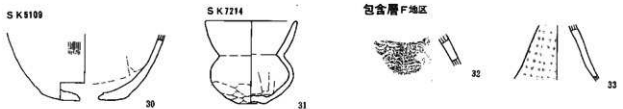


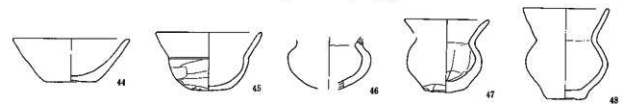
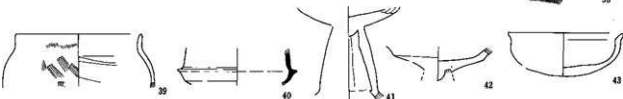
図85 古墳時代の土器 1 (更埴桑里遺跡、屋代遺跡群SD)

土坑（SK） 更埴糸里遺跡

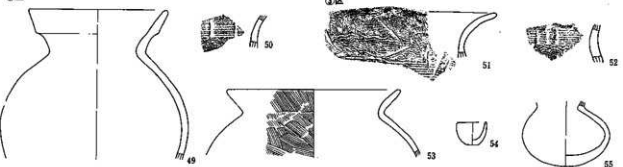


屋代遺跡群 包含層ほか

①区



②区



③区



微高地域 更埴糸里遺跡K地区

SK 8426



図89 古墳時代の土器 2 (更埴糸里遺跡・屋代遺跡群 SK・包含層)



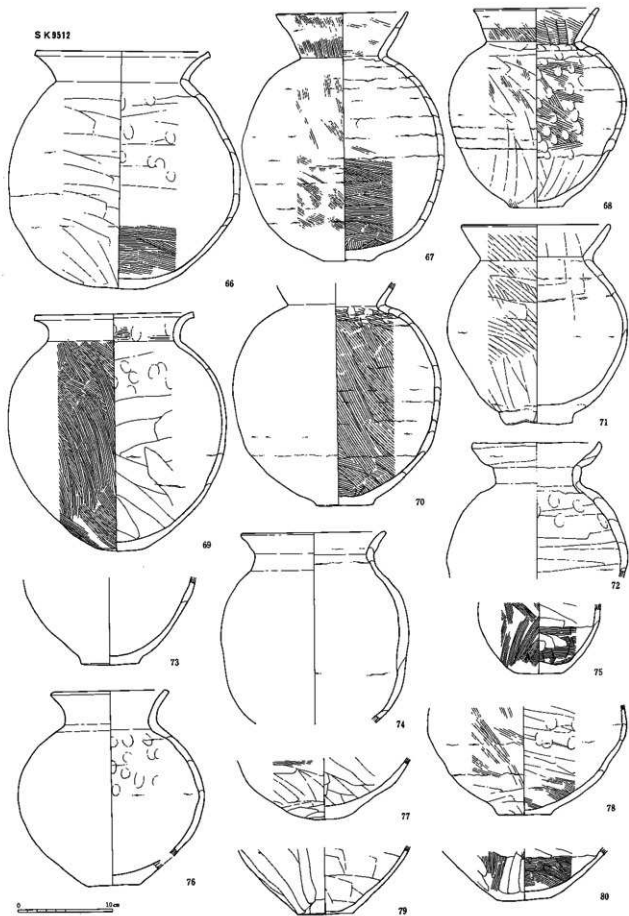


図90 古墳時代の土器 3 (更埴系黒遺跡SK)

自然堤防域 竪穴住居跡（SB）

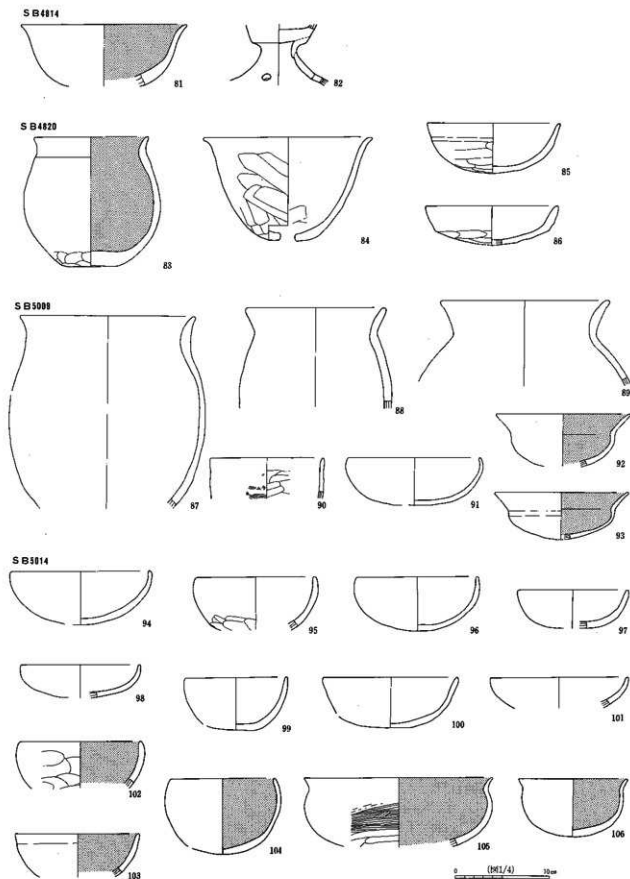


図91 古墳時代の土器 4（屋代遺跡群5区SB）

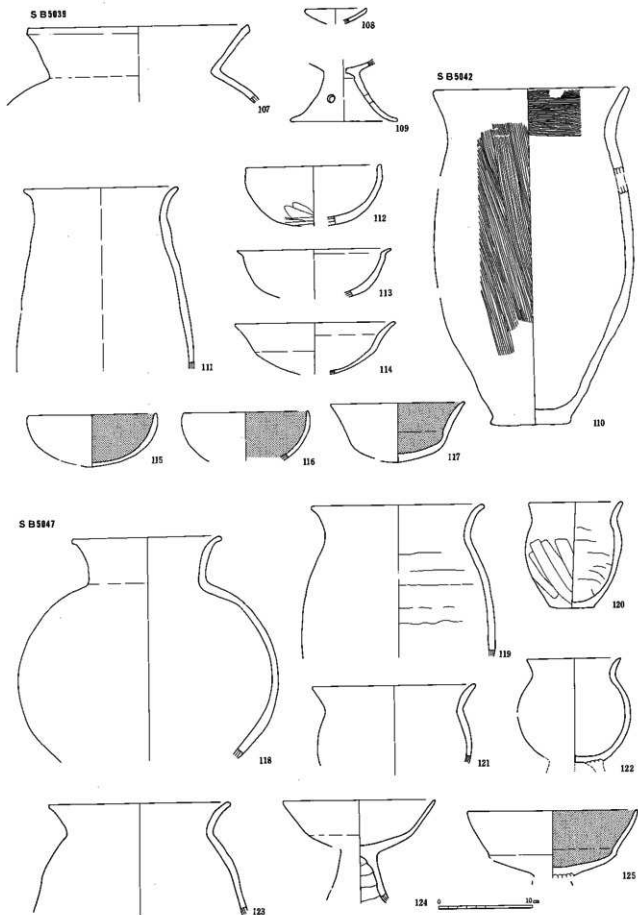


図92 古墳時代の土器 5 (歴代遺跡群⑤区SB)

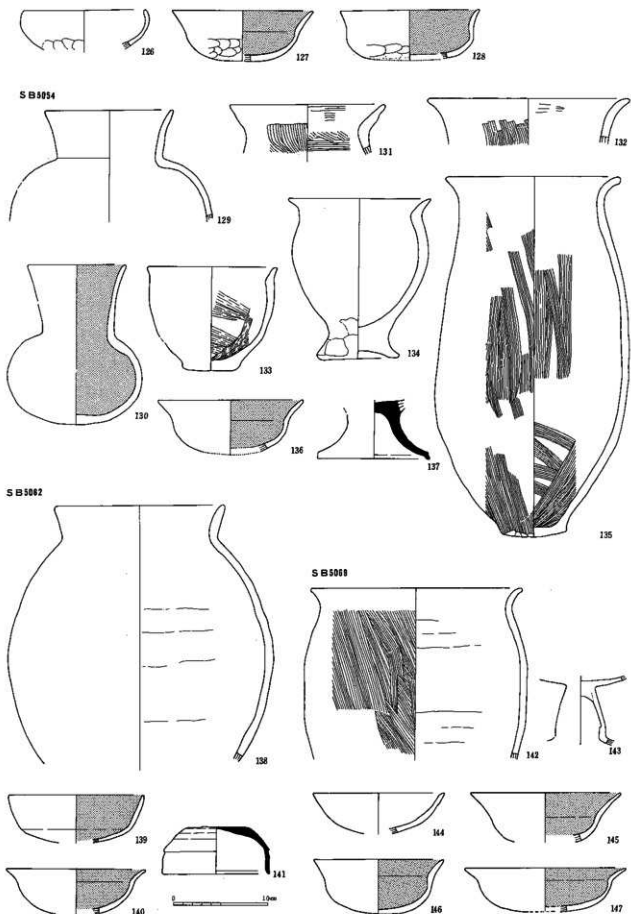


図93 古墳時代の土器 6 (層代遺跡群⑤区SB)

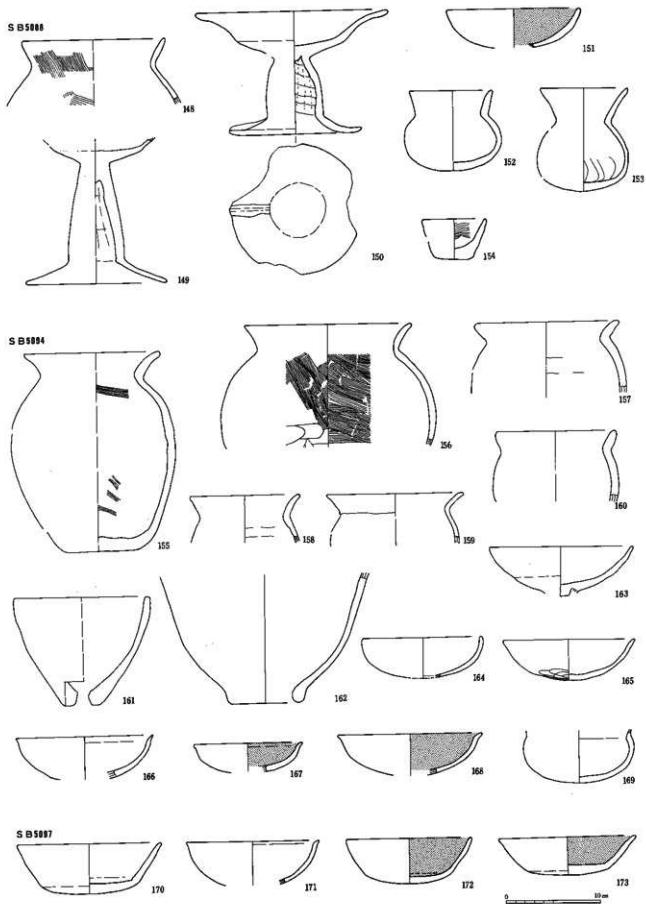


図94 古墳時代の土器 7 (原代遺跡群⑤区SB)

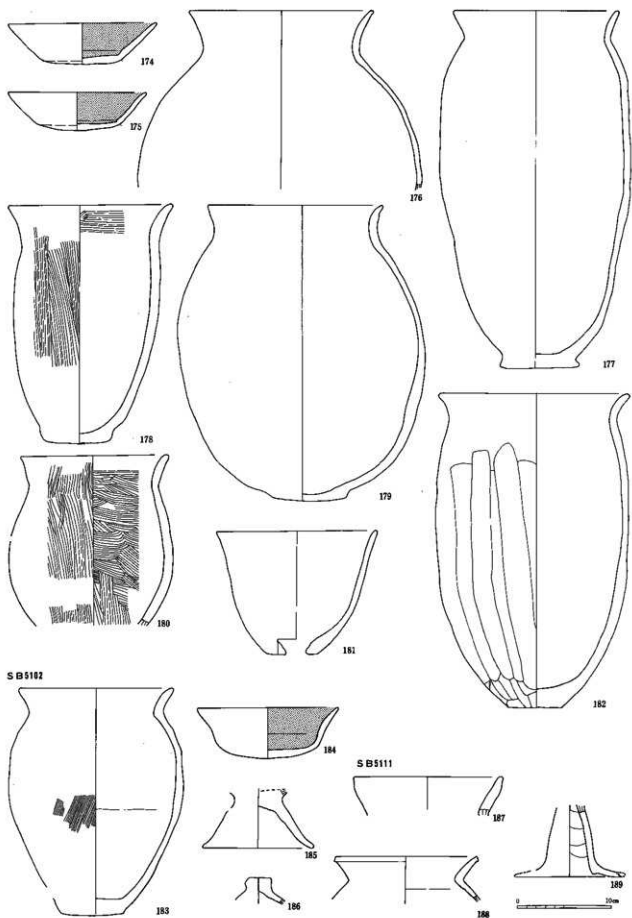


図95 古墳時代の土器 8 (層代遺跡群⑤区SB)

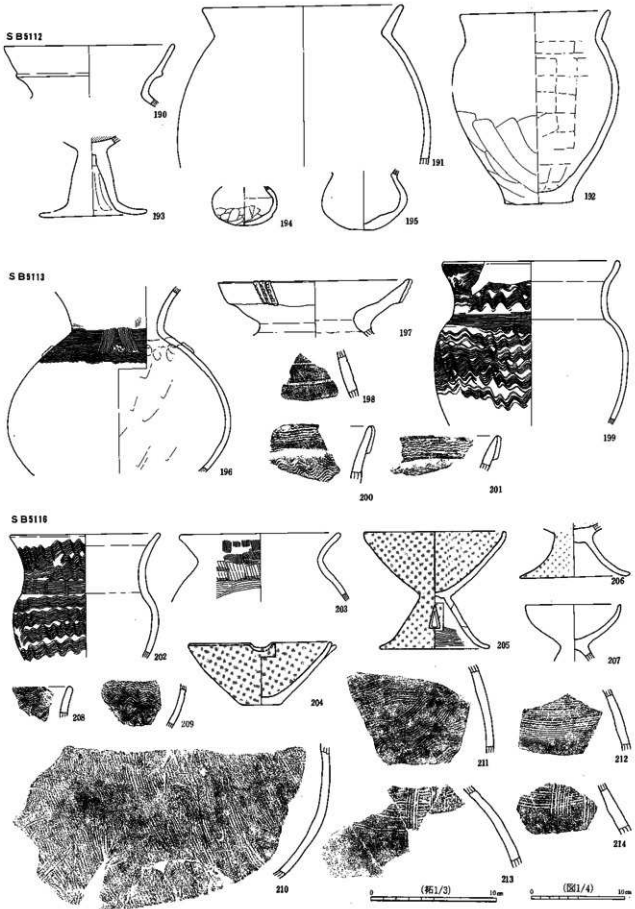


図96 古墳時代の土器 9 (厩代遺跡群⑤区SB)

第3章 弥生時代後期～古墳時代 (VI層上面検出) の遺構と遺物

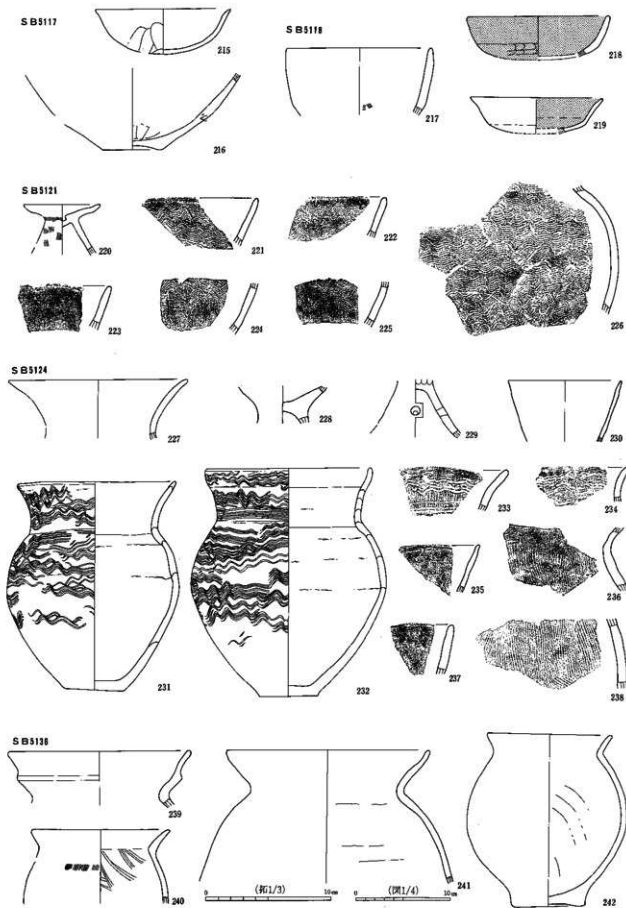


図97 古墳時代の土器 10 (原代遺跡群⑥区SB)

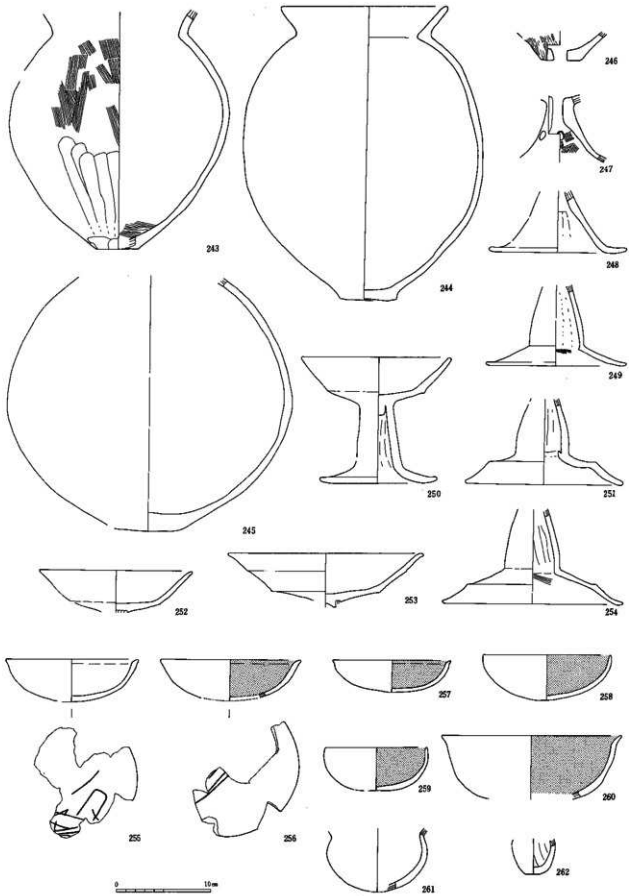


図98 古墳時代の土器 11 (屈代遺跡群⑤区SB)

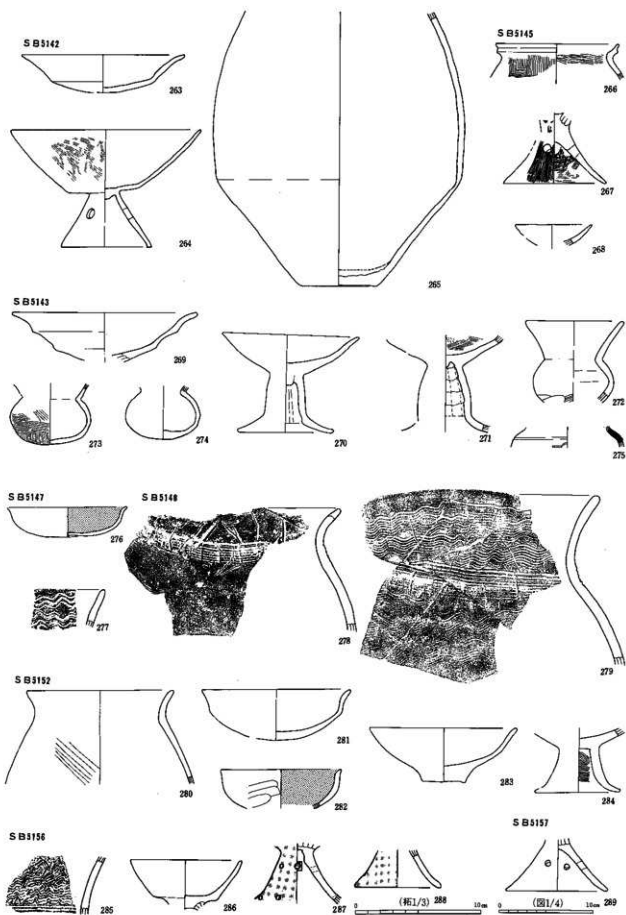


図99 古墳時代の土器 12 (原代遺跡群⑤区SB)

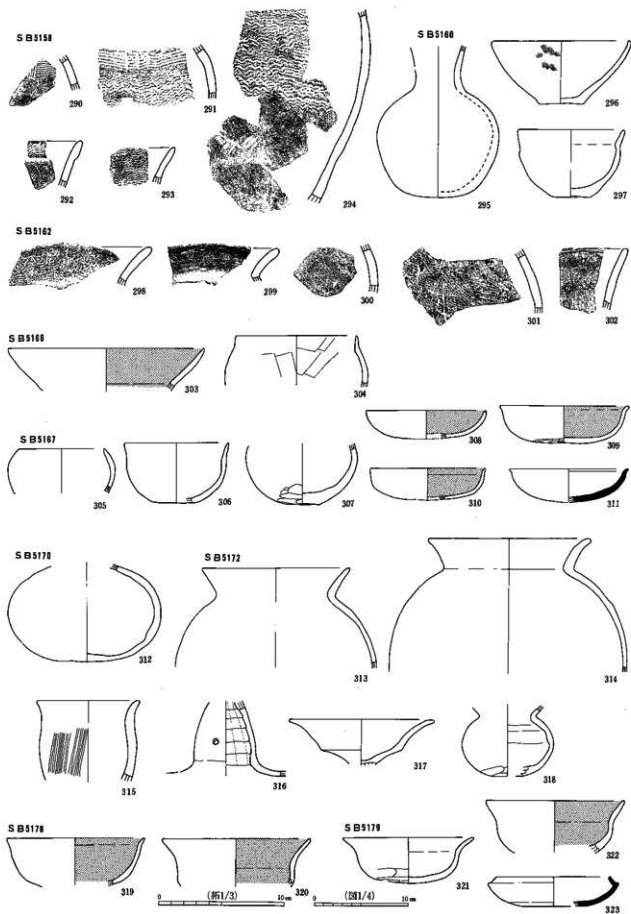


図100 古墳時代の土器 13 (用代遺跡群⑤区SB)

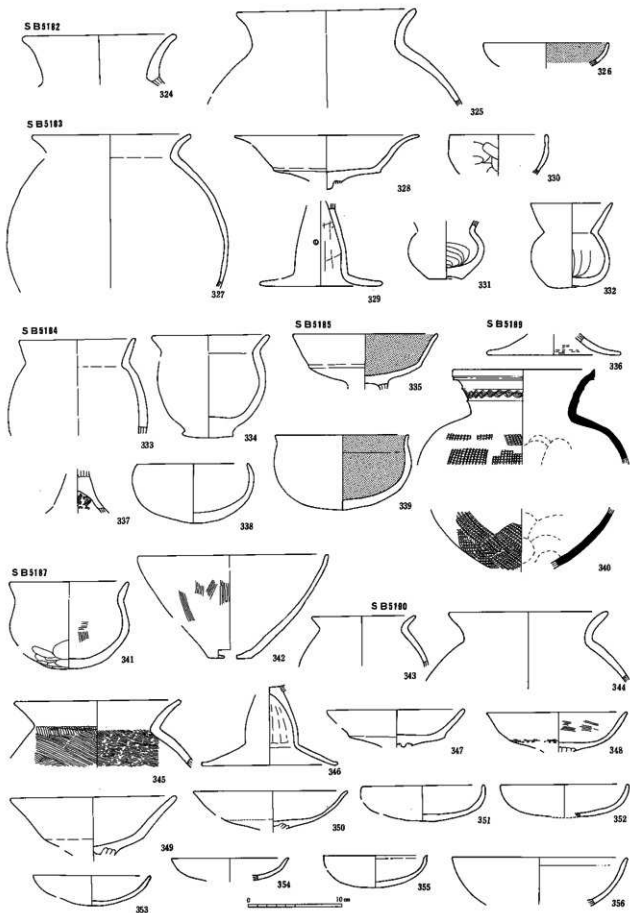


図101 古墳時代の土器 14 (原代遺跡群⑤区SB)

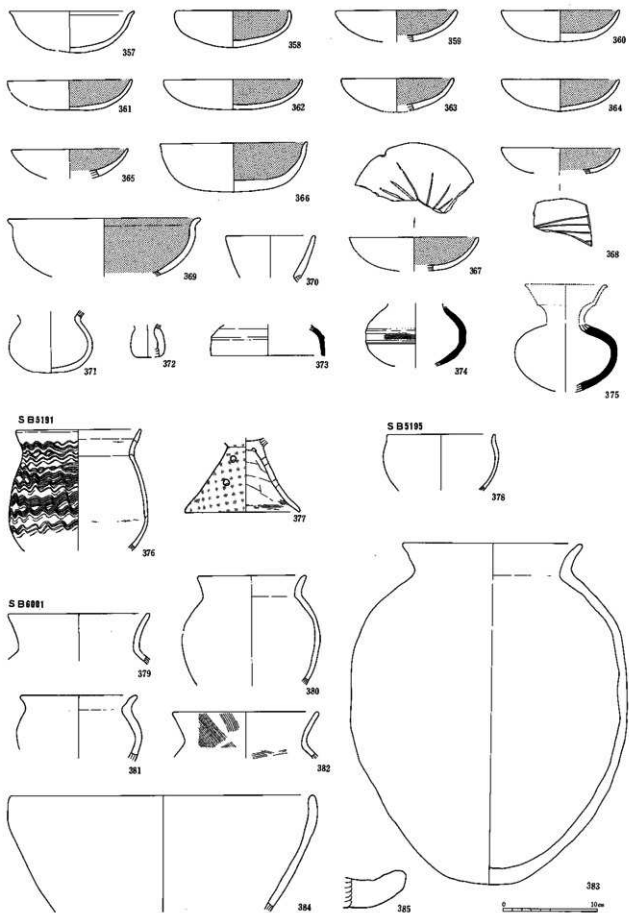


図102 古墳時代の土器 15 (層代遺跡群④(SB))

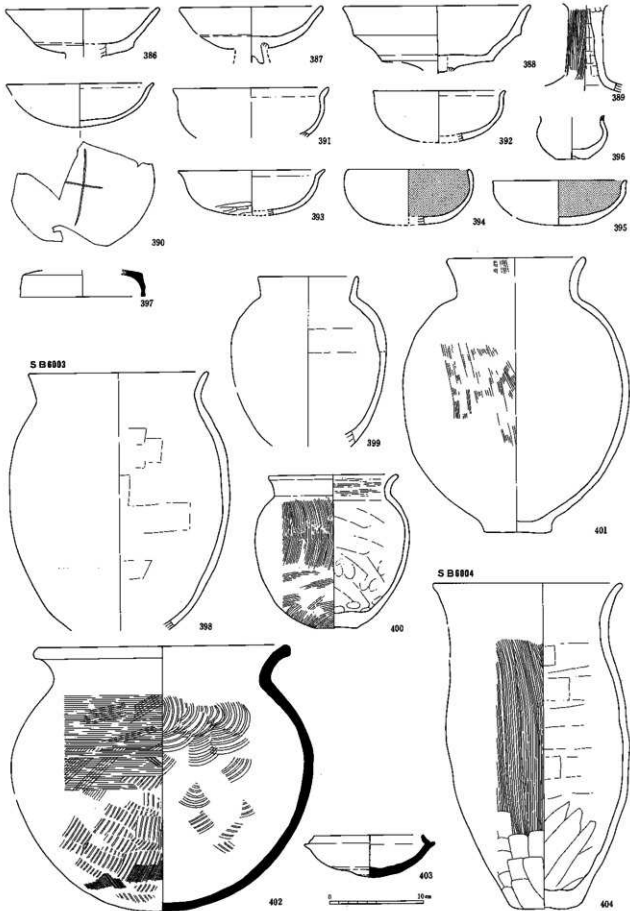


図103 古墳時代の土器 18 (東代遺跡群⑤区SB)

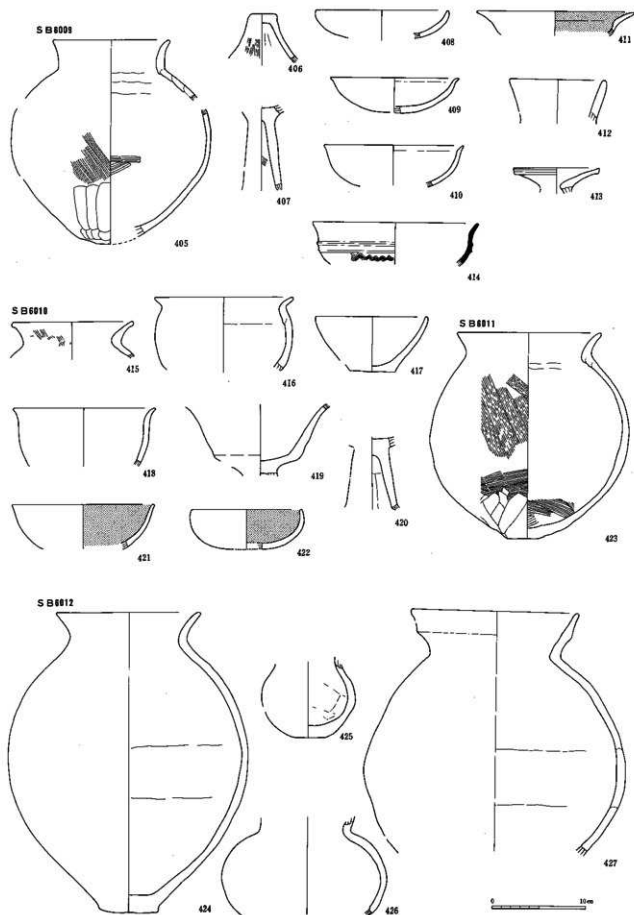


図104 古墳時代の土器 17 (屋代遺跡群④区SB)

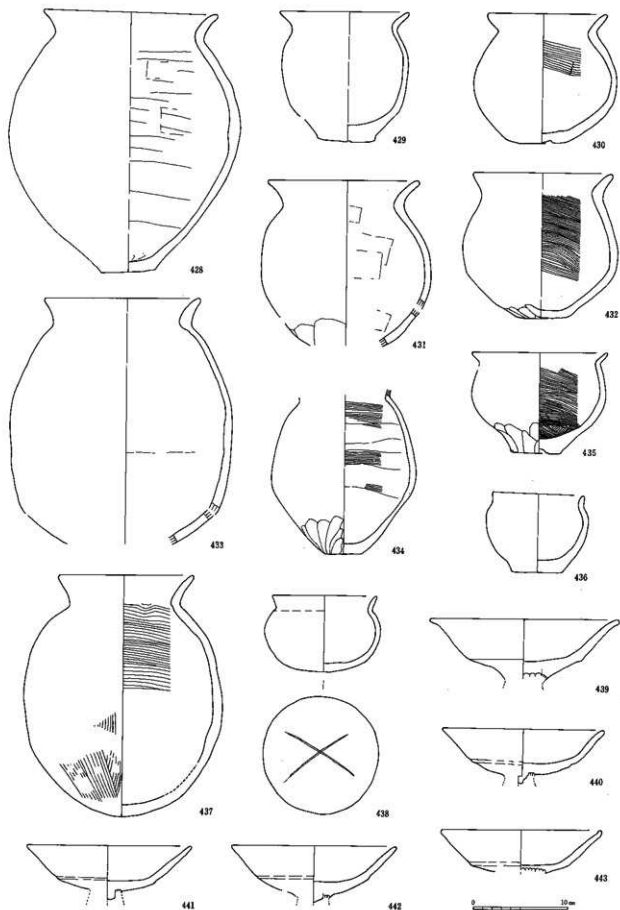


図105 古墳時代の土器 16 (層代遺跡群⑤区SB)

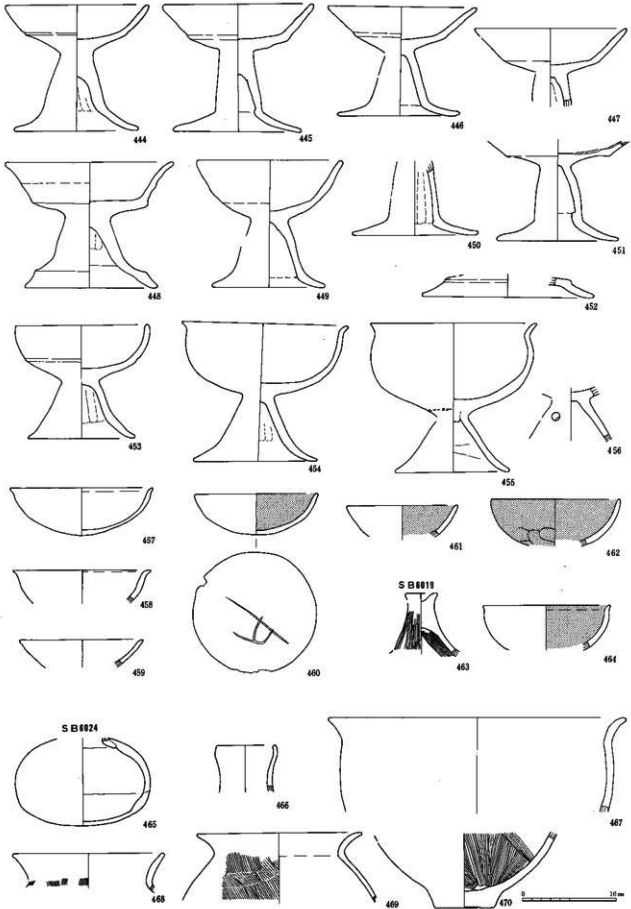


図106 古墳時代の土器 19 (原代遺跡群⑤区SB)